信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESDコンソーシアム
成果報告書2022

国立大学法人
信州大学

ごあいさつ

持続可能な開発目標であるSDGsの達成には，持続可能な社会をつくる「人づくり」が重要であり，持続可能な開発のための教育（ESD: Education for Sustainable Development）の推進が不可欠です。そこで，長野県内に広がりつつあるユネスコスクールのさらなる拡大と，ESDの普及に向け，本学部の関係者が中心となり，平成29年２月に「信州ESDコンソーシアム」を立ち上げ，活動を積み重ねてまいりました。

「信州ESDコンソーシアム」は，県内各地に広がったユネスコスクールや地域の様々な組織や他地域のコンソーシアムとの連携を積極的に推進していただいております。毎年の活動の様子は「信州ESD通信」として，県下のユネスコスクールの様々な活動の様子や全国など県外の様々な情報が紹介されています。また，毎年２月に開催されている「信州ESDコンソーソアム成果発表＆交流会」では，多数のユネスコスクールの優れた実践が紹介され，学校間交流も活発に行われています。本年度の成果発表会も一部ですが，参観させていただきました。県内はもとより，県外からも多数の参加校があり，様々に取り組まれているESDの実践に感心いたしました。同時に，ICTの活用により，「信州ESDコンソーシアム」の取り組みが，信州を越えて全国へと広がり，県内外の学校が相互に学び合う素晴らしさを感じました。推進いただいている関係の皆様に御礼申し上げます。

信州大学教育学部では，令和５年度入学生より，探究的な学習の指導に必要となるSTEAM的な考え方や教科横断的な学びの基礎を理解し，教育現場で実践できる基礎的指導力を持つ教員を育てようと，全コースにおいて「STEAM教育認定プログラム」を開始しました。ESDの学びは，STEAM教育を推進する上でも一つの大きな柱になると考えています。「信州ESDコンソーシアム」の成果に教育学部も学ばせていただきながら，持続可能な社会の構築に向けて共に取り組んでいきます。

2022年度の活動をまとめたこの成果報告書が，今後の我が国のESD，SDGs推進の一助となれば幸いです。

令和５年８月

信州大学教育学部長
村 松 浩 幸

目　次

ごあいさつ…… 信州大学教育学部長　村松 浩幸　1

Ⅰ　信州 ESD コンソーシアムの概要

信州ESDコンソーシアムの概要 ……4
信州ESDコンソーシアム規約 ……6
構成団体名簿……8
役員名簿……9
信州ESDコンソーシアム事業実績 …… 10

Ⅱ　通常総会

式次第…… 12
参加者名簿…… 13
当日の様子…… 14
通常総会議事抄録…… 15

Ⅲ　成果発表 & 交流会

チラシ…… 18
プログラム…… 19
学長挨拶…… 20
当日の様子…… 21
＜成果発表＞
1【長野県】山ノ内町立南小学校3年生…… 24
2【長野県】飯田市立和田小学校5年生…… 27
3【群馬県】みなかみ町立新治小学校5年生…… 30
4【長野県】飯田市立遠山中学校 …… 32
5【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園 …… 36
6【長野県】飯田市立上村小学校5･6年生 …… 42
7【長野県】長野市立東条小学校6年生…… 45
8【長野県】山ノ内町立南小学校6年生…… 48
9【宮崎県】綾町立綾中学校 …… 51
10【長野県】高山村立高山中学校…… 55
11【長野県】山ノ内町立東小学校4年生 …… 59
12【長野県】茅野市立永明小学校4年生 …… 63
13【長野県】信州大学教育学部附属長野小学校6年生 … 65
14【福井県】大野市阪谷小学校5･6年生 …… 68
15【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校4年東組… 72
16【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校4年西組… 74
17【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校 …… 78
18【福島県】只見町立只見中学校…… 81
19【長野県】上田西高等学校…… 84
20【長野県】文化学園長野中学･高等学校高校1年生 … 86
21【長野県】文化学園長野中学･高等学校高校2年生 … 88
22【長野県】文化学園長野中学･高等学校中高自然科学部… 90
23【長野県】学校法人いいづな学園グリーン･ヒルズ小学校 3･4年生 …… 92
24【長野県】高山村立高山小学校…… 94
25【長野県】山ノ内町立西小学校2年生 …… 96
26【長野県】学校法人いいづな学園グリーン･ヒルズ小学校 5･6年生 …… 99
27【長野県】長野市立信里小学校3年生 …… 101
28【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校…… 104
29【長野県】文化学園長野中学・高等学校中学校生徒会 …… 107
30【長野県】文化学園長野中学･高等学校中学校3年生… 109
31【長野県】中野西高等学校…… 111
32【長野県】文化学園長野中学･高等学校高校生徒会… 114

Ⅳ　研修会資料

1 第一回ESD研修会(山ノ内南小) …… 118
2 第一回ESD研修会(山ノ内東小) …… 138
3 山ノ内町教職員ESD研修会 …… 150
4 社会教育主事講習:ESD特講①～④…… 158
5 長野市教育センター研修講座「キャリア教育の現状とESD」…… 160
6 校内ESD研修(長野市東条小学校) …… 184
7 ユネスコ国内委員会フェローシップ視察 …… 200

Ⅴ　長野県内のユネスコスクール年次報告

1 信州大学教育学部附属幼稚園 …… 210
2 茅野市立永明小学校 …… 210
3 高山村立高山小学校 …… 211
4 山ノ内町立東小学校 …… 212
5 山ノ内町立西小学校 …… 213
6 山ノ内町立南小学校 …… 215
7 長野市立東条小学校〔キャンディデート校〕 …… 216
8 長野市立信里小学校〔キャンディデート校〕 …… 217
9 安曇野市立豊科南小学校〔キャンディデート校〕… 218
10 飯田市立和田小学校〔キャンディデート校〕…… 219
11 飯田市立上村小学校〔キャンディデート校〕…… 220
12 信州大学教育学部附属長野小学校…… 221
13 信州大学教育学部附属松本小学校…… 222
14 高山村立高山中学校…… 223
15 山ノ内町立山ノ内中学校…… 224
16 飯田市立遠山中学校〔キャンディデート校〕…… 225
17 信州大学教育学部附属長野中学校…… 225
18 信州大学教育学部附属松本中学校…… 226
19 長野県中野西高等学校…… 227
20 長野県長野西高等学校…… 228
21 学校法人上田学園上田西高等学校…… 230
22 文化学園長野中学･高等学校 …… 231
23 信州大学教育学部附属特別支援学校…… 232

Ⅵ　ESD 通信

No.44…… 236
No.45…… 237
No.46…… 240

Ⅰ

信州 ESD コンソーシアムの概要

信州 ESD コンソーシアムの概要

1　設立の背景

信州大学教育学部は、平成 17（2005）年に全国の教員養成系学部で初めて、国際規格 ISO 14001 に基づく環境マネジメントシステムの認証を受け、それ以来、エコキャンパスの構築に取り組んでいます。また、学部では環境教育の授業を必修化し、1 年生全員が環境監査資格を取得できるようにしており、卒業生が環境マインドを身につけ、環境教育を指導できるようサポートしています。これまでに多数の卒業生が長野県内の教育現場で活躍しています。

また、長野県は日本で最も多い 3 つのユネスコエコパーク（志賀高原、南アルプス、甲武信）を有し、豊かな生物多様性を誇る貴重な自然環境に恵まれています。このような場所にあるため、県民は環境保護に対する意識が高く、行政だけでなく企業や NPO などでも積極的な取り組みが行われています。

一方で、長野県内の学校現場において持続可能な開発のための教育（ESD）の認知度は低く、ユネスコスクールの加盟校もコンソーシアム設立前の平成 28（2016）年 2 月時点では 4 校に留まっていました。また、企業や各種団体、民間ユネスコ協会をはじめとする NPO などが、個別に ESD の推進に関わる意思を持ち、活動を行っている団体もあったものの、学校とのつながりが少なく、教育現場での活躍は十分にできていませんでした。このような現状から、長野県内で ESD の普及・実践を推進するために、学校現場と県内で ESD に携わる様々なステークホルダーを橋渡しし、ESD についての情報交換や交流、連携を促進する仕組みの構築が求められていました。

そこで、本学教育学部は文部科学省の「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」を活用し、平成 28（2016）年 4 月から ESD 支援団体の設立準備に取り組みました。そして、平成 29（2017）年 2 月に、本学教育学部を中心に、県内の各ユネスコスクール、教育委員会、NPO 等、各種団体により構成される『信州 ESD コンソーシアム』を設立しました。

2　コンソーシアムの機能と特徴

信州 ESD コンソーシアムの目的は、長野県全域に ESD を普及・定着することです。この目的を達成するため、多様な ESD 関係者と協力して、以下の取り組みを行っています。

1. ユネスコスクールなどの教育組織での ESD 推進
2. ESD に関わる人たちの交流の場を創出
3. 企業・NPO などの多様な主体が活動できる機会を創出
4. コンソーシアムや関係組織の成果の発信
5. ESD 関連情報を共有する場を提供

近年は、SDGs 未来都市となった長野県の取り組みに共鳴し、ESD と SDGs を結び付けて学校現場で実践するための普及・啓発にも取り組んでいます。第四次長野県環境基本計画（2018 年 -2022 年）および第五次長野県環境基本計画（2023 年 -2027 年）において、信州 ESD コンソーシアムは長野県における ESD 普及・推進の主要な担い手と位置づけられています。

また、信州 ESD コンソーシアムでは、ユネスコが主導する ESD と、長野県の特色のひとつでもあるユネスコエコパークの活動を連動させ、その相乗効果を発揮する実践を目指しています。このことは他のコンソーシアムにはない、特徴的な取り組みです。

3　コンソーシアムの活動

(1) ユネスコスクールに関する支援

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示された理想を実践することを目的とした学校であり、また日本では ESD 推進拠点として位置づけられています。信州 ESD コンソーシアムは、長野県内の各種学校のユネスコスクール加盟申請を支援しています。ユネスコスクールへの加盟を検討している学校や、加盟前のチャレンジ期間に入っている学校に対して、活動実践への指導や助言を行い、要望に応じてコーディネーターが学校に出向いて、教職員を対象とした ESD/SDGs の出前研修会を行っています。

信州 ESD コンソーシアムは、ユネスコスクールやキャンディデート校として登録されている学校に対しても、ESD/SDGs 活動実践に対する各種支援を行っています。日常的に学校訪問を行いながら活動実践に対して指導・助言を行うとともに、課題や要望をうかがい、時宜にかなった支援を提案・実施しています。支援内容は ESD/SDGs の出前研修会の開催や校内研究会・授業公開への参加、活動をサポートする団体等のコーディネートなど、教職員を対象とした間接的支援が中心ですが、コーディネーターがゲストティーチャーとして直接、学習支援を行う場合もあります。

(2) 多様な主体間の連携促進と ESD の普及啓発

信州 ESD コンソーシアムには、各ユネスコスクールや加盟希望校、教育委員会、民間ユネスコ協会、NGO、企業・団体など多様な主体が参加しています。県内ユネスコスクールの活動を支援するプラットフォームとして機能しています。

また、市町村教育委員会やユネスコ協会関係者など、学校現場での ESD 実践に携わる多様な主体を対象とした ESD/SDGs 研修会の講師を務め、普及に取り組んでいます。

(3) 交流機会の創出

信州 ESD コンソーシアムでは、発足以降、毎年2月初めごろに「成果発表＆交流会」を開催しています。このイベントでは、ユネスコスクールで学ぶ子どもたちが日頃の ESD 実践の成果を互いに発表し、交流を通じて学びあうことができます。近年はオンライン化にあわせて、長野県内のユネスコスクールだけでなく、全国のユネスコエコパークで ESD/SDGs の学びを実践する学校間の交流機会ともなっています。

また、ユネスコスクール全国大会や他地域コンソーシアムが主催する ESD 研修会などへの参加支援も行っており、全国のユネスコスクールとの交流を促進しています。

(4) ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の普及・推進

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）は、ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画の一環として実施されている事業です。これは、豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進める地域が、自然と人の調和と共生を目指すモデルとして認定されるものであり、近年は「持続可能な開発について学ぶ場」としても位置づけられています。

ユネスコエコパークにおいて ESD には、地域住民が地域の自然やそこに育まれた歴史文化について理解を深め、持続可能な地域づくりの担い手を育成する役割が期待されており、MAB 戦略（2015-2025）でも主要な戦略目標の一つと位置づけられています。また、豊かな自然やそこに育まれた歴史文化といった学習資源を備えるユネスコエコパークは、ESD 学習において好適なフィールドとなっています。

信州 ESD コンソーシアムは、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設が立地する志賀高原ユネスコエコパークを中心に、ユネスコエコパークにおける ESD/SDGs 学習支援や、全国のユネスコエコパークに対する成果の発信、学校間交流の促進を通じて、ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の普及・推進に取り組んでいます。

信州 ESD コンソーシアム規約

第１章　総則

（名称）

第１条　この団体は，信州 ESD コンソーシアム（以下「本団体」という。）と称する。

（事務局）

第２条　本団体の事務局は，信州大学教育学部内に置くものとする。

（目的）

第３条　本団体は，様々なESD 関係者が協力して長野県を中心としたESD を推進することを目的とする。

（活動）

第４条　本団体は，前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

(1) ユネスコスクールをはじめとする教育機関でのESD の推進と国内外のESD 推進校との交流促進
(2) 公民館，図書館をはじめとする社会教育施設，青少年教育施設を通じた社会教育におけるESD の推進
(3) ウェブサイトや成果報告会等を通じたESD 関連情報の共有
(4) ESD に関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
(5) 企業，NGO を含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
(6) その他本団体の目的を達成するために有益と考えられる活動

第２章　会員

（会員）

第５条　本団体の会員は，第３条の目的に賛同して入会する各種団体，教育関係機関及び任意団体（以下「団体等」という。）とする。

（入会及び退会）

第６条　入会を希望する団体等は，所定の入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2　団体等の入会は，会長が許可する。

3　退会を希望する会員は，所定の退会申込書を事務局に提出し，任意に退会することができる。

（会費）

第７条　本団体の会費は，当面徴収しないものとする。

第３章　役員

（役員）

第８条　本団体に，次の役員を置く。

(1) 会長　１名
(2) 副会長　　１名以上３名以内
(3) 運営委員　　会長が必要と認める定数

（役員の責務）

第９条　役員は，役員会を構成し，本団体の業務の執行を決定する。

2　会長は，本団体を統括し，本会を代表する。

3　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときはその職務を代行する。

4　運営委員は，運営委員会を構成し，本団体の業務を執行する。

（役員の選任）

第 10条　会長は，信州大学教育学部の長とする。

2　副会長は，運営委員の中から会長が選任する。

3　運営委員は，会長が指名し，総会において承認する。

（役員の任期）

第 11条　役員の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。

第４章　会議

（会議の種類）

第 12条　本団体の会議は，総会及び運営委員会とする。

（総会）
第13条　総会は，会員をもって構成する。
2　総会は，通常総会及び臨時総会とする。
（総会の権能）
第14条　総会は，次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 規約の決定及び変更
(2) 事業計画の承認
(3) 事業報告の承認
(4) 役員の承認
(5) その他本団体の運営に関する重要事項
（総会の開催）
第15条　通常総会は，毎年1回開催する。
2　臨時総会は，次に掲げる場合に開催する。
(1) 会長が必要と認め，招集の請求をしたとき。
(2) 会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面又は電子メールにより招集の請求があったとき。
（総会の招集）
第16条　総会は，会長が招集する。
2　総会を招集する場合には，会議の日時，場所，目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより，開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し，あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。
（総会の議長）
第17条　総会の議長は，その総会に出席した役員の中から会長がこれを指名する。
（総会の議決）
第18条　総会の議事は，別段の定めがある場合を除き，出席した会員の過半数をもって決し，可否同数のときは、議長の決するところによる。
（運営委員会）
第19条　運営委員会は，運営委員をもって構成する。
2　運営委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。
（運営委員会の権能）
第20条　運営委員会は，次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 事業計画の立案と変更
(2) 事務局の組織及び運営に関する事項
(3) 総会の議決した事項の執行に関する事項
(4) 総会に付議すべき事項
(5) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項
（運営委員会の開催）
第21条　運営委員会は，会長又は委員長が必要と認めた場合に開催する。

第5章　ESD コーディネーター

（ESD コーディネーター）
第22条　本団体に，ESD コーディネーター若干名を置く。
2　ESD コーディネーターは，本団体の目的を達成するために，長野県を中心としたESD の推進を支援する。
3　ESD コーディネーターは，長野県を中心としたESD 活動に習熟した識者の中から，会長が指名する。
4　ESD コーディネーターの任期は1年とする。ただし，再任を妨げない。

第6章　雑則

（雑則）
第23条　この規約に定めるもののほか，本団体の運営に必要な事項は別に定める。

附　則
この規約は，平成29年　2月18日から施行する。

令和4年度　信州ESDコンソーシアム構成団体名簿

令和５年３月31日現在

№.	団体名	コンソーシアム区分
1	信州大学	大学 / 代表団体
2	高山村教育委員会	教育委員会
3	山ノ内町教育委員会	教育委員会
4	信州大学教育学部附属幼稚園	ユネスコスクール
5	茅野市立永明小学校	ユネスコスクール
6	高山村立高山小学校	ユネスコスクール
7	山ノ内町立東小学校	ユネスコスクール
8	山ノ内町立西小学校	ユネスコスクール
9	山ノ内町立南小学校	ユネスコスクール
10	長野市立東条小学校	キャンディデート校
11	長野市立信里小学校	キャンディデート校
12	安曇野市立豊科南小学校	キャンディデート校
13	飯田市立和田小学校	キャンディデート校
14	飯田市立上村小学校	キャンディデート校
15	信州大学教育学部附属長野小学校	ユネスコスクール
16	信州大学教育学部附属松本小学校	ユネスコスクール
17	いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	準ユネスコスクール
18	高山村立高山中学校	ユネスコスクール
19	山ノ内町立山ノ内中学校	ユネスコスクール
20	茅野市立永明中学校	準ユネスコスクール
21	飯田市立遠山中学校	キャンディデート校
22	信州大学教育学部附属長野中学校	ユネスコスクール
23	信州大学教育学部附属松本中学校	ユネスコスクール
24	長野県中野西高等学校	ユネスコスクール
25	長野県長野西高等学校	ユネスコスクール
26	上田西高等学校	キャンディデート校
27	文化学園長野中学・高等学校	ユネスコスクール
28	信州大学教育学部附属特別支援学校	ユネスコスクール
29	長野市長沼交流センター	地域団体
30	NPO 法人みどりの市民	地域団体
31	NPO 法人やまぼうし自然学校	地域団体
32	一般社団法人長野県環境保全協会	地域団体
33	信更の学校を考える会	地域団体
34	特定非営利活動法人長野県 NPO センター	地域団体
35	長野県ユネスコ連絡協議会	地域団体
36	長野ユネスコ協会	地域団体
37	上田ユネスコ協会	地域団体
38	松本ユネスコ協会	地域団体
39	諏訪ユネスコ協会	地域団体
40	飯田ユネスコ協会	地域団体
41	木曽ユネスコ協会	地域団体
42	直富商事㈱	地域団体
43	㈱ミールケア	地域団体
44	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	支援機関
45	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	支援機関
46	環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）	支援機関
47	信州大学全学教育機構環境マインド実践人材育成コース	大学
48	一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構	地域団体
49	長野県 PTA 連合会	地域団体

令和4年度　信州ESDコンソーシアム役員等名簿

役員

職名	氏名	所属	職名
会　　長	村松　浩幸	信州大学教育学部	学部長
副　会　長	宮島　和雄	一般社団法人 長野県環境保全協会	専務理事
副　会　長	中野　清史	長野県ユネスコ連絡協議会	会長
副　会　長	山岸　深志	高山村教育委員会	教育長
運営委員長	西　　一夫	信州大学教育学部	教授
運営副委員長	渡辺　隆一	信州大学教育学部	特任教授
運 営 委 員	安達　仁美	信州大学教育学部	准教授
運 営 委 員	水谷　瑞希	信州大学教育学部	助教
運 営 委 員	本間　喜子	信州大学学術研究・産学連携推進機構　リサーチ・アドミニストレーションセンター	助教

ESDコーディネーター

氏名	所属	職名
西　　一夫	信州大学教育学部	教授
渡辺　隆一	信州大学教育学部	特任教授
安達　仁美	信州大学教育学部	准教授
水谷　瑞希	信州大学教育学部	助教
矢崎　靖雄	諏訪ユネスコ協会	会長
牧原　　雅	飯田ユネスコ協会	会長

令和4年度　信州ESDコンソーシアム事業実績

No.	年月日	事業名	講師等	対象	参加者数	主催・共催・後援等	会場
1	2022/4/20	第一回ESD研修会(山ノ内南小)	水谷瑞希	教職員	13	山ノ内町立南小学校	山ノ内町立南小学校
2	2022/5/17	第一回ESD研修会(山ノ内東小)	水谷瑞希	教職員	12	山ノ内町立東小学校	山ノ内町立東小学校
3	2022/5/31	第1回「千曲市 キャリア教育推進委員会」にてESD/SDGsに関する講演	安達仁美	教職員	20	千曲市総合教育センター	千曲市総合教育センター
4	2022/6/3	ユネスコエコパークオンライン授業	水谷瑞希	児童		信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設	山ノ内町立南小学校、オンライン中継
5	2022/6/29	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会(山ノ内町立南小学校)	水谷瑞希	教職員	16	山ノ内町立南小学校	山ノ内町立南小学校
6	2022/7/4	令和4年度 山ノ内町立小・中学校ESD担当者会議	水谷瑞希	教委、教職員			山ノ内町役場
7	2022/7/8	志賀高原ガイド組合ESD研修会	水谷瑞希	志賀高原ガイド	8		総合会館98
8	2022/7/13	志賀高原宿泊体験学習	水谷瑞希	生徒		信州大学附属松本中学校	総合会館98ほか
9	2022/8/5	山ノ内町教職員ESD研修会	渡辺・水谷	教職員	20	山ノ内町教育委員会	志賀高原、総合会館98
10	2022/8/6	社会教育主事講習：ESD特講①～③	安達・渡辺・西		28	信州大学教育学部	信州大学教育学部
11	2022/8/8	社会教育主事講習：ESD特講④　社会教育に関する現場体験	水谷瑞希		28	信州大学教育学部	志賀高原、湯田中温泉
12	2022/8/19	社会教育主事講習：社会教育演習	安達・水谷・渡辺		28	信州大学教育学部	信州大学教育学部
13	2022/8/20	信州ESDコンソーシアム総会			30		オンライン開催
14	2022/9/22	令和4年度北信公民館運営協議会　館長・主事研修会	水谷瑞希	公民館長、主事等		北信公民館運営協議会	山ノ内町中央公民館
15	2022/10/11	地域と学校の連携推進研修「地域と学校で取り組むSDGs」	安達仁美	一般	50	長野県生涯学習推進センター	
16	2022/10/14	ゲストティーチャー(山ノ内東小学校)	水谷瑞希	6年生児童		山ノ内町立東小学校	山ノ内町立東小学校
17	2022/10/15	北海道ブロック・ユネスコ活動研究会	安達仁美			公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟・旭川ユネスコ協会	アートホテル旭川
18	2022/11/17	長野市教育センター研修講座「キャリア教育の現状とESD」	安達仁美	教職員	30	長野市教育センター	
19	2022/11/19	中部東ブロック・ユネスコ活動研究会	安達仁美	一般		公益社団法人日本ユネスコ協会連盟・飯田ユネスコ協会・長野県ユネスコ連絡協議会・中部東ブロック・ユネスコ協議会	飯田市公民館＆オンライン
20	2022/11/30	校内ESD研修(長野市東条小学校)	水谷瑞希	教職員			オンライン開催(ZOOM)
21	2022/12/20	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会(山ノ内町立南小学校)	中澤静男 水谷瑞希	教職員	15	山ノ内町立南小学校	山ノ内町立南小学校
22	2022/12/21	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会(山ノ内町立西小学校)	中澤静男 水谷瑞希	教職員	16	山ノ内町立西小学校	山ノ内町立西小学校
23	2023/1/30・31	日本ユネスコ国内委員会フェローシップ視察	水谷瑞希	海外ユネスコ関係者等			
24	2023/2/3・4	2022年度信州ESDコンソーシアム成果発表＆交流会		コンソーシアム構成団体、長野県内学校関係者(教員・児童・生徒・保護者)等	400	主催：信州ESDコンソーシアム 共催：公益財団法人イオン環境財団 後援：信州大学教育学部、長野県教育委員会、ESD活動支援センター、長野県ユネスコ連絡協議会、長野県環境保全協会	オンライン
25	2023/2/24	教員対象ワークショップ「ESD/SDGsの活動を支える先生と共に学ぼう」			9		

Ⅱ

通 常 総 会

令和４年度　信州 ESD コンソーシアム通常総会

日　　時　　令和４年８月２０日（土）　１３：００～１４：１０終了予定
開催方法　　オンライン（Zoom）
次　　第

１．開会挨拶
信州 ESD コンソーシアム会長
信州大学教育学部学部長　　村松　浩幸

２．総会
（1）議長選出

（2）協議
・役員の選出について

・事業報告について

・事業計画について

・その他

（3）報告
・加盟団体活動紹介

・その他

３．意見交換

４．閉会挨拶

信州ESDコンソーシアム通常総会　出席者名簿

令和４年８月２０日（土）13：00～　　オンライン開催

敬称略、順不同

学校名・組織名	お名前	備考
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	藤本　早恵子	
環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター	原　理史	
一般社団法人長野県環境保全協会	宮島　和雄	
諏訪ユネスコ協会	矢崎　靖雄	
直富商事株式会社	清水　絵梨	
長野県PTA連合会	熊谷　弘	
長野県PTA連合会	池田　純一	
特定非営利活動法人　長野県NPOセンター	吉田　喜美夫	
信州大学教育学部附属幼稚園	小田切　和子	
山ノ内町立南小学校	堀内　竜太	
山ノ内町立西小学校	栗林　えり子	
山ノ内町立東小学校	大木　健晴	
長野市立信里小学校	尾沼　達也	
信州大学教育学部附属松本中学校	市川　この美	
信州大学教育学部附属特別支援学校	永田　寛尚	
高山村立高山中学校	原田　奈実	
文化学園長野中学・高等学校	長田　里恵	
上田西高等学校	山岸　真由子	
須坂市教育委員会	月岡　英明	オブザーバー

コーディネーター	西　一夫
コーディネーター	渡辺　隆一
コーディネーター	安達　仁美
コーディネーター	水谷　瑞希
URA	本間　喜子
ESD事務局長	大山　繁
ESD事務局員	清水　英俊
ESD事務局員	松橋　恵美子

ASUS VivoBook

会　議　報　告　書

会議の名称	令和 4 年度　信州 ESD コンソーシアム通常総会		
開 催 日 時	2022 年 8 月 20 日 (土) 13:00 ～ 14:20	開催場所	中校舎 3F 301 講義室
		報 告 者	本間　喜子

議題・報告・連絡事項等	審議・報告・連絡等の概要
【議事に先立ち】	欠席の村松会長より、ビデオメッセージで挨拶があった。
【議題】 (1) 議長選出	会長の委任状に基づき、宮島副会長の指名により西委員が議長に選出された。
(2) 協議 ・役員の選出について	西議長より、運営委員長として資料 P8 に基づき、説明があった。 ・学部長交代につき、会長の交代となった旨説明。 ・役員選出について承認された。
・事業報告について	資料 P9 に基づき、水谷委員より説明があった。 ・ 1 . ユネスコスクールに対する支援、 2 . 多様な主体間の連携促進と ESD の普及啓発、 3 . 交流機会の創出、 4 . ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の推進について説明があった。2021 年度成果発表会の特設サイトについてとユネスコ MAB 計画国際調整理事会報告（2022）についての報告があった。 質問：諏訪ユネスコ矢崎氏より ・永明中の申請の進捗について伺いたい。 →西委員：コンソーシアム窓口には連絡がきていないという現状である。 ・渡辺先生に連絡いっていると思われるがどうか。 →渡辺委員：実践報告の評価資料が届いていない。全て資料が揃っていないため、審査にはまだ進んでいない状況である。 ・改めて確認する。ありがとうございます。
・事業計画について	資料 P10 に基づき、水谷委員より説明があった。 ・ 1 . ユネスコスクールに対する支援、 2 . 多様な主体間の連携促進と ESD の普及啓発、 3 . 交流機会の創出、 4 . ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の推進（ユネスコ補助金採択及び実施内容）について説明があった。 ・本年度成果発表会＆交流会の 2 日間開催、国際交流及び教員対象ワークショップについてのアナウンスを行った。 予算計画案 P12 について、西委員より説明があった。 ・ユネスコ補助金の他、学部長裁量経費を加えた計画について説明した。
・その他	特になし
(3) 報告 ・加盟団体活動紹介	協議事項終了につき、進行を渡辺委員に交代。 ●ユネスコアジア文化センター（ACCU） ・主な活動の紹介、ユネスコスクール活動指導案・実践報告募集のお知らせとユネスコ未来共創プラットホーム（事務局の運営）についての紹介 ●環境省 EPO 中部中部 ESD 活動センター ・中部 7 県の環境活動の支援について、主催イベントについての紹介 ●環境保全協会 ・信州環境カレッジ（地域講座、学校講座）について、センターや資料（省エネ、脱炭素）、信州環境フェア等の紹介 ●諏訪ユネスコ協会 ・5 月総会にて企業からの講演、国際理解・異文化理解の交流会、プロジェクト未来遺産申請中、諏訪湖アダプトプログラム（諏訪湖清掃、年 3 回）、ユネスコ通信等について紹介 ●直富商事 ・2021 年 1 月長野県 SDGs 推進企業に認定され、社内勉強会を定期的に開催、小学生対象の企業見学受け入れ・リモート学習・動画の YouTube 配信、高校生の企業訪問受け入れ等の紹介

	●長野県 PTA 連合会 ・HP 紹介、長野県 531 校 15 万人の児童生徒のため活動推進、子どもたちの SDGs の取り組みと保護者の学び促進・研修会、事業計画の SDGs の観点での整理、座談会、動画配信等、県 PTA 新聞、広報誌等や長野県 SDGs 推進企業の登録について紹介 ●長野県 NPO センター ・SDGs コネクト信州を運営をして学びのサポート等の紹介 ●附属幼稚園 ・3 ～ 5 歳を対象とした資源回収、分別、再利用の遊びを通した学びの紹介 ●山ノ内南小 ・高原学習、地域探検、りんご、ゴミ、障がい者支援等など様々なテーマでの学習の紹介 ●山ノ内西小 ・飼育体験、りんご、稲作、無農薬の大豆づくりなどの実践と学習を通した地域との交流の紹介 ●山ノ内東小 ・地域性を活かしながら、栽培活動、飼育活動、伝統学習、自然学習、植樹活動、職員の研修会・勉強会等の紹介 ●信里小 ・グラウンドデザイン「信里を語る子ども」を基軸とした自然とのふれあい、りんご栽培等を通した自然と人の関わりについての学習活動の紹介 ●附属松中 ・教育目標「たくましく心豊かな地球市民」を基軸とした生徒会の活動や梅栽培・手入れ・販売、菊づくりの再開、地球市民集会（異学年グループでのディスカッション）などの実践についての紹介 ●附属特支 ・知的障がいの児童生徒の生き生きとした地域市民としての関わりを促す活動や交流、職場実習等についての紹介 ●高山中 ・ユネスコエコパークの学習（緩衝地域、移行地域についてなど）、現地学習についての紹介 ●文化学園長野中・高 ・ユネスコスクール（6 年目）としての活動、学校全体での体制強化（生徒、教員、保護者、地域）への注力、アートマイル国際協働学習プログラム（インドの学校との協働学習）、English キャンプ（途上国（カンボジア）との交流）、生徒会（長野盲学校との連携、廃油石鹸づくり）の活動、ユネスコスクールニュースの発行等の紹介 ●上田西高校 ・ユネスコスクールキャンディデート校としての生徒会主導の上田西学びプロジェクト（課題解決型講座；地域の方などを講師として招待）、文化祭での取り組み等についての紹介
・その他	特になし
3. 意見交換	進行を安達委員に交代。 文化学園 長田先生より ・今年計画案にあったように、国際交流にどうむすびつけるのかとの点に関して、コロナ禍で交流校を探すのが非常に困難を極めている。、どのように探しているのか。 → ACCU 藤本氏：学校間交流を推進。マッチングの手伝いをしている。公式サイトにて交流希望の募集を行っているので、そこからお申込みいただきたい。 山ノ内東小 大木先生より ・ABIMORI について高山中からお話があったので、具体的な活動について紹介したい。山ノ内中は植樹活動の素晴らしさを広げる活動をしている。機会があれば一緒に植樹についての学習や広げる活動をしていきたい。また連絡をいただきたい。 →高山中 原田先生：相談しながら進めていきたい。よろしくお願いします。 以上

Ⅲ

成果発表 & 交流会

令和４年度

信州ESD/SDGs 成果発表&交流会

～ユネスコエコパークと共に学ぼう～

ESD（Education for Sustainable Development）は、これから目指すべき持続可能な社会の創り手を育む教育です。新しい学習指導要領全体の基盤となる理念として、またSDGs（持続可能な開発目標）達成の鍵として、注目が集まるESD。この成果発表＆交流会では、各校でESDの学びを実践している子どもたちが、学びの成果を発表し、また交流を通じてその学びを広げ深めます。長野県内だけでなく、各地のユネスコエコパークでESDを実践している学校もオンラインでつながることで、様々な分野での発表や学びの広がりが期待されます。

令和５年（2023年）

2月3日（金） 9:50～15:30

2月4日（土） 10:00～12:10

お申し込み・YouTubeの視聴はこちらから！

https://esd-nagano.org/conference2023/

― オンライン開催・参加費 無料 ―

同時YouTubeライブ配信

発表・交流をご希望の学校等は、事前申し込み必要です。
1月13日（金）までに右記URLまたはQRコードよりお申し込みください。
発表・交流会の視聴のみをご希望の方は、事前申し込み不要です。

2月3日（金）

【午前の部】

9:50～10:10	開会行事
10:15～11:40	発表・交流会
11:40～11:50	講評
11:55～12:10	共有の時間

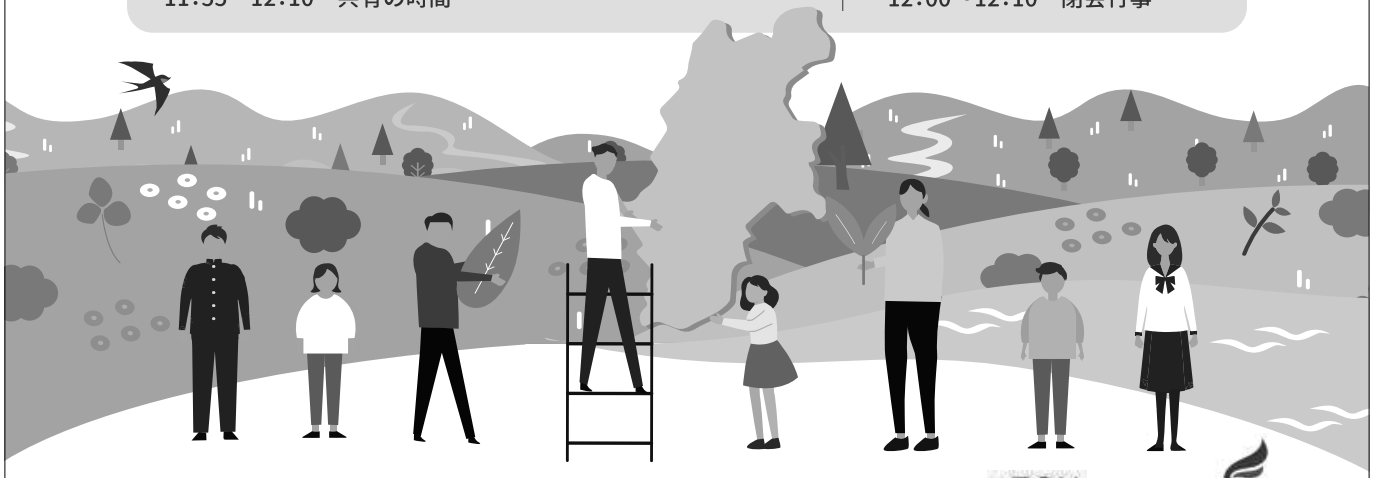
【午後の部】

13:30～15:00	発表・交流会
15:00～15:10	講評
15:15～15:30	共有の時間

2月4日（土）

【午前のみ】

10:00～11:30	発表・交流会
11:30～11:40	講評
11:45～12:00	共有の時間
12:00～12:10	閉会行事



主 催： 信州ESDコンソーシアム　　共 催： 公益財団法人イオン環境財団、信州大学

後 援： 長野県教育委員会、一般社団法人長野県環境保全協会、長野県ユネスコ連絡協議会、長野ユネスコ協会
ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）（予定）

お問い合わせ
信州大学教育学部　信州ESDコンソーシアム事務局（担当：松橋・清水）
〒380-8544　長野市西長野6-ロ　TEL:026-238-4034　E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp　HP:https://esd-nagano.org/

R４年度 信州ESD/SDGs成果発表＆交流会
プログラム

…小学校
…中学校
…高等学校

２月３日(金)午前の部

【会場１】

	9:50	開会行事
1	10:15	【長野県】山ノ内町立南小学校　3年生 「地域のSDGs探検隊」
2	10:25	【長野県】飯田市立和田小学校　5年生 「木作り」
3	10:35	【群馬県】みなかみ町立新治小学校　5年生 「調べよう　新治の自然」
	10:45	質疑・交流会（１０分）
	10:55	休憩（１０分）　調整（５分）
4	11:10	【長野県】飯田市立遠山中学校 「生徒会を中心とした、遠山郷でのSDGs活動」
5	11:20	【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園 「根羽学園の根羽の化学習の時間」
	11:30	質疑・交流会（１０分）
	11:40	講評 福岡県大牟田市前教育長　安田　昌則先生
	11:55	全体共有の時間

【会場2】

	9:50	開会行事
1	10:15	【長野県】飯田市立上村小学校　5・6年生 「上村をPRしよう！」
2	10:25	【長野県】長野市立東条小学校　6年生 「ホタルのふるさと東条」
3	10:35	【長野県】山ノ内町立南小学校　6年生 「地野菜節の魅力再発見」
	10:45	質疑・交流会（１０分）
	10:55	休憩（１０分）　調整（５分）
4	11:10	【宮崎県】綾町立綾中学校 「SDGs達成に向けての生徒会活動紹介」
5	11:20	【長野県】高山村立高山中学校 「数字でフードマイレージを考える」
	11:30	質疑・交流会（１０分）
	11:40	講評 宮城教育大学教授　市瀬　智紀先生
	11:55	全体共有の時間

２月３日(金)午後の部

【会場３】

1	13:35	【長野県】山ノ内町立南小学校　4年生 「ぼくのわたしのユカリナ」
2	13:45	【長野県】茅野市立永明小学校　4年生 「エゴマから油を搾ってつり手土器に火を灯そう」
3	13:55	【長野県】信州大学教育学部附属長野小学校　6年生 「私のお弁作り」
	14:05	質疑・交流会（１０分）
	14:15	休憩（１０分）
4	14:25	【福井県】大野市阪谷小学校　5・6年生 「星空プレゼンテーション」
5	14:35	【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校　4年東組 「もし、避難所で生活することになったら・・・？」
6	14:42	【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校　4年西組 「レジリエンストイレ体験、起震車体験、避難所宿泊体験全部合かたちでやってみよう！！」
	14:50	質疑・交流会（１０分）
	15:00	講評 ・奈良教育大学ESD・SDGsセンター センター長・教授　中澤　静男先生 ・北陸ESD推進コンソーシアム　コーディネーター 池端　弘久先生
	15:15	全体共有の時間

【会場４】

1	13:35	【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校 「持続可能な社会の実現に向けて」
2	13:45	【福島県】只見町立只見中学校 「地域とともに学び続ける中学生　～山あいから海を守る活動を通して～」
3	13:55	【長野県】上田西高校 「上田西学びプロジェクトin UNMP&国際交流」
	14:05	質疑・交流会（１０分）
	14:15	休憩（１０分）
4	14:25	【長野県】文化学園長野高等学校　１年生 「LGBTQについての課題」
5	14:33	【長野県】文化学園長野高等学校　２年生 「チノプロ！～銀作放棄地に新たな役割を～」
6	14:41	【長野県】文化学園長野高等学校　中高自然科学部 「里山での活動（自然科学部）」
	14:50	質疑・交流会（１０分）
	15:00	講評 奈良教育大学教育連携講座／ESD・SDGsセンター 及川　幸彦先生
	15:15	全体共有の時間

２月４日(土)

【会場５】

1	10:05	【長野県】学校法人いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校３・４年生 「わたしたちのりんご園と海産と生産のつながりを見つめて」
2	10:15	【長野県】高山村立高山小学校 「里山村の「もの・人・こと」や環境から学び、地域のためにできることを見つけよう」
3	10:25	【長野県】山ノ内町立西小学校　2年生 「小さな命、大きな命とわたしたちとともに」
	10:35	質疑・交流会（１０分）
	10:45	休憩（１０分）　調整（５分）
4	11:00	【長野県】学校法人いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校５・６年生 「世界の子供達のために私たちにもできる小さな一歩」
5	11:10	【長野県】長野市立信里小学校　3年生 「里山の恵み～信里に住む生き物とのふれあい～」
	11:20	質疑・交流会（１０分）
	11:30	講評 北陸ESD推進コンソーシアム　コーディネーター 今井　和美　先生
	11:45	全体共有の時間
	12:00	閉会行事

【会場６】

1	10:05	【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校 「古賀志林エネスコエコパークの魅力を探り発信しよう」
2	10:15	【長野県】文化学園長野中学校　生徒会 「環境応援プロジェクト！　～4つのRで、海の豊かさを山の私たちから守る～」
3	10:25	【長野県】文化学園長野中学校　３年生 「ART MILE PROJECT」
	10:35	質疑・交流会（１０分）
	10:45	休憩（１０分）　調整（５分）
4	11:00	【長野県】中野西高等学校 「餃プラ・地域復興『麦ストロー制作』」
5	11:10	【長野県】文化学園長野高等学校　生徒会 「生徒会におけるSDGｓ活動」
	11:20	質疑・交流会（１０分）
	11:30	講評 立教大学名誉教授／同ESD研究所員 阿部　治　先生
	11:45	全体共有の時間
	12:00	閉会行事

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　学長挨拶

皆さん、おはようございます。信州大学長の中村宗一郎と申します。

本日ここにこうして、『令和４年度信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会』を開催できますこと、主催の『信州 ESD コンソーシアム』はもとより、共催やご後援を頂きました各種団体、教育委員会の皆さま方に対して、信州大学を代表して厚く御礼申し上げます。

今回の成果発表では、長野県内からだけでなく、全国の小中学生の皆さんからご発表があるわけですが、地球の未来、人類の明るい未来は皆さん方に託されているわけですので、どうか『臆せず』、『堂々』とご自身の考えを述べていただき、自由な発想での意見交換をして頂くとありがたく思います。

私たち人類は、20 世紀の後半に科学技術を飛躍的に発展させ、人口の爆発的な増加と盛んな人間活動によって、地球に大きな負担となりました。そして、私たちは今、地球温暖化問題という難しい問題に直面しています。

私たちが健康を維持し、安全で文化的な生活を送るためには、豊かな自然環境を守ることが何より大切だと考えます。私たちは、これまで以上に、限りある天然資源と環境を守ることに強い関心を持ち、環境との調和に優れた知恵を結集する必要があります。

私たちには、生物の多様性を守ることを念頭にした食料の安定供給のあり方、地球環境の保全を視野に入れたクオリティー・オブ・ライフ、『生活の質』の維持・向上、生産性を保証しながらのカーボン・オフセット、『脱炭素』の仕組み構築など、およそ数学的に矛盾する究極の課題が突きつけられているのです。

いうまでもないことですが、脱炭素社会、『カーボン・オフセット、カーボンニュートラル、ゼロカーボン』を実現するためには、『ヒトの価値観』、『心の在り様』を変える必要があります。教育が大変重要になってきます。ESD、『Education for Sustainable Development』は、きわめて重要な観点です。

信州大学はこれまで、大学の基本方針として、『かけがえのない地球環境を守るため、教育、研究、診療を含む社会貢献、国際交流など、あらゆる活動を通して、人と自然が調和した、持続可能な社会の実現に貢献する』ことを掲げてきました。

信州大学は、今回のような ESD 活動をこれからも力強く推進してまいります。

結びに、本日お集まりの皆さま方の深い理解とご尽力に感謝申し上げますとともに、小中学生の皆さん方にとっては、それぞれの未来が希望に満ちた明るいものであることを信じて、私からの挨拶と致します。本日から２日間にわたる成果発表 / 交流会どうぞよろしくお願いいたします。

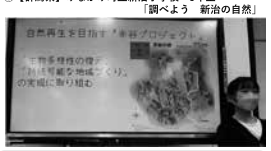
会場１の発表＆交流会

会場１　参加者のみなさま

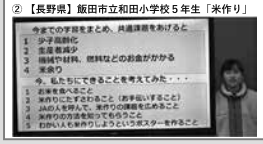
会場１の発表＆交流会

①【長野県】山ノ内町立南小学校　3年生
「地域のSDGs探検隊」

③【群馬県】みなかみ町立新治小学校　5年生
「調べよう　新治の自然」



②【長野県】飯田市立和田小学校５年生「米作り」



交流会の様子

会場１の発表＆交流会

④【長野県】飯田市立遠山中学校「生徒会を中心とした、遠山郷でのSDGs活動」

交流会の様子

⑤【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園「根羽学園の総合的な学習の時間」

会場２　の発表＆交流会　共有

会場２　参加者のみなさま

会場２　の発表＆交流会　共有

①【長野県】飯田市立上村小学校　５・６年生

③【長野県】山ノ内町立南小学校

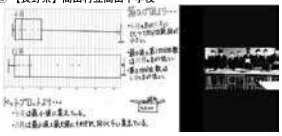
②【長野県】長野市立東条小学校　6年生

交流会の様子

会場２　の発表＆交流会　共有

④【宮崎県】綾町立綾中学校

⑤【長野県】高山村立高山中学校



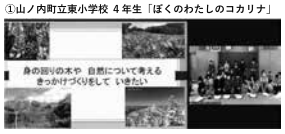
交流会の様子

会場３の発表＆交流会

会場３　参加者のみなさま

会場３の発表＆交流会

①山ノ内町立東小学校 ４年生「ぼくのわたしのコカリナ」



③信州大学教育学部附属長野小学校 ６年生
「私の土器作り」

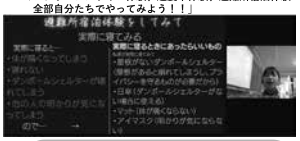
②茅野市永明小学校 ４年生
「エゴマから油を搾ってつり手土器に火を灯そう」

交流会の様子

会場３の発表＆交流会

④大野市阪谷小学校 ５・６年生「星空プレゼンテーション」

⑥信州大学教育学部附属松本小学校　４年西組
「レジリエントトイレ体験、起震車体験、避難所宿泊体験
全部自分たちでやってみよう！！」



⑤信州大学教育学部附属松本小学校 ４年東組
「もし、避難所で生活することになったら…？」

交流会の様子

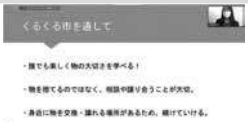
会場４　の発表＆交流会　共有

会場４　参加者のみなさま

会場４　の発表＆交流会　共有

①【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校

③【長野県】上田西高校



②【福島県】只見町立只見中学校

交流会の様子

会場４　の発表＆交流会　共有

④【長野県】文化学園長野高等学校１年生

⑥【長野県】文化学園長野高等学校中高自然科学部

⑤【長野県】文化学園長野高等学校２年生

交流会の様子

会場５の発表＆交流会　共有

会場５参加者のみなさま

会場５の発表＆交流会　共有

①学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校３・４年生
「わたしたちのリンゴ園と消費と生産のつながりを見つめて」

③山ノ内町立西小学校 ２年生
「小さな命、大きな命とわたしたちとともに」

②高山村立高山小学校
「高山村の『もの・人・こと』や環境から学び、
地域のためにできることを見つけよう」

交流会の様子

会場５の発表＆交流会　共有

④学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校５・６年生
「世界の子供達のために私たちにもできる小さな一歩」

交流会の様子

⑤長野市立信里小学校 ３年生
「里山の恵み～信里に住む生き物とふれあい～」

会場６　の発表＆交流会　共有

会場６　参加者のみなさま

会場６　の発表＆交流会　共有

①【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校

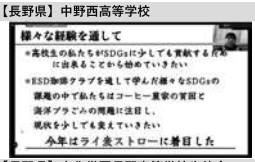
③【長野県】文化学園長野中学校３年生

②【長野県】文化学園長野中学校生徒会

交流会の様子

会場６　の発表＆交流会　共有

④【長野県】中野西高等学校



交流会の様子

⑤【長野県】文化学園長野高等学校生徒会

会場①-1

【長野県】山ノ内町立南小学校 3年生

活動テーマ 地域のSDGs探検隊

発表概要 SDGsの基礎知識を学び、子どもの発想で身近なものをSDGsの視点でとらえ活動を進めてきました。地域の清掃活動をしたり、街をきれいにすることを呼びかけるポスターを作成しました。

実践記録

2022 年度 ESD/SDGs 実践記録

1　実施校，対象（学年，人数）　山ノ内町立　南小学校　３学年　１３名

2　探求課題・活動実践の概要，ねらい，目標等

（1）テーマ　「山ノ内町の SDGｓ探検隊！」

（2）目標　・町探検をしながら自分たちの町の良さを見つける。
・環境のために自分たちができることを考える。

（3）ねらい　昨年度のりんご販売活動を通して感じた山ノ内町の良さをもっと見つけよう。
素敵な町を守るために私たちにできることはあるか考えよう。

①町探検にでかけて山ノ内町のすてきを見つけよう。②ゴミ拾いをして町をきれいにしよう。
③ごみを減らすためにどんなことができるかな。④町探検で見つけた山ノ内町の良さをまとめよう。

（4）ESD の視点，育成する資質・能力

①構成概念・・・**多様性**　多種多様な現象が起きていること
連携性　互いに連携・協力すること

②資質・能力・・**他者と協力する態度**
つながりを尊重する態度（いろいろなものや人のおかげで自分がいることを感じる）

（5）関連する SDGs　１１住み続けられる街づくりを
１５陸の豊かさを守ろう　１４海の豊かさを守ろう

（6）探求課題・活動実践の概要

①世界で起きている問題について知ろう！（SDGｓって何？動画視聴）
・貧困　・飢餓（食糧不足）　・水不足　・日本の食品ロス　・プラスチックごみによる環境破壊

②３年生でできることを考えよう。
・給食を残さず食べよう！（毎日の給食チャレンジ）・ゴミ拾いをして分別しよう。（クリーン作戦）
・４年生と一緒に牛乳のフタからはがきを作ろう。

③町探検をして山ノ内町の良さや SDGs ポイントを見つけよう（ソーラーパネル、共同浴場、果樹園）

④素敵な町を守るためにごみをもっと減らす取り組みを考えよう。（目を引くポスターを作りたい）

⑤自分たちの町の良さをまとめた SDGs マップを作ろう。

3　流れ（指導計画の概略）

４月・・・・活動の見通しを立てる。ＮＨＫの番組視聴。
５～９月・・・・３年生だけでゴミ拾い作戦をして分別して考える。
６月・・・・４年生と牛乳のフタではがきを作る。
６～１１月・・・・町探検をしながら山ノ内町の良さや SDGｓポイントを見つける。
９月・・・・ESD 体験学習で志賀高原まが玉の丘コースを歩く。自然の豊かさを知る。
１０月・・・・給食センター・スーパー（リサイクルコーナー）の見学
１１月・・・・ごみを減らすためにポスターを作って貼る。
１２月～１月・・・・自分たちの町の良さをまとめた SDGｓマップを作る。
２月・・・・学習発表会で報告しよう。（お家に人に？全校の人に？）

4　効果，反応，所感

昨年度のりんご販売の体験から、山ノ内町（南小学校区中心に）の良さを見つけたいと願い、町探検を通して町の良さなどを探してきた。南小学区には温泉や果樹園が多いことや、ソーラーパネルなどがあることを知り、豊かな水源がないと温泉や果樹園は作れないことから、水や電気は有限性があることに気づいてきた。また、そういった豊かな自然や住みやすい街を守るために、路上に落ちているゴミ問題をなんとかしたいという思いが強まった。昨年の３年生がゴミについて学習していたことや「応援！みんなのチャレンジ！」で川のごみ拾いをしている小学生の存在を知ったことから、「自分たちもゴミ拾いをしたい。」と願い、ゴミ拾い活動を始めたが、路上のごみが思った以上に多いことから、どうしたらよいかを考えた。はじめは「ポスターを貼るだけではゴミは減らない。」という意見が多く、隔週でゴミ拾い作戦をすることでごみが減ってきているように感じ、「自分たちが拾えばいい。」と考えていたが、町探検をする中で昨年の３年生が作成したごみのポスターを見つけ、「やっぱりポスターを貼ると、自分たちみたいに見る人がいて、ゴミをもっと減らせるかもしれない。」と考えが変わっていった。そこで、自分たちが拾ったごみを絵にかいて貼り合わせたポスターを作製した。ポスターに入れて伝えたい言葉も「なんでごみを捨てたらだめなのか、考えてもらえるような言葉にしたい。」という意見が出て、子どもたちの中で少しずつ環境への関心が高まっているように感じている。

感 想

会場①-1 【長野県】山ノ内町立南小学校 3年生 発表を見た方からの感想

●発表ありがとうございました。みんなで分担して取り組んでいるのが素敵だと感じました。いっぱい練習した成果が出ていたと思います。内容については自分たちの実体験から、自分たちの想像以上にごみが落ちている現実を知り、その後のポスター制作等の具体的な策を考えていて取り組む姿に感銘を受けた。みんなの心のこもったポスターを見たらごみをポイ捨てする人が少なくなると思う。自分たちの思いや考えを緊張する中で精一杯取り組んでいて素敵だった。

●ごみの多さに驚きました。たばこのポイ捨てが多いということは、大人が街を汚しているということです。大人も子供も町の環境を守らないと、せっかくのきれいな街が台無しになってしまいます。地球にやさしい活動をこれからも続けてください。私も、もっと地域の環境に目を向けようと思いました。

●町探検をする中で作物を多く育てていることや、温泉・共同浴場など特徴的なものを見つけることで地域の特徴を見つけ、SDGsと関連づけていることがとてもいいと感じました。先輩方が行なっていた活動を引き継ぐように活動をしていることがとても良かったです。

●自分が住む地域の良さを見つけ、その地域のためにゴミ拾いやポスターを作るなどの活動をしていて、地球にだけでなく地域の人たちにとってとてもありがたいことをしていてえらいと思いました。SDGsのため牛乳ビンの蓋をリサイクルする活動のおかげで身をもってSDGsを実感できたと思うのでこの活動を忘れないでほしいと思いました。発表は、みんなはきはき喋っていてとても聞きやすく良い発表でした。ありがとうございました。

●ポスターだけでなく、ごみ拾いを自分たちでしたり、牛乳瓶のふたを集めて、人に任せるのではなく、自分たちで動いていることに、尊敬の念を抱きました。また、はきはき喋っていたのでとても聞き取りやすかったと思います。

●地域のいろいろなことに気が付いた後に、気づいて終わりではなく、SDGsについて学んで地域の魅力をより良くしようと自分たちから行動しているところがすごいと思いました。ごみ拾いなどの続けていける活動はこれからも続けていってほしいし、私も見かけたらごみを拾おうと思います。

●みんなハキハキと話せていて、非常に聞き取りやすかったです。また、自分たちが今までやってきたことに自信をもっていることが伝わってきました。私も今回の発表で、二酸化炭素1kg がエアコンの4時間の使用で発生する量だということを初めて知りました。緊張するかもしれないけれど、全体的にみんなもう少し顔をあげて、発表出来たらより良かったかなと思いました。素敵な発表をありがとうございました。

●自分たちの地域の魅力に気付き、実際にゴミ拾いを行ったこと、牛乳のフタを全校で協力しながらリサイクルすることはSDGsの観点からしてとても素晴らしいことだと思います。元気いっぱいの発表で、聞いている側も元気をもらうことができました。

●地域の人とのつながりを感じました。自分の地元の魅力を感じることができることはとてもいいことだと思います。地球にいいことをするために、自分たちでいろいろ考え、リサイクルしたり、ポスターを作ったりすることは誰でもができることではないのでとても尊敬します。また、ポスターのデザインとてもいいと思います。

●SDGsについて調べるのではなく、町探検という形で、自分たちで課題を見つける姿が素晴らしいと思いました。普段、見過ごしているものが、SDGsに関係しているのですね。地域に存在する施設や設備が環境や人間関係をサポートすることが分かりました。発見したことを自分たちの生活に結び付ける姿が印象的でした。発表、ありがとうございました！

●地域の農業や温泉、ソーラーパネルなどの紹介を受けて、SDGsをとても意識した地域だと知り、とても魅力を感じました。南小学校の生徒の皆さんが環境保全の呼びかけにつくったポスターやリサイクルでつくったはがきなどどれもとても素敵でした。私も環境を守るためにリサイクルや呼びかけなどの活動をしていきたいです。

●地元の自然環境や文化を実際に目で見たりして、そこから得た地元の特徴から持続可能な社会とはどういうことなのか、自分たちの地元にはこんな良さがあるのだとなど考えを持ち、更なる学習に発展していて凄いと思いました。また、発表も沢山写真を載せていて、声も聞き取りやすく、かなり分かりやすかったです。

●自分たちでどういった方法が町の人に呼び掛けるのが効果的かを考え、実際にリサイクルしてゴミはリサイクルすることで「資源」となると学んだことにこの授業のやった意味を感じました。また、この活動で終わることなくこの先のことまで考えていけているのが素晴らしいなと思いました。

●とても緊張されたと思いますが、ほんとにいい発表でした。お疲れ様！自分たちの町の魅力を探し、そこからSDGsと結びつけて地球環境の問題について考えていてとても感心しました。そして、考えたことを実際に学校の中や地域での活動に活かしていてすごいなと思いました。まさに「Think Globally Act Locally」（←ぜひ先生に

聞いてみてね）これからも頑張ってください！

- ゴミ集めや牛乳瓶の蓋からはがきを作る活動などさまざまな活動を通して自分たちの町をよりきれいにして守っていきたいという気持ちが伝わってきました。自分たちの活動でごみを減らすことが出来てよかったですね。これからの活動でも様々な成果を出していけるよう頑張ってください。
- 共同浴場がたくさんある、という地域の特性をしっかり生かしつつ、リサイクル活動においては面白い独創的な目の付け所を見つけていてとても感心しました。地域とのかかわりというのは一部の学校しかできないので、その特別性を最大限に活かしてさらに頑張ってください。
- 聞き取りやすい話のスピードと声量で聞きやすく発表の仕方も良いと思いました。地域探検を通して自ら地域の不思議だなと思うことや課題などを見つけ、SDGsに結びつけて考えているのが素晴らしいと思いました。ゴミ拾いの活動ではゴミをさらにリサイクルする方法やリサイクルをするとどんな良いことがあるのかまで分かりやすく発表されているのが良いと感じました。
- ごみ拾いをしてみると思っているよりごみが落ちていることに気づき、自分たちで拾うしかない, 地域をきれいにしたいという思いから活動していることがよく伝わりました。ごみの分類をしてみることで今の問題に気づくことができ、ごみが資源になることに気付くことができたのがすごいと思いました。自分たちの町を歩いて地域の魅力に気づくとともに、町の未来のためにごみ問題や電気の問題に取り組もうと積極的に活動している姿が素敵でした。発表ありがとうございました。
- SDGsの観点から地域について考えている視点は私たち教師にも子どもたちと社会について考える点において非常に大切なものであると感じた。そのなかで何ができるかということからゴミ拾いという一つの方法により、地域問題について考える活動は素敵だと思った。
- 当たり前だと感じていた畑や田んぼの存在のありがたさに気づけたことは素晴らしいなと思いました。 SDGsについて学んだことを、日常生活や過去の学習を思い出して、ゴミ拾いやポスター作りとして活かしていることが素晴らしいです。私も未来を変える第一歩として、ゴミの分別をこれからも続けていこうと思います。
- 町の魅力についてSDGsとつなげながら見つけていたのが素晴らしいと思います。ごみを減らすためにポスターを描くだけでなく、自分たちで拾う活動を進めている様子を見て、自分たちの住む町を大切にしようとする気持ちが伝わってきました。
- 発表ありがとうございました。さまざまな農作物や温泉など、山ノ内町には多くの魅力があり、それを守りたいという皆さんの姿勢が伝わってきました。また、ごみを減らそうという取り組みの内容も非常に魅力的でした。ゴミを拾うだけでなく、そこから紙類が多いことに気が付き、牛乳の蓋などをリサイクルする活動は、学びを生かして活動を発展させようとする姿勢が伝わり、とても感心しました。これからもごみを減らしていく意識を持って頑張ってください。
- 皆さんの発表からは、自分たちの暮らしている地域をきれいで、自然にあふれた街にしたいという思いが伝わってきました。皆さんは牛乳瓶のふたをはがきにしてリサイクルをしていたけれど、牛乳瓶のふたのほかにリサイクルできそうなごみはあるのかな？これを考えることで、もっとリサイクルについて詳しくなって、地域のごみをさらに再利用できるのではないかと思いました。素敵な発表をありがとうございました。
- 多くの作物を育てている、共同浴場や温泉がある、ソーラーパネルがある、ゴミがたくさん落ちているなど、身近なものからSDGsを考えていることが素晴らしいと思いました。また、ポスターを作ったり、牛乳ビンを回収したりするなど、自分たちにできることから始めていることもとても大切なことだと思いました。私は山ノ内町立南小学校に行ったことはありませんが、今回のみなさんの発表を聞いてとても魅力的な町だということが伝わってきました。

会場①-2 【長野県】飯田市立和田小学校 5年生

活動テーマ 米作り

発表概要

「米作り」は、毎年5年生が総合的な学習の一つとして取り組んでいます。4月に「米作り、楽しみだな」「米作りのやり方を覚えるぞ」と関心があった5年生が社会科の「米作りのさかんな地域」の学習で、庄内平野の課題に出会うことで「日本のお米を守っていこう」という「米作り」の学習テーマを真剣に作りました。地域の方との「米作り」の体験を生かしながら、自分たちは何ができるのだろうか、今できることは何だろうか、と学習を深めています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）　　飯田市立和田小学校　５学年　６名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（1）活動名　「日本の米作りを守っていこう」

（2）目　標　①米作りの体験を通して、米の作り方や米作りに携わる人の工夫や苦労を知る。

②日本の米作りの現状を知り、自分たちにできることを考え、実行する。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

□多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

☑有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）

□その他（　　）

②育成する資質・能力

□批判的に考える力　☑他者と協力する力

☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度

☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度

☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDG s

２飢餓をゼロに　３すべての人に健康と福祉を　４質の高い教育をみんなに

１２つくる責任・つかう責任　１５陸の豊かさも守ろう　１７パートナーシップで目標を達成しよう

（5）探求課題・活動実践の概要

①一連の米作りの体験（畔作り→代掻き→田植え→稲刈り→脱穀→もみすり→精米）

②社会科「米作りの盛んな地域」の学習

庄内平野の課題→他地域の課題→JA へインタビュー→学習テーマ「日本の米作りを守っていこう」

③自分たちができる活動５つの実行（まずは、ごはんをたくさん食べるところから）

④交流と発信（「米作り」でお世話になった方々に感謝の会、地域に向けた学習発表会）

３．流れ（指導計画の概略）

５月…畔づくり　→　代掻き　→　田植え

６月…田の草（ヒエ）取り　→　分蘖や出穂の様子の観察

９月…稲刈り　はぜかけ　→　米の水分量検査　→　脱穀

１０月…もみすり　→　精米　米粉

１１月…街道縁日で販売活動

社会科「米作りの盛んな地域」との関連学習

山形県庄内平野の課題→学習テーマ

１２月…お世話になった皆さんに感謝の会＆収穫祭

おにぎりやお餅作り　地域に向けた学習発表会

１月…米粉の良さや問題点

４．効果・反応・所感

当初は、単に「米作り」を体験できることに喜びを感じていた子どもたちが、体験を通して、その工夫や努力に気づいていくことができた。たくさんの収穫ができた頃に社会科の学習で「米作り」の課題を知った子どもたちは、他人事ですますことができず、「日本の米作りを守っていこう」という学習テーマを立てた。そして、自分たちができること５つを決め、実践し始めている。また、米粉にも注目した子どもたちは、米粉の普及にも力を入れようとしている。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

①　水管理の大平政広さん　②田の持ち主の後藤通和さん　③オペレーターの針間道夫さん

④　地元 JA の原さん　桑原さん　⑤農業普及員の堀さん　⑥地元の米屋の近藤さん

感 想

会場①-2 【長野県】飯田市立和田小学校 5年生　発表を見た方からの感想

- 実際に米作りをすることでいつも食べている米のありがたみを感じている姿勢が素晴らしいと思いました。確かに米が食べられなくなるのは困るので、私もこれからたくさん米を食べたいと思います。また、米粉の存在を初めて知ったので、小麦粉の代わりに米粉を使っていきたいと思います。素敵な発表をありがとうございました。
- 米作りを地域の方々と連携しながら、行っていく中で、社会科での学びを生かし、何が米作りにおいて課題となっているのか考え、自分たちにできることを具体的にあげて、実際にやっていこうとする姿が、主体性に満ちあふれていて素晴らしいなと素直に思いました。今後に向けても、米粉などの提案もあり新しいアイデアも多くて、皆さんならではの考えがたくさんあるなと感じました。ありがとうございました。
- 普段自分たちが何気なく食べているお米だけど、自分で育ててみると様々な苦労があったと思います。生産者の方がどんな思いで作っているのかも知ることができたと思うので、食べ物を大切にしようという気持ちを持って生活していくことが大切だと思います。
- 実際の体験から課題を持ったり、工程の意味について考えたりすることができたりましたね。稲作には関わる人の努力や工夫があるのですね。食文化の変化によって米に変わる主食がたくさん生活のなかにありますね。そこに着目できているのがすごいと思いました。米粉の魅力にはどのようなものがあり、活用の仕方にはどんなものがあるのかもっと考えられるといいと思いました。
- お米の生産過程の全てに関わり、販売まで行っている点に皆さんの米作りへの学習意欲の高さが伝わってきます！頑張りましたね！社会科での学習と自分たちの経験を繋げて、より大きな問題を見つけて、米粉や米作りについて考えている点も分かりやすくスライドでまとめられていて見やすかったです！
- みなさんの発表から、私は普段何気なくお米を食べていますが、お米は作るのにとても大変であることを学びました。また、みなさんの発表を聞いて、これからお米をたくさん食べていこうと思いました。若年層の生産者を増やすためにはどうしたらいいのか私も考えていきたいと思いました。
- 米作りを実際に体験できることがとても貴重な体験であると思うので、ぜひ大切にしてほしいと思いました。また、実際に体験・学習することを通して、日本のお米を大切にしていきたい、広めていきたいといった考えをもって解決すべき問題を整理している点が良いと思いました。
- 米作りの問題点に気づいて、自分たちにできることを考えていることが素晴らしいと思いました。若い人が米作りに参加していくことは、若い人も少なくなっているので、難しいのかなと思いましたが、みなさんがポスターなどを作って米作りの大切さを広めていくことで効果があるといいなあと思いました。私もお米をできるだけたくさん食べて、お米を大切にしたいです。発表がとてもはきはきと聞きやすかったです。
- 発表ありがとうございました。米作りの活動を通して、ただお米のつくり方やその大変さを学習して終わりなのではなくて、そこから今の米作りやお米農家の方が抱えている問題に着目して考えていて、一つの活動で学べることはたくさんあるのだなということを感じました。地元が同じ長野県飯田市であるということもあり、自分も農業の問題について関心を持つ必要があるなと感じました。同時に米作りから発展して、農業全体についても考えていくことが必要だなと感じました。
- 自分達が実際にやったり、地域の方たちに手伝ってもらったりして米づくりをする中で大変さに気づき、今と昔を比較するような考え方ができているのがすごいと思いました。また、米づくりには様々な課題があることを知ることができ、少子高齢化など社会的に問題なことが米づくりにもつながっていることを知りました。「米粉」に着目したところもなるほどと思いました。私も、パンが楽で食べてしまいがちなので、おいしいお米を食べていきたいと思います。発表ありがとうございました。
- 飯田市立和田小学校5年生の皆さん発表お疲れさまでした。私も小学校5年生の時に米作りの体験をしました。しかし、年に数回ほど田植えや稲刈りをし、最終的に餅をついて食べるという程度の活動でした。和田小学校5年生の皆さんは稲作体験をただ体験活動で終わらせるのではなく、それを“学び”へと繋げ、そこからさまざまなことを考えていることが伝わってきました。これからも頑張ってください。素晴らしい発表をありがとうございました。
- 実際に自分たちでお米を作ることで、いつも当たり前に食べているごはんのありがたさを感じることが出来たと思います。私も小学五年生の時に同じ活動をして、とても印象に残っています。社会の学習とつなげて、自分たちにできることを考えていて素晴らしいと思いました。現在小麦粉の値段が上がってきていて、米粉が使えるのではないかという提案がとても良いと思いました。

●米づくりをしてたのしかっただけで終わらせることなく、米づくりにおける課題を分析して、自分たちに何ができるのか考えていてとても素晴らしいと思います。米だけでなくそこから米粉など幅広く問題について捉えているのもとても良いと思います。

●自分たちが米作りをすることで、米作りの大変さを知るとともに、米作りについてたくさんのことを学んでいて、とても良いなと思いました。今の米作りや日本の米作りの現状などについて、あまり知らなかったので、発表を聞いて米作りの課題や疑問点などを知り、びっくりしました。日本のお米を守るために、私もできることをしていきたいと思いました。

●実際に米作りを体験してみて、わかったことや感じたことをしっかり記録し発表していてすごいなと思いました。また、地域の方とも関わることで新しい発見をしていて良いと思いました。米作りの体験から発展させて、高齢化や米余りなどの高齢化に関する問題点も考えていてすごいなと思いました。そして、その問題を解決するために自分たちにできることを考えていて良いなと思いました。

●まず初めに、お米作りと聞いた時は田植えや稲刈りを行ったのかと予想したのですが、実際にはそれ以上に、あぜ作りやしろかきから始まり、脱穀まで行ったと知りとても驚きました。いつも食べているお米が手間暇をかけて作られていることを知れる体験はとても貴重だと思います。また、それにとどまらず、米作りの課題について調べているのが素晴らしいと思いました。小麦粉の代わりに米粉が広まりにくい理由など、新たに学べたことも多く、ためになりました。素敵な発表ありがとうございました！

●私自身も5年生の時にお米作りを経験しました。いつも当たり前に食べている日本のお米がたくさんの過程のもと成り立っていることを知り、衝撃を受けたことを今でも、覚えています。和田小学校の皆さんは、お米作りを経験しただけではなく、経験して見えてきた課題について日々の学習である社会科と結び付けて発表をされていたのがとても印象的でした。学習を通して学んだこと、実際に経験して得た学びを比較している姿勢が素敵でした。

●普段何気なく食べているお米が、どれほどの手間と時間をかけて作られているか初めて知り、もっと感謝しなければならないと思いました。また、米作りの課題も多くあると知り、その課題を解決するために私たちに出来ることを5つも挙げていたことに驚きました。「お米を食べること」というのは日常的に意識出来ることだと思いましたが、米作りに携わったり、JA の人と関わったりするという考えは思い浮かばなかったので、そのような考えを実際に行動に移すことができればとてもすごいと思います。
さらに、米粉が日本の米作りを守ってくれるということを知った上で、輸入に頼っている小麦粉と日本で生産できる米粉の比較をしていた点にも感心しました。米だけではなく、米作りを支える他の農作物に目を向けることができるというのは本当にすごいことだと思います。今後も日本の米作りを守り、受け継いでいくために私たちが出来ることはすぐにでも実行していけるよう頑張っていきたいですね。

●米作りにはどのような課題があるのか、またどのような方法で解決していくことができるのかを、実際に米作りを体験しながら考察していてすばらしいなと感じました。後半には米粉について発表していましたが、もし可能であれば実際に米粉を使った料理をやってみるなどをして、実際に食べてみた感想があるとなおよいなと感じました。

●米作りという体験から、たくさんのことを学び、感じられたかと思います。僕なら、そこで満足してその感動をしまい込んでしまいそうですが、皆さんはそこに留まらず、活かし、共有し、発展させていっており、その探求心にとても驚かされました。お米という、日本人にとって大事な文化を守っていけるように、皆さんの考えられた対策を参考にさせていただきます。

●皆さんがどのようにお米作りに向き合っていたのかがとてもよく伝わるような素晴らしい発表でした。現在衰退しつつあるお米作りですが、皆さんがあのように考えて真摯に向き合ってくれていることがわかってとてもうれしいと感じました。ありがとうございました！

●自分たちが日ごろから食べている、日本の文化のお米について調べ、地域の人との交流とともに、お米の大切さについてよく考えられていてよいと思いました。日本のお米の未来を守り、米粉全国に広めていってください。

●今と昔で米作りにどう違いがあるのか考察しながら、米作りに取り組んでいてとても良いと思った。また、米作りを受け継いでいくためにたくさん考察し、調べ、それから自分たちが今できることをまとめ取り組んでいてすごいと思った。また、米粉という少し違った観点からも調べていて良かった。

会場①-3 【群馬県】みなかみ町立新治小学校 5年生

活動テーマ 調べよう　新治の自然

発表概要 「調べよう　新治の自然」をテーマに日本を代表する豊かな生態系が息づく「赤谷の森」の実態を知り、郷土の自然の素晴らしさを感じ取るとともに、新治の自然を体験しました。「地形」、「植物」、「動物」の3テーマに分かれて探求活動を行い、赤谷の森が抱える問題である「ニホンジカの増加」について課題意識をもちました。専門家への質問や児童同士の交流を通して、今後の人間とニホンジカの付き合い方について考えました。

感　想

会場①-3 【群馬県】みなかみ町立新治小学校 5年生　発表を見た方からの感想

- 新治の自然について考える中で、鹿の低密度管理など、具体的な施策を考えているのが非常に印象的でした。また、課題として、鹿が自然に対してどのような悪影響を及ぼしているのか、考えたうえでポスター作りや資料作りにつなげようとしている点が、今後にもつながって非常に良いなと感じました。ありがとうございました。
- 赤谷の森について知り、魅力を見つけることができましたね。森に行くことでいろいろな発見をすることができるのですね。川の温度が上流の方が高いことに驚きました。発見からの疑問は解決してみましたか？鹿の活用では、私は革細工を作ることもあるので革について気になりました。みんなが学ぶ前と同じように鹿について知らない人が多いと思います。また、鹿を知っても何をしたらいいのか分からない人も多いと思います。そんな人たちにはどんなことができると思いますか。
- 赤谷の森を3つのテーマから詳しく調べられていて、初めて知ることばかりでした！特に上流の方が下流より暖かくなっていることは勉強になりました。シカの獣害に関しても、低密度管理の説明がスライドで分かりやすくまとめられていて、理解しやすかったです。
- 「どうしてそのようになるのか」「なぜその活動を行うのか」など深いところまで考えられていて素晴らしいと思いました。また、動物・環境・自然など様々な視点から情報を集め、それを広い視点から捉え課題を見つけられていると思いました。捕獲した二ホンジカの活用方法がたくさん挙げられていましたが、レザークラフトなど実際に体験してみる活動をしてみると良いと思いました。
- 赤谷の森について花や動物など専門に分かれて多様な視点から、赤谷の森を守るためにどのようなことができるのか考えられている点が良いと思いました。最終的に鹿が森に対して悪影響を与えていると思い、何とかしなくてはならないという解決課題を見出したのは良いと思いました。鹿の駆除に対して反対している人の中には鹿の命に対して考えている人もいると思います。また、もしかしたら鹿が増えてしまった原因は、人間が鹿の天敵を駆除にあたってしまったこともあるかもしれません。鹿の活かし方を考えていく中でそのような視点も考慮していく必要があるのではないかと思いました。
- 自分の地域についてたくさん調べ、深く知っていてすごいなと思いました。「赤谷の森」を知らない私にとってとてもわかりやすい発表で、おかげで、「赤谷の森」についてたくさん知ることができました。また、「みなかみ町をよりよい町にしたい！」という思いが伝わりました。わかりやすい発表ありがとうございました。
- 発表ありがとうございました。自分の町の魅力に着目する中で課題点も見つけ、その問題を解決するために、鹿と自然との関わりや鹿と市民との関わりなど様々な角度から調べ学習を行っていることが分かりました。捕獲した鹿の具体的な活用方法がいくつかありましたが、実際に食べてみたり、ネックレスを作ってみたりなどの体験をするとより問題に対する関心が深まりそうだと感じました。
- 植物・動物・地形から赤谷の森を見つめることを通じて、鹿の影響という共通点を導き出していてすごいと思いました。また、鹿による被害を解決する上で、自然との共生という考えを大切にしながら、様々な方法を見つけているということがわかりました。発表の後半で、鹿の捕獲に反対する人たちのことを話題に出してくださいましたが、その人たちがどうして反対しているのかなと気になりました。また、反対している人がどのようなことを考えているのかを知ることで、皆さんの中に新しいアイディアが生まれることや、皆さんにとってより伝えたいことが明確になることに繋がると思いました。素敵な発表をありがとうございました。
- 新治の魅力の一つである自然についていろいろな学びを得られる発表でした。鹿による森への被害が7割というのには驚きました。自然を守っていくことは難しいことだと思います。森にごみを捨てないことや川に汚水を流さないことなど、私たち自身でもできることを見つけてやっていくことも大切だと思いました。鹿についての情報発信は自分たちにできる活動の一つでとても良いものだと思いました。
- 実際に探検して発見することはとても大切だと感じました。日中の様子だけでなく、機械を用いて、夜の様子も

調べたことがとても良いと思いました。3つの観点から共通点であるシカを見出し、そこを軸に活動を進めていて素晴らしいと思いました。シカを捕獲するだけで終わらずに、そのシカをどう活用するかまで考える姿勢が印象的でした。発表ありがとうございました！

●自分のまちの魅力として赤谷の森を挙げていてすごく興味を持ちました。ニホンザルや、ニホンカモシカなど日本を代表する動物が生息していることから、この森を守っていかなければならないと強く思いました。私も自分の地元の自然について調べ守っていくような取り組みをしていきたいです。

●森林や川に関する環境問題だけでなく、鹿が植物などに影響を及ぼして環境問題につながるという具体的な問題について探究していてとても勉強になりました。鹿が環境問題に大きく影響を及ぼしていることは初めて学んだので、私も新治小学校の皆さんのように鹿などの動物のことも学んで環境問題について考えていきたいと思いました。

●植物班や動物班や地形班など分野ごとに分かれて調査をすることで、それぞれの分野を深掘りすることが出来たのではないかと思う。また、3つの班でニホンジカが関係しているという共通点からさらに次の学習へとつなげることが出来ていてすごいと思った。

●みなかみ町立新治小学校5年生の皆さん、発表お疲れさまでした。シカ以外の場合もありますが、これまでにも全国各地で野生生物による被害は多数あり、人々は対応に追われてきました。しかし、上手くいった例は多くありません。それほど皆さんが取り組んでいる「野生生物との共生」という問題は大人でも頭を悩ます難しい問題です。ぜひ多くの大人に聞いてもらいたい発表でした。質問に対する回答も素晴らしかったです。お疲れ様でした。

●自分たちで実際に赤谷の森に行き、見ることで新しい発見をしていて良いと思いました。また、活動を通して、気になったことなどを発見していてすごいと思いました。そこから解決すべき課題に結びつけて、学びを深めていて良いと思いました。鹿についてよく知らなかったのですが、鹿が人間に悪影響を及ぼすことがあることや鹿の肉や皮、骨などが様々なものに活用されていることなどを知ることができてよかったです。

●自分は群馬出身ですが知らないような知識ばかりで聞いていて楽しかったです。しかのことや他の自然のことについても細かな部分まで調べられていて群馬の自然に対してとても興味がわきました。群馬は他の県に比べて自然豊かな環境が多く残っているので、この発表を多く広めていき今ある豊かな自然を守っていきたいです。

●赤谷の森に実際に行って調べ学習をしていて凄いと思いました。キノコや植物について調べられていていいと思いました。動物もセンサーカメラを用いて調べられていて驚きました。上流と下流の温度に違いがある事に驚きました。鹿による影響が大きいと初めて知りました。

●他県の小学校の活動を知ることができ、長野県との活動と比較することができました。地域にある国有の森林を守るため、各班に分かれて学習を行っていることが印象的でした。また、3つの班から共通した課題を発見し全員で課題解決のための糸口を考えている一連の活動が印象に残りました。シカに関する問題点ではなく、地域の住民の課題点もあげられていた点が素晴らしいと思います。

●これまでは、貴重なニホンジカは保護すべきだと考えていましたが、赤谷の森では森林の減少や農家への被害、人間にまで危険を及ぼすというような被害や課題があるという発表を聞いて、現状を初めて知りました。また、そのニホンジカを捕獲するだけでなく、その後の活用方法まで考えている点に驚きました。さらに、このニホンジカの問題に辿り着く前にも、赤谷の森において「植物、動物、地形」という3つの観点から調査を行ったという点にも驚きました。大きなテーマに触れる前に、そのような周辺環境にも目を向けることができるのは本当にすごいことだと思います。
たくさんの魅力があるみなかみ町で、地域の人々が安心して暮らし、さらに自然と共存していけるよう、赤谷の森の現状やニホンジカの危険性を広めるという活動を頑張ってほしいと感じました。

●植物・動物・地形という複数の観点から森を観察し、森で抱えている課題について多面的な視点を用いて考えられていた。捕獲した鹿を使い、その肉や骨、毛皮を有効活用することで無駄な死にするのではなく、有効活用されるような取り組みの工夫が良かった。また、環境面においてユネスコエコパークの理念を結び付けることで、環境に対する学びへと繋げられていた。学校内だけでこのような取り組みをするのではなく、地域全体に情報を発信し、理解を深める取り組みについて考えられているところも重要だと思った。

●いろいろな新治にある動植物、自然物について調べ紹介してから、共通して関係しているニホンジカについて、森林問題を背景に考えていて良いと思った。また、他の学校の子たちからの質問に対してしっかり質問に答えられていてすごいと思った。深い学びを行っていないと、初見の問題にすぐ答えることは難しいと思うので、学びの成果が出せていて良かった。

●皆さんで調べ上げた新治についての自然のことが目に浮かぶようなほど素晴らしい発表でした。新治のことを全く知らない僕のような人にも、伝わりやすい発表だったと思います。これから先もあの素晴らしい自然を皆さんの手で守っていってあげてください。ありがとうございました！

会場①-4 【長野県】飯田市立遠山中学校

活動テーマ 生徒会を中心とした、遠山郷でのSDGs活動

発表概要 「地域のために自分達も何かをしたい。」その思いから始まった“遠山郷を守ろうプロジェクト”は平成27年に誕生した生徒会が主体となる活動です。学校周辺のゴミ拾いからスタートした活動が今では、地域の方が利用する施設や観光客が訪れるであろう場所の清掃も対象としています。地域の方々の要望も取り入れながら、中学生も地域の一員としてお役に立てる事を考えながら活動しています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　飯田市立遠山中学校　　対象（全校、27 名）

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（1）活動名　遠山郷を守ろうプロジェクト

【関連活動】遠山三校絆プロジェクト、郷土の舞、花を贈る活動など

（2）目　標　・郷土「遠山郷」の特徴やその良さや課題を知る。

・地域の人と交流することを通して郷土愛を深めるとともに、地域貢献のためにできることは何かを考える、実行していく生徒の育成。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

☑有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）

□その他（　　）

②育成する資質・能力

□批判的に考える力　☑他者と協力する力

☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度

□多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度

□コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDG s

11 住み続けられるまちづくりを

15 陸の豊かさも守ろう

17 パートナーシップで目標を達成しよう

（5）探求課題・活動実践の概要

① 遠山郷を守ろうプロジェクト

・学校周辺や公共施設の清掃活動

② [redacted]地域フォーラム

・地域の方と一緒に、遠山郷の課題を考え、未来を思い描く。

③ 郷土の舞

・重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭」の舞について学習し、地域に向けて発表する。また、実際に霜月祭に参加する。

④ [redacted]遠山三校交流会「遠山三校絆プジェクト」

・過疎化が進む遠山郷に暮らす小中学生が集い、SDGs に関わる学習を通して、未来の郷土のあり方について考える。

⑤ 学有林学習

・学校林を活用し、植林などの作業をしながら林業や森林保全について学ぶ。

⑥ 花を贈る活動

・生徒会活動で育てた花の寄せ植えを公共施設などに贈る。

３．流れ（指導計画の概略）

① 遠山郷を守ろうプロジェクト

・生徒会が主体となって企画運営をし年度当初、年間活動計画に実施時期を決める。地域に貢献する活動を企画するが、内容については全校生徒や地域の方々に相談する。

② ■地域フォーラム

・文化祭の中に位置づけ、来場された保護者、地域の方と一緒に遠山郷の未来を考えるテーマについてはESDに関連した内容を生徒が考える。

③ 郷土の舞

・8月から9月にかけて夕方、各地区の保存会の方を講師として招き各学年ごとに合計5回程度の練習を積む。学年ごと指定した地区の舞を習得し、３年間で遠山郷各地区の舞を学び、12 月の祭本番に参加する。

④ ■■遠山三校交流会「遠山三校絆プジェクト」

・三校で年間の実施時期と学習内容について検討し行う。本年度は３回実施した。5/20 に児童生徒が活動したい内容を考え、7/22 に３グループに分かれて別々の活動を行った。11/26 は三校の取り組みを紹介し合う内容とした。

⑤ 学有林学習

・事前学習と体験学習の２回を９月初旬に実施。自然学習では森林組合の方を講師に、森林保全と暮らしのつながり、森林の豊かさと海の豊かさの関係について学習をした。体験学習では、学校林で間伐、伐倒の体験実習を行うと共に、昔ながらの林業の大変さと、近代化された林業の変化について学んだ。

⑥ 花を贈る活動

・生徒会活動として秋からプランターにビオラの花を栽培し、入学式が終わったタイミングで、公共施設や福祉施設に寄贈。咲き終わった花については６月下旬に回収し片付けをする。

４．効果・反応・所感

・生徒と保護者に向けた学校評価アンケート「体験学習や遠山の時間を通して、地域や郷土についての学習が深まっている。」や「地域の清掃活動や行事への参加を通して、地域へ貢献できている。」という地域に関わる項目についてほぼ９割が肯定している。これは今に始まったことではないので、本校の特徴といっても良い。このように地域に対する思いが強いのは、重要無形民俗文化財に指定されている「霜月祭」を継承のする活動や、地元産業の森林について昭和 32 年から続く「学有林学習」を中心とした親子で共感できる活動などがあるからだと考えられる。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

【協力者・団体】

ＰＴＡ、学校運営協議会、長野県林務課、飯田市林務課、飯田市公民館、飯伊森林組合、栄林社霜月祭保存会

【指導方法】

学校側で企画し、支援を依頼する。

感 想

会場①-4　飯田市立遠山中学校　発表を見た方からの感想

●生徒会活動に目標を持って臨んでいることがとても素晴らしいと思いました。身近な地域を守ろうとする姿勢がとても素晴らしいと思い、私も、自分の故郷の自然を守る取り組みをしたいと思いました。素敵な発表をありがとうございました。

●遠山中生徒会での遠山郷を守ろうプロジェクトなど、生徒会を軸とした、地域への貢献と連携を踏まえた地域の方々との意見交換など、地域とのかかわりが充実していて遠山中ならではの活動で感心しました。今後に向けて、ぜひ生徒会としての活動を継続的に行ってもらえるとよりよいかと思います。ありがとうございました。

●地域の人との交流や体験学習など、いろいろな活動に取り組みましたね。自分たちでなく、これからにつないでいくための保全という視点が素敵だと思いました。地域の文化の尊重を若い人ができているのはこれから伝承していくためにも大切だと思いました。いろいろな活動に手を付ける中で、1つの魅力を感じる活動についてより深く探ってみても面白いと思いました。

●どの活動も地域の方のことを想って活動していて、「地域に貢献したい」という気持ちが伝わってきました。清流祭では、保護者の方と交流しているということで、普段なかなか深く話す機会もないと思うので、とても面白いなと思いました。地域に向けた活動をする中で、新たに見えたまちのいいところや、課題があったのか気になりました。これからも活動頑張ってください。

●積極的に清掃活動を行うことは多くの人ができるようなことではなく、素晴らしいと思います。また、地域の人とのつながりや伝統芸能を体験しているということは昔からある伝統を受け継ごうとしているということですね。全校生徒にこのような活動に積極的に参加してもらうためには皆さんはどのような働きかけができそうですか。

●発表ありがとうございました。自分の地域の方との関わりとSDGsとを結び付けて取り組みを行っていることが分かりました。ただやみくもに活動するのではなくて、地域の方の声を取り入れたり、プロの方の技術を学んだりなど、工夫をして「やって良かったと思える取り組み」を行っているというのがとても印象的でした。私も、自分にできることを積極的に考えようと思いました。この活動が後輩へ、次の世代へとつながっていくことでより地域の方とのつながりが生まれ、良いものになるのではないかと感じました。

●地域の人々に恩返しをするために、地域で必要とされていることを考え様々なことに取り組んでいたということがわかり、素晴らしいと思いました。また、地域の大人と意見を交えながら遠山の今後を考えるフォーラムは、世代ごとの価値観を共有する良い機会であると思ったのと同時に、遠山以外に住んでいる人から遠山についての意見をもらう機会があっても面白いのではないかと思いました。素敵な発表をありがとうございました。

●遠山郷を守るために、自分たちで遠山をきれいにするだけでなく、「遠山三校絆プロジェクト」を通して他校と協力・連携している点も魅力的だと思いました。また、学校で育てた花を施設に送ることを通して、地域の人と交流をしていることも、絆を深める素敵な活動だと思いました。

●素敵な発表ありがとうございました。皆さんが生徒会の目標の達成を目指して、皆さんの思いと地域の人たちの声が合わさって成り立つ、工夫された活動をしているということが伝わってきました。また、皆さんの頑張りによって、生徒会の目標の達成に大きく近づいているのではないかと思いました。これからも、地域との関わりをぜひとも大切にしてほしいと思いました。

●中学生のみなさんの思いだけで活動するのではなく、地域の方々の願いと照らし合わせて、地域の方々の笑顔が見たいと活動しているところに素晴らしいと感じました。どの活動も、未来に向けてということがキーワードなっているなと思いました。自分たちのことだけではなく、遠山の今後に向けて活動を行っているところに感銘を受けました。

●地域への還元と少ない人数でも活動できる生徒会を目指していてなかなか面白い活動をしているなと思いました。地域への貢献として清掃活動を行っていたのは素晴らしいなと思いました。地域の人たちとの活動がいい方向に向いていたなと思いました。ほかにも小学生との活動は素晴らしいなと思いました。中学生の目線と小学生の目線は全然違うのでいい経験になっていたと思います。

●私も小学生の頃は地域の清掃やゴミ拾いを行っていましたが、中学生になってからは行っていなかったので、尊敬します。やってよかったと思えることはとても大事ですよね。地域のために頑張ってください。大人の方や、小学生など様々な年代の人と話す機会を設けることはとても大切だと思います。素敵な取り組みですね。

●身近な町を綺麗で住みやすい場所へするために清掃活動を行うことはとても素晴らしいと思います。また、地域との交流や三校絆プロジェクトを見るに地域に住んでいる人との交流を大切にしているのだなと感じておりま

す。課題として視点を変えてみることが挙げられていましたが、地域における問題を現在の国際社会における問題などとの共通点を探したり比較をしてみたりすることでさらに社会問題を身近にとらえることができて面白いと思います。

●自分たちの地元の自然を守るための取り組みが多くなされており、とても地域愛溢れる行動だと思いました。地域の少子高齢化から、高齢者が清掃できない場所を率先して清掃していることが素晴らしいと思いました。清掃だけでなく、自分の街を守るための取り組みを考えることが日本全体の衰退を止めるきっかけになると感じました。

●自分たちで地元の人々とコンタクトを取って清掃活動を行っているのがすごいなと思いました。その地元のことを思う気持ちは絶対に町の人々に伝わっているし、広く広まっていくだろうなと思います。生徒数が少ないというのは残念なことだと思われやすいかもしれないけれど、逆に少ないからこそ団結力が高まりみんなでひとつになってできることが多いと思うので、頑張ってください！

●発表お疲れさまでした。とても堂々としたいい発表でした。本来、学校の中での活動で手一杯になってしまいそうな生徒会活動を地域への貢献に直接つなげている皆さんはほんとにすごいと思います。遠山の伝統を自分たちで知るだけでなく、他の人にも知らせるためのプロジェクトを実行に移せるところはさすが中学生だなと思います。みなさんの活動の中で見つかった課題もとても次につなげられる反省でいいと思いました。これからも活動頑張ってください！

●地域の人との交流や、地域に貢献できる活動は本当に価値ある活動だと思います。人が減っても無理なく続けられるという視点も大事だと思います。次の世代につなげながら、これからも地域への貢献と自然への配慮を両立した活動を続けてください。

●自分たちの住んでいる町を守り、きれいにして過ごしやすくなるように清掃活動を行うというのはものすごくいいことで、「やってよかった、やってもらってよかった」を満たせるような活動は地域にとってもメリットがあるし、生徒の皆さんにとってもこれから役立ついい活動だと思います。

●地域の人のためにという活動内容がすごく良かったと思います。自分たちの意見だけでなく小学生の意見を聞いたり、大人の意見も聞いたりと地域の人に寄り添っているのが素晴らしいと思いました。地域の伝統を未来に伝えるなど本当に地域が活性化するようにアイディアを出しながら取り組んでいることが伝わりました。

●飯田市立遠山中学校の皆さん、発表お疲れ様でした。発表から皆さんの地元を大切にしていこうという思いが伝わってきました。地元活性化のために様々な角度からアプローチできていて素晴らしいと思いました。ただ、活動全体を振り返ったときに「～できてよかった」とまとめているところや、今後の課題・展望の部分で「～考えてみたい」という表現が気になりました。これまでの活動を学びとして消化できていないのではないでしょうか。今後の進展に期待しています。応援しています。

●学生や地域の人に意見を聞くなどして、自分たちから積極的に行動しているのがすごいと思いました。花を贈る活動は、高齢者の方はとても喜ばれたのではないかと思います。地元の方との交流が盛んに行われていて、とても良いと感じました。学有林学習というものを初めて知りました。自分で活動することで、自然について学ぶことが出来、とても良い学習の機会だと思います。

●生徒と地域とのつながりを大切にし、地域にかかわったり、地域に寄り添ったりする活動がたくさん行われていて、とても良いなと思いました。地域をきれいに保ち、地域の伝統文化を残すために、学生が協力していることはすごいことだと思いました。また、人数が減っても続けていけるような活動を考えているのもとても良いなと思いました。

●「地域の人に恩返しをする活動」というものは、とても魅力的だと思いました。自然だけではなく、地域社会との共生も目指していて、とても感心しました。遠山郷については、皆さんの発表を聞いて初めて学ぶことがたくさんありました。環境を守るうえで、地域の協力は必要不可欠なものであると思うので、皆さんの生徒会活動はとても素敵なものだと思います。これからも頑張ってください。

会場①-5 【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園

活動テーマ 根羽学園の総合的な学習の時間

発表概要 本校では9年間を通して村の森林資源を題材にESDを行っている。例えば１～6年生が一緒になって村の特産である椎茸の原木栽培について学ぶ、７～9年生が森を管理するための間伐について学んでいる。また１～9年生全員で森林ワークショップを行い、自然体験を通した数多くの学習をしている。さらに連学年での総合的な学習でも地域の人やものを活かし村に貢献するための学習活動に取組、協働的で探究的な深い学びを実践している。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム　令和４年度成果発表＆交流会

～実践記録～

１．学校名：根羽村立義務教育学校根羽学園

２．対　象：５・６年生　児童１０名

３．活動内容
（１）活　動　名　　「池の水全部抜く大作戦」

（２）活動の目標
・中庭の池掃除や池周辺の環境整備活動に協働して取り組むことを通して、環境を良くしていくための活動の重要性を理解し、課題解決のための具体的な取り組みを考えるとともに、根羽学園への願いを大切にしながら行動したり生活したりできるようにする。

（３）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　□連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　☑責任性（責任を持って）
□その他（　　）

②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　□つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　□進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（４）関連する SDG s
１１　住み続けられるまちづくりを
１５　陸の豊かさも守ろう

（５）活動の内容
①中庭や池について深く知ろう
・中庭や池周辺を探索する。
・村役場から資料をお借りし、いつどんな経緯で池が作られたのか探る。
・わかったこと、気づいたことをまとめ、次の活動の見通しを持つ。
②池を綺麗にしよう
・藻をかき出し、ゴミを取り除く。　・ポンプとバケツリレーで水抜きをする。
・池の底面・側面をデッキブラシで磨く。　・綺麗な水を入れる。
・わかったこと、気づいたことをまとめ、次の活動の見通しを持つ。
③枝を切って景観を整えよう
・技術科の市場先生に枝の切り方を教わる。
・どこをどのように切るのか、またそこをなぜ切る必要があるのか、計画書にまとめる。
・計画書に沿って枝を切る。
・わかったこと、気づいたことをまとめ、次の活動の見通しを持つ。
④犬走りをつくろう
・枝を切って通れるようになった場所に石畳を敷き、通り道をつくる。

４．活動の成果

児童たちは、「自分たちの活動で、学校の人たちを笑顔にしたい」「何かをつくるからにはたくさん使ってもらいたい」という願いのもと、『中庭を全校児童生徒が憩える場所にする』という目標を立て、活動を続けてきた。活動の中では、「学校を変えてる感じがする！」「こんなに大規模でワクワクする総合初めて！」という声も聞こえ、自分たちの力で学校をより良くしているという自己有用感や自己効力感を高めることができた。また常に目標を念頭に据えており、興味のある活動や自分がやってみたい活動ばかりに流されず、「これは自分たちの目標達成につながるのかな」と立ち止まって考えることができた。その結果、多くの児童生徒が中庭を利用してくれるようになり、自分たちの願いの一端を実現させることができた。

【感想】

６年間で初めて池が透き通るところを見ました。意外にもヘドロや藻がたくさんあり、取るのに苦労しました。ピカピカのきれいな池になって、がんばったかいがあったなと思いました。

【感想】

１、２年生が見に来てくれて、「すごい！めっちゃきれい！」と言ってくれたのがとても嬉しかったです。少しは憩いの場になったと思います。みんなでかけ声をかけながらバケツリレーをしているときが一番楽しかったです。

５．指導方法・体制の工夫

①根羽村役場の方　　②技術科の市場先生

～令和４年度総合的な学習の時間実践記録～

１．学校名：根羽村立義務教育学校根羽学園

２．対　象：９年生　生徒７名

３．活動内容

（１）活　動　名　　「根羽杉のブランド化」

（２）活動の目標

　根羽杉を活用したものづくりや根羽杉を知ってもらうための活動を通して、木材に付加価値を付けて産業として自立できる林業にしていくことの必要性を理解し、自分たちにできる取り組みについて考えるとともに、未来の根羽村への願いを大切にしながら生活していくことができるようにする。

（３）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☐多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☐連携性（互いに連携・協力すること）
☐有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）
☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☐多面的・総合的に考える力　☐進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（４）関連する SDG s

１１　住み続けられるまちづくりを
１５　陸の豊かさも守ろう

（５）活動の内容

①根羽杉でつくろう
・森林組合からいただいた杉の端材を使ってものづくりをする。
・製作した箸置きや収納チェアにオリジナルロゴを印字する。

②根羽杉や根羽村を知ってもらおう
・箸置きを安城市のイベントで販売する。
・箸置きをキャンプ場や飲食店向けに販売する。
・自分たちの活動の様子を SNS で発信する。
・NHK 長野放送局の番組で根羽村を紹介する。
・高山中学校との交流で収納チェアを贈る。

４．活動の成果

生徒たちは、根羽村の特産品である根羽杉に着目し、根羽杉を多くの人に知ってもらい経済価値を高めていくことで、村の発展につなげることができると考えた。根羽杉を利用した製作では、森林組合からいただいた端材を使って、自分たちでつくったロゴを入れた箸置きや収納チェアを作成することができた。製作の際には、大きさや椅子の高さなどの細部にまでこだわり、製品を使う人の立場になって考え議論しながら製作を進めることができた。そして、その製品を校外の様々な場所で販売したり使ってもらったりしたことや、活動の様子を SNS で発信してきたことによって、根羽杉を多くの人に知ってもらうことができたと活動への充実感を感じることができた。

活動全体を通して、林業が盛んな根羽村を今後さらに発展させていくための手段の一つとしての根羽杉という素材について理解を深め、経済的な価値を高めていく方法について実践を通して学ぶことができた。

感想① アンフォーレでの販売で、自分たちの作ったものを目の前で買ってもらうことができたのが、とても嬉しかったです。私は主に SNS の広報を担当してきました。たくさんの人に見ていただけて嬉しかったし、自分たちが行ってきたことを記録の残せるのも良いと思いました。SNS では、伝えたいことを明確にして、もっと見てみたいと思えるような投稿を作ろうと頑張り、たくさんの人とつながることができました。	感想② 何をするにしても大変だったけれど、みんなで協力して活動していくのは楽しかった。初めてやることが多くて最初は迷ってばかりだったけれど、最後までやりきることができて良かった。活動を通して、私は、何かをする前に、何のためにやってその後どうするかを考えることの大切さを学んだ。資源を最大限に活用するにはどうするか考えることができた。何気ないことでもすごいアイデアになることを知った。
感想③ 自分の手で作ったものに価値がついて、その価値を買ってくれる人がいることを知ってとても嬉しく思った。また、森林組合の方にもご協力いただいて人とのつながりの大切さを感じた。	感想④ 箸置きなどの商品化を進めていく際に、使う人の立場で考えたことで視野の広い考えがもてた。そして、それをどう実現するか考えることができた。

５．指導方法・体制の工夫

①村内の地域素材（根羽杉）　②森林組合の方

感 想

会場①-5 【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園 発表を見た方からの感想

- 根羽学園ならではの小中連携の学びや、SDGsとの関連が全体的に継続的な学びになっていて素晴らしいなと感じました。また、8年生のジビエの活動は村内外にアピールする活動として、非常に魅力的な活動だと思いました。インスタグラムも活用していて、非常に新しい学びだと感じました。ぜひ、継続的に成果を出せるように準備していってもらえるとすごく完成された活動になるかと思います。楽しみにしています。ありがとうございました。
- SDGsに学校全体で取り組んでいるのですね。松ぼっくりによるクラフトは自分もしてみたいと思いました。資源を実際に使おうとすることも大切ですね。ジビエが無駄になっていることを今まで知りませんでした。自分たちの手で加工し、広めることができる方法を考えられても面白いと思います。学年によって多様な活動をしており、それぞれの活動がより良い影響を与えられるといいと思いました。
- SDGsとどのように関係しているのかを理解して活動を進めていて、とても素敵な活動だと思いました。また、発信する手段としてSNSを有効的に使っていて、将来にも活かすことができる活動だと思いました。今後どのような活動を進めていくのかとても具体的に考えられていたので、よりよい根羽村のためにこれからも頑張ってほしいと思いました。
- 義務教育学校ならではの長い時間をかけてじっくりと地域活性化に向けた活動で何ができるかを考えられているのが素敵だと思いました。また、「Neba and...」といった分野を分けることによって、地域の方への取り組みをより専門的に考えられている点が良いと思いました。
- ジビエに関する活動がとても興味深かったです。Instagramで投稿したり、企業の方たちと自分たちで行動したりしているところが素晴らしいなと思いました。Instagramは、広告機能を使用するとより多くの人に見てもらえたりするので、これからも投稿頑張ってください。私もチェックします。企業の方との関わりということで、大人と関わることになると思いますが、難しいところはありましたか。
- 発表おつかれさまでした！箸おきを販売したと思いますが、地域資源を活用している点非常に素晴らしいなと思います！ここから根羽村の良さを知ってもらうきっかけになるかもしれませんね。他にもInstagramなどのSNSアカウントを開設するのは非常に良いと思います。多くの若者がSNSを利用しているのでこれからももっと根羽村の良さをアピールしていってくださいね。
- 発表ありがとうございました。根羽村の良さを生かして、学年ごとにSDGsと関連のある取り組みを行っていることが分かりました。SNSを活用した取り組みは根羽村の中だけで終わらせないで、活動の様子を全国に発信するという意味で今の時代においてとても大きな効果あると思います。私も自分の地元の良さを生かしたSDGsに関わる取り組みを考えてみたいと思いました。
- 今回の発表を通じて、地域の特色である森林の豊かさを活かした活動に取り組んでいることがわかりました。さらに、まつぼっくりで商品を作る活動においては地域の販売所と協力し、商品のストーリーや実用性を大切にして商品化に取り組もうとしていることがわかり、とても良いと思いました。また、どのようなお客様に自分たちの商品を届けたいのか考えてみるのも、商品化の際に大切になるのではないかとも思いました。素敵な発表をありがとうございました。
- 学校全体を通して魅力的な活動に取り組んでいることがわかりました。根羽村を多くの人に知ってもらうためにインスタグラムを活用することは、根羽村を県内だけでなく、全国に知ってもらうきっかけにもなると思いました。みなさんが作った箸置き、私もほしいです。
- 7年生の松ぼっくりのフクロウの活動のきっかけから理由まで簡潔にまとめられていてとても分かりやすかったです。活動を通して、今後実用性のあるものを考えていきたいと、その後までとしっかり視野に入れて考えられていた点が良かったです。8年生の活動では、レストランイベントに向けて学外とアポイントを取ったり、インスタグラムを開設し、募集や情報を集めたり現代に適した形で取り組んでいる点に非常に感心しました。
- 発表ありがとうございました。根羽村の自然を生かすために様々な取り組みを行っていることがわかりました。自分の地域の特性を生かした活動は地域理解に大きく繋がるため地域を守ろうと思う気持ちにつながっていくと感じました。各学年がそれぞれの目的をもって活動に取り組みながら地域や自然とより良い関係つくりを考えていってほしいと思いました。
- 地域の特色を活かした活動を見つけそれを行っていくことで自分の地域の良さを知ることができ、7年生が松ぼっくりで物を作りそれを売る活動によってものを作ることで得られる達成感や表現する力、また物を売るということの経験はかけがえのないものであり、このような経験は社会で行うことにとても近く、将来に生きる活動なのでその経験を忘れずにこれからの生活を行っていってほしい。

●村の森林支援に焦点を当て、自分たちの経験も発表内容に加えられていたので分かりやすかったです。さらにスコットランドなどほかの学校ではあまりできないような強みが良く伝わってきました。スライドがとても見やすかったです。

●根羽村の自然が魅力という強みを最大限に生かしている活動が多くあるのだと学べました。松ぼっくりふくろう、調べてみたらかわいらしくて私も欲しくなりました。実用性を考えることは大切なことだと思います。ジビエというものは、名前は知っているけれど食べたことが無い人の方が多い印象があります。そういったものを多くの人が扱っているSNSツールを使って発信していくことは学生のうちからできる良い方法だと思いました。

●7年生の方へ。地域の実情を把握し、森林が多いことに目を付け、陸を守ろうというSDGsの項目と結び付けて学習しているところがとてもすてきだと思います。
8年生の方へ。駆除されるシカの肉を使うという発想はとてもいいと思います。素敵なレストランイベントが開かれることを期待しています。

●SDGsに関連付ける姿勢が素晴らしいと思いました。日頃から、学校外の人と関わることで、活動の幅が広がると感じました。実用性のあるものを作ろうとする姿勢が印象的でした。一つの案だけでなく、複数の考えを出しているのが素晴らしいと思いました。SNSなどの現代に合ったツールを使うことで、良い反響が得られるのではないかと感じました。発表ありがとうございました！

●各学年で特色ある活動を行っていて面白そうだなと思いながら見ていました。7年生の活動では松ぼっくりフクロウの販売にあたってストーリーを作るという発想があり面白いなと思いました。松ぼっくりフクロウは飾っておくものであると思われるので、根羽村を刷り込むためにも普段使えるものを作ってみるのも面白いかと思います。8年生では猟友会などとの連携がしっかりとれていて、非常に現実性のあるものだと感じました。また、課題として資金をどうするか、利益をどうするのかなどを考えることが挙げられてくると思うので、お店を経営するといった気持ちで活動するのも面白いと思います。

●小学校・中学校を通して長期間自然に関わることで、体系的にSDGsについて興味を持つことができると思いました。その中で出てきた問題点や、解決策などが地球を守るための小さくて大きな一歩だと思いました。また、地域の人と交流することでその地域全体が活性化し、未来への期待がさらに高まると思いました。

●小学校ではベンチづくりなどの自然の資源を用いたモノづくりをしていて、7年生、8年生などでは松ぼっくりやジビエなどを通して地域と交流したり、販売のストーリーについて考えたりといった様々な視点から環境の保全の対策などについて考えていてとてもすごいと感じた。また、SNSなどを通して根羽村のことを伝えていくなど地域の魅力を伝えていく方法にも工夫が見られとても面白かった。私も根羽学園の皆さんのように地域の魅力を伝える方法を様々な視点で考えて、環境を守っていきたいと感じた。

●発表お疲れさまでした。とても堂々としたいい発表でした。根羽村の92％を占めているという森林の豊かさを活かして、地域の魅力をしってもらうことにうつせるみなさんはほんとにすごいと思います。森林を守るために殺してしまった鹿の肉を捨てられてしまうことに目をむけ、捨ててしまわずにおいしく頂く、なにも無駄にはしないという姿勢にとても感動しました。最近はやっているSNSを有効的に活用できることがみなさん中学生の力だなという風に感じます。これからも根羽村を守るための活動頑張ってください！私の実家も割と近くにあるのでいつか訪れてみようかなと思います。

●根羽村の特徴を生かした取り組みが行われていると思いました。多くの人に取り組みを知ってもらうためにSNSを利用しているのも工夫されていていいなと感じました。多くの自然があることを利用した商品づくりや、それに付随した害獣問題など様々な視点で活動を行っているのが素晴らしいと思いました。

●ブランドのロゴ作りや箸置き作りなどの活動が実践されていてすごいと思った。また、ネバーランドで売るために必要な準備を前もって考えられていてすごいと思った。発表全体を通して、根羽学園の方々は生徒たちが主体的に先を見据えた計画設定が出来ているという印象を受けた。この力は将来必ず役立つので、もっと育てて欲しいと思う。

会場②-1 【長野県】飯田市立上村小学校 5･6年生

活動テーマ 上村をPRしよう！

発表概要 上村小学校では、主に総合的な学習の時間で、上村地区のよさを広めるための活動について考えてきました。その中で『陸の豊かさを守ろう』に関わる、野菜や花の栽培･販売活動、『住み続けられるまちづくりを』に関わる東京の母子生活支援施設との交流など、上村の魅力とSDGsを関連付けて幅広く活動を行ってきました。普段生活している上村地区について、愛情をもち、魅力を伝えようとしている子どもたちの姿にご注目ください！

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年, 人数）
長野県飯田市立上村小学校　３～６年　１３名

２．探求課題・活動実践の概要, ねらい, 目標等
（1）活動名　『上村を PR しよう！！』
（2）目標
昨年度，様々な自然体験活動を通して上村のよさに触れた子どもたちが，上村の人口減少等について課題をもち，上村のために自分たちができることを主体的に考え，計画し, 実施することを通して，持続可能な地域づくりへ参画しようとする態度や，地域を大切にしようとする心情を育てる。
（3）ESD の視点, 育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　□つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDG s
２飢餓をゼロに　11 住み続けられるまちづくりを　15 陸の豊かさも守ろう　17 パートナーシップで目標を達成しよう
（5）探求課題・活動実践の概要
かみっこグリーンクラブ（みどりの少年団）として, 持続可能な地域づくりを中心に, 自然の中での学習（ごみ拾い／キャンプ／川遊びなど）を通してＥＳＤを展開していく。

３．流れ（指導計画の概略）
○この地域の特徴であるジオパークやユネスコエコパークについて地域, 保護者と共に体験活動（自然塾キャンプ等）を通して学び, それぞれの立場で地域のためにできることを考える。
○遠山地域を代表する「霜月祭」について学び, 祭りに関わる地域の方の思いや祭りへの憧れを知る。また, 自分なりの祭りへの関わり方を考える。
○遠山三校で遠山郷のよさと課題を考え, 何ができるかを共有する。また, 墨田区にある母子生活支援施設「ベタニアホーム」と交流したり, 上村特産の「下栗芋」栽培等について地域の方から学んだりする。
○自分たちが学んだことを今年度最後の交流会でベタニアホームの方に知らせたり，遠山郷フォーラムで地域や市の関係者に発表したり，休日に市民が集う公園に行って上村地区のよさをＰＲしたりする。

４．効果・反応・所感
子どもたちは, 自分たちの活動を支えてくれている地域の方へ感謝の気持ちを持った。そして遠山三校の児童生徒や地域の方々, ベタニアホームの方々など様々な人たちとの対話を重ねていくことで, 地域のよさや課題を共有することができた。全校児童が地域に対する誇りを共有し, 学んだことを発信したことは, 地域の方々を元気づけ, 地域の方々がこの地域を再確認して協働することにつながった。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
総合的な時間の時間を中心に教科横断的に
上村公民館　上村自治振興センター　遠山中学校　和田小学校

感　想

会場②-1　【長野県】飯田市立上村小学校 5･6年生　発表を見た方からの感想

- SDGsの観点から自分たちにできることを考え、主体的に活動されていて、とても素晴らしいと発表を聞いていて、感じました。また、オンラインも積極的に活用して、活動を行っていて、遠く離れた場所との連携した活動を行っていたので、もっと他の地域と活動をすることで、上村の魅力を知ってもらうことができるのはないかなと思います。外国に挑戦することも良いと思います！
- SDGsの目標と上村をPRするために上村の特産品を育てる活動を結び付けていてすごいと思いました。花の栽培活動では、花を飾ったりすることを通して町の景観を良くしてSDGsの「陸の豊かさを守る」ということを達成できているなと思いました。上村のPRのために歌を歌っているということでしたが、地域の方の協力を得て公民館や老人ホームなどで歌ったらどうなるかな？と思いました。
- 発表ありがとうございました。「上村PR大作戦」ということで、特産物や花の栽培、川づくり事業、生活支援施設との交流などを挙げ、実施した活動がSDGsとどういった関係があるのかが非常に分かりやすくなっていました。人口減少や知名度が低いという問題意識をもって活動している点が素晴らしいと思います。これからも頑張ってください。
- SDGsの観点をもとに、上村の良いところをPRできるような工夫がされていて、上村の魅力がたくさん伝わってきました。特に、特産物の栽培は多くの作業があり、大変な部分が多かったと思いますが、それ自体を楽しそうに行っている様子が伝わりました。また、最後に歌を通して活動紹介されていて、とても分かりやすかったです。歌詞も素敵で、上村の良さと共に、上村小学校のみなさんのキラキラした姿が伝わりました。
- 飯田市立上村小学校5年生のみなさん、素敵な発表ありがとうございました。皆さんの4つの実践から、上村を盛り上げていこうとする様子が伝わってきました。また、自然を守ることが安全に過ごすことにつながることや、自分達で行動することから自然を大切にしていきたいという思いが素晴らしいと思います。この先の実践でも、どのような交流をしたいかや自然を守るために取り組みたいことを意識していく事が大切だと思います。
- 素敵な発表、ありがとうございました。上村についてPRするうえで、特産物の栽培、ふるさと川づくり事業、ベタニヤホームとの交流、の4つの活動から、自然や地域の人との出会いを通して、上村について知っていく様子やどのようにPRしたいかを考える様子が伝わってきました。東京との交流を通して、東京の文化を知ることと同時に上村の良さや文化、地域の特徴に気付くことができたように思います。歌を通して、動画を作成し、それぞれの活動で学んだこと、出会った自然、出会った人々との交流が伝わり、上村の良さ、自然を感じることができる発表でした。SDGsとも結び付けて考えていて、住み続けられる街づくりの視点でのこれからの活動を楽しみにしています。
- 素敵な発表ありがとうございました。上村のことをもっと知ってもらいたい、たくさんの人に伝えたいという思い、皆さんが上村を大切になさっている気持ちが強く伝わってきました。歌を通した発表も素敵でした。しいたけや下栗いも、そばといった地域の特産品の栽培だけでなく、ゴミ拾い活動などを通して上村の良さを伝えるために、まずは自分たちが体験することで改めて上村の魅力に改めて気づくことができましたね。なぜ上村ではおおきなしいたけや下栗いもなどが取れるのかな、そしてなぜ上村の特産物がほかの地域で栽培されるものとどんなところが違ってどんな魅力があるのかな、というところを学び、もっともっと上村の魅力をたくさんの人に伝えていってほしいなと思います。
- 上村が大好きでたくさんの良さがある事を、PR活動を通して多くの人に伝える努力をしたことが伝わってきました。特に特産物とSDGsを関連付けていたのが印象的です。シイタケの原木から多くのシイタケを栽培したり、そばを栽培したりするときに仲間と協力しながら行えたことが良いと思いました。
- 発表ありがとうございました。ふるさと川づくり事業の活動を通して様々な人々の支えがあり皆さんの地域の豊かな自然が守られていることに自分達自身で気が付いたことがすばらしいと思いました。皆さんの発表から自分の住む地域ということに関わらず自然を大切に環境に配慮した行動を行おうと改めて感じました。
- 自然が豊かな長野県ならではの活動であるなと思いました。だからこそその豊かな自然を守るためにこのような活動が続いたらいいなと思いました。発表内容もすごく素晴らしかったですが、一人一人しっかりカメラを見て発表している姿が本当に凄かったです。ありがとうございました。
- とても元気の良い発表ありがとうございました。特産物のシイタケや下栗いも、また花の栽培やベタニアホームとの交流など多くの活動があり、上村の良さを多く知ることが出来ました。歌でのPR活動も皆さんの元気の良さや上村の良さを知ってもらえるため非常に良いことだと思います。これからも頑張ってください。

- SDGsの目標を言うときに、みんなで声をあわせて発表している姿がとてもかっこよかったです！そして上村の特産品であるそばを自分たちで作ったりしているということにとても驚きました。上村の魅力がとても伝わってくる素晴らしい発表会でした。
- みんなで協力して特産物の栽培や、花の栽培、川の事業に取り組んだことが分かりました。私は上村のことをよく知りませんでしたが、素敵な歌の入った動画を見て、自然豊かな上村の良さが伝わりました。これからの活動も応援しています！
- 上村の地域の伝統と文化を守っていくために、先生や地域の方々と協力して活動している様子が伝わってきました。特に下栗いもは上村地域特有のものだと思うので大切にしていってほしいと思いました。また、これから歌のPRというのはとても良い方法だと思いました。
- それぞれの活動がどのSDGsの目標につながる活動になっているかを明確にしていていいと思いました。活動内容も写真付きでどのようなことを行っていたのかイメージしやすくてとてもよかったです。上村のことを伝えるために動画がとても印象的で動画内に写真だけじゃなくて動画がたくさん入っていてより分かりやすくてよかったです。最後の今後の計画で、ジェスチャーを付けた発表がとてもよかったです。また、インタビューも取り入れていて分かりやすかったです。
- 特産品の栽培によって3つもSDGsの目標を達成することができるかもしれないと分かりました。地元のことについて目を向けることは非常に大切にすることだと思うので僕も地元の特産品は何なのか、どこで栽培しているのかなどを詳しく調べてみたいと思いました。
- 私は上村という地域について何も知らなかったが今回の上村PR大作戦の発表によって詳しく知る機会となったのでとても良かったです。上村の特産物のしいたけや下栗いも、そばなどの農業に関わったり、花の栽培、川づくり事業を展開したりしてSDGsに定められた目標の達成を目指していてとてもいいなと思いました。他の地域との違いを明確にし、上村特有のものをもっと取り上げるとPRにもっと効果が出ると思います。
- その土地の特産品とSDGsでの取り組みをつなげられて、大学生の僕でもとても勉強になりました。また発表の最後にあった自分たちの好きなことで自分の住む町をPRするというのはとても重要で、素晴らしいことだと思います。これからもたくさんの魅力を発見していってください。
- 動画での発表でしたが、動画の良さを最大限に生かして上村や遠山郷の魅力を伝えてくれました。例えば、スライドは写真をたくさん使っていたり、「上村PR大作戦」という面白そうな活動を行っていたりしました。歌による紹介も魅力的です。しっかりと音が重なっていて、音程をとる練習を頑張ってきたことが想像できました。最後のインタビューも面白かったです。ありがとうございました。
- どれもSDGsを意識した素晴らしい活動だと思いました。特産物の栽培ひとつをとっても、しいたけ、下栗いも、そばと三種も栽培し、販売や調理をしたというのには驚きました。今後は上村のPR活動に力を入れていくそうですね。地域の人や特産品、事業に関わることで上村の魅力を発見した皆さんなら、素敵なPRが出来ると思います。頑張ってください。
- 上村の良さを伝えたいという思いから始まった取り組みは普段の先生の教えの賜物であると同時に生徒である皆さんの意識の高い学習から得られた素晴らしい考えだと感じました。特に花の栽培や特産品の栽培などから自然の重要性を伝えたいという取り組みはSDGsにも関連した素晴らしい取り組みだと感じました。
- それぞれの活動でSDGsとの関わりを明確に提示しなから、進めているのが印象的でした。また特産物の下栗いもは初めて知ったので、私も食べてみたいと思いました。お疲れさまでした！
- しいたけや下栗いもなど上村の特産物を栽培していたり、また花を栽培したり、アマゴの放流したり、ベタニアホームと交流したりと様々な活動を行っていてすごいと思いました。これからの計画についても発表されていたので、計画の実行に向けてこれからも頑張ってください。
- 自然が豊かな長野県ならではの活動であるなと思いました。だからこそその豊かな自然を守るためにこのような活動が続いたらいいなと思いました。発表内容もすごく素晴らしかったですが、一人一人しっかりカメラを見て発表している姿が本当に凄かったです。ありがとうございました。

会場②-2 【長野県】長野市立東条小学校 6年生

活動テーマ ホタルのふるさと東条

発表概要

活動3年目となった本年は、ホタルが生息できる環境の保全活動として外来生物の駆除や幼虫上陸に備えた川岸の整備などを行ったり、ビデオ会議システムを活用して、関心のある方々へ情報提供や広報活動を行ったりした。6月17日に実施した今年度のホタル観察会では、東条地区で300匹あまりの個体数を確認することができた。卒業を前にして、私たちは、これらの活動について後輩へ引き継ぐために動き始めている。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）　長野市立東条小学校　６学年　２６名
２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
（1）活動名　「東条のホタルと環境を守っていこう」
（2）目　標　　ホタル活動を通して地域の歴史にふれ、郷土を知り、東条（松代）の環境を守り続ける態度を養う。
（3）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力
（4）関連する SDG s
　１１　住み続けられるまちづくりを　　１５　陸の豊かさを守ろう
（5）探求課題・活動実践の概要
①東条のホタルをたくさんの人に知ってもらおう。～東条のホタルを PR しよう～
②ホタル観察会を成功させよう。
③ホタルが生息できる環境を守ろう。
・河川清掃・ホタル水路環境整備・ビオトープ造り
④６年生が卒業後、ホタル水路を後輩たちに引き継いでもらうためにはどうしたらよいか？
⑤ホタル引き継ぎ資料を作成して、後輩たちにホタルを託そう。
３．流れ（指導計画の概略）
４月　　これまでのホタル活動を振り返り、今年度の活動の見通しを立てる。
５月　　「ホタル PR 大作戦」グループに分かれて東条のホタルの PR 活動
①　訪問　②放送　③Zoom　④動画　⑤ポスター　⑥チラシ　⑦ホームページ　⑧SNS　⑨手紙
６月　　松代荘（温泉）、東条保育園、現金屋（地元スーパー）訪問、ポスター掲示、チラシ配布
Zoom によるホタル観察会直前生情報発信。ホタル観察会実施
７月　　ホタル観察会を振り返って。東条地区のホタルマップ作成。河川清掃（環境保全）
８・９月　ホタル活動の引き継ぎに向けた活動
10・11 月　ビオトープ改修作業、ホタル水路整備作業、ザリガニ駆除
12 月　　「THE 東条を語る会」にて地域の方から東条地区のホタル保全、保護活動の歴史を学ぶ。
「松代真田サミット」に参加し、松代学区の小中学校にホタル活動の学習成果を発表。
12～３月　ホタルの幼虫飼育。カワニナ採取。
２月　　ホタル資料作り。ホタル引き継ぎ準備。
３月　　ホタル放流会：ビオトープで飼育した蛍の幼虫をホタル水路へ放流。
４．効果・反応・所感
東条小学校の最終学年としてホタル観察会に向けて「知らせたい・来てもらいたい」といった発信の願い、「水路やビオトープなどを整備したい」といった保護の願い、ホタルの活動自体を残していきたいといった「引き継ぎ」に向けての願いなどが出され、ホタル観察会の成功と、ホタルが飛び交う環境を守っていくために自分たちにできることを考え、行動に移して実践することができた。「６年生が卒業後も後輩たちにホタル活動を引き継いでもらいたい」「私たちが大人になってからも自分の子どもにホタル見せてあげたい」「ホタルが舞う東条の環境をずっと守っていきたい」等の感想がまとめられた。
５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
①「THE 東条を語る会」講師、小林昭人さん（元長野市教育委員会学校教育課勤務）より東条地区のホタル保全、保護活動の歴史を学ぶ。
②東御市立滋野小学校とのホタル活動の交流（情報交換、ホタル水路見学）

感 想

会場②-2 【長野県】長野市立東条小学校 6年生　発表を見た方からの感想

●先輩方が作り上げた蛍の水路を復活させるために、水の温度について調べることや、土を耕すことを通じて、蛍の生育を学び、その活動から多く人と関わる経験は大人になってもできないとても貴重な経験になるので、大学生からしてもうらやましい限りです。現在行っている活動にもありましたが、このような活動は続けていくことがとても難しいです。次の世代に繋げていくためにも、わかりやすい資料作り、自分たちの世代できなかったこと（課題点）を明確にして引き継ぎを行い、大人になって地元に戻 ったときに蛍であふれている、魅力的になるよう引き続き、頑張ってください。

●蛍の情報交換をほかの学校と行ったということが印象的であった。自分たちがやりたい学びのために同じ学習をしている学習を参考にしていくことは学びの形態としてとても大事なはたらきかけだと感じました。

●ホタルを育てる、ホタルが住めるような環境を作るのは、水の流れだったり、カワニナを採取しなければいけなかったりとかなり難しいということがわかったよ。でも、6年ぶりにホタルが飛び交ったと聞いて、それはとてもすごいと思いました。これからSNSなどを使ってホタルをもっとPRしていってください！応援しています。

●廊下で1匹のホタルと出会ったことをきっかけに、自分たちの学校について深く知って学んでいくというように、身近な自然や生物の中にも深く学んでいく学習題材は存在するのだなと思いました。育てたホタルを地域の方に見ていただくために、ポスターを配ったりする活動は、自分たちの小学校をよく知ってもらうためにはとても良い活動だと思いました。ホタルの活動を続けていくために、下の学年の子どもたちに6年生が、ホタルの活動の発表会をするとより活動の魅力が伝わるかなと思いました。

●発表ありがとうございました。「身近な暮らしのSDGs」というテーマのもと、ホタルという身近に興味をもった問題を設定することによって、「こんなホタル水路にしたい」という願いが生まれ、主体的に活動に取り組むきっかけとなっていると感じました。日陰を作るために植物を植えるという考えが素晴らしかったです。今後もホタルが生息する環境がより良くなるよう引き継ぎまで頑張ってください。

●東条小学校のホタル活動の歴史やホタルの特性を知ったうえで、ホタルが幸せに今よりたくさん飛ばせるように励む姿から、丁寧な取り組みができていると感じました。みなさんがホタルのことを思って活動していることが本当に伝わりました。また、ホームページやZOOM配信により情報を発信することで、東条小学校の活動や努力が多くの人に広まり、環境を守ろうとする人が増えるようになるのではないかと感じました。この活動を守り、発展させ続けてほしいと思いました。

●ホタルを守るためにホタルについて学ぶところから環境作りまで、地域の方々と協力しながらホタル観察会まで開催し、多くの人にホタルの魅力を伝えている活動がとても魅力的でした。この保全活動が続けられるように後輩たちのために資料をつくり、伝統を守っていく活動があるからこそ、ホタルたちも安心して姿を見せられるのかなと思います。みなさんが守っている環境で育つホタルの魅力がもっと多くの人に伝わるように、ICTなどを活用しながら活動を頑張ってください。

●蛍を育てていたという学校の歴史から蛍を育てる活動に取り組み、その活動を通して蛍の生育環境を守ることだけでなく、次世代に蛍を残していこうとするSDGsの観点から活動を行っているところが素晴らしいと思いました。活動が実を結んで、蛍が飛び交う日が来ることを願っています。

●素敵な発表、ありがとうございました。蛍の生態について調べ、滋野小学校との交流で人との出会いや、新しい知識や方法との出会いを通して、東条小学校の蛍の環境をさらに良くしようとする姿が伝わ ってきて良いと思いました。蛍を通して、お父さんやお母さんの時代との関りや、地域との出会いや、地域を超えて様々な人とのつながりを感じることができました。これから、蛍のことについて、後輩に伝えたいことを紙芝居と言う形で工夫して資料を通して、どのような地域になってほしいのか、という願いが伝わってきて、これから東条小学校の蛍の活動が楽しみです。

●素敵な発表ありがとうございました。一匹のホタルとの出会いから、ホタルを大切になさる姿やホタルのためにたくさんのことを学ばれている姿がとても印象的でした。皆さんがホタルのことを守っていくためにたくさんのことを調べ、実際にホタルが住みやすい環境づくりに努めてきたことが間違いではなかったということ、ホタルの6年ぶりの復活から実感することができましたね。ホタルが住みやすい環境を松代だけでなく様々なところで維持できないか、ホタルの魅力をもっともっとたくさんの人に伝えていくためにはどうしたらよいのか、考え続けていくことを大切になさってほしいです。

●長野市立東条小学校の発表は、大学生である私でも取り組んでみたいと思えるとても魅力いっぱいの発表だと感じました。ホタルに愛を持って、川の清掃活動を行ったり、ホタルの生息について考え、ホタルぴっかり作戦を行っ

たり、小学生にして、素晴らしい経験をしているなと思いました。

●発表ありがとうございました。皆さんの住む地域と蛍の深い関係性がわかりました。ホタルの喜ぶ水路作りの中にホタルの敵であるザリガニをとるわなを設置していました。ザリガニもその水路に生きているのにホタルのためにザリガニの住むところを奪って良いのかを考えると良いと思います。

●学びになる発表ありがとうございました。ホタルを大切になさる姿やホタルのためにたくさん学んでいる姿が見られました。皆さんがホタルのことを守っていくためにたくさんのことを調べる活動によってホタルの6年ぶりの復活から実感することができましたね。これからもホタルが住みやすい環境を松代だけでなく様々なところで維持できないかを考えて、ホタルの魅力をもっともっとたくさんの人に伝えていくためにはどうすれば良いのか考え続けてください。

●ホタル水路でホタルに飛んでもらうために、ホタルの幼虫の餌について調べたりホタルの敵となる生き物について調べたり、さらにはこけの養殖を行っていたなど、みなさんがホタル水路でホタルを飛ばすために一生懸命に活動してきたことが十分に伝わってきました。後輩たちのために、また地域の将来のためにホタルに関する資料の制作頑張ってください。

●昔どのように蛍が存在していたのか、また地域の人々はどのようにそれを観察し、思いを持っていたかを調べ、そのうえで自分自身も守っていこうと決意したのですね。地域の方々はとっても嬉しいのではないでしょうか。また科学的な見地に基づいて対策したり、他の実践例から学び、活動を発展させていこうとしたりする行動力もカッコいいです！これをどうか次の後輩たちにも行き継ぎつつ、卒業後も関わって後輩をサポートし、末永く蛍保護が続いていけるよう願っています。

●ホタルぴっかり大作戦を目標に掲げて、自分たちの小学校にあるホタル水路に、ホタルがきれいに飛ぶことが出来るようにいろいろな活動をしている姿はとてもすごいことだと思いました。そしてついに6年ぶりにホタルの姿をみることが出来るようになり、とてもすごいと思いました。

●私の母校でもホタルを飼っていたので親近感がわきました。ですが、ホタルの飼育に関して、水の流れる速さを考えダムを作ったり土を耕したりなどしていて凄いなと思いました。ホタルのPRにおいて、SNSやZOOMを使って情報発信していてとてもいい方法だと思いました。SNSやZOOMの活動は今後もたくさん行っていくと思うのでいい経験になったと思います。

●ホタルがSDGsにつながるというのは意外だったけど、確かにホタルを守るにはきれいな環境づくりをすることが必要だからSDGsに関わる取り組みとして良いものだと思いました。また、楽しみながら、環境を守る活動ができて良い取り組みだと思います。私は、ホタルを見たことがないので見てみたいです。

●自分は地元が北海道で、蛍という生き物を今まで見たことがなく、どんな生き物だったかわからなかったが、細かいところまで蛍の説明がされていたので非常にわかりやすかった。蛍対する情熱と努力をこの動画を見て感じることができた。6年生で3月に卒業してしまうかもしれないが、ぜひ、これまでの活動を思い返し、この活動をしたことを誇りに思ってほしい。

●学校の身近な生き物である蛍に着目して、過去のことや蛍の生態についてしっかり調べていてとても良いと思う。また、河川の清掃等を行うことで環境大臣から賞をもらうなど、活動を活発さがわかった。また、蛍活動の長い歴史を紡いでさらによくしていこうという姿勢がとてもいいと思う。

●ホタルの保全活動を通して、ホタルの生態をよく調べたり、工夫してダムを作ったりして、頑張って取り組んできたのだなということが伝わりました。努力が実を結び、ホタルが戻ってきたと聞いてすごいなと思いました。これからの活動も応援しています！

●3年間かけたからこそホタルについて何をすべきかなどを学び、実行していてすごいと思いました。また、学校内での学びにとどまらず、自分たちと同じような活動をしている学校からも多くのことを学んでいて、ホタルをPRするために一生懸命取り組んでいる様子がとても印象的で感動しました。

●地元のシンボルを大切に守っていくことはとても大事だと思いました。自分たちの両親の世代から続けてきたことをみんなで続けるのはすごいことだと思いました。ホタル水路について調べる、ホタルの特徴についても調べるそこから分かったことをホタルのために行動にできるのがすごいと思いました。また、より詳しくなりたいという思いから交流をするのは探求心がありすごいと思いました。

会場②-3

【長野県】山ノ内町立南小学校 6年生

活動テーマ 佐野遺跡の魅力再発見

発表概要 学校の隣にある佐野遺跡(縄文時代晩期の遺跡)について探究活動をしてきました。土器や住居作りを行い、どのように活動してきたかをどのように発信すべきか考えました。

実践記録

2022 年度 ESD/SDGs 実践記録

1 実施校，対象（学年，人数） 山ノ内町立南小学校 6 学年 15 名

2 探求課題・活動実践の概要，ねらい，目標等

(1) テーマ「佐野遺跡の魅力再発見 竪穴住居をつくって地域の憩いの場にしよう」

(2) 目 標 ①身近な地域にある佐野遺跡について知り、自分が住む地域に誇りをもつ。
②他地域との交流から，山ノ内町を見つめ直す。

(3) ねらい 「佐野遺跡」を中心とした山ノ内町南部地区に対する価値観の変容を促し，それを広げる行動を起こす。

(4) ESD の視点，育成する資質・能力

①構成概念・・・・相互性 「豊かな町を守るには，森，ゴミ問題など様々なことが関連する」
責任性 「何もしなければ，佐野遺跡の価値を知る人が少なくなってしまう」
有限性 「資材には限りがあり、無駄なく見通しをもってものをつくろう」
連携性 「竪穴住居をつくるには，多くの人との協働が必要だ」

②資質・能力・・・未来像を予測して計画を立てる力
多面的・総合的に考える力
つながりを尊重する態度（色々なものや人のお陰で自分がいることを感じる。）

(5) 関連する SDGs 11 住み続けられる町づくり 12 つくる責任 つかう責任

(6) 探求課題・活動実践の概要

① 身近な地域にある「佐野遺跡」について知ろう（社会学習と関連させて）
・専門家の講義 ・郷土資料室にある土器の説明 ・土器の乾拓、湿拓体験

② 修学旅行での学習
・足尾銅山の見学（産業の環境の関係）
・日光東照宮の見学（観光をいかした住み続けられる街づくりのあり方・日光市）
・富岡製糸場の見学（労働環境のあり方・ジェンダー平等について）

③ 佐野で採集した赤土で土器づくり
・地域の方の講義（興隆寺） ・テラコッタ粘土で土器づくり ・窯で素焼き

④ 交流と発信
・静岡県牧之原市立細江小学校６学年と定期的にオンライン交流（計３回）
・ESD やまのうち交流会への参加（町内の６年生と交流）

⑤ 竪穴住居作りに挑戦
・建築場所の検討 ・材料の調達 ・竪穴住居調査 ・竪穴住居作り

⑥ 佐野遺跡の価値、竪穴住居を建築したことを発信
・ホームページ作成

3 流れ（指導計画の概略） （数字は実際に使った時数）

４月 佐野遺跡について知る④ 細江小との交流②
５月 修学旅行事前学習④ 地域調査（身近な地域にどのような史跡があるか）④
６月 修学旅行（足尾・日光・富岡）⑫ 土器の乾拓、湿拓体験②
７・８月 縄文土器づくり⑩ 探究課題決定④ 細江小との交流②
９月 ESD 体験学習② 竪穴住居づくりの計画⑩
10・11 月 竪穴住居づくり⑩ やまのうち ESD 交流会と校内発表② 校内発表②
12 月 佐野遺跡学習のまとめ
１～３月 細江小との学校との交流 信州 ESD 成果発表交流会

他教科との関連：社会「歴史学習」 図工「土器づくり」 国語「日本文化を発信しよう」

4 効果，反応，所感

私たちが住んでいる地域の魅力的なものといえば、志賀高原、渋温泉、湯田中温泉、スキー場など、南小学区にないものばかりが思い浮かぶ子どもたち。一方で、身近な地域には国指定の史跡「佐野遺跡」があるが、その価値を理解している子ども達は少ない。佐野遺跡を学ぶことを通して、「縄文人がこの土地に暮らしていたことに驚いた」や「自給自足のくらしは持続可能な社会づくりにつながっている」など遺跡に関心を寄せていた。子ども達からは、「土器をつくりたい」「住居を建てたい」という意見が寄せられたため、それらを課題としてどのようにすればよいか探究した。縄文人のくらしの知恵を知り、この豊かな土地の魅力を感じられることができた。

5 指導方法，体制の工夫（協力者や資源）

① 養田 武さん（山ノ内町役場） ② 水谷 瑞希さん（信州大学教育学部）
③ 清水 守さん（志賀高原ガイド組合） ④畔上 不二男さん（山ノ内町教育委員会）

感 想

会場②-3 【長野県】山ノ内町立南小学校 6年生　発表を見た方からの感想

●利用する相手のことを考え、英語表記したパンフレットや動画作成をしていくことに感心しました。相手（利用する方）のことを考えることはものづくりや、料理をするときにも必要になる大切な視点になります。ちょっと感じたことは、海外の方にも体験してもらう事ができるように、竪穴式住居を駅前に移送する事や、海外の方向けにちょっと大きめの大きさにしていく事もできるので、是非活動を続けてい ってください。

●佐野遺跡をPRするために、土器づくりや竪穴式住居を作ったりしていて、土器には作り方があることなど、私が知らなかったことをたくさん知ることができました。また、作った竪穴式住居は様々な学年のみんなにも使われているのをみて、私も入ってみたいなと思いました。これからも動画などを作ってたくさん佐野遺跡をPRしていってください。応援しています。

●足尾銅山や富岡製糸場に修学旅行に行くことは、歴史を学ぶきっかけになり、それを学んだ子どもたちが下の学年の子どもたちなどに伝えていくことは、「住み続けられるまちづくり」につながっていくなと思いました。外国の人にも分かるように、山ノ内町のPR動画をつくることは、日本の文化を知ってもらうためのとても良い方法だと思いました。小学生で頑張って英語を喋ることはすごいと思います。

●発表ありがとうございました。日々の授業や修学旅行を通して学んだことや考えたことを実際に体験してみるなどして自分たちの身近な生活に落とし込むような「経験を通して学ぶ」様子が感じ取られ、素晴らしい発表でした。SDGsとの関わりをもっと示すことができるとより良いと思います。今後も佐野遺跡の知名度が上がるよう、PR活動を続けていけると良いですね。

●修学旅行などを通して歴史にまつわる場所に実際に訪れ、火起こしや土器づくりなどの体験をしたことで、みなさんの価値観や過去と現代に対する見方が変わったのかなと感じました。活動の中で、竪穴住居を実際に作ったことに驚きました。作った竪穴住居を有効活用している様子から、みなさんの経験が学びとして発展している様子が伝わりました。みなさんの体験は誰でも簡単にできることではないので、その貴重な経験を大切にしてほしいです。

●SDGsの観点に乗っ取って歴史を学んでいき、歴史の体験として竪穴式住居まで作り上げたことがすごいと思いました。歴史を肌で触れることによって、人類が歩んできた歴史など様々な観点で物事を見ることができ、見方が広がると思いました。PR動画も分かりやすく、ぜひ竪穴式住居を見てみたいと思いました。

●山ノ内町立南小学校6年生のみなさん、素敵な発表ありがとうございました。地域の遺跡に着目して魅力を発信していこうとする活動の様子が素敵でした。また、いろいろなお寺や遺跡を訪れることで、進んで学んでいこうとすることはとても大事なことだと思います。今後は、PRに向けて活動をされるとのことですが、見やすいチラシ・動画づくりをすることや、皆さんが勉強してきたことを伝えることができる工夫はありますか？何を伝えたいのかや、みんなが勉強をしてきたことが多くの人に伝えられると良いと思いました。

●素敵な発表、ありがとうございました。見学を通して、社会の環境問題とつなげて考え、体験を通して、当時の人々の思いについて考えている点が良いなと思いました。実際に土器をつくり、体験を通して地域の人々とのつながりを感じ、土や道具との出会いから、昔の人々の暮らしを感じることができましたね。土器づくりの作り方や、土器の有用性を考えることもできたと思います。昔の人々の知恵や技術も体験的に学ぶことができたことも伝わってきました。実際に作った竪穴式住居を2年生が活用し、異年齢との関りも貴重な体験だったと思います。海外の方にも伝えたいという思いから、必要感を持って英語に向かう姿勢もあってすごいと思いました。これからのPR動画楽しみにしています。

●素敵な発表ありがとうございました。佐野遺跡の魅力を伝えたいという思いや、そのために体験活動や実際に自分の目で見て学び続ける姿がとても印象的でした。土器や竪穴住居を実際に作ってみることで、その難しさや当時の人の苦労・すごさを肌で感じることができましたね。どうして当時の人は竪穴住居のような形をした建物を作ったのだろう、もっとよい住居の形はなかったのかな、竪穴住居でなければならなかった理由について考えてみるともっともっと竪穴住居や佐野遺跡の魅力に気づくことができるかもしれませんね。

●歴史について着目しており、土器づくりや火起こし体験を行ったことが印象的でした。実際に作ってみて大変さを痛感し、当時の人はすごいということを感じたのですね。皆さんのように、実際に自分で体験することで教科書からは得られない新たな学びや発見があると改めて感じました。この体験や考えたことをさらに多くの人に届けられるといいですね。

●山ノ内町立南小学校の発表は、学生の真髄を見させられたなとすごくインパクトに残った発表でした。周りの身近なものから興味を持って、修学旅行にまでそれを関連付けて、取り組み、竪穴住居を作ってしまうというすご

いと言わざるを得ないこの取り組みに本当に感銘を受けました。

●歴史の内容に興味を持って取り組むことってなかなか難しいことだと思いますが、土器作りや竪穴住居作りを通してこどもたちが自分から取り組んでいた点、活動から学びを得ていた点が大変素晴らしいと思いました。またPR活動を行うことで、それに興味を持つ人が増えて、住み続けられるまちづくりにつながっていて、町にとってもすごく価値のあることだと思いました。

●身近な遺跡から、歴史を振り返り、その時代の生活の一部を経験する体験は確かに大きな学びになりますね。中々教科書だけではつまらなかったり、想像できなかったりするかもしれません。チャレンジャーな皆さんの姿に尊敬します。皆さんの取り組みはもっと広がってほしいです。外国人観光客もディープな体験的旅行を求めていると言われています。長野電鉄さんと協力し、長野駅を出発点に、皆さんが外国人観光客を直接案内してあげるみたいな大きなチャレンジができるとよりよさが広まっていくかも知れません。引き続き頑張ってください。応援しています。

●SDGsというと持続可能な、これからの未来の環境についてのことだというイメージが強かったけど、歴史の観点からSDGsにつなげた取り組みを行うというのも良い活動だと思いました。また、土器をつくったり、火をおこしたりなど体験活動が充実していてとても楽しそうだと思いました。

●社会科の学習をSDGsに結びつけていてとても良いと思った。地元の遺跡だけでなく、修学旅行で行った日光東照宮や足尾銅山、富岡製糸場の歴史的な背景や特徴をSDGsに結びつけてどのようなことが行われていたのか、どのようなことが悪かったよか・良かったのかを考えて学習を深めていて良いと思った。実際に土器や竪穴住居を作ってその良さや難しさなどを感じる活動は、ただ見ることや聞くことよりとても価値がある活動だと思う。

●いろいろなところに出かけて、一生懸命に勉強に取り組んできたことが分かりました。土器や竪穴住居を作って、当時の人たちと同じ経験をすることで、より深い学習になったのではないかなと思います。私も竪穴住居に入ってみたいです！

●歴史に関する事項を自分たちのテーマにして、自分たちの地域のこと、また日本の歴史について自分たちで見て体験することが大事だと思いました。また、昔の暮らしを体験し、土器を自分たちで素材から形作って作るのはとても貴重な体験だと思いました。その活動を通して考えたこともよく考えられていると思いました。また海外の人にもPRしようとしているのはよりSDGsのことを考えられて作っているのがよくわかりました。

●教科書の文字や写真で学ぶだけでなく土器や竪穴住居を実際に作る活動は大変さが伝わると同時に、皆さんの楽しんでいる様子や充実した様子も伝わりました。また、竪穴住居も他の学年の人たちにも使ってもらえた嬉しさも伝わりました。佐野遺跡が太古からありこの土地にずっと人が住み続けていたことが分かりました。英語の動画ぜひ見てみたいです！

●修学旅行や社会科見学を通してSDGsにつながる学びをしたり、さまざまな視点から物事を考えたりしているのがとてもいいと思いました。自分たちの住んでいる地域にある遺跡や文化を大切にしていきたいという気持ちがとても伝わってきました。また、土器づくりに取り組み、竪穴住居を自分たちで作っているのがすごいと感じました。観光につながるために英語を取り入れている姿勢もとてもいいと思いました。

●総合的な時間や修学旅行など活動を関連させていてとてもいいなと思いました。自分たちの身近な歴史などについても学んでいてとてもいいと思いました。いろいろな場所やたくさんの経験をしてそこから気づいたことなどを発表していてとてもよかったです。竪穴住居を作ってみるという発想は初めて聞きとても面白そうだなと思いました。とても興味深いです。竪穴住居を作って終わるだけでなく、実際に活用してみるというのはとてもいいと思いました。PRとして外国の方への取り組みをしていてとてもすごいなと思いました。

●社会科の縄文時代に焦点を当て、その時代に生きていた人達の生活や使っていた道具に触れること、実際に過去の遺跡に触れることはとても貴重な体験だと思います。実際に土器を作ったり、竪穴住居を作 ったりしていてとても驚きました。竪穴住居を活用し、動画のPRなどの活用に生かしているので、より活動の振り返りや発展につながっていいと思いました。

会場②-4

【宮崎県】綾町立綾中学校

活動テーマ　SDGs達成に向けての生徒会活動報告

発表概要

1 綾中学校の簡単な紹介(役割・校舎等)
2 生徒会活動(各委員会)による取組
　(1)生徒会スローガンについて
　(2)昨年度からの継続している取組成果報告
　 ①ペットボトルキャップ回収②コンタクトレンズ回収
　(3)今年度新たな取り組み(成果報告)
　 ①ゴーヤ栽培によるSDGs
3 総合的な学習の時間の取組
4 地域との関わり
5 今後に向けて

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）
　宮崎県 綾町立綾中学校　全校（２１３名：１年生７６名　２年生７１名　３年生６４名）
２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
（１）活動名　SDGs 達成に向けた活動の実施報告
（２）目　標　生徒会スローガン「Vision ～新たな視点で開く持続可能な世界～」の達成に向けて

（３）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（４）　関連する SDG s と　（５）探求課題・活動実践の概要
①　総合的な学習の時間の実施報告
　○1 年生
・自然への探究をテーマにフィールドワークを中心とした調べ学習を行った。今年度はエコパークセンターの協力をもとに、イオンの森調査等を行い、調べたことをまとめた。(SDGS13,14,15)
・新聞紙でエコバッグを作成し、地元の有機農産物販売所に寄贈した。(SDGs12)

　○２年生
・人（街）への探究を大きなテーマに、修学旅行先の街との比較を行うことで町作りを考えてきた。(SDGs8,11)

　○３年生
・本来は自分への探究をテーマに、職場体験を行った。また、ユニクロの服のチカラプロジェクトに取り組み、支援とは何か考えた。(SDGs12,17)【写真３】
・綾町子ども議会へ出席し、よりよい町づくりのための提案を綾町職員向けて発表した。(SDGs8,11)

②　生徒会活動について
　生徒会スローガン「Vision～新たな視点で開く持続可能な世界～」の達成に向けて、実施している活動の報告
・生徒総会の SDGs 達成を議題とした話合い(SDGs17)
・各委員会と SDGs とのつながりを持たせた活動
・ペットボトルキャップ回収(SDGs3,12)
・コンタクトレンズ空ケース回収(SDGs12)
・ゴーヤプロジェクト（SDGs13)
・ジェンダー講演会、制服見直し（SDGs)

３．流れ（指導計画の概略）

近年、５月の生徒総会で決まったことに取り組んでいる。今年度は、ゴーヤプロジェクトやジェンダーに関する取り組みが決まり、６月から取りかかった。また、昨年度、決まった案なども年間を通して継続的に取り組んでいる。

４．効果・反応・所感

近年、SDGｓをテーマに掲げ取り組んできたこともあり、生徒一人ひとりの意識に向上がみられた。今後も生徒会を中心に自分たちに出来ることをしっかり行い、綾中学校から地域に発信していきたいという考えがある。これまでの活動の質が衰えることなく、その時々で求められることを考え、取り組みを実行していきたい。その中で、地域や様々な方とのつながりを大切にしていきたい。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

① 綾町エコパークセンターによる指導・協力
② 綾町の各事業所の指導・協力

感　想

会場②-4　【宮崎県】綾町立綾中学校　発表を見た方からの感想

●環境について自分達にできることを考え、実際に実行している様子が分かりました。ふるさとを大切にしていくことはとても大切なことであると思います。地域の方も巻き込むことでより多くの影響を与えることができると思います。地域に目を当てた次は家庭にも目を当てて、活動を行って、変化を数値にして見てみたいなと感じました。

●リサイクルや、資源の回収活動を積極的にやっていく姿が素敵だと思いました。コンタクトケースの回収が役に立つことを初めて知ったので、自分の身の回りにはもっと役立つ資源があるのだなと考えさせられました。

●小学校のころから綾町の環境や街づくりなど様々な取り組みをしているのを聞いてとてもすごいことだなと思いました。さらに、ゴーヤプロジェクトは私も小学校の時にやったことがあったけど、ゴーヤの販売まではしなかったので、その取り組みもとてもすてきだなと感じました。また、私も最近気にかけているジェンダーレスについても取り組みをしていてかなり学校全体でSDGsを意識しているということが伝わりました。これからも頑張ってください！応援しています。

●SDGsの目標と関連付けて委員会活動を展開していて、自分たちに出来ることからSDGsの目標を達成しようとしていて良いと思いました。ボランティア活動のゴミ拾いは、SDGsの「陸の豊かさを守ろう」と達成していると思いました。グリーンカーテンでゴーヤを取り上げていましたが、アサガオではなくどうしてゴーヤにしたのか気になりました。

●発表ありがとうございました。ついday、中学生らしいユーモア溢れる取り組みだと思います。森の健康診断や服の力プロジェクトなど初めて知る言葉もあり、感銘を受けました。小さなことでも身近な生活を少しでも変えるために今後も考えを深めていってほしいと思います。

●校内にSDGsの視点の掲示が多く、自然とSDGsの目標を意識できるような工夫がされていると思いました。コロナ禍でやりたいことが制限されている中、自分たちには何ができるのかを考え、自ら取り組む姿から、これからの社会にも対応できる力が育てられたのではないかと思いました。また、綾中学校での活動を校内でとどまらせずに、地域の方に広めたり、困っている人を助けたりすることで、みなさんの積極的な活動に刺激され、問題解決への連鎖が起きるように影響され続けるのではないかと思いました。

●生徒の皆さんが一人一人意識して活動し、地域の方々の協力も得ながら様々な活動に取り組んでいるのが素敵だと思いました。SDGsを意識した活動を、日常生活の中で行っていくことを日々積み重ねて努力されている皆さんがいることで、地域の方も協力しよう、意識しようと思えるのではないでしょうか。また、活動をしていく中で問題点を見つけ、それをどうすれば改善できるか試行錯誤していくことはとても重要だと思います。今後も試行錯誤しながら、日々の積み重ねを大切にして活動に励んで欲しいです。

●学校内だけでなく、地域や海外とも連携する取り組みを行っているところが印象に残りました。特に、GU、UNIQLOの「いらなくなった子ども服を海外の子どもに寄付する」といった取り組みが、海外の難民問題に目を向けることができたり、いろいろな立場の子どもがいることを理解したりできるので、非常に良い活動であると思いました。

●綾町立綾中学校のみなさん、素敵な発表ありがとうございました。自分の身近なところの小さな変化が、社会に大きな影響を与えるといった素晴らしい気づきのある活動でしたね。これからも、活動を行なうことでどのような影響を与えることができるかを考えながら取り組めると良いと思います。また、私自身も考えながら生活していきたいと改めて考えること画できました。ありがとうございました。

●綾町立綾中学校の発表を聞いて、中学校は小学校に比べて、できることや考え方も大きく増え、幅広い取り組みの軌跡を見させてもらったと感じました。ゴーヤを育てて、グリーンカーテンを活用する、森の健康診断など魅力的な取り組みも多くあり、良い経験をしているなと羨ましく思いました。

●生徒会を中心に、学校全体でグリーンカーテンやペットボトルの回収などとても多くの持続可能な社会を実現させるための取り組みを行っていて素晴らしいと思いました。コンタクトレンズの回収は聞いたことがなく、珍しい取り組みだと思います。他にも家で出るプラごみはたくさんあると思います。様々な視点でこれからもがんばってください。

●発表ありがとうございました。「ついDAY」のペットボトルキャップ回収の活動の中でたくさんのペットボトルキャップが集まっておりとても良い取り組みであると感じました。回収したキャップがワクチンになると思いましたがどのような人にそのワクチンを使うのか、なぜワクチンを打つことが必要なのかをつなげて考えてみるとこの取り組みがさらに深いものになるのではないのかと思いました。

●自然に囲まれた小さな町で、町の活性化や存続のために中学生が自分たちにできることを考えて実践していく姿がすばらしいと思いました。委員会活動の中に上手く組み込み、授業以外の場面でもSDGsについて考えている点が良いと思いました。

●学びになる発表ありがとうございました。SDGsの目標の達成に向け、ペットボトルキャップ回収の活動やゴーヤプロジェクトなどの活動に取り組むことで、実際にSDGsの目標達成に貢献しようと努める姿が見られました。とくに服の力プロジェクトは、国境を越えて世界の人々に貢献なさる活動が印象的でこれからもSDGsの目標達成のために考えて活動を続けてください。

●長野県も自然豊かな環境ですが、綾中学校はさらに自然に囲まれていますね。SDGsの目標に沿った全校生徒でのボランティア活動がすごいと思いました。この活動を動かしているメンバーは全校を引っ張 っていっている存在であるため、素晴らしいなと思いました。ありがとうございました。

●普段の生活からSDGsを考えて行動するために、生徒会のスローガンをSDGs関連のものにしたり、掲示物や黒板の端にSDGsのマークを貼ったりしていて意識が高いなと思いました。また、LGBTQの問題にも取り組んでいて現代の問題への対応も早くて素晴らしいなと思いました。

●SDGsというと地球規模の取り組みが必要で難しそうというイメージが強かったけど、意外と身近な活動もあって、自分たちでできることを探して実際に取り組んでいるというのがすごいと思いました。小さなことでもやっていくべきだという考えがとても良いと思いました。

●これまでの小学校の活動報告とは違って、中学生らしく落ち着いた発表で、話も聞きやすかった。環境に対する取り組みも、キャップ集めや衣服回収など実際のSDGsのそれぞれの項目に当てはめて、環境保全の活動を行っていることを理解できた。ぜひ、これらの活動を続けていってもらい、この活動を通して学んだことを今後の人生で生かしていってほしい。

●エアコン使用量の効率化からゴーヤの販売を考えて実行していく行動力に尊敬します。またゴーヤ販売の場所で新聞から使ったエコバックを使ってもらうなど、一つの場から、複数のエコ活動に結び付けていく方法もなるほどと自分自身も学ばせて頂きました。服のリサイクルプロジェクトや多様性については、人々によって意見が分かれている点でもあります。例えば服を難民が多い地域に送るプロジェクトでは、多量の古着を送り付けられ自国の繊維業が衰退させられ、かえって古着がゴミの山となり、新たな環境問題を生み出しているという指摘も上がっています。このような意見の差異を議論し、そもそもSDGsとは何なのか、エコ活動とは何かという本質を見通せる機会を作っていけば、さらに深い活動を行っていけるのではないでしょうか。今後も頑張ってください！応援しています。

●生徒会スローガンにもSDGsが取り入れられていて、意識の高さに感心しました。「ついDAY」の取り組みで、みんなから集められたペットボトルの蓋がワクチン作りに活用されたり、「服のチカラプロジェクト」によって、綾中学校で回収された服が海外に寄付されたりと、実際に様々な活動を行っていて本当にすごいと思いました！

●宮崎県に行ったことが無いのでこのような自然あふれる場所があるとは知りませんでした。地域の人を巻き込んでの植樹活動、また校舎も木で作られたきれいな校舎だと思いました。また、スローガンを決め、年次ごとに明確な活動を計画し行動していることがとても良いことだと思いました。また課題をしっかり分析している様子も伝わってきました。幅広いSDGsの項目についてよく考えられていると思いました。新たな視点が大事だと私も思いました。

●日常から目に付くところにSDGsに関連するものを掲示することは、日ごろから意識することが出来る工夫になっていてとてもいいと思いました。地域の人と協力することで、地域活性化につながる点が良いなと感じました。校則を変えたり、生徒総会で出た案を取り入れたりしていて、学校全体で取り組んでいるところが良いなと思いました。

●自分たちでCO_2削減のためにエアコンの電力削減、そのためにグリーンカーテンを活用、そのためにゴ ーヤを育てる、というところまで考えたことが素晴らしいと思います。また、実際にやってみると結果的にはエアコンの使用量が変わっていなかったという結果は、経験を通してしか知ることができない良い経験になったことと思います。課題の発見からこれからの活動につなげていけるとよいと思います。

会場②-5 【長野県】高山村立高山中学校

活動テーマ 数学でフードマイレージを考える

発表概要 学校給食のフードマイレージを箱ひげ図で表し、地産地消の良さや課題を分析する。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）　高山村立高山中学校（２学年　60 名）

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（１）活動名　「地産地消の効果」（数学）

（２）目　標　本校生徒は持続可能な発展に関わる取り組みとして、学校給食での地産地消を挙げている。その地産地消による効果と、給食の残滓について、数学的な技法を用いて、分析・判断することを目的とする。

（３）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）

②育成する資質・能力

☑批判的に考える力　□他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　□つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　□進んで参加する態度
□コミュニケーションを行う力

（４）関連する SDG s

3　すべての人に健康と福祉を
4　質の高い教育をみんなに
11　住み続けられるまちづくりを
13　気候変動に具体的な対策を
15　陸の豊かさを守ろう

（５）探求課題・活動実践の概要

○高山中学校の学校給食における地産地消による取り組みとその効果について、昨年度に引き続き、数学的な手法を用いて、分析・判断することを通して、そのよさを実感しその価値を意味づけることを目的とした。

・今年度は、４月分と 11 月分の食材のフードマイレージから箱ひげ図を作成して比較・分析し、今年度のデータでさらに高山村の給食センターの地産地消の有効性を検証する。
・高山村の給食センターが、今年度減らした欠席者分のご飯を、エネルギー代に換算して、どのくらい損失を防いだか分析する。
・２学年での残滓の量を「意識していない時」「意識している時」「他クラスに協力してもらった時」で違いを調べ、箱ひげ図を作成して比較・分析する。
・学校内で共有する場を設ける。

３．流れ（指導計画の概略）

（１）昨年度の２学年の学習を基に、今年度のカボチャとジャガイモのフードマイレージ等を全体で計算して確認する。
（２）１組、２組でカボチャとジャガイモを分担して計算し、あとでお互いのデータを共有する。
４月～12 月までのジャガイモは高山村と長崎県で仕入れた場合のフードマイレージを調べる。カボチャは、高山村とメキシコから輸入した場合のフードマイレージを調べる。
（３）フードマイレージ、CO2 排出量、輸送コストの３項目で計算する。
（４）今年度の４月と 11 月の各日にちのフードマイレージを分担して計算し、学年全体で共有し、箱ひ

げ図を作成し比較する。
（5）今年度の欠席者対応におけるご飯の減量総量とそれによる環境負荷の削減ついて計算する。
（6）給食の残滓について「意識していない時」「意識している時」「他クラスに協力してもらった時」をそれぞれ1週間ずつ量ったデータから、箱ひげ図を作成して比較・分析する。

4．効果・反応・所感
生徒の感想より
・フードマイレージを調べたことで、毎日の学校給食では、地産地消の工夫と環境への負荷を考えた上で作られているということを理解できた。
・自分たちの日頃の残滓の量が分かったので、これからも自分たちのできる範囲で減らしていけるようにしたい。
・食材を提供してくださる農家の方や給食を作ってくださる方への感謝の気持ちを忘れずに給食をいただきたい。
栄養教諭より
・今回の結果から、生徒たちは、どの月もまんべんなく地産地消ができていると考えたが、自分としては、11 月は地産地消がもっとできているつもりでいたので、ショックを受けた。生産者が高齢化して食材を確保することが難しくなってきたこともあり、今回のデータから現実を見て、危機感を持って村と協力して手を打っていきたい。そこで早速、公報で給食に野菜を提供してくださる方を募集した。また今は、給食センターが「この月にこれだけほしい」とお願いしたものに対して、空いている畑の一部を使ってその分だけ作っていただくという、需要と供給がマッチするような取り組みを考えている。

5．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
・教科学習（数学）の中で行い、数学的な価値を位置づけられるよう工夫した。
・本校に常駐する栄養教諭と協力して学習が深められるよう考えた。

感　想

会場②-5　【長野県】高山村立高山中学校　発表を見た方からの感想

●学校の給食は現在とても社会問題になっている話題です。給食費の予算が、物価の上昇に追いつかず、給食センターの方々が日々考えてくださっているそうです。そのような社会課題を取り上げることで、より多くの方に学校給食の素晴らしさ、給食センターの方の苦労がねぎらわれればなぁと思いました。また、箱ひげ図など他教科で学んだ知識を活用していて、実際に学んだ知識を使ってみると、学んだ甲斐を感じることができたのではないかと思います。

●給食の便りの中にあるクイズで食育を学ぶことをしているのはすごいことだなと感じました。ジャガイモやカボチャ、お米の観点から環境の負荷を考え、改善しようとしたことが聞いていて伝わってきました。地産地消は環境負荷などのたくさんの工夫をして、SDGsに関わっているということが発表を聞いてわかりました。これからも食品ロスの活動を頑張ってください！応援しています。

●フードマイレージに換算してより視覚的に説明することで小学生にもわかりやすいと思った。食育には様々な分野があるので色々調べて自分の目で見て多くの経験を増やしていってほしい。

●地産地消することによって、二酸化炭素の排出量を抑えていることが出来てSDGsの「気候変動への対策」を達成できると思いました。また、地産地消について数学や社会といった他教科の知識を用いることによって、教科横断型の学習で深い学びだと思いました。

●発表ありがとうございました。地産地消に焦点を当て食育について広い視点からの気付きや学びに繋がっていたと感じました。○○円減ったなどの具体的な数値があったことでより身近に捉えることができました。食育には他にもさまざまな視点があると思うので、今後も考えを深めていってほしいと思います。

●具体的な数値やグラフを用いた比較をすることで、地産地消をすることのメリットがとても分かりやすくまとめられていたと思います。また、食品ロスを防ぐために、欠席者に合わせてお米を使用する量やエネルギーを抑えたという行動だけでなく、損失を確実に防いだというその結果が明らかになることで、より自分たちの行動の意味を感じやすくなり、次の行動への意識を持ちやすくなると思いました。

●自分たちの学校給食で使用されている食材から、フードマイレージや二酸化炭素排出量の問題点を発見し、環境や食材について理解を深められているところが素晴らしいと思いました。また、今回の学習を通して食の大切さや地産地消の工夫を学ぶことができたと思うので、これからもその点を意識していって欲しいと思いました。

●高山村立高山中学校のみなさん、素敵な発表ありがとうございました。普段、当たり前のように食べている給食ですが、給食の食材が手元に来るまでに様々な人がいることや、お金がかかっていることに気づき、地産地消を進めていくことの大切さにきづくことができた学習だったと思います。また、食材を作っている農家さんなどへの感謝の気持ちを忘れないということも素敵だと思います。これから、地産地消を各地で行なう為にはどのようなことができるか？などと視点を高山村から日本へと広げていくことで、皆さんのこれまでの学びがさらに深まっていきそうだと思いました。

●素敵な発表、ありがとうございました。食育の6つの視点から、給食を通して地域の農産物のことについてや、地球環境について考えを広げている点が良いなと思いました。データの見せ方を箱ひげ図など伝わりやすい形に工夫している点も、分かりやすく良かったと思います。給食を通して、その給食の費用や二酸化安曽排出量はどのくらいなのか調べ、給食に対する意識が変容していく姿を感じました。

●素敵な発表ありがとうございました。フードマイレージや CO_2 排出量についての数値を比較分析する活動を通して、地産地消についての理解やフードロスに向けた日々の取り組みと食材を提供してくださる方々へ感謝する気持ちの大切さに気付く姿が魅力的でした。中でも、数値として表すだけでなく、箱ひげ図を用いて数値を整理することを通して地産地消に向けた取り組みの重要性を見出すことができましたね。日本ではフードロスは大きな問題になっていますが、環境負荷の削減に向けて、高山村だけでなく長野県や日本でも地産地消を進めていくためにどんな工夫ができるのかについて考えていくと、今回の活動がもっと大きく環境負荷を減らすことに貢献していくかもしれませんね。

●産地からの距離とコスト、二酸化炭素排出量を出すことよりフードマイレージを算出し月ごとの比較をしているのが驚きました。そこから給食という観点で考察し、フードロス削減のために何ができるのか数値を基に明確にまとめられていると思います。これらを基に、実生活でどのような行動ができるのか考えていたので素晴らしいですね。

●発表ありがとうございました。今まで地産地消は良いものだと漠然に思っていましたが、皆さんのじゃがいものコストで実際に高山村と長崎県のじゃがいもを比較して数値化したデータを見たことでなぜ地産地消という言

葉が良いと言われているのかを目に見えて理解することができました。このように思っていたことを実際に客観的に数値化して分析することは他のことにも応用できると思います。

- 地産地消についてや、食育について自分たちで活動し調べまとめるという活動はとても素晴らしいと思いました。また学校給食は環境への負荷を考えたうえで作られていることを理解したことや農家の方や給食を作ってくれる方への感謝の気持ちを忘れないということはこれからも非常に大切にしていってほしいと思います。
- 手書きでの発表がとても印象的でした。デジタル化が進んでいる今、このように手書きで書くことの重要性に気づかされた気がします。とても暖かさを感じるのでいいですね。様々な計算を行うことで、普段の学習と今回の学習の結びつきが感じられてとてもいいと思いました。また、グラフにも表していてとても分かりやすかったです。
- 食にフォーカスを当て、フードマイレージについて考えていました。フードマイレージはほとんどの人が知らないもので、触れる機会が少ないと思います。ですが、その求め方や求めた値を比較することで、なにが大切で、どのような利点かあるのか、より明確にできると感じました。四分位数についても触れられており、私としてはとても分かりやすくなりました。ですが、他の中学生が一度聞いて簡単に理解できるとは限らないと思うので、もし中学生に発表をするときはより細かく解説することが必要だと感じました。本当に発展的な活動で、困難なことも多かったと思いますが、とてもいい発表でした。
- フードマイレージという単語は社会科で習うとは思いますがそれを実際に計算する機会はなかなか貴重だと思います。またそれを箱ひげ図などを用いて客観的なデータで表すことで根拠が強く今後の勉強にも非常に活きてくると思います。給食は小中学校までというパターンが多いと思うのでその価値に改めて気づくことができたのは非常に良かったのではないかと思います。
- グラフや関数などを使って具体的に食品ロスについて調べたり、取り組んでいたりするところが、説得力があってよいと思いました。残滓の量を減らすというのは、一番手軽に取り組んでいけるSDGsのひとつなので、続けていってほしいと思います。これからも頑張ってください！
- フードマイレージや食品ロスなどの計算・統計を通して、地域や環境問題に目を向けつつ自分たちの数学の学びを深めることができる活動になっていて、とても理想的な学習活動だと感じました。具体的な数値をだして物事をとらえることで、食への感謝や環境への負荷が実感しやすくなるということをこの発表から学ばせていただきました。
- 改めてフードマイレージを考えた地産地消の大切さを知ることができました。他の場所や時期などとの比較があり、違いがよく分かりました。特に実際のデータや計算した数値がたくさん出てきたので、より具体性があり良かったと思います。また給食を欠席者の分だけ減らす取り組みは、私が給食を食べていた時代には、あってほしかったけれどもなかった取り組みだったので、うれしく思います。学校でしかできない地産地消の取り組みなどをこれからも考えていってもらいたいです。
- 給食にかかわる様々な点を数値に基づきながら分析されていて、とても説得力のある発表だと感じました。地産地消の利点を輸送費用や二酸化炭素の排出量から考察され、残滓を処理するために必要なエネルギーを計算し、残滓を減らすように努力されていて素晴らしいと思いました。
- 特徴的だったのは、実態を数字や図表で示していたことです。具体的な数値や計算式を調べており、それを箱ひげ図などで表現していました。その結果、食品ロスの問題はどれだけ深刻なのか、どこが問題なのかがとても分かりやすくなっていました。内容を手書きでまとめていたことも印象に残りました。
- 地域の食材を使うことは環境を守ることにつながるだけではなく、地域の農家さんの助けにもなると感じました。具体的なデータを使っていてとても説得力がありました。また、これは全国でも行えそうなので良いモデルになると感じました。
- 食品ロス、地産地消という私たち人間が必ず行う食事という行為についての取り組みは身近なところからSDGsに関する活動を行うことができて家庭などで実践しやすい取り組みであると感じました。また細かくフードマイレージなどの計算から数字を出し数値化することで誰でもわかるようにできる取り組みは非常に素晴らしいと感じました。

会場③-1 【長野県】山ノ内町立東小学校 4年生

活動テーマ ぼくのわたしのコカリナ

発表概要 志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習してきた。「たくさんの曲を上手にふけるようになりたい」と願いを持った子どもたちは、おうちの人に聴いてもらう、志賀高原遠足に持って行き山で吹いてくる、音楽会・コカリナフェスティバルやで音楽会で発表するといった活動を行ってきた。「もっとコカリナについて知りたい」と願いを強め、コカリナの工房に関心を寄せたり、コカリナの種類や素材を調べたり、お世話になった方への感謝の会を計画している。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）
山ノ内町立東小学校４学年
男子１６名　女子１３名　計２９名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
（1）活動名　ぼくの私のコカリナ

（2）目　標　自分だけのコカリナを作ったり，演奏活動をしたり，コカリナ工房を見学したりするなどして，コカリナ製作者の方やコカリナクラブ「かえでの木」の方の思いを知り，故郷山ノ内町の自然への関心をもつとともに，演奏活動を通して自然の大切さを発信することができる。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDG s
１２　つくる責任　つかう責任
１５　陸の豊かさも守ろう
１７　パートナーシップで目標を達成しよう

（5）探求課題・活動実践の概要
現 5 年生が音楽会でコカリナを吹く姿を見て「私たちも 4 年生なったらやるの？」と楽しみにしていた子どもたち。5 月にはコカリナ製作者の大熊さん，北澤さんから「自分だけのコカリナ」を一緒に作ってもらい，コカリナクラブ楓の木の山本さんからは演奏の仕方を教えてもらった。「いろいろな曲を吹きたい」という願いを持ち，お家の方の前や焼額山遠足，「コカリナフェスティバル」，校内音楽会など多くの場所で演奏してきた。その後，北澤さんの工房やその思いに触れたり，コカリナについて調べたりしたことから，「いろいろな曲をふけるようになり，それを多くの人に楽しんでもらえたこと」「山ノ内町の木を使い生まれた楽器にふれることができ，まわりの自然について考えられたこと」「コカリナをみんなで練習したり，協力して演奏したりする楽しさが分かったこと」を学ぶことができた。そして，「これからもコカリナを吹いて，たくさんの人にその楽しさやよさを伝えていきたい」「自分たちのコカリナ演奏をきっかけに山ノ内の自然について考えてほしい」という願いをもつことができた。

３．流れ（指導計画の概略）
○「自分だけのコカリナ」をコカリナ製作者の大熊さん，北澤さんと一緒に作る。
　コカリナクラブ楓の木の山本さんから演奏の仕方を教えてもらう
○焼額山遠足やコカリナフェスティバル，音楽会等で演奏する。
○コカリナについて，北澤さんの工房を見学したり，思いを聴いたり，調べたりする。
○この活動で分かったことや学んだこと，感じたことをまとめ，発信する。

４．効果・反応・所感

昨年度の反省からはじめにコカリナありきではなく，子どもの願いに沿って活動を進めてきた。子どもたちは嬉々として「自分だけのコカリナ」を作り，自分たちが演奏したいと思う曲を練習し，発表していた。技量には個人差があるものの，みんなで一緒に吹くことで一つ一つの曲が完成していった。音楽会が終わった後，これからの活動について話し合ったとき，「どうやってコカリナを作っているのか」「北澤さんは熊のマークを変えるのか」「工房を見てみたい」といった声が上がり，見学させてもらうことになった。残念ながら見学は叶わなかったが，担任の撮影したビデオで工房の様子や製作の様子，北澤さんのコカリナ製作への思いを知ることができた。北澤さんが輸入した木だけでなく，地元の木を使っていることや建築後に出た廃材を大事に使っていることを知った子どもたちは「もったいないことをしてなくていい」「これってリサイクルじゃん」と感動していた。そして，「もっといろんな曲を吹いてその楽しさやよさを伝えていきたい」という思いをみんなで共有することができた。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

指導に関わっていただいた人：コカリナ製作者大熊さん，北澤さんご夫妻，「コカリナクラブ楓の木」山本さん

活用した資源：コカリナ，志賀高原

感 想

会場③-1 【長野県】山ノ内町立東小学校 4年生　発表を見た方からの感想

●コカリナを長野オリンピックの際に切られた木たちからつくられていることなどを知り、コカリナづくりに様々な思いが込められていること、演奏する中で身をもって感じているのが非常に密着した学習で特徴的だと感じました。知る中で、自然についても考えるきっかけになっているのもgoodです！演奏も素敵でした！今後もコカリナに触れていく中で学びを深めていってください。ありがとうございました。

●コカリナという楽器があることを初めて知りました！楽器を通して山ノ内の自然について考えるきっかけを得られたのは貴重な経験だと思います！カントリーロードの演奏も素晴らしかったです！コカリナを吹く際に難しい点や音をきれいに出すコツなんかはあるのでしょうか？

●コカリナという楽器があることと、それが捨てられてしまうような木を使って作られていることを初めて知りました。カントロードの演奏も素敵でした。オカリナよりも高い音が出て綺麗な音がする楽器ですね‼ コカリナはどこかで販売されているものなのか、気になりました。

●地元の木を使ったコカリナ演奏する活動を通して、自然へついて学習することへつながり、クラスのみんなと一緒に練習などして団結力が深まった活動だったのかなと思います。みんなで頑張って練習してきたことが伝わる演奏でした。

●本当なら捨てられていた木を使用してコカリナが作られていること知ったことで、身の回りの環境について考えるきっかけになっていたと思いました。また、演奏を通して、仲間と協力することの大切さを学ぶことができたのではないかと感じました。一致団結している様子が演奏を聞いていてよく伝わりました。

●コカリナが非常にきれいな音色でした。どのように吹くのか指の押さえ方なども初めて知りました。地元の山ノ内町の木を利用するという点は良い着眼点だと思います。それによって、周りの自然に目が行くなど視点が増えたことは素晴らしいと思います。

●皆さんが町で使われずに終わったかもしれない木材を使い、コカリナのように新たに物として命を吹き込み、演奏を通じて色々な人に知ってもらおうと活動をしていたのだとわかり、素敵な活動であると思いました。演奏してくださったカントリーロードも、とても良かったです。また、木以外にも使えるはずなのに使われずに終ってしまう物はあると思います。そのことにも注目して見ると、今回の学びがより活かされると思いました。素敵な発表をありがとうございました。

●発表ありがとうございました。コカリナという楽器を私は今日初めて知りましたが、とてもきれいな澄んだ音ですぐに好きになりました。また、皆さんの地域の方から作り方を教わり一から作っていく様子や、演奏して終わりではなく自然について考えるきっかけにしたいという思いが素敵だと思いました。これからも自然と触れ合い、大事にする姿勢を持ち続けていってください。

●発表ありがとうございました。コカリナを中心に学習し身の回りの木や自然について考えるきっかけづくりをしていきたいと考えていることがとても重要な考え方であると思います。自ら学びたいと思うためにはなにかきっかけが必要であり様々なことを体験し学びたいというきっかけの機会を増やすと良いと感じました。最後にとても素晴らしい演奏でした。

●コカリナから、地域の自然について考えてほしい、音を聞いて自然について考えてほしいという思いが素敵でした。コカリナから人とのつながりや自然とのつながりに気付くことができ、楽しんで演奏している姿がよくわかりました。素敵な演奏でした。発表ありがとうございました。

●大まかに「自然」と捉えて勉強するのではなく、山ノ内町のコカリナ、というレンズを通して自然を見ることで、より深い学びが生まれたのだなと思いました。また、私はカントリーロードの歌が大好きで、みんなの演奏を聴いて元気が出ました‼ ありがとうございました！

●再利用の木材で作られた楽器なのですね。様々な方にお話を聞きに行ってすごいと思いました。自分たちで作った楽器は思い入れが大きいですよね。思っているよりも小さな楽器で、しかし高くて素敵な音が出るのだなと感動しました。素敵な演奏もありがとうございます。

●私は今回の発表でコカリナについて初めて知りました。コカリナの起源などを知ってコカリナに興味を持ちました。コカリナから学んだことを発見できたという成果がとても素晴らしいと思いました。とても素敵なコカリナの音色で、皆さんのこれまでの学習や努力が伝わってきました。すてきな発表ありがとうございました。

●コカリナという楽器を知らなかったのですが、どんな楽器なのかや、なんで作られたのかの説明でよくわかりました。本当は捨てられてしまう木を使った楽器を広める行動は環境への関心が高くてすごいなと思いました。演

奏はとっても上手でいろんな場所で演奏するために一生懸命練習してきたのが伝わりました。コカリナのあったかくて素朴な音色が生かされている今日だと思いました。これからも地域の自然について広める活動を頑張ってほしいです。

- コカリナという楽器は初めて知りました！それを自分たちで作って演奏する、というのはなかなかできないことだったと思うし、楽器作りの大変さを知るチャンスだったと思います。木でつくる楽器は昔からありますが、こうして若い子どもたちが受け継いでいってくれることで伝統が守られていくと思います。ぜひこれからもコカリナをいろいろな人に広めていってほしいです。
- 実際に吹いてみての感想が発言されており、発表の役割がはっきりしていて、4年生とは思えないほどクオリティが高くて驚きました。ただ楽器に関することではなく、原料の木から自然について考えている点も素晴らしいと思いました。カントリーロード、とてもきれいな演奏でした。
- 自分たちの町の木から生まれたコカリナを演奏することで、自分たちの町の良さに気付き、もっと知りたいと思う気持ちを大切にしてください。コカリナの演奏はとてもきれいで、素敵な音色でした。そのコカリナを使って、自分たちの町の良さをいろんなところへ伝えていってください！
- コカリナ作りという大学生の私でも知らない地域の活動について調べていることがとても素晴らしいと思いました。作られた経緯、使っている方の想いをわかりやすくまとめられていました。カントリーロ ードの音色もとても揃っていてみんなで練習したことがよくわかりました。特に高い音が綺麗で素晴らしかったです。
- 山ノ内町の木を用いて、楽器を作るという斬新なアイデアが面白いと思った。いつも使わない楽器で色々な曲を弾くことは、子どもたちにとって普段の音楽とはまた違った感じがして、楽しい経験になったと思う。音楽で人々を楽しませることができるのは凄いと思う。だから、身の回りの木や自然を考えることから始まった活動だと思うが、音楽の素晴らしさや楽しさにも気づけたのではないかと思う。
- 自分の満足だけでコカリナをふいているのではなく、自分以外の周りの人の気持ちや思いを考えながらふいているのがとても良いと思いました。また「音楽」としての面だけでなく、コカリナの原料である木に注目して「自然」について学びを広げていった点がさまざまな学びができていると思いました。最後の演奏とても感動しました。
- 最後のみんなの息のあった演奏、とても綺麗でした。直接聴きたいと思いました。これからもコカリナを練習して、コカリナの良さや楽しさをたくさんの人たちに伝えていってください。応援しています！今後も頑張ってください。
- 木をリサイクルし、新たな楽器をつくるという案や自分たちでそれを演奏するという考えがとてもおもしろかったです。コカリナをつくるにあたって、無駄を出さない、地球にやさしくものづくりをすることは、コカリナだけでなく、モノづくりにおいて大事なポイントであるし、日本中で進めていかなければいけない取り組みであると思っています。
- 道を作るために切られた木をコカリナにしてリサイクル・リユースに取り組むというように、身近なことを題材に社会の課題について考えられていることが素晴らしいと思いました。最後のコカリナの演奏からは、ここまでの皆さんのさまざまながんばりが伝わってきました。これからも皆さんの柔軟な発想を大切にしていってください。
- 地域の捨てられるはずの木を使ったコカリナを演奏して、自然の大切さや周りのみんなと音を作り上げることの素晴らしさに気づけたことはとてもいいことだと思います。自分の地域の素晴らしさにも気づけたのではないでしょうか。これからも思い出の「カントリーロード」やほかの曲の演奏からいろいろなことを学んでいってください。
- カントリーロードの音色がとてもきれいで素晴らしいと思いました。地域の捨てられる気を使用して作ろうと思った点が素晴らしいと思った。環境や地域の自然を活かして、音楽体験をするという発想や、できた楽器を使ってこんなにきれいな音色を出すことができる楽器が作れるということがわかった。私も身の回りのいらないものを何か別のものに生まれ変わらせることができないか考えてみたいと思った。

会場③-2 【長野県】茅野市立永明小学校 4年生

活動テーマ 『エゴマから油を搾ってつり手土器に火を灯そう』

発表概要 永明小学校4年2部では、昨年度から、縄文時代のランプ『つり手土器』について学習を続けています。そこにランプのように長く火を灯すためには、燃料の油と芯が必要です。今年度は、その油を自分たちの力で手に入れようと、強く育ちやすいエゴマに注目しました。栽培から収穫、脱穀をした後、仲間や地域の方と協力しながら、搾る活動に挑戦しました。今回は、ここまでの学びの過程を発表させていただきます。

感 想

会場③-2 【長野県】茅野市立永明小学校 4年生 発表を見た方からの感想

- えごまについて調べる中で、茅野市の方にインタビューして、種までいただいて成長を見守る中で、生育の大変さを実感しながら、疑問も感じて聞いたりしながら、収穫までいっている点が深い学びになっていて、何より楽しそうでもあり、非常に印象に残りました。特に、地域の方々と関わりながらえごまを育てている点が積極的ですごいと思いました。今後も、今回のように感じた疑問をいろんな人に聞いて、解決して、学びを深めていってください。ありがとうございました。
- えごまを栽培して、油をしぼるまでに、たくさんの苦労をしてきたことが伝わってきました。困ったときに、地域の人々に助けを求めて、自分たちで解決していこうという姿が素晴らしいなと思いました。しぼったえごまの油は何かに使用したのか気になりました。また、みなさんはえごまを食べたことがあるのでしょうか？
- 発表をきいて、えごまの栽培がとてもむずかしいことだとわかりました。地元の方と協力しながら、がんばってえごまを育てようとする強い気持ちが伝わりました。あいさつのときからそうでしたが、元気いっぱいの発表でした。素晴らしい発表ありがとうございました。たくさん油とれるようがんばってください。
- えごまの栽培活動を通して、えごまに関わらず生産者の苦労や、思いを知ることのできる活動になったと思います。自分たちで油を抽出する活動は、苦労がたくさんあったと思いますが、みんなと協力して充実した活動になったと思います。
- 荏胡麻の栽培をする中で生まれた疑問を解決するために、プロの方に話を聞き、そのアドバイスを取り入れ、また疑問が生まれたら話を聞きに行くという意欲的な姿が素敵だと思いました。また、皆さんの意欲的な姿が地域の方の協力を惹きつけたのではないかと感じました。何事も追究し、挑戦する姿が素敵でした。これからも色々なことにチャレンジし続けてほしいと思います。
- エゴマを育てる過程を写真やイラストを使っていてとてもわかりやすかったです。特に草取りや台風で茎が折れてしまい大変なことが良く伝わってきました。エゴマ綺麗でしたね。最後に火をつけると言っていましたが、どのように燃えるのか気になります。
- 発表おつかれさまでした。えごまを栽培し、収穫し油を搾るという活動は、なかなかできない体験であると思いました。地域の人に話を聞いたりしてより良いものを作ろうとする姿勢が素晴らしいなと思いました。えごま以外からも油を採れたりすると思うので他の作物でやってみるのも面白いかなと思いました。
- えごま油が縄文時代にも使われていることや、自分達でも作れそうということを調べ、活動していった姿が素晴らしいと思います。地域の達人と確認しながら活動を進めているのがすごいと思い、たけやすさんと一緒につくっていったことがよくわかりました。油を搾るまでに様々な苦労があったけれども、実際に油を搾ることができたのがすごいと思います。発表ありがとうございました。
- 素晴らしい発表ありがとうございました。自分たちで油を採取しようとえごまの栽培を行っていることはとてもすごいことだと思いました。様々な問題が生まれてきたときには自分たちで調べ、えごまプロの方にお話を聞き、問題を解決してきてとてもやりがいがあったのではないでしょうか。
- えごまを栽培する中で課題にぶつかったとき、皆さんがプロの方からアドバイスを頂き、それを栽培に活かそうとしていたということがわかり、良い姿であると思いました。そして、そのことから、できないこと・わからないことがあったとしても色々な人に素直に聞いて、自分たちの力をつけていく大切さを感じ取りました。また、えごまの油で釣り手土器に火を灯すことを目指していらっしゃいましたが、皆さんが頑張って作ったそのえごま油が、他のことにも使われたらいいなと思いました。素敵な発表をありがとうございました。
- 油を自分たちで作ろうと考えることがとてもすごいと思います。えごまの栽培をする上で、まずは自分たちで調査し、えごまを栽培している方に話を聞きに行く行動力とても素晴らしいと思います。活動中の写真も活用して、活動の様子やその時の気持ちをよく表現できていたと思います。自分たちが疑問に思ったことを疑問で終わら

せるだけではなく、解決に向けて行動できていた点がすごく良かったと思います。

●動画形式での発表、絵を用いての発表が新鮮で素晴らしいと思いました。雑草が生えてきたり、台風に遭ったり、摘芯をしないといけなかったり、トリが食べてしまったりと、さまざまな葛藤があったと思いますが、その度に向き合って解決に向けて行動していたところが素晴らしいと感じました。

●ないものを自分たちで作り出す、というのが、素晴らしい力だなと思いました。脱穀の機械がなかったときに、自分たちで組み合わせて脱穀の機械を作り出したことがすごいなと思いました。その力はこれからずっと役に立つと思います。お疲れ様でした。

●油を自分たちで作るなんて、まずテーマが驚きです。途中の、「たけやすさん教えてー」が良かったです。草取りなどお世話が大変でしたよね。私は、皆さんの中にわいてきた疑問を、しっかり確認してからやっていることに感心しました。道具を使った方がしぼれそうだ、缶の大きさはどうしようなど、たくさんの工夫をしていてすごいと思いました。これからも頑張ってください！

●雑草がはえてくるところなど画用紙や動きもいれて発表していてよかったです。とてもわかりやすい発表でした。植物を育てることで生物についてよく知ることができたと思います。細かく追及して大きく育てることができていてすごいと思いました。

●絵や写真などを使って発表していてとても分かりやすかったです。エゴマを学ぶ経緯などを聞いて、とても大変だったのだなと思いました。武安さんと相談しながら、色々な工夫をしながら育てていてすごいと思いました。学習を重ねていく中で、気づいたことがたくさんあったことが発表から分かり、いい成果発表だと思いました。これからも頑張ってください。

●火を起こすことは自分たちの生活に欠かせませんが、縄文時代の方法を自力でやってみようというのがすごいなと思いました。えごまを自分で育てるために、みんなで頑張ったりインタビューしたりといろんなことに取り組んできたことが伝わりました。みんなで映っている写真やかわいいすずめの絵、劇など、発表の仕方から実際の様子が伝わってきました。油を搾るときにどっちの缶のほうがよく絞れるか予想を立てているのが良かったです。これからもいろんな学習にクラスみんなで協力して頑張ってください。

●油は今となってはスーパーなどで買えますが、それを自分たちで作るというのはとても大変なことだったと思います。その作り方も、専門家の方からのアドバイスをしっかりと受けていて、本気でえごまから油を作ろうとしていることが分かりました。えごまは昔から明かりの燃料として重宝されてきた材料であり、今となってはそれを使う人もほとんど少なくなってきましたが、あえて今、それを作って明かりをともすというのは日本の伝統を守ることができるとっても大切な試みだと思います。とっても興味深い発表でした。

●えごまが良く育つように工夫しているところが凄いと思いました。調べ学習だけでなく、zoomを利用してプロの方と交流し、学びを深めているところが素敵だと思いました。摘芯の作業のように、言われたことをそのままやるのではなく、やり方や内容について自ら調べる姿勢に非常に学ばされました。これからも頑張ってください。

●自分たちで植物を調べ、育てて油をとったりするのは、とても大変だったと思います。えごまのプロの方からお話を聞き、たくさん観察して行く中で、いろんなことに気付き、疑問を持つことができたのは、皆さんが真剣にえごまに向き合った証拠です。自分たちで工夫した経験は、とても貴重です。その経験を生かして、大変なこと、わからないことがあったとき、自分たちで工夫して立ち向かっていってください！学び続ける姿勢も大切にしていってください。

●「自分たちで油を作る～エゴマ油～」
自分たちで油を作ろうと思い立ったことが素晴らしいと思った。縄文時代にもあった植物である「エゴマ」の育て方を自分たちで調べてもうまくいかないことに気付き、茅野市の住民にインタビューしたところに感動した。そこからエゴマに関して「なぜ？」「どうして？」が生まれて、学びがどんどん広が っていき、子どもたちも本気でエゴマに向き合っていると感じた。このような行動力や思考力は、これからも自分たちの経験値アップに繋がるので続けてほしい。

●荏胡麻を育てる際に、毎日水やりや草取りをしたり、台風の対策など様々な取り組みをしたりして無事に荏胡麻を育て上げたことがとてもすごいと思いました。分からないことを教えてもらい、その教えをしっかりと忠実に守って荏胡麻を育て、油を取ったことがとてもすごいと思いました。

●油が自分の手で作れることを初めて知ったのでびっくりしました！台風など様々な困難があったと思いますが、プロのタケヤスさんに頼ったりクラスの皆で協力したりして立派なえごまが育てられていて感動しました。イラストや写真、ジェスチャーを使って聞き手に伝わりやすい工夫ができていて分かりやすかったです。えごまの匂いが漂う教室へ行ってみたいなぁと思いました。

会場③-3 【長野県】信州大学教育学部附属長野小学校 6年生

活動テーマ 私の土器作り

発表概要 4年生からクラスの中核活動として土器作りを行っています。学校の土から粘土を取り出し、土器づくりを行いました。自分の表現したいものに合わせた方法で作品を制作しました。様々な焼き方を経験し、よりよい焼き方についても考えました。松代焼の文化や職人技にも触れました。使える土器にするために自分達で作った釉薬を塗った本焼きにも挑戦しました。土器作りを行いながら私の成長も感じています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）　信州大学教育学部附属長野小学校　６学年　37 名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（1）活動名「私の土器作り」

（2）目　標　①土器作りを通して、ひと・もの・ことに出会い、科学や歴史、文化、技術などに触れることを通して、多様な見方や考え方をもち、物事の捉えを豊かにすることができる。

②私の目指す土器を追究する中で、友と協力しながらよりよいものづくりの過程を見出すことで、一人ひとりが自己実現に向かって追究し続けることができる。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

☐有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）

☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力

☐未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度

☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度

☐コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDG s

９　産業と技術革新の基礎をつくろう　　１２　つくる責任　使う責任

（5）探求課題・活動実践の概要

理科の授業の中で土粘土の存在に目を向け、土から粘土を取り出した。その粘土から土器づくりを発想し、縄文人のように野焼きを行った。よりよい土器作りのため、様々な制作方法や素焼きの仕方を比較しながら、自身の過程で土器作りを見出していった。実用的なものにしたいという願いから伝統工芸品である松代焼に注目し、松代焼の技や文化、歴史などに触れた。松代焼職人に教えてもらった釉薬の材料を使って、分量比による表面のコーティング具合や色合いの変化を見出した。様々な色合いを追究するため、透明であった釉薬に着色剤を混ぜた時の様子を比較し、自分の思い描く土器作りを行った。

３．流れ（指導計画の概略）

４年生：１２月　校庭の土から粘土を取り出す　１～２月　土器作り

２～３月　野焼き

５年生：４～６月　手回しろくろで土器づくり

７～１２月　よりよい素焼きを目指して野焼きと七輪焼とドラム缶焼き

１２月　松代見学　１～３月　灯油窯による素焼き

６年生　４～７月　釉薬作りとテストピース　８～１２月　私の釉薬作り

４．効果・反応・所感

「私達は、今まで土器のことについてたくさん学んできました。松代焼の土器職人の方に会って、釉薬の成分や電動ろくろを使用した土器作りを見せてもらったり、土器の歴史を知ったり、土器の元となる土を変えて粘土にしたり、釉薬を作るための藁灰、木灰、白土を教えてもらったりしました。それが新たな発見や理想の土器を作るヒントとなり、大きな経験を与えてくれました。そして、私達も電動ろくろを取り入れた土器の制作や釉薬を用いた土器作りをしました。皿だけではなく、コップや箸置きなども作りました。最初は不格好な形の土器ばかりでしたが、今の私達の作品を見ると随分成長したと感じます。これからも、たくさんの経験を通して、私達の理想の作品を作り出していきたいです。（K さん）」

「この達成感は、実際にやった人にしかわからない。挑戦してみてよかったなと思います。たくさん試行錯誤してきた私達の土器は宝物です。今までたくさんあった土器の思い出がすべて詰まっている気がします。私は今まで、一つのことを一所懸命に努力したことがありませんでした。物事をすぐに諦めていました。だからこの土器づくりで一つのものに全力を込められたことがとても嬉しいです。（S さん）」

土器作りを通して、ひと・もの・ことに触れ、そこに潜む科学や歴史、文化、技術などを学んだ子どもたち。作り上げた一つ一つの土器には「この子」の「この時」が込められている。「この土器」作りを通してよりよい自分との出会いをしていった子どもたちがいた。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

①あまかざり工房　宮﨑知幾さん　②真田宝物館　山口さん　③松代焼古陶館　古川さん

感 想

会場③-3 【長野県】信州大学教育学部附属長野小学校 6年生　発表を見た方からの感想

●土粘土づくりから、土器づくりまでを5年生になるまでの間で学び、野焼き・ドラム缶焼き・七輪焼などさまざまな方法で焼きを行ってそれぞれの特徴を学んでいるうえに、真田宝物館やあまかざり工房まで行って、よく調査したうえで土器づくりをしているところに感心しました。今後も、今回のように一つ一つの学びを大切に、学びを深めていってください。ありがとうございました。

●粘土の作り方なんて初めて知ったので良い勉強にさせていただきました！土器を作りで縄文人を越えようという発想も面白くて、七輪焼やドラム缶焼といった現代人の技術を駆使して完璧な土器を造ろうとしている点も、ユーモアがあって発表を見ていて楽しかったです。

●自分たちで土器を作る活動を通して、土器の歴史にも触れつつ学習に取り組めたのかと思います。実際に自分たちで作るのは大変だったと思いますが、自分で作ったものは思い入れもあり、ものを大切にする気持ちを育むこともできたのではないかと思います。

●それぞれの班ごとに、土器や釉薬を作る過程や歴史、作った結果や感じたことがわかりやすくまとめられていました。実際に見たり作ったりすることで、教科書以上の学びにつながっていたと思います。過去の様子を知り、現代を見つめると、また新たな発見や見方につながります。これからも、何事も積極的に取り組んでみてください。

●野焼きをしたことがないので作り方や準備の工程、土の素材など初めて知ることが多くて勉強になりました。ろくろの製作も面白かったです。メリットやデメリットも記載されており、ろくろの難しさや手で作った時との違いなどが分かりやすかったです。

●発表ありがとうございました。多くのグループに分かれており、体験を通して得た学びを全体で共有することによってより広い学びに繋がると思いました。今後はそれぞれが体験したことを教え合いながらみんなで体験してみるなどするとより面白いと思います。今後もより広くより深く学習に励んでいってください。

●粘土から土器を作るといっても、作り方や焼き方は一つではなく、たくさんの方法で試しているのが面白いと思いました。ドラム缶焼きは初めて聞きました。それぞれでわれやすさや色が変わり、その変化にも気づくことができているのがいいと思いました。土器づくりには様々な工程があり、その工程一つ一つに意味があることが分かりました。発表ありがとうございました。

●「私の土器づくり」ということで、自分たちの学校の土から粘土をとる（材料を集める）ことに驚きました。釉薬についても、自分たちで釉薬のぬり比べをしてどの釉薬が良いか調べている姿がとても素晴らしかったです。みなさんは縄文人を超えたと思います。

●土器作りという体験を通じて、一つひとつ時間をかけて丁寧に作ることの重要さに気づいたり、歴史の視点から土器の意味やすごさを見つけていたりしたところが、とても良いと思いました。普段は物を完成した状態で買う私たちですが、自分たちで土器を作ることを通じて、物作りの大変さや尊さを感じ取れたのではないかと思います。また、今回の土器で言えば、どうして土器はその材料や形で作られるようになったのか、その原因や歴史を調べ考えてみるのも面白いのではないかと思いました。

●縄文土器をまねて作ってみたからこそできた疑問や課題、解決方法になりえることはどんなものか考えながら行った活動は、とても良い活動だったと思います。焼き方に野焼き、七輪焼き、ドラム缶焼きの種類があることを初めて知りました。3種類の焼き方を経験することによって、焼き方の違いで土器に与える影響など実際に自分たちが体験してきたことを言語化しよくまとめられていたと感じました。

●素敵な発表ありがとうございました。学校の土から土器を作るために時間をかけ、思いのこもった土器を作り上げる津堅がとても印象的で、素敵でした。土器の形にするのが難しく、縄文人のすごさに気づく中で、コップを使ったり、様々な焼き方を使って工夫したりすることで、自分たちの手で土器を作り上げることができましたね。また、電道ろくろを使ったり、釉薬を使って色をだしたりするなど、土器づくりの中でたくさんの工夫を行い、新しい発見がたくさんできましたね。釉薬を使うとどんな色が出せてどの色は難しいのか、それはどうしてなのか考えていけると面白いかもしれませんね。

●発表ありがとうございました。土器を自分たちでつくろうという発想がまずすごいなと感心しました。土器づくりの内容を見ても、ろくろを使って形を作り、野焼きで焼く、また釉薬も自分たちで作り、さまざまなものを試してみるなどとても本格的で大ボリュームでした。私は社会科の教員となるのですが、このような活動をして当時の人々の思いを考えることはとても大切でさまざまなことを学べるのではないかと思います。

●発表ありがとうございました。土器を焼く活動の中で使う土や焼き方を複数の方法で行い比較したことがとて

も良いと思いました。実際に自分で作り、目で結果を見たことは一生忘れない思い出になると思います。最後に焼き方や使う土の種類によって違いが生まれていましたがなぜその違いが生まれるのかを考えてみても面白いと思います。

●粘土から土器を作るといっても、作り方や焼き方は一つではなく、たくさんの方法で試しているのが面白いと思いました。ドラム缶焼きは初めて聞きました。それぞれでわれやすさや色が変わり、その変化にも気づくことができているのがいいと思いました。土器づくりには様々な工程があり、その工程一つ一つに意味があることが分かりました。発表ありがとうございました。

●「縄文人って天才!?」という言葉が出てきたのがとてもすごいなと思いました。簡単にできそう、というようなとこでも、実際にやってみると難しくて、そしてそれができる人を尊敬するというのは勉強の本質だと思うからです。これからも頑張ってください。

●土から作るなんてすごいと思いました。高温で焼くのがいいと思っていましたが、そういうわけではないのだと勉強になりました。自分たちで作った経験から、職人さんのすごさが分かるのだろうなと思いました。ぜひ皆さんがろくろを使っている映像があったら見たいと思いました。釉薬作りについても、灰の割合を変えて実験的に試しているところがいいと思いました。写真もあり分かりやすかったです。

●土器づくりのやりかたや、土器をつくってみた感想など発表からたくさん分かることがあり、よかったです。手回しろくろでは、色々な形のものをつくっていて面白そうだなと思いました。野焼き、七輪焼、ドラム缶焼きという焼き方は初めて聞きましたが、分かりやすい説明でますます興味が湧きました。それぞれの違いや、学んだことがあり、よかったと思いました。松代見学からも分かることがたくさんあり、よかったと思います。

●土器を通じて、みんなで協力する力や自然を楽しむ気持ちが磨かれているなと思いました。またそこから歴史の勉強や理科の勉強につなげているのがわかりました。実際の様子の写真から自然と触れ合いながら学んでいることがわかり良いなと思いました。どの班もスライドがとても見やすく、普段からPCを使った学習をしているのだろうと感じました。

●縄文土器をあえて今再現するというのはとても斬新な発表だったと思います。その作り方も、太古から使われてきたろくろを使ったり、今ならでは紙コップやいろいろな道具を使ったりなど、いろいろな作り方が見られてとっても面白かったです。土器が初めて作られた縄文から今にいたるまでどのように使われてきたのかもわかり、とても勉強になりました。しかも自分たちで塗装までしていて高クオリティなものを目指しているのが良く分かりました。とっても面白い発表でした。

●野焼きで土器を焼いたり、ろくろを使って土器づくりをしたりしている取り組みが非常に印象的でした。いずれの取り組みにおいても、自分たちなりに工夫をして行っている姿が凄いと思いました。釉薬を作る取り組みにおいて、配合を調整しながら試行錯誤する姿から、自分で問題解決をすることの大切さを学ばされました。

●スライドの見やすさ、わかりやすさが流石6年生、といったクオリティでした。内容ごとに発表者、スライドが分かれているという工夫も見られました。こういった工夫が理解のしやすさを高めているのだなと感じました。土器づくりに関して、多くの側面から調べられていて、良かったです。大学生の僕から見ても知らないことばかりでした。

●土粘土に着目し、土器を作るために試行錯誤しているのが良い経験だと思った。様々なタイプの焼き方で比較して、その違いを考察し、どのようにすれば一番きれいに焼けるかを考えられているところが素晴らしいと思った。何も知らない状態でいろいろ試してみることも大切だが、しっかりと土器の歴史を学んで気づきを得たうえで、土器づくりに臨もうとする姿勢はもっと良いと思う。

●学校の土から土器を作れることにまずびっくりしました。そして想像以上に綺麗な土器ができていて、皆さんの懸命の努力や土器作りに対する熱意を感じました。時間をかけて丁寧に作ることで良い作品ができることを皆さんから学びました。自分でつくった土器で飲んだ水は格別でしたね。

●釉薬は、科学反応で化学の要素があったり、割合計算で算数を使ったり、いつもみんなが学習していることが生かされていますね。理想の色の釉薬を作れるように頑張ってください。

会場③-4 【福井県】大野市阪谷小学校 5･6年生

活動テーマ 星空プレゼンテーション

発表概要 令和5年度の星空保護区認定を目指している福井県大野市南六呂師地区。その南六呂師地区が校区に含まれる阪谷小学校は、認定を目指して阪谷地区の星空の魅力を様々な方から学び、自分たちでまとめ、発信中です。星空に限らず、地域の魅力も発信しています。持続可能な地区を目指し、活動中です。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）福井県大野市阪谷小学校　５・６年生　６名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
（1）活動名　星空保護区認定に向けた地域の魅力を発信する活動
（2）目　標　①阪谷地区の星空に魅力や課題を知り、自分事として捉える。
　　②より多くの方に発信することで、地元の魅力を再認識する。
（3）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
□相互性（関わりあっている）
☑連携性（美しい星空を守るために個人、学校、地域、市、県が互いに連携・協力する）
☑有限性（人間の作り出す光によって、美しい星空が影響を受けている）
☑責任制（美しい星空、生物の生態系、エネルギー問題などのために必要最低限の光を使って暮らす）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　　☑進んで参加する態度
□コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDGｓ
７　エネルギーをみんなにそしてクリーンに　１１住み続けられるまちづくりを
１２つくる責任つかう責任　１５陸の豊かさも守ろう　１７パートナーシップで目標を達成しよう

（5）探求課題・活動実践の概要
①多くの観光客に来てもらうための企画考える（阪谷に人を呼び込もうプロジェクト）
②地域おこし協力隊の方から、阪谷の星空の魅力や、光害についての講話
③星空以外の魅力を発信するために、公式 Instagram の開設・運営
④福井県自然保護センターから星空に関する専門的な知識や資料の提供を受ける。
⑤シルバー人材センター主催のイベント「ねんりん秋市」に参加し、星空プレゼンテーションを実施
⑥星空プレゼンテーションを動画にまとめることで、より多くの方へシェア

３．流れ（指導計画の概略）
４月…去年の学習で思い出に残った活動を共有し、今年度挑戦したいことを相談した。
５月…地域おこし協力隊の方と教員で対談
６月…「阪谷に人を呼び込もうプロジェクト」資料作成と交流
７月…校内プラネタリウム、光害対策イベント、地域を守るために活動する方々の紹介など
８月…インスタグラム開設に向けた準備
９月…学校公式インスタグラム開設、ねんりん秋市に向けた相談
１０月…地域おこし協力隊望月さんによる出前授業
　　星空プレゼンテーションに向けた資料提供（自然保護センター）プレゼンテーション作成・練習
１１月…ねんりん秋市への参加「星空プレゼンテーション」修学旅行での広報活動
１２月…星空の魅力をさらに広めることができないか相談。信州 ESD への参加決定。動画作成が決定。
１月…星空プレゼン ESD バージョン動画作成作業
２月…学習のまとめをしよう

４．効果・反応・所感
まず、市が思い描くビジョンを教員が知ることからスタートした。学校、行政、個人がうまく連携しながら星空保護区認定に向けて動いていきたかったからである。市は保護区認定を受け、観光客が増えても魅力が星空だけではいけないと考えていたため、児童にまずより多くの人を阪谷地区に呼び込むために

はどうしたらよいかを自由に提案させた。飲食、マスコットキャラクター、SNS、移動手段、レジャーなど様々な視点から自由に提案していた。その中からインスタグラムを実際に２学期から開設し、発信活動に使った。フォロワー数の上昇や、多方面からの温かい声かけに児童はやりがいをもって地域の魅力あふれる写真をアップし続けた。１１月には星空プレゼンテーションを企画。専門家からいただいたデータを元に、阪谷地区の星空の魅力や光害対策について多くの方に発表した。多くの感想をいただき、児童にとって大きな自信となった。情報提供いただいた福井県自然保護センターにも出向き、プレゼンテーションを行った。3学期に向けてさらに広く、そして多くの方にプレゼンテーションをしたいという希望も出てきて、今回信州ESDへの申し込みへとつながった。また、動画にまとめあげることで動画配信し、いつでもどこでも自由に見れる環境を整えることにもつながりそうである。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

大野市役所、福井県自然保護センター、福井工業大学、星空に詳しいボランティアなど豊富な人材に協力いただいた。市役所には市のビジョンを教えていただき、地域おこし協力隊の方には星空の魅力や光害について出前授業をしていただいた。自然保護センターにはプラネタリウムで光害についての講座を開催していただき、写真や数値など最新データをいただいた。福井工業大学の中城氏が開催する公民館での星空講座に複数名が参加した。また、最新データの提供もいただいた。ボランティアの方には、阪谷地区で星空がきれいに見えるスポットを資料にまとめていただき、情報提供いただいた。行政からボランティアまで立場は様々だが、同じ方向を向いて力を貸していただいている。

感 想

会場③-4 【福井県】大野市阪谷小学校 5･6年生　発表を見た方からの感想

●星空の魅力を発信しているさまざまな機関がある中でも、阪谷小のみんなが、その魅力を、光害などについても解説しながら丁寧に説明してくれて、とても分かりやすく学ぶことが出来ました。特に光害のことは、私自身都市部に住んでいないこともあり、初めて知ったので、新たな発見になりました。ライトダウンなど、ぜひ取り組んでいきたいと思います。貴重な発表ありがとうございました。

●地元の星空のすばらしさを伝えるために、なぜきれいなのか、どこに着目してほしいのかをわかりやすくまとめられていました。また、様々な活動にも意欲的に取り組んでおり、星空を守る取組を通して、みなさんが主体的な学びを体験できたのではないかと感じました。プレゼンを聞いて、ぜひ見てみたいと思いました。

●発表ありがとうございました。星空をテーマにし、市の取り組みやイベント、保護区になるためにどうあるべきかなど幅広い学びに繋がっていたと思いました。また、光害という言葉を初めて知り、光害対策についてなども自分にとって学びのある発表でした。市の売りである星空がもっと世間に知れ渡るよう、今後も活動に励んでいってほしいと思います。

●発表おつかれさまでした！多くの団体と連携し、メディアやSNSを駆使している点は有効的な宣伝だと思います！福井県で星が綺麗に見られることがわかったので行ってみたいなと感じられました！それは、みなさんの魅力の発信が素晴らしいからです！これからも星空の魅力を発信していってください！それが大野市における地域活性につながるはずです！また、星の魅力からそこに存在する課題について調査している点素晴らしいなと思いました。頑張ってください。

●地域の素敵な星空を広めるために、SNSの開設やプレゼンテーションなどさまざまな活動をしていることが分かりました。また、地域の人々とも協力し、星空を発信しており、星空の魅力がわかりました。ぜひ見に行きたいなと思いました。都市の光が遠くまで届くことを初めて知り、光害について知ることができました。ライトダウンイベントなど、私にもできることを発信してくださったためありがたかったです。発表ありがとうございました。

●様々な人や団体と関わり、阪谷の綺麗な星空を守ろうとする気持ちが伝わってくる発表で、とても良か ったです。そして、近くの街の光が光害として綺麗な星空の景観を壊してしまうということを初めて知 ったため、星空を守ることは他人事ではないのだと考えさせられました。また、皆さんは電気の使用を減らすための様々な提案をされていましたが、現実問題として中々難しいところもあると思います。これまで取り組んできたように、皆さんが自ら星空を守るための情報や活動を発信することに加えて、自分たちの意見を世の中に届けるには他にどのような方法があるのかについて考えてみると、これから何に取り組むと良いのかがはっきりしてくると思います。素敵な発表をありがとうございました。

●星空保護区認定のため、みなさんの提案からインスタグラムを開設し魅力を発信する方法を考えるなど、自分たちがやれることをしっかりと考えて行動できている点が良かったです。星空の魅力について考えるために、学外の施設や同好会の方との交流を通して、星空についての知識を深めていることがよくわかりました。

●素敵な発表ありがとうございました。阪谷の星空の魅力がとても伝わってきました。星空の魅力を伝えていくためにねんりん秋市などの活動に参加したり、星の魅力を伝える様々な人の活動を知ったりしながら自分たちの住む阪谷の星空の魅力を伝えようとすること、身近でできるライトダウンの効果がSDGsの目標にもかかわっていることに気づくことができましたね。皆さんとおなじようにきれいな星空を守ろうとする活動する地域は日本でたくさん行われていると思います。その人たちの活動から、きれいな星空を守っていくためにできることをたくさん学んでいけるといいですね。

●発表ありがとうございました。普段何気なく見ていた星空も、さまざまな条件によって、こんなにも見え方が違うのかと非常に驚きました。また、阪谷の星空の魅力がわかりやすいプレゼンテーションによ って伝わってきました。ただ学ぶのではなく、自分たちに何ができるのかを考え、カーテンを閉めるなどの行動に移し、SNSで発信するという追究していく姿勢も素晴らしいと思いました。これからも阪谷のきれいな星空を守り続けてください。

●発表ありがとうございました。みなさんの発表からぜひ大野の星空を見に行きたいと感じました。また星空を守ることは光害への対策につながるということにつながっていますね。光害はその原因となる行動をしている人が光害につながることを知らなければ光害を起こしていることに気がつかないですね。公害対策の中でも身近なところでできる取り組みが紹介されていて一人一人が光害について知り、対策の行動をとることが大野の星空を守ることに繋がっていると思います。

●七タイベントの開催、インスタグラムの開設、星空プレゼンテーションなど、星空についての積極的な活動が素晴らしいなと思いました。阪谷の星空の素晴らしさにとても感銘を受けました。星空保護区認定への過程で、周

囲の明るさなども関係していてなかなか難しいなと思いました。「光害」という言葉を初めて知りました。阪谷の星空、見に行ってみたいなと思いました。

●天の川が見えるなんてすごいです！望月さんのような移住者も多いと思われます。音声もはっきりしていて、資料もとても見やすかったです。市役所の前でのイベントや、照明の工夫など、町全体で取り組んでいることがよく分かりました。しかし、これを大野市だけの問題にせず、光害の問題として声をあげ、近くの町に呼びかけているところがすごいと思いました。私は星空を見るのが好きなので、発表を聞いて、ぜひ訪れたいと思いました。

●阪谷の夜空の魅力が魅力ベストスリーからよく伝わりました。写真がものすごくきれいで実際に見てみたいと思いました。スライドが丁寧に作られていてわかりやすかったです。福井県にいったときに星空を見に行きたいです。

●保護区にするために様々な努力をしていることが発表から分かりました。いろいろなアイデアで、星空についての魅力を発信していてすごいと思いました。SDGsにも関連させていてとてもいいと思いました。阪谷区の星空をぜひ自分の目で見てみたいと思いました。星空保護区に認定されるよう願っています。

●皆さんハキハキとした声で聞きやすい発表ができていました。スライドに多くの工夫が施されており、途中で質問を挟むなどして楽しみながら皆さんがしてきた活動について知ることができました。ほかの小学校に先駆けSNSを上手に活用できていて学ぶものが多くあり、感動しました。

●星空を広めるために小学生がインスタグラムを活用するという例を初めて見ました。いろんな人に支えられて星空について学んでいることが伝わってきました。星空保護区という言葉やそれに関する取り組みを初めて知りました。遠く離れた場所からの光が届いてしまい、悪影響を及ぼす問題はもっと認知されるべきと気づかされました。私もライトダウンをしてみようと思います。話し方もゆっくりで、上手な発表だと思いました。

●さすが高学年の皆さんだなと感じるスライドと発表の分かりやすさでした。僕は名古屋市出身で、光を出してしまっている方ですが、今長野県に越してきて星空の美しさに感動しています。光害を出さないために少し努力したいと感じました。大野市にもいつか行ってみたいです。

●私の住んでいる長野県は高い建物や明るい建物が少なく、星がきれいに見やすい場所なのですが、星空保護区という場所があるのは初めて知りました。「光害」という言葉は初めて知ったのですが、長野県で星が見やすいのはその光害の被害を受けていないおかげなのだということを知ることができました。せ っかく星が見やすい素敵な地方に住んでいるので、この発表で知った光害対策を行って、星をゆっくりと楽しんでみたいと思います。おすすめのスポットも絶対に行ってみます。

●地域の方だけでなく自然保護センターの職員の方や天文愛好家の方といった様々な人たちとの交流をしているところが素敵だと思いました。また、活動を学校内で完結させるのではなく、SNSを用いて外部へと発信している取り組みが凄いと思いました。多くの人に魅力を知ってもらえるよう、工夫して伝えることの大切さを学ばされました。これからも充実した活動へ向けて頑張ってください。

●どの学級よりもスライドが見やすいと感じました。話しているところに緑の線で強調していることがその要因かなと思いました。また、声もゆっくり、丁寧に、抑揚をつけて話していて、内容がすんなりと入ってきました。クイズや豆知識など、飽きさせない工夫もされていて、本当にすごいと思いました。大学生でもやっていけるクオリティだと思います。

●星空保護区というものをあまり知らなかったので、とても勉強になりました。星空の魅力を伝えるための活動や、光害を減らすための工夫など、自分たちの町のことが大好きであることが伝わってきました。今回の発表を聞いて、ぜひ阪谷の星空を見に行きたいと思いました。

●星空保護区というものを知らなかったので今回の発表で知ることができて良かったです。星空保護区になるために学校という立場から活動を発信し、Instagramを開設してメディアにも取り上げられており、地域との繋がりが強く素晴らしいと思いました。画像からもわかる素晴らしい星空でした。

会場③-5 【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校 4年東組

活動テーマ もし、避難所で生活することになったら…？

発表概要 自分たちが生活している松本市は、大地震に見舞われる可能性がかなり高いことを知った子供たちは、地震について学び、もし地震が起こったらどう行動すればよいか考えてきました。その学習の中で、地震が起こった時に使われる避難所とはどんな場所なのか、生活することになったら何をすればよいのか、日赤奉仕団の皆さんのお力を借りて、避難所体験ゲームと、炊き出し体験に取り組みました。そこで考えたことについてご紹介します。

感 想

会場③-5 【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校 4年東組 発表を見た方からの感想

- 防災を考える上での身近な疑問を見ていく形の学びで、新しい発見になりました。インフルエンザの事例や、そもそも避難先で防災倉庫のものがなくなったらどうするかなど、考えたことがありそうで意外と考えたことがないことを突き詰めていてとても実践的な学びになっており、私の方も非常に勉強になりました。今後も、実践的な学びを深めていってください。ありがとうございました。
- 防災倉庫が想像していたよりも色んなものが収納されていて驚きました。また、地震対策マニュアルを作成している点も皆さんが真剣に地震に向き合おうとしている気持ちが伝わってきました。皆さんが改良を重ねたマニュアルは実際に手に取って見てみたいです。
- 避難所ゲームを通して、他の人を思いやることを学んで共助が大切だということを感じていることがすごいなと思いました。また、マニュアルを作成していましたが、避難のマニュアルがあることで、地震を体験した事ない人も地震が起きた時にやるべきことが分かって良いなと思いました。みなさんのマニ ュアルを使いながら避難訓練を行ってみたらよさそうだなと思いました。
- 避難所ゲームを通して、もしもの時の状況を経験したことで、改めて災害から身を守るときに行動している人々の気持ちを体験することができたと思います。皆さんは、被災したときの状況を想定して多くの経験をしたことで、大切な知識をたくさん蓄えることができたと思います。やはり、無知の状態ほど、命を危険にさらす可能性が高まります。今回の体験を忘れずに、もしもの時があったら、積極的にかつ冷静に行動し、多くの人の役に立ってほしいと思いました。
- 地震について着目していましたね。日本は地震が起きやすい国でもあるのでこのような防災グッズなどをどのように使えばいいのか調べたことが良く伝わってきました。避難所ゲームを実際にやってみて感じたことや新しき発見したことなどもよく分かりました。手作りのマニュアルやハザードマップを今後も活用できそうだと思いました。
- 発表ありがとうございました。教育実習にも伺わせていただきましたが、必要な防災グッズや防災倉庫、避難所ゲームや炊き出し体験、防災の心得など、僕が担当した授業からここまで学びを深められるみなさんの姿に感銘を受けました。自然災害はいつ起こるかわかりません。自分たちができる対策をして被害をなるべく少なくすることができるよう、今後も学習を続けていってほしいと思っています。またどこかでみなさんとお会いできることを楽しみにしています。頑張ってください。
- みなさんが防災教育に積極的に取り組んでいることが伝わってきました。特に印象に残ったのが、「炊き出し体験」です。みなさんがこの体験を通して、自分の安全だけでなく、「誰かのために」という気持ちに気づいていたのが素晴らしいことだと思いました。自分の安全も大切ですが、誰かへの思いやりの気持ちも忘れてはいけないと、私自身気づかされました。
- 避難のときに必要な備えについて「これいるの？」という疑問から、その物・道具が必要な理由についてしっかりと学んでいるところが良いと思いました。そして、避難所ゲームや炊き出し体験を通じて、皆さんが実際の状況をイメージしながら取り組んでいたことがわかりました。また、実際に災害が起きた際は、全員が避難所に備えを持ってきていないことや、施設内の備えが避難者の数に対して不十分ということも考えられると思います。物が足りないだけでなく、多くの人に心の余裕がない状況で皆さんがどのように行動した方が良いのかについて、是非話し合ってみていただきたいなと思いました。素敵な発表をありがとうございました。
- 発表ありがとうございました。地震というものを他人事として考えず、いざ起きたときに自分たちはどうすればいいかという事を考える姿勢が素晴らしいと思いました。また、避難所ゲームを通して、ただ楽しんで終わりではなく、自身の時の行動を具体的に考える姿勢も、私自身見習っていきたいと感じました。
- 学びになる発表ありがとうございました。皆さんの活動から地震が起こった時に備えることがたくさんあるのだなということをあらためて学ばせていただきました。実際に地震の被害にあった人たちがどんな苦労をした

のかを考えたり調べたりする活動を続けてください。

●発表ありがとうございました。災害はいつ起こるのかわからないため危機感を維持することが難しいですがその対策を行うことはでき、備えることの大切さに気がついていることが素晴らしいと思いました。また避難所では様々な人々が共同生活するため小学生である皆さんでも多くのできることがあると思います。

●地震について調べる中で、防災セットなども調べていてすごいと思いました。防災倉庫の中身は知らなかったので勉強になりました。避難所ゲームから避難所を割り振るのに意外と時間がないことを感じ、班ごとに違う難しい課題が残っていることに気付くことができたのがいいと思いました。学んだことを活かしてマニュアルを作り、お互いに見合うことで必要なことを再確認する姿がすてきだと感じ、私も日ごろから備えておきたいと思いました。発表ありがとうございました。

●防災倉庫を見る活動から備蓄について考えたのはよい体験だと思いました。また、避難所ゲームを通して、様々な人がいる状況を考えたのは貴重なシミュレーション経験だと思います。情報の選別が必要なマニュアル作りはとても難しそうだと思いました。非常時の焦っているときに必要な情報とはなんだろうと、私も考えてみようと思います。

●実際に調べたことから、自分が避難するときに役立つ方法をまとめられていて、感想と一緒に話してくれてわかりやすかったです。予想外のものがたくさんあったことが伝わってきました。避難所ゲームは判断が難しかったポイントから実際に起きたときに役立てることができるので、私も実際にやってみたいなと思いました。防災に関してたくさんの体験をしたことが伝わってきました。またその体験をマニ ュアルにまとめるのも良いと思いました。

●僕の出身地域も、南海トラフ巨大地震というものすごい大きな地震がくるくると言われて何年も過ぎています。いざ大きな地震が起こった時にどうやって避難するのか考えておくことは皆さんの発表を聞いてとても大切なことだなと感じました。

●日本は「地震大国」と呼ばれていて、私も小学校のときに「東日本大震災」というとても大きい地震を経験しました。その震災では多くの人が無くなり、津波で家をなくし、避難所で生活していた人も多くいたことを覚えています。10年以内に「南海トラフ巨大地震」という大きな地震が来るといわれている今日では、今回のような発表は大きく意味のあるものだったと思います。いろいろ人の意見を取り入れた防災を知ることができ、とてもありがたかったです。ありがとうございました。

●災害時に準備すべきものについて具体的にイメージすることに繋がりました。日本は災害が多い地域と言われています。そのため、皆さんが調べ、伝えた内容は有事のための備えとして非常に大切になるものだと思います。避難所ゲームでは、個別的事情を抱えた人たちのことを踏まえた避難について考えているところが凄いと思いました。炊き出しの体験活動のように、身をもって災害時について学びを深める姿が勉強になりました。

●避難所ゲームを通して、避難所に訪れる色んな事象を抱えた人に対する対応をリアルに近い形で考えることで、新たな角度から避難所を見ることができ良い経験になったと思う。小学生のうちから炊き出しの仕方を知っていると、中高生になって本当の災害にボランティアに行きたいときに非常に役に立つと思うので貴重な活動だと感じた。

●避難所での生活について、しっかりと詳しくまとめられていてとても勉強になりました。必要なものや炊き出しについて、避難所には様々な方がいることなどとても詳しく学べていて、自分も学ぶことが出来ました。自分は実際に避難所での生活をしたことがありますが、その時はこのような知識を持ち合わせていなかったので、とても不便に思いました。この体験、知識を大事にして欲しいと思いました。

●身近な地域の断層などから着想を得て、社会貢献につながる活動を行うことができていることが素晴らしいと思いました。避難所ゲームなどの取り組みから、災害の時の状況をしっかりと想像して問題点を考えられているところもすごいと思いました。

●勉強したことの中で、意外と雨具やラジオが必要で長靴はあまり向かないのだということに気づいていました。また、避難所ゲームや、炊き出しの体験などを通して実際にその状況になった時の大変さを感じたと思います。いつ来るかわからない災害に備えて今回の話し合いの活動のようなものも含めて対策、備えをしていくことが大切なのだと思います。

●避難所で用意するといいものを紹介しているときに、何のためにその道具を用意しておけばよいのかがよくわかりました。実際にそのような場面に遭遇した時に役立つことを体験したり、お話を聴いたり、地震攻略ブックをつくったりして実体験から説明してくれているため、説得力があり納得しながら聴くことができました。

●実際に地震が起きたときに何が必要なのか、どこに避難すればよいのか知っているようで知らないことが多いということを、発表を見て学びました。災害が起きたときに最初に大切にすることは、「いのちを守ること」。私も心にとどめておきたいと思います。

会場③-6 【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校 4年西組

活動テーマ レジリエンストイレ体験、起震車体験、避難所宿泊体験全部自分たちでやってみよう‼

発表概要 信州大学教育学部附属松本小学校４年西組では、「避難所で困ることの上位はトイレである」という事実と出合い、避難の際の水栓を体験したり、高い確率で松本起こると言われている大地震を起震車で感じたり、その際、避難所になっている学校に実際に宿泊したりする活動を行ってきました。ただ調べた知識ではなく、問いをもって調べたことを実証してみることにより、実感の伴った学びになったことを紹介します。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　信州大学教育学部附属松本小学校　対象（４学年、児童３６名）

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（1）活動名　レジリエンストイレ体験、起震車体験、避難所宿泊体験、全部自分たちでやってみよう！！

（2）目　標

・レジリエンストイレ体験、起震車体験、避難所宿泊体験それぞれについて、自らの問いを設定し、その解決に必要な方法をはっきりさせながら計画、実行する。

・自分と異なった問いや追究方法をもつ友達の意見を生かしながら、協働的に探究活動に取り組む。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）

☐相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

☐有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）

☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力

☐未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度

☐多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度

☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDG s

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

（5）探求課題・活動実践の概要

「避難所で困ることの上位はトイレである」という事実と出合い,避難の際の水栓を体験したり,高い確率で松本起こると言われている大地震を起震車で感じたり,その際,避難所になっている学校に実際に宿泊したりする活動を行ってきた。その際、ただ調べた知識ではなく,問いをもって調べたことを実証してみることにより,実感の伴った学びになっていった。

３．流れ（指導計画の概略）と効果・反応・所感

・１学期：zoom によるオンライン授業の中で自分たちの家の周りの危険個所を Google マップを用いて探した。また、登校してきてからは、学校の周りの危険個所をタブレット等を使ってまとめるとともに、大学の先生や、地区の公民館長さんにその地区の危険箇所や避難所の説明を受けた。自らの家の周りや学校の周りを実際に歩いてみることで危険個所を身近に感じることができた。

・２学期：熊本地震でもっとも困ったこととして挙げられていた「トイレ問題」。そのことを調べていく中で、自分たちの小学校のトイレが災害に対応しているトイレであることを知る。それに応じてトイレを作った企業の方をお呼びし、その使用方法や効果についてのお話をしてもらった。プールからバケツで水を５リットルくみ取り、それを持って通常のトイレに流すことによって、その大変さを体感することができた。

長野県にとって身近な災害である地震、さらに松本市に通っている断層にも関連して、実際の地震に近い形で体験することができる起震車を呼び、クラス全員で体験をした。地震の揺れを体験するとともに、実際にはその揺れが予想できないタイミングでやってくることを理解することで、災害への備えをしようという心情を養った。

２学期末には、災害への備えについての学習から、自ら据えた問いを解決するために、指定避難所になっている小学校で宿泊体験をし、自らが計画した防災食を調理して食べたり、自らが作った段ボールシェルターで寝たりして、検証した。また、松本市の危機管理課の防災専門官の方にもお越しいただき、お話をいただくとともに、段ボールベッド組み立て体験や、クロスロードゲームも行った。自らの体で体験してみることにより、段ボールシェルターの不十分さや防災食の準備の大変さ等に気づくことができた。大人数で寝ることで、実際の避難所でのストレスもより感じることができた。

・３学期：宿泊体験を経て、自らの問いの検証からさらに発展させるために手作りの防災グッズを作る活動を行うとともに、年間の活動のまとめを行った。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
・地区の町会長さんのＮさん
・信州大学の横山先生

感 想

会場③-6 【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校 4年西組　発表を見た方からの感想

●レジリエンストイレのこと初めて知りました。大人でも、皆さんが感じたように災害時のトイレは大変だなと感じていましたが。予想以上にそんなに大変だとは思いませんでした。さらに、起震車や避難所宿泊体験のお話も実践的な学びでとても感心しました。ぜひこの調子でその学びをさらに実践的に深めていってください。ありがとうございました。

●レジリエンストイレや起震車の存在は知っていたけど、皆さんの発表を聞いて自分も体験してみたいと思えました。疑似震災体験を通してメリットやデメリットをまとめる等、実際に起きた場合を想定した分析も出来ている点が素晴らしかったです。

●スライドが非常に凝っていてびっくりしました。実際に、体験したことをもとにどうしたらよいのか自分で考えていたのがとても良かったです。最後に、「想像すること」が重要だということ聞いて、私も想像して地震に備えたいなと思いました。非常に参考になる発表をありがとうございました。

●実際に災害時に起こりそうな体験を行ってみることで、自分たちのこと以外にも、小さな子供や高齢者の目線を考えたり、災害の恐ろしさを見直したりするきっかけになったと思いました。また、実際に体験したことで、今まで持っていた考えが変わったという意見が多くありました。イメージや想像で物事を決めつけずに、わからない事や知りたいことがあれば、どんどん調べて体験してみてください。今回の発表のように、みなさんにとって深い学びにつながっていくと思います。

●発表ありがとうございました。レジリエンストイレの存在は知らなかったので勉強になりました。いつ起こるかわからない自然災害の対策を立てるために、必要な知識を、地震の揺れ体験や避難所宿泊体験などを通して身に付けられた様子が感じ取れました。もし災害が起こったときに落ち着いた行動ができるよう、必要な対策について今後も考えを深めていってほしいと思います。

●レジリエンストイレというものを初めて知ったため、勉強になりました。トイレの問題が一番困るということを調べ、どんなことがあるのかということを、興味を持って調べているのがいいと思いました。実際にやってみることで、気づかなかったことに気づき、メリットデメリットをわかりやすくまとめていたためよくわかりました。体験から、本当に地震があったときにどうするのかということを想像し備えることが重要ということに気付くことができ素晴らしいと思います。私も震度7を体験したことはないため、怖いと感じたとともに、備えが大切だと感じることができました。発表ありがとうございました。

●レジリエンストイレや起震車、避難所宿泊、非常食、ダンボールハウスなど多くの体験を経て、感じたこと、注意すべきことなど想像だけでは理解できない部分まで考えを膨らませていた点が良かったと思います。また、各体験を通して自分たちで気づいた点をまとめ、発表していたこともよかったと思います。

●素敵な発表ありがとうございました。皆さんの発表から、地震が起きたときの想像が足りていなかったことに気づき、改めて地震が起きたときにどのような行動が必要なのかをイメージしながら学ぶことができました。特に、起震車や避難所宿泊体験のように、地震のゆれを実際に体験したり、地震が起きたときの生活を体験したりすることで、地震の様子に対するイメージを膨らませることができましたね。地震によって松本市はどんな災害がおきそうなのか、人々はどんなことに苦労しそう家について調べ、もっともっと多くの人を地震から守ることができる工夫について考えられるといいですね。

●発表ありがとうございました。レジリエンストイレがどういったものなのかを体験したうえで、自分たちの実際の生活と照らし合わせ、災害時にはどのように活用して行くべきか考える姿勢が素晴らしいと感じました。また、非常食や段ボールベッドを体験して、メリットだけでなくデメリットを考えて実際に地震が起きたときに備えようとすることが大切なのだと感じました。私も南海トラフに備えて自分の防災を見直したいと感じました。

●私はみなさんと同じ小学校4年生のときに、東日本大震災を経験しました。私の住んでいた地域は震度5 強で、今まで感じたことのない恐怖と、何もできない無力感に襲われました。みなさんは経験したことない大きな災害について興味をもち、実際に起震車にのって揺れを経験し、そこから実際に災害時の備えを考えたりその時どう行動するかを想定したりしていて素晴らしいなと思いました。きっとみなさんの学びが役に立つと思います。

●友だちの声からどんどん深い学びに変化していったのが良いと思いました。レジリエンストイレを自分で体験してみたり、普通のトイレに必要な水を運んでみたりをしたことがない人にもレジリエンストイレのすごさが伝わる発表でした。起震車体験から、地震の備えの重要さに気が付いていたのもいいなと思いました。宿泊体験の結果から、メリットデメリットをまとめていたので「自分はどうしようかな」と考えながら聞いていました。私の家でも災害が起きたことのことを想像して備えようと思います。

●長野県は断層が多く、一度地震などが起こるとそれが原因で大きな災害が起きやすい地域です。そんな長野県で災害について調べ、その対策について研究してくれたのはとてもありがたい発表だったと思います。震災を実際に体験したり、作った防災グッズを実際につかってみたりなど、とても実用性に秀でた発表でした。今回の発表で教えてもらったことを活かして、防災に備えていきたいと思います。

●調べた内容を基に、探求する題材を定めているところが凄いと思いました。また、レジリエンストイレや起震車での実体験を基に災害対策の重要性を探求している姿が非常に印象的でした。今日の皆さんの発表をもとに、今一度自身の災害の備えを見直していきたいと感じました。これからも頑張ってください。

●アンケートの結果をグラフで示し、実際に自信を疑似的に体験してみた感想などが書かれていて、説得力のある内容になっていたと思います。また体験から考えたことを発表していて、ただ体験だけで終わ っていないという点はとても良いと思いました。

●スライドの中にもたくさん工夫があり、とても勉強になる発表でした。レジリエンストイレというものを初めて知れたので、とてもうれしいです。自分たちでいろんな経験をして、実際の地震を体験することで、地震の怖さや危険性を知り、日ごろの備えにつなげていけるとよいと思います。

●4年西組さんの授業を見学させていただいた時に授業予定の黒板に防災と書いてあり最初は何をするのだろうと疑問に思いましたが何度か見学に行くうちに活動が進んでいる様子を目にして見ているこちらもワクワクしました。本日の発表であった学校に泊まるという防災の体験的な授業も自分たちで何が必要かなど考えていて素晴らしいと思いました。

●災害の中でトイレに目を付けて深堀していこうという視線がまず面白いなと感じた。「レジリエンストイレ」というものを初めて聞き、普段のトイレより流しやすいという考察が意外だった。また「起震車」という言葉も初めて聞き、それに乗って地震を体験できたことは貴重な体験になったと思うので忘れないでほしい。その他、避難所宿泊体験や非常食体験など実際に震災しないと体験できないような内容を授業で行える環境がうらやましいなと感じた。

●起震車に乗って震度7の揺れ方や地震のすごさを体験したり、避難所での生活を模擬体験したりして実際に分かったことを分かりやすくまとめられてあり、とても見やすかったです。実際にこれから近い将来、大災害が起きたりすると思うので、起きたらどうしたらいいのか想像しながら生活していきたいと思いました。

●レジリエンストイレなど、普通の生活と比べることで震災の時のとこを学ぶだけでなく、安心して過ごせる普段の生活がどれだけありがたいことか学習することができるため、とても深い学習であると思いました。実際に様々な体験を行うことで、本当に地震が起きたことの時を想像するという具体的な学習の仕方にとても感動しました。また、想像するということは、学ぶ上でどの時でも必要不可欠であると思います。

●トイレに一番困ったということを知ってその対策を調べたり、避難所の体験や起震車の体験を通して学んだりしたことは、いつ起きるかわからない災害への対策になると思います。ほかにも学習の中で興味を持つ内容があった時に今回の学習のように調べたり、体験をしたりして学んでいけるといいと思います。

●元気で、分かりやすい発表をありがとうございました。自分たちで体験することを軸に、様々なことに興味を持ち、やってみる力が伝わってきました。これからも枠に縛られず、色々なことに挑戦してほしいと思います。「自分たちでやってみる」ということは、簡単なことではないと思うけれど、クラスのみんなや先生方と協力するからこそできることだと思います。やってみたいと思ったことを大切に、どんどん学びを深めていってほしいなと思います。

●長野県は、大きな地震が起きる可能性がすごく高いので、小学生の時に体験したこと、勉強したことを本当に地震が起こった際に、活用してほしいと思いました。非常食について、私はほとんど知識がなく、おいしくないのではないかと思っていましたが、様々な種類のものがあり、おいしいものがあると聞いて私も調べてみたいと思いました。

会場④-1

【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校

活動テーマ 持続可能な社会の実現に向けて

発表概要

附属長野中では、中1の総合的な学習の時間に、持続可能な社会に向けて必要なことを考える学習を行っています。個々の生徒が追究課題を設定し、調査活動をしたり、インタビューや講演を聞いたりしながら、自分の課題に対して答えを出していきました。今回の発表二人の追究を発表します。
①今後のエネルギー事情についての追究
②絶滅危惧種についての追究

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）　信州大学教育学部附属長野中学校　１学年　205 名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（１）活動名　「持続可能な社会の実現に向けて」

（２）目　標

①現代社会における諸問題に関する調査を通して、持続可能な社会の実現には、人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解する。

②持続可能な社会を実現するための問題を、自己との関わりで捉える。

（３）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☐連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）
☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☐コミュニケーションを行う力

（４）関連する SDGs

医療・福祉・教育グループ：３・４　食・農業グループ：１：２　平和グループ：５・10・16
環境グループ：７・13・14・15　経済・技術グループ：８・９

（５）探求課題・活動実践の概要

①10 年後の社会について考えよう。
・教育・医療・ＡＩ・環境・エネルギー・農業　など。

②ＳＤＧｓの観点で考えよう。
・グループによる調査活動

③ＳＤＧｓの活動を知ろう。「白馬ＳＤＧｓプログラムでの体験」
・白馬村の小水力発電事業　・白馬村×サーキュラーエコノミー
・農業からＳＤＧｓを考える（コンポスト）

④「問い」に対する追究を深めよう。（ヒューマン・ウィーク）

３．流れ（指導計画の概略）

４月　総合的な学習の流れを確認し、10 年後の社会の課題は何か考える。
５月　10 年後の社会の課題をＳＤＧｓの観点と照らし合わせ、問題を焦点化していく。
６月　調査活動→情報の整理→まとめ・発表→新たな「問い」の設定。
７月　ヒューマン・ウィーク（４日間の総合的な学習の時間）で、グループごとに体験・調査。
９月　学びのまとめ、学年発表会
10 月　学習発表会での発表
２月　信州ＥＳＤ・ＳＤＧｓ成果発表会での発表

４．効果・反応・所感

生徒は、それぞれが「人類の発展と生物の絶滅に関係はあるのか。」「戦争はなぜ始まるのか。」「ＡＩが何でもできる時代になるのか。」「地球温暖化を抑えるために私たちができることは何か。」などの問いをもって活動を始め、調査活動や体験学習を通して、自分たちが今できることをＳＤＧｓの項目に沿って考えることができた。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

【講演会・座談会】〇TOYOTA-U グループ　森田さん　〇八千代エンジニアリング　池田さん
〇長野市役所環境部　北澤さん　〇長野市教育委員会　市川先生　〇信州大学工学部　香山教授
〇信州大学経済学部　美甘教授　〇内科医　平野さん　〇JICA　北澤さん
【体験・見学】〇戸隠「花伝舎」　〇松代大本営　〇マルコメ株式会社　〇水力発電所
〇長野駅のユニバーサルデザイン調べ　〇長野駅でのウクライナへの募金活動

感　想

会場④-1　【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校　発表を見た方からの感想

●はじめに完結にロシアが何を求めており、日本や世界にどのような影響があるかを示せていたことが良かったと思います。また発表の時、ハキハキと話せていたためインターネット上ではありますが分かりやすかったです。また絶滅危惧種のところでは、プレゼンシートがわかりやすく内容が工夫されていて良かったです。心の中で頷いてくださいというように、聞いている人を参加させる形は工夫されていると思いました。

●ウクライナでの戦争が私たち日本人にも大きく影響があるというのは問題だと改めて感じました。最後に提示してくださった新たな問いに対して、どう調べていきたいか、なぜその問いが浮かんだのかを示したらもっとよい発表となりそうだと思いました。そしてどうやったら戦争を止めることができるかを考えたらもっと興味深い内容となるのではないかと思いました。ありがとうございました。

●ウクライナ戦争の原因、日本への影響をわかりやすくパワーポイントを用いてわかりやすくまとめていた。論の展開が順序が整っていてよかった。最後に新たな問いを見つけていたのがよかった。
絶滅危惧種の原因を紹介しているのが分かりやすかった。長野県にも人間の影響で絶滅した動植物がいることを知って、動植物の絶滅の問題は他人事ではないと思った。一方的に話すのではなく、聞き手も参加できるようなプレゼンだった。

●初めの発表では、ロシア・ウクライナ戦争の今後の展開や原因、日本への影響について詳しく調べていた。調べたことで問題に対する意識が変化しており良かった。また、発表の構成がわかりやすかった。次の発表では、生物の絶滅について、専門的なことにも踏み込んで調べており、身近な絶滅危惧種・絶滅種を例にあげることで視聴者にも危機感を持たせていて良かった。また、シナイモツゴについて初めて知り、ライチョウよりも絶滅の危険性が高いことに驚いた。次の行動を促していて良い発表だった。

●ロシア、ウクライナの戦争（侵略）に対して悲惨である。という認識で終わるのではなく、戦争によって引き起こされる小麦、半導体の高騰やそれに伴う金の高騰があるという世界で起こっている副作用的な部分に目を向けるのはとても大切なことだと思いました。またロシアについて一方的な見方ではなく多角的に捉えているのも物事を分析する際に大事なことだと思います。絶滅危惧種になってしまう原因とそれが原因で絶滅の危機にある生き物をワンセットで発表しているのがわかりやすかったです。絶滅危惧種の保護よりも、ほとんどの人にとっては自分の日常生活の方がはるかに大切だと感じていて絶滅危惧種については一か月に一度考えるかどうかというのが現状だと思います。絶滅危惧種のことを多くの人が自分事として捉えるための活動と、多くの人の協力がなくとも絶滅危惧種の保護ができる方法の二つ方針でアプローチが大事だと思いました。

●ロシアウクライナ戦争に関して今後の問題の可能性や戦争をする理由を参考にする人を上げた上で根拠のある影響を上げていたことが良いと思った。日本が戦争とどう向き合っていけばよいのか考えるきっかけともなった。絶滅危惧種のレッドリストの区分わけやこちらに問いかける発表が聞いている人に考えさせることができるので良いと感じた。また写真と名前を一緒に示すことで印象に残り身近に危機を感じることができるのではないかと考えた。

●ウクライナ問題についての発表:立てた問から、戦争が起こった原因から身近な問題について考えられていてよかった。保護生物についての発表:生物を保護するために、絶滅危惧種を調べてについて詳しく調べられていて良かった。また、調べたことから必要な保護活動にも参加していて良かった。

●ロシアとウクライナの戦争について私自身具体的な理由等あまり知らなかった為、発表を聞いて港を理由にロシアが戦争を行ったことを知ることができました。私達大学生も改めてウクライナ戦争について考えていく必要があると切に感じました。内容ももちろん、話も聞き取りやすく良い発表でした。
絶滅の危機に瀕している様々な動植物が現在どのような状況下に置かれているのか、また絶滅を避ける為に人々はどのような活動を行っているのかを知ることができました。ツクシカイドウやリュウキュウベンケイ等知らない植物もあった他、オオイヌノフグリが外来種であること等丁寧に説明しており、非常に勉強になりました。

●信州大学1年です。私には留学生の友人がたくさんいます。ロシアとウクライナの戦争によって、両国から来た留学生の仲も引き裂かれてしまいました。国同士、また世界の大きな問題であり、私たち日本人も影響を受けることと同時に、戦禍にいる人々は殺され、友情は破壊されています。武力征服は言語道断許されざる行為ですが、それを踏みと留めさせる力を国際社会は持っているのか。NATOは「仲間外れ」を生み出していないか。NATOや国連は現実的に有能なのか。このように感じています。
絶滅危惧種について、お恥ずかしいながら、スライドで紹介された動植物の名前をほとんど知りませんでした。「生物多様性を保全しなければ」という口だけの綺麗事を言うことは簡単です。しかし、実際にどんな動植物が絶滅しつつあり、それらがどう私たちの生活文化と関わっているのかを知らない限り、危機感を感じることはないでしょ

う。このような発表を通して、皆さんの意識を変えることが大切だと思います。ぜひ続けてほしいです。

- ロシアとウクライナの戦争についての発表は、ただ日本の立場で考えるだけでなく、戦争を始めたロシアの立場に立って見ているというのが良いと思いました。私自身ロシアが悪いと決めつけていた部分があったので、ロシアの立場で考えるというところを見習わなければいけないなと思いました。また、絶滅危惧種などについての発表では、発表していた方がたくさん調べてよく理解しているんだなということがとても伝わってきました。ライチョウとシナイモツゴの認知度と絶滅危惧種のレベルの違いがあるというのが、びっくりしたところでした。
- とても良い発表でした。特に、内容が終わったあとの質問の際にしっかりメモを取っている所や内容についての質問をしたところ、内容について質問されたらすぐに返せれるところなどがしっかりと理解出来ているのだなと感じました。
- ロシアウクライナ戦争に関しても絶滅危惧種に関しても、自分たちの生活に身近なところと結びつけてこれからのことを考えているのが素晴らしいと思いました。また、最初に話す内容を順序立てて話していることで聞きやすい発表になっていました。
- まず、皆さんがとてもはきはきした声で発表されていたので、内容が聞き取りやすかったです。ですので、ぜひもっと自信をもって抑揚をつけたり、間を使ったりするとより魅力的なプレゼンになると感じました。ロシアとウクライナの戦争というニュースをただ受け身でながすのではなく、理解しようと探究する姿勢が素晴らしいと思いました。実際に、ぽんすけ育成会の活動に参加しているという行動力にも感銘を受けましたし、できることから始めていこうという呼びかけにも説得力がありました。
- 発表の中では、絶滅危惧種を守る活動について紹介されていた。私はこのような活動が行われていることを知らなかったので、このような保護活動を紹介し、参加を呼びかけることはとても大切だと思った。また、最後に新たな問いを考えていてとても良かった。
- ウクライナとの戦争のことや、絶滅危惧種のことについてより詳しく調べ、またそこからの考察をすることができていてすごいと思いました。いまの自分たちにできることを考えられているという点が特に素晴らしいと思います。
- 平和ボケしている日本で、戦争について考えることは非常に意味があると思います。ロシアが不凍港を求めて戦争を始めるのは昔から変わらないですね。この戦争によってたくさんの影響があることがわかりました。はきはきとしていて聞き取りやすかったです。実際にぽんすけ育成会に参加した行動力に感心しました。参考文献も多くてよく調べたんだなと思います。スライドの字が大きくて非常に見やすか ったです。
- 全体として一人一人声が出ていて聞きやすかったです。ロシアウクライナ戦争についての発表はスライドの内容も問題発見から考察し、新たな問いを導き出すなど論理的な説明でわかりやすくとても良いと思いました。また、生物多様性に関する発表では、聞き手へ反応を促し、問いかけ、そして絶滅する可能性のある動植物の名前だけでなく写真も提示するなど、聞き手の興味関心を誘うだけでなく理解に配慮した発表でとてもわかりやすかったです。
- シナイモツゴのような知名度の高くない絶滅危惧種がより注目されていくといいなと思いました。日本固有種を守るためにも、まずは自分の住んでいる地域にはどんな生物がいるのか知り、外来種を無責任に野に放つことでどんな影響がそれらの生物に与えられているかなど自分たちの行動について考えることが大事だと思いました。シナイモツゴやライチョウは一度でいいので生きている自然個体が見てみたいです。
- 発表中の姿勢に関して、ただ原稿を読み上げるのではなく、緊張しながらも楽しみながら発表を進めている様子が伝わってきて非常に好感が持てました。オンラインでは意識を向けることを忘れがちな聴衆側のこともきちんと気にしているところが良いと感じました。また、発表のスライドもとても見やすく、参考資料もちゃんと提示されているところから、準備や発表の予備知識をしっかりしていることが分かり、この発表の日を大切にしていたことが伝わってきて良かったです。私もその姿勢を見習いたいです。

会場④-2 【福島県】只見町立只見中学校

活動テーマ 地域とともに学び続ける中学生　～山あいから海を守る活動を通して～

発表概要 中学生が始めた海を守る活動。校内だけの取組では限界があることに気づき、地域を巻き込むようになり、実際に活動を始めた。また、自校生徒の意識についても温度差があることを知り、その見直しを図っている。先輩方が取り組んできた活動を伝統として受け継ぎながら、校内や地域の問題点解決に向けて日々悩んでいることを共有する。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）
福島県　只見中学校
２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
（1）活動名　地域とともに学び続ける中学生～山あいから海を守る活動を通して～
（2）目　標　俯瞰的に物事をとらえ、自ら意欲的に探究する心を育てる。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　□他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDGs
１３　１４　１５　１７

（5）探求課題・活動実践の概要
3 年前より始めた海洋の視点を入れた ESD を行ってきた。学校内だけの活動でなく地域を巻き込むことにより地域包括的に発信活動を行ってきた。具体的には、子どもたちが新聞紙レジ袋や米袋をつくり、地域で利用してもらっている。また、ペットボトルの利用制限を呼び掛けている。プラスチックの利用抑制を上流に住む私たちが留意することで、環境改善を行ってきた。日ごろ目にすることがない海をきれいにすることで、俯瞰的に物事をとらえ地球規模で考え行動することを地域の方と一緒に活動してきた。

３．流れ（指導計画の概略）
活動の中心は生徒会専門委員会の SDGs 委員会（1～3 年生　17 名）が行っている。地域との窓口にもなっており、毎週の活動としては利用してもらっている店舗との在庫確認、地球（海や地域の）環境改善の啓蒙活動を行っている。教育委員会に協力してもらって地域住民にレジ袋作成教室を行ってきた。ゆくゆくは地域の特徴となるようにしていき、地球環境を常に意識できアンテナを高く保てる人材育成をしたいと考える。

４．効果・反応・所感
良い面と改善すべき面が表れてきた。1 年生は活動自体が新鮮であるため、素直に取り組む生徒が多いが、学年を追うごとに意識が高い生徒とそうでない生徒に分かれてくる。地域の大人も同じ傾向があって二分化する傾向がある。自分事にできるよう、随時発信していくことが必要だと感じる。

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
教育委員会が主導で地域の企業と中学校が連携協定を結ぶことができた。これをきっかけに多くの人に中学校の活動を知っていただくようになった。この協定が形骸化しないよう、時折協力を求めたり発信したりする必要がある。

感 想

会場④-2 【福島県】只見町立只見中学校　発表を見た方からの感想

●只見町の地形に着目して課題を探しているところに説得力があった。PET FREE MONDAYの取り組みは取り組みやすく、非常に良いと思った。マグネットを作成したり、放送や学級で連絡をしたりすることで、全校で取り組みやすくしている工夫が分かった。また、活動が地域に良い影響を与えているのもすごいと思った。

●新潟の海にあったプラスチックごみを見て、上流に住む自分たちに原因があると考えられるのは素晴らしいと感じました。私は海から遠いところに住んでいたら、海にそもそも興味が湧かないだろうと思い、地元が新潟である私はプラスチックごみに対して問題意識を持ってくれていることにうれしく思いました。ありがとうございました。

●身近な問題から少しずつ初めて、その原因を探り解決策を考え、それが地域にも広がっていった様子がとても良かった。PET Free Mondayという誰もが実施できる取り組みを行っていて非常に興味を持ち、自分も取り組んでみたいと思った。

●海から離れていて山に囲まれているという点は、私の住んでいる長野県と似ています。そのような場所に住んでいると海というのは何となく遠い存在に感じてしまい、自分には海野環境は関係ないと思ってしまう人も少なくないと思います。海洋プラスチック問題が自分たちにも責任がある問題だとしてとらえ、その中で海に着目した点が視野を広く持てているということだと感じました。私は部活をやっているので練習のある週4回は必ずペットボトル飲料を飲んでいます。今回の発表を聞いて、未来の環境を守るためにも自分ができるところから協力していこうと思いました。

●発表を聞いて、自分もペットボトル廃棄率や消費量を下げにはどうしたら良いか考えてみたけど消費量を下げるのは中々難しいことだと感じました。飲料はほとんどがペットボトル製品で作られているためです。ただリサイクル率を高めることは消費者の意識を変えることで実現できそうだと思いました。ペ ットボトルの消費率を下げるのは販売企業にペットボトル以外の容器も販売する訴えをすることが必要で、リサイクル率を上げるのは消費者に訴えかけるのが良いと考えました。ペットボトル問題について考える機会になりました。ありがとうございました。

●地域の説明、自分たちの学習のきっかけなどの説明があり、わかりやすかったです。また、活動の真剣度が伝わってきました。地域の人のアイデアを取り入れながら活動するのは良いですね。続けて頑張ってください。

●地域に関連した問題発見に加えてグラフで積雪量を見やすく表したり、キーワードをあげたりして消費者と販売者のどちらにも及ぶ影響も考えながら出したアイデアがとても画期的だと感じた。またマグネットを使った目に見える取り組みやすい活動にしていくことが大切だと学んだ。

●・自分達の故郷を永久に残すために、活動をしているのが良かった。
・データから考察して、対策を練っていたので良かった。
・pet free Mondayを実施しただけではなく、実施した後も、どれぐらいの生徒が実施したのかを後日調査し、調査結果から再び新たな課題を発見していたのでよかった。

●私は現在長野県に住んでおり、海洋汚染と関係がないと考えていましたが、今回発表を見てプラスチック問題の解決には私達海無し県の人間もペットボトルの削減をすることが重要なのではないかと思いました。Pet Free Mondayの方法は私でも実現可能な方法なので、実際にやってみようと思いました。とても興味深い発表でした。

●SDGs委員会があるのですね。私もそのような委員会活動をしてみたかったです。「Pet Free Monday」「のまんでい」とても覚えやすいですね。小さな積み重ねが大切だと教えてもらいました。そして、急激に「ペットボトル全面廃止を‼」と訴えるのではなく、ペットボトル飲料の販売者の配慮をしっかりとすることで、より多くの人から協力を得られるのだと気づかされました。「Pet Free Monday」「のまんでい」私も始めてみます。

●海洋ごみの阻止に対して、上流から対策していくという意識を持っていることが素晴らしいと思いました。また、「ペットボトルは悪→生産しない」のような極端な発想に走らず、PET Free Monday（使用を減らす）という現実的な取り組みを考案しているところもよいと感じました。今後の展開ですが、海洋汚染を身近に感じさせることは難しく、プラスチックを使用しないことに直接つなげることは骨が折れるかと思います。ペットボトルの使用を控えることで人間にどんな利益があるか（あるいは使用するとどんな害があるか）を宣伝すると意識を高められるのではないでしょうか。

●Pet Free Mondayの取り組みがとても良いと思ったので、私も取り組んでみようと思いました。学校で取り組んでいることが、学校内にとどまらず地域にも良い形で広まっていっているのが素敵だなと思いました。私も、お

話を聞いてぜひ取り組みに参加したいと思ったので、私の周りの家族や友達にも広めていきたいなと思いました。

- 月曜日にペットボトルを出さない取り組みをする所が呼び掛けだけでは無い、直接の行動に出ているので素晴らしいと感じました。目をつけたところも地域を巻き込むという点で、よりSDGsによい影響を与えられると感じました。
- 地域の方の意見を取り入れたり、取り組みを地域委に向けて発信したりと、自分たちの力だけでなく周りと協力することで、できることが広がっているのを感じました。グラフを用いた発表でわかりやすかったです。今回の発表を受けて自分の意識も変えていこうと思います。
- PET Free Mondayという活動が広がるために、マグネットを作ったり、声に出したくなる合言葉をつく ったりというユーモアのある工夫が素晴らしいなと思いました。初めて聞きましたが、私も早速取り組んでみたいという気持ちになりました。決して負担にはならない、けれども積み重ねれば確実に効果のある対策に着眼している点も良かったです。また、発表が全体的に安定していて、とても聞き心地がよかったです。
- PET Free Mondayなどの活動を行なって、中学生である自分たちの意識の変化だけでなく、地域の人々までにも影響を与えている点がとても素晴らしいと思った。また、活動を行なった後に、生徒の意識がどう変化したかのアンケートを取っていたのも大切なことだと思った。
- 現在の地球の環境を考えて、まず現状理解をし、そこから課題などを出してそれについて考えるという流れができていて論理的だと思いました。提案するだけでなく、自分たちにできることも明確に提示していたためとても理解がしやすかったです。
- 自分たちで考え取り組むことがまずすごいことだし、さらに身近な取り組みが地域にまで広がっているというのがすばらしいことだと思いました。私自身中学校で取り組んだことが地域に広まっていったという経験はないのでとてもいい経験だなと思いました。
- 地元の環境変化から地球温暖化について考えを深め、解決のために人の意識に注目した取り組みを行いその行いが農家の行いをも変えていく、他者に影響を与え行動をさせることはなかなかできることではないのでとても素晴らしいと思いました。
- 海を守る活動の一環として行っている、一週間に一日ペットボトル飲料を一切飲まない取り組み「飲まんデイ」（名称が色々挙げられていたのでその一つを選びました。）について聞いて、環境問題に関する取り組みは小さいことでもなかなか浸透させることは難しいということを痛感しました。こういうことは、実際に取り組みを発信する側にならないと分からないと思います。取り組みに関して、芳しい結果が出なくても、マグネットを作成して配布するなど工夫して、改善に向かって励んでいる姿勢が良いと思いました。
- 只見町という海から遠い山あいの場所で、海を守る活動を考え実行するというのは、同じ山あいの長野県に住んでいる自分には全然ない発想だったので、非常に感銘を受けました。海洋プラスチックなどに問題意識を持ってはいるけれど、私は何も行動に移すことはできていないので、本当に只見中学校さんの活動は凄いことだと強く思いました。離れた場所であっても、責任をきちんと自分に見出す素晴らしい姿勢が、現在のそしてこれからの私たち全員に必要なのだと感じました。PET Free Mondayの取り組みは、きちんと実現可能性を考慮したものであり、よく考えられているなと思いました。また、実際に只見中学校の皆さんの活動が、大人を、地域を動かしているという事実に、SDGsを達成するための兆しを見ることができました。
- 県外である新潟県の海の問題を他県である福島県の責任でもあるという責任感に圧倒されました。PET FREE MONDAYのごろ遊び面白かったです。マグネットを冷蔵庫にはるという発想は非常に素晴らしいと思います。地域の方々と協力していて、実現がより広がったのだなと感じました。教室で地道に呼びかけている姿はカッコよかったです。QRコードで、パワーポイントがいつでも閲覧できる考えはいいなと思いました。これからもペットボトルの取り組み頑張ってください。応援しています。

会場④-3 【長野県】上田西高等学校

活動テーマ 上田西学びプロジェクト（UNMP）& 国際交流

発表概要 生徒会が主体となって開催する上田西学びプロジェクト（UNMP）では、SDG s のゴールに沿った講座を生徒自らが考え、開講しています。外部講師を招いたり、関連施設等実際の現場を見に行ったりと主体的な学びを深めます。また、今年度国際教育の面では、日米の学生の交流サミットへの参加、フィリピンやオーストラリアをはじめとする留学プログラムの再開があり、留学生が行き来しています。

感 想

会場④-3 【長野県】上田西高等学校　発表を見た方からの感想

- 修学旅行や文化祭など様々なところでSDGsを意識した活動が行われていて、その時だけ意識したSDGs活動でなく、長期的に取り組めていてよいと思います。地域で行われているSDGs活動について知るだけでなく、実際に参加することでより理解を深めようとしている点もよかったと思います。
- UNMPという生徒の課題意識からスタートして学習の場所を提供するという取り組みがすごいと思った。SDGsなど学校で体験できないことを学ぶ場になっていると思った。またグローバルサミットという外国の学生と関わるプログラムに参加し、言葉が国と国を繋ぐことや多様性、自分から行動することを学んだようでよかった。
- 木材を余すことなく再利用していて無駄がないように環境に配慮していると感じた。また自分の手で木について知識を得ることで実際に感じた問題や考えが生まれることを学んだ。くるくる市の活動を通して再利用する場だけというわけではなく、コミュニケーションや人とのつながりも感じることの新発見を活かして地域の活性化にもつながると考えた。外国とのつながりを持つ中で外国と日本の違いや、外国の人が、日本人が気づかない発見をすることもできると思った。
- 実際に木を伐採し、流木を使用したアートを作成するなど行動に移して木の保全の大変さを考えており、とても良いと感じました。また、くるくる市を行うことで地域の方々同士でコミュニケーションをとることもできていた点が地域活性化にも繋がり非常に興味深いと感じました。
- UNMP、高校生でも行動を起こせるのだな、地域に影響を与えられるのだなと感動しました。自分にと っていらないものでも、別の人にとっては価値あるものかもしれませんね。改めてリユースの素晴らしさを感じました。私も最近、留学生と交流する中で、似たような体験をしています。日本人としてある社会問題について意見を求められたときに初めて、自分の無知や無関心を思い知らされました。このような経験を高校生のうちから出来るのは本当に恵まれていると思います。出会いを大切にしてください。
- くるくる市や留学生との交流など、学校の方針により他校よりも特別な活動が多いのだと思われます。さらにその体験を通して次に何をするか、自分たちなりに新しい活動を考えるとこれからの学びに生きるかと思います。
- 留学の際の話を今の SDGs に結び付けて考えており、すごく分かりやすかった。更に、受け答えがハッキリしておりわかりやすい、理解しやすいイメージだった。文化祭の話を聞き、工夫を凝らして努力していることに素晴らしさを感じ、これからも生徒会活動を頑張って欲しいと感じた。
- 同じ上田市の高校でしたが、西高校の取り組みについてあまり知らず、今回さまざまなプロジェクトへの取り組みを知りすごいなと思いました。文化祭というみんなの目に触れやすい場を活用するのが良いアイデアだと感じました。海野町は高校時代の通学路だったため、「くるくる市」に興味を持ちました。
- 流木を利用して作品を作ったり、薪を自分たちの手で準備したり、自然と直接的に関わるという活動は、自然環境への愛も育まれる素敵な時間であると感じました。SDGsのなかでもどの目標を達成したいかを明確にして取り組んでいるのも素晴らしいと感じました。また、国際交流に果敢に飛び込んでいく姿勢に感銘を受けました。多様性への注目度が高まっていることを実感したり、文化の違いを学んだりと、それぞれが貴重な気づきを得ているのが伝わってきました。
- それぞれの生徒が、活動によってどう考え方が変化したか、物事を見る目が変化したかを話していて良かった。特に国際交流を行うことで、自分だけでなく交流相手の意識や考え方も変化させているのではないかと考えた。
- 自然保護は誰かひとりの力ではなしえないことであり、いうのは簡単だけど実際に保護活動をするのは大変だというのを改めて認識しました。SDGsの「くるくる市」の取り組みは作る責任使う責任という私たちにとても身近に実感できるターゲットの取り組みで興味深かったです。またグローバルな取り組みを高校からできているのはうらやましいしその経験が今後の多文化共生について考えていかなければならない時代にとってとても大切な経験だと思う。私自身もそのようなグローバルな経験をしたいとも思いました。

●文化祭のテーマや修学旅行でSDGsを取り入れることで、楽しみながら学べる点が非常に素敵だと思いました。くるくる市では、まだ使えるものを交換するのはフリーマーケットやバザーとはまた違って面白いと思います。ゆっくりとした話し方で聞き取りやすかったです。国際交流では、楽しんでいる様子が伝わってきました。

●SDGsについて考えを深める上で、事前学習や実習を行って実際に体感してみる、交流するという行動力が素晴らしいと思いました。そして体験、活動するだけでなく、経験を通して考えを深めている点でも素晴らしいと感じました。

●人間が関わることで自然が保たれる場合もあれば、破壊される場合あることを再度確認できました。私の母の実家の地域でも農家をしている人が少なくなり、それに比例してタガメやゲンゴロウ、トウホクサンショウウオなどが減ったと聞いています。また、森林で伐採などの手入れをしていないと山がやせ細っていき、森に入ることが危険になった地域もあるということを聞きました。町中に住む私のような人ではあまり実感がわかないことかもしれませんが、そのような問題があると知ることがとても重要だと感じました。ちなみに、私の地元の山形県では捕食者が極端に少なくなったことでニホンジカが増えすぎて、農作物被害が年々増加しているそうです（カモシカの食害も意外と酷いようです）。

●上田西高校の学びプロジェクト、国際活動に関する話を聞いて、言葉の壁を恐れずにアジア圏、欧米圏などの様々な国の人たちとコミュニケーションをとって交流していることがすごいと思いました。国際交流はやりたいと思っても、実際に取り組む勇気がある人はなかなかいないので、自分たちで国際交流の機械を探し、自分たちから積極的にコミュニケーションをとろうする姿勢は素敵だと感じます。グロ ーバル化する社会の中で、学生の内からこういった経験をすることは非常に大切だと思いました。

●くるくる市というものを初めて知った。困っていることを相談できる場が存在していることは非常に価値があると思う。物を大切にしたい。オンライン交流の経験を聞いて、言葉の壁を越えた関係は素敵だと感じた。私も大学に留学生の友達がいるが、国による違いや共通点を見つけて話すことは楽しい。今後も国を超えた交流は大事にしたい。

●地域と絡めたSDGsを行い、海における廃棄物の対策を学校でしながらも統計でまだ改良点がある部分を見つけ出し、これからさらに良くしていこうという意気込みがとても伝わってくる話でした。これからも頑張って欲しいです。また、国際交流なども行っており、幅広い経験を行なっていて素晴らしかったです。

●私は昨年上田西高校を卒業したのですが、こんなにSDGsに則した活動をしていることを知りませんでした。文化祭や修学旅行で、ただ楽しむだけでなく、SDGsに通じる学びを大事にしているのが凄く良いなと思いました。UNMP も、受動的ではなく、生徒の課題意識から学びがスタートしているのが素晴らしいなと思いました。くるくる市では、地域の人たちの交流がなされており、一体となってSDGsに向けた取り組みができるのが良いと感じました。国際分野においても、想像以上に幅広く、深い交流が行われており、感銘を受けました。国内の狭い環境だけでなく、グローバルな環境においてSDGsを考えていくことは、非常に意義のあるものだと感じました。何より、皆さんが楽しんで学んでいる姿が素敵でした。

●立木でログリーチや展覧物を作ることはいいアイデアだなと感じました。SDGsについて修学旅行を通しても学んでいて素晴らしいと思います。UNMPという授業では学べないことを学ぶことができる取り組みはうらやましく感じました。くるくる市を通して、物を簡単には捨てずに、大切にしていることは非常に大事だなと感じました。

●こちらの発表を聞いて、自然や環境の保全は一人ではなくたくさんの人で力を合わせていくことが必要であるということを学んだ。「UMMP」という授業ではない学びの場を用いて、まだ使えるものをみんなでぶつぶつ交換をするといった形の「くるくる市」の活動も印象的であった。地域のみんなで悩み事や相談を打ち明けるなどの木か気があることは非常に生きていくうえで大切なことだと感じる。そのような活動に携わることは誇り高いです。応援しています。

●修学旅行や文化祭など、日々の活動から環境のことを考え、実行しているのはとても良い取り組みだと思いました。上田西高校の皆さんは体験してみるということを大切にしていると思い、SDGsを身をも って体験していると感じました。これからの皆さんの活動を期待しています。

●木材を作品にしたりその作品をキャンプファイヤーで使ったりと、最後まで有効活用していることが良いと思いました。また、実際に自分たちで木を切ることで気づきにつながると思いました。くるくる市を通して、物を捨てるのではなく、相談することや譲り合うことが大切だということを学ぶことができているのだと思いました。台湾オンライン交流会では、言葉の壁を乗り越えて交流を楽しんでいるようすが印象的でした。ほかの国の人と交流することで日本とは違った文化を知ったり多様性を学んだりすることができるため、良い取り組みだと思いました。

会場④-4 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校1年生

活動テーマ LGBTQについての課題

発表概要 中2から探究し続けているのが、制服をジェンダーレスにすること。形だけを変えても、社会が寛容にならなければ意味がない。今年度は、同性婚やパートナーシップ制度などの法的妥当性と人権の関係を探ります。

感 想

会場④-4 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校1年生 発表を見た方からの感想

- 婚姻やパートナーシップ制度は何か、しっかり定義があり分かりやすかったです。また違憲判決など社会の出来事を取り入れていて良かったです。個人モデル、社会モデルという難しい概念をしっかり理解できているのが素晴らしいと思いました。性の定義を広げるというのは面白い考え方で、その根拠を示せていたので説得力がありました。
- 同性婚はともかく、パートナーシップ制度までをも認めないことは個人の尊厳が考えられていないのではないかと思い、LGBTQに対する認識が日本ではまだまだ足りないことが原因となっているのだろうと発表を聞いて考えることができました。発表の中で提示されていた戦力の話はとても分かりやすく、同性婚を認めることができないでいる人にも説得力のある例だと思いました。ありがとうございました。
- 婚姻について、性はグラデーションであるにも関わらず同性婚が認められず、個人の尊厳が認められないという難しい問題を取り上げていて、すごいと思った。インクルージョンや社会的障壁、公認されないグリーフの問題まで目を向けていることに研究の成熟性を感じた。
- 日本での同性婚について、法律上の解釈や制度から始まり、専門的な領域に踏み込んで深く調査をしており自分も勉強になった。疑問を持ったことについて当事者インタビューを行って学んでいたことも良かった。また、具体的な解決策や今後の課題もあげており良い発表だった。
- 同性婚について自分たちで調べている中で、自分たちの考えが深まっていてよいと思います。平等の考え方について今まで私ははじめに提示された2つの選択肢しか持っていませんでした。3つ目のバリアを作らないという考え方が新鮮なものでした。同性婚について自分はどう考えるかと考える人は多いと思うけれど、それを憲法レベルにまで持っていって考えている点が問題を現実のものとして解決しようとしているのが感じられました。
- 民主主義社会である日本においてマジョリティーが同性愛の結婚について問題意識がなければ何も変わらないと思いました。同性婚が認められるようにするとともに結婚しなくても結婚と同じような効力をもつ制度の拡充が必要だと思います。同性愛についての偏見からカミングアウトできない現状も問題だと思います。同性愛に偏見がない人たちでコミュニティを構築してそこでインクルージョンな社会を作ればいいのかなどのことを考えました。素晴らしい発表をありがとうございます。
- さまざまな意見が飛び交うLGBTのことについて考察を含めながら発表できていました。さまざまな観点から考えさせられる発表でした。色々な意見を聞きながら学びを深めていけると良いですね。
- パートナーと家族になれる国はあるが日本に関して憲法を用いながら婚姻の規定を説明し、パートナーを家族として認める新しい制度や個人モデルや社会モデルを比べて区別することでこれからの問題や自分たちがどのような理解や見方でとらえればよいのか視聴者側に自信の考えを生じさせる発表になっているのが素晴らしいと感じた。
- 同性婚に関して、様々な視点から考察されていて良かった。実際に当事者にインタビューに行ったことによって、当事者や現状に対しての理解が深まっていて良かった。高齢の方と若年層の間での、同性婚に関する認識の差について、様々な根拠を立てていたのでよかった。
- LGBTについて現在の状況や過去の事例などをあげて詳しく説明しており非常にわかりやすい発表でした。LGBTは我々にとっても身近なジェンダー問題である為私達大学生もLGBTに関するジェネレーションギャップを埋められるよう努力していきたいと感じました。
- 同性婚について私も興味があり、調べたことがあります。発表にもあったように自治体規模のパートナーシップ制度では不十分だと思います。多様な人々が共生するために、同性婚を認めるのは必要不可欠です。また、公正を「個人に合わせて補助をする」のではなく「そもそもの壁、障害となるものを無くす」という考え方、また法解釈の余地の存在、好事例など、新しい発見がたくさんありました。大変勉強になりました。今後も活動の成果を聞きたいです。来年度から長野市に住むので、活動を見学出来たらなと思いました。

●同性愛の問題について現状を確認し、法的根拠に基づいた論理的な指摘と改善案を考えていてしっかり研究されてきたのだと感じました。同性婚以外でジェネレーションギャップを埋めた先行例などの紹介があると、結論に説得力が生まれるのではないでしょうか。また、法改正については選挙に行く人の年齢に偏りがあることも考慮する必要があるかもしれません。
発表に関して、先にそもそも婚姻とは何かという定義を示してくれたおかげで内容が理解しやすかったです。図の使い方も理解を手伝ってくれましたし、話し方もはっきりしていて聞きやすく、一番発表が上手でした。内容も発表ともに参考にしたいです。

●私自身ジェンダーに関心があったので、とても興味深く聞かせていただきました。ジェンダーの認識にはジェネレーションギャップがあるというお話に、とても共感しました。私も、ジェンダーに関して祖母との間にギャップを感じることがあります。共通点を探していくことで受け入れていくことができるようになるかもしれないというお話が、これからにつながっていきそうなとても良い考え方だなと思いました。

●今問題となっている同性婚の話を、調べ学習だけではなく、インタビューなども通してまとめておりわかりやすかった。平等と公正の違いについても触れていて「理解してあげよう」ではなく、「普通のことなのだ」と捉えられていて素晴らしいと思った。

●1年生とは思えないほど堂々とした態度でハキハキと話していたため、とても聞き取りやすすい発表でした。何事も決定する立場の役人の意識が低いと変わっていかないというのには共感しました。高齢の方との共通点を見つけるというのは想定外の発想で驚きました。ジェンダー問題の当人だけでなく、社会全体で考えていく必要がありますね。

●個人的に、大学でジェンダーについての授業を受け、同性婚について自学をしていた時だったので、とても興味深いテーマでした。公正とは何かの考え方の例え方がとても分かりやすく、個人レベルではなく社会全体としての取り組みの重要性を感じました。そのためにも、自分たちの世代だけでなく、ジェンダーギャップに着眼し、それを乗り越えられる可能性があることを発見していて素晴らしいと感じました。

●マイノリティにとっての平等な機会とはどのようなものか、さまざまな観点から考えたり、インタビューを行なったりすることで考えを深化させていることがわかった。また、考える中でどんどん疑問を生み出しそれに対してもさらに追求しているところが良かった。

●平等と公正さらに個人モデルの公正と社会モデルの公正というそれぞれの考え方がとても分かりやすく説明されていて聞いていてすんなり理解できた。法改正や教育、価値観など様々な視点から同性婚について考えられており素晴らしいなと思いました。平等と公正さらに個人モデルの公正と社会モデルの公正という考え方は多様性の考え方が必要だと言われている時代に大切な考え方だと思いました。解決策まで考えているのが素晴らしいと思いました。

●ジェンダーについて詳しく調べ、わかりやすくまとめられていました。憲法や判例を根拠に説得力のある発表をしていて大学の講義のようでした。とても見やすいスライドです。うわべの知識ではなく、当事者の方や支援団体の方と交流を持ち生の声を聞けたのは探究を進めるうえで非常に重要な経験ですね。

●なぜ、同性婚が日本で認められていないのかよく考えるきっかけになりました。私はニュージーランドのモーリス・ウィリアムソン元議員が2013年にニュージーランドの首都の議会で行った演説が印象に残っています。「同性婚を認めても世界は続いていくし、生活に悪影響はない。」といった発言をされていましたが、本当にその通りだと思います。日本ではいまだに、年代によって考え方が大きく異なっていることが大きな問題なのだと、今回の発表からわかりました。

●LGBTQの課題についての発表を聞いて、昔、発行された広辞苑には同姓を恋愛対象として見ることは異常であるといったことが書かれていることを知って衝撃を受けました。人々の認識の違いだけではなく、辞書でさえ同姓愛を異常だと示していたという事実を知り、世代間で同性婚に対する見方が異なることにも納得がいきました。でも、だからといって仕方がないで済ますのではなく、認知症と一緒にLGBTQについて学ぶ活動を取り入れる工夫がされており、知る機会を設置していることが良いと思いました。

●同性婚など性に対する問題を、憲法や裁判所の判決などの様々に適した情報から論理的に考察しており、非常にレベルの高い発表だと感じました。「両性」が議論の余地のあることを、現在の性の価値観や、自衛隊という別の例から説明しており、とても分かりやすかったです。また、発表を聞き、ジェネレーションギャップが昔と今の教育の違いによるものであるのなら、大人に対しても適した教育が今からでも必要になってくると考えられるようになりました。その例として、共通点をうまく利用することで高齢者にLGBTを考えてもらうきっかけをつくったものが挙げられており、今からでもジェネレーシ ョンギャップを埋めることが実際に可能なのだと分かり、とても勉強になりました。

会場④-5 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校2年生

活動テーマ ナノプロ！～耕作放棄地に新たな役割を～

発表概要 長野市の観光振興を考えているときに知った、耕作放棄地の問題。観光農業として復活できないか模索する中で出会ったのが、長野市長沼地区のひまわり畑でした。この畑の持ち主さんとの交流や、仲間たちの協力、耕作放棄とはいったい何なのかを探究しました。

感 想

会場④-5 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校2年生　発表を見た方からの感想

- インタビューなど人と接するやり方は、配慮しないといけないこと考えないといけないことがたくさんありそれを学びとして紹介していたことが良かったです。また、なのプロで、人とのつながりや復興について感じたこと、芽を見つけた時の感動など客観的かつ主観的な観点からも物事を見られていて良か ったです。
- 被災地の方にインタビューするにあたって、「つらいことを思い出させてしまうのではないか」との配慮をすることができるのは素晴らしいと感じました。また、耕作放棄地を活用して観光地にすれば人をたくさん集めることができるのではないかという発想は、人口が少ない地域でとても役に立てそうだと感じ、これからも地域のために動いていってほしいと思いました。ありがとうございました。
- 被災者の気持ちに寄り添って取材や調査をしているのがよいと思った。地元や人を巻き込むことで大きな力が起こることを学び、そしてそれを体感していた。自分たちができることで長沼を住みやすくしようとしている姿勢がとても伝わってきた。
- 耕作放棄地について、具体的な数字を用いて問題提起しており危機感を抱いた。また、身近な解決例を調べ、そこから長沼地域にインタビューに赴いて被災者の本音や現場の様子を学んでおり、探求的に行動していて良かった。プロジェクトを通じて耕作放棄の意味を理解し、菜の花畑を人と人とが繋がる場所として作っておりとても素敵な活動だった。自分も参加してみたいと感じた。
- 私も高校時代の総合の授業で長野県の観光について追及し、季節を感じられるものが観光客を集めるためのカギであることを結論として導き出しました。私は観光をテーマに調べ始めましたが耕作放棄地というテーマと観光資源をつなげたことが表面的につながっているように見えるものだけでなく、視野を広く持って追及できたという良い点だと思います。
- 耕作放棄地については今までほとんど考えたことがなかったので、とても興味深い発表でした。耕作放棄について自分は活用できるのに人手不足で無駄になってしまっている地という認識しかなかったが、耕作放棄地となっている畑には先祖代々の思いが詰まっているという視点を持つことができました。
- 被災者の本当の気持ちなどを取り入れて発表してくれたおかげで、画面の裏の現状を知ることができました。これから先、そのことも意識しながらニュースを聞けそうです。一つ一つのことをよく考えていて、深い考察ができていて感心しました。これからも頑張ってください。
- 課題を解決するために自然と観光を組み合わせることの画期的なアイデアを生み出すだけではなく、その活動の参考になる人に実際にインタビューをすることでその当時の様子やこの活動に至るきっかけなど、地域を巻き込むことで大きい企画を立てることができると学んだ。またその活動は決して簡単なものではなく、体験してみないと分からない大変さや困難さを感じたことが伝わった。
- 放棄された田畑を、花などを植えて観光産業として再利用しようとする考えは素晴らしいと思った。さらに、放棄された田畑を再利用することは様々な懸念点があることを考察し、多角的に何をするべきか考えられていたので良かった。
- 耕作放棄地について知らなかったので、今回の発表で耕作放棄地を大切に有効活用することが被災地復興の手がかりになる事を知りました。社会全体で本来の意味で被災地の為になる復興支援を行う事が必要なのではないかと強く感じました。
- 台風19号の厳しい現実を生きている人々に、勇気を持ってインタビューを決行することで、被災者と社会を繋ぎ、災害を風化させない行動を起こすことができたのだなと感じました。たくさんの経験を通して深く考え、新しい行動に移している姿は本当に素晴らしいと思います。大学1年ですが、自分にこのような活動ができるのかと思うと自信がありません。来年度以降、長野市に住みます。活動に参加出来たらなと思いました。
- 実際に被災した方の本音を聞いたうえで、被災者の気持ちに配慮してインタビューを進めていったことが伝わりました。実際に取り組む中で、「周りを巻き込むこと」の重要性を意識しながら活動できているのが良いと思い

ました。伝統と、新しいことへの取り組みとを融合させるにあたり双方の歩み寄りが重要だと思いました。

●地域の人と積極的に関わり、その交流を通して、より住みやすい長沼にするためにはどうしたらいいのかについて協働的に考え取り組んでいる姿に感銘を受けました。プロジェクトを通して、耕作放棄地に対する見方を改め、今後どのように自分たちが関わっていきたいのかをしっかりと考えているのも、ただやるのとは大きな差を生んでいると強く感じました。

●被災した方の本音について言及していて、このようにネットや人文などで調べるだけではわからないような情報を得ていて良いと思った。また、発表から周りの人を巻き込んで、自分たちだけではできない大きなことを成し遂げることの素晴らしさを学んだ。

●その地域ならではの問題に目をつけて、他の県の現状の比較や分類などができていて、素晴らしかったです。またそこから今自分たちにできることを提示し実際に行なっていると知りこれからも頑張って欲しいと思いました。

●耕作放棄地に関する知識があまりないのですがとても分かりやすく聞いていて興味を持てる発表でした。実際に被害に遭った方と交流したうえで問題の解決策を考えていてとても良い取り組みだなと聞いていて感じました。

●被災地の復興は、被災地を盛り上げたい気持ちと現地の方の心情をおもんぱかる気持ちで悩むことも多くあると思いますが、どうにか力になりたいという思いは伝わっていると思います。農業をやめる人が多いならば、農業をやめる前にその土地を次に利用する人やその目的がはっきりすると農地の持ち主も安心なのではないかと感じました。

●実際に被害にあった人にしかわからないことがあるということに非常に共感しました。私は東日本大震災の際に、青森県にいましたが甚大な被害が出たところでは避難場所でも油断できないと親戚（岩手県）が言っていたことを覚えています。ボランティアの人だけではないのですが、破壊された家やマンション、避難所などで他人の物を盗む人がいたというのです。被害のあったところを少しでも改善しようとすることはいいことだと思いますが、自分たちが思っている以上に被災地の方々は様々な不安をもっているのだということを知り、配慮しながらそのような活動を自分もしていかなくてはならないと改めて感じました。

●耕作放棄地は地方に住んでいると、度々問題として挙げられるため、認知度はそれなりに高いと思っているのですが、問題自体は知っていても、それに対して何が行われているのかは知らなかったので、耕作放棄地に新たな役割を持たせようという試みに関してはとても学びになりました。活動に取り組む際、人数不足などが発生したときに自分たちで協力を求めたりして、考えながら行動している姿勢が素敵だと感じました。

●放置されたままの土地に対して今まであまり目を向けてこなかったので、今回の発表で新たな問題に気付かせてもらった。近年では耕されないまま放置されている土地も多いが、それを利用した活動を行うことは、地球上の自然を守るうえで非常に効果的であると感じる。

●耕作放棄地にどのようにアプローチしていくかと最初に考えていたところから、最後は耕作放棄が意味する人々の思い・ストーリーを大切に考え、実際に地域の方と一緒に活動しており、非常に学びの深い発表でした。耕作放棄地に実用性だけでなく、人々の思いとつながりを大事にした場としての価値を見出しているのがとても素敵だなと思いました。

●耕作放棄地の数が長野県は全国3位であることに驚きました。自然と観光を結びつけるという発想は簡単にはいいとは言えない理由があることを感じました。農業を経験したことがないのに、一生懸命に作業されたことは大きな前進だなと思います。人とつながる力って本当に偉大だなと話を伺い、感じました。後輩へとバトンをつなぎ、その活動を継承していくことは大事だなと思います。ナノプロには深い意味が込められているのだなと感じました。

●こちらの発表を聞いて、「育てること」について新たな知識を具体的に学ぶことができた。全体を通して、そのものについての価値や存在意義などを考え、自分たちの学んだことを行動に移すことまで行うことで、これから、どのようにみんなで高めあっていくのかということや、みんなでつながる方法というものを新たに気付くことができたように思う。これからも応援しています。

●地元の人たちが繋がれば、力になることができるという言葉がとても印象になりました。疑問に思ったことや、わからないことは調べたり、現地の人に聞いたり、様々な体験をし、活動を行なっていることがわかりました。こうした活動は高校生だけではなく、大学生、地元の方々を巻き込んで行なっていくべきだと感じました。

会場④-6 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中高自然科学部

活動テーマ 里山での活動

発表概要 一年を通じた飯山市豊田小境地区にある棚田と裏山での活動（稲作、森林整備、ブナ林散策など）を中心に、そこで得られたものを利用したり（イナゴの佃煮づくり、納豆作り）、校庭での野菜作りなどを行っています。

感 想

会場④-6 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中高自然科学部 発表を見た方からの感想

- 棚田整備や森林整備など自然とふれあう活動をしていることがわかった。学校内、外での活動を通じて自然の変化を観察していることがわかった。飯山の自然の中で、自然のありがたさや大切さを感じているのだとわかった。
- 自然との『ちょうどいい』付き合い方というのはどのようなものなのかとても気になったが、自然に住む生物を傷つけないといったような付き合い方だと知り、多くの人や企業がそのような付き合い方を出来たら、これからの日本はよりよく進化していくだろうと考えることができました。ありがとうございました。
- 自然のなかでの活動を通じて、自然から取れるものの活用方法や自然との付き合い方、森林整備の仕方等を学んでおり、自然についての知識・理解が深まっている様子にとても興味を持った。また、発表の構成がわかりやすかった。
- 大学の授業で多くの人は自然を守るために自然に手を入れてはいけないと思っているということを勉強しました。今まで人間が自然に手を加えすぎて破壊してきたという過去があるため、自然に手を入れるのは良くないことだと思っている人が多くいます。自然を守っていくためにも自然に適度に手を入れる必要があることを多くの人に知ってもらう飛鳥があるのではないかと思いました。今回学んだことを知識にとどめておかず、実際に使える生きた知識にできるようにこれからも活動していってください。
- 特に「人間の手が入ることによって守られている美しい自然がある」という言葉が心に残りました。人間が破壊してしまう自然もあれば、人間の手によって守られている自然があるのですね。自然の恵を感謝しながらよい付き合いができるようになったら良いですね。
- 森林などの自然と人間が共生していくために自然のことの知識を紹介したり、活動の中で農法のやり方やその反省点を活かした改善をしたりすることでよりよい畑になっていくことを学んだ。また学んだことから応用して活用していくことで自然を持続的に保っていくことができると感じた。
- 森林整備が人間にとっても自然にとっても利益があるという事や、共生農法の方法及び利点等、自然と人間の関わり方について学べる素晴らしい発表でした。また、実際に行動した内容を詳細に発表していたので、自然を活用する事の大変さを私自身改めて再確認しました。
- 協生農法というものを始めて知りました。持続可能な生活のために、昔からある生活の知恵を振り返ってみることも大切だなと思います。与えてもらった機会を生かして学びを深めていて素晴らしいと思います。
- 自然に手を入れるのが必ずしも悪ではないという言葉がとても良いなと思いましたし、私自身そう考えてしまっている部分があったので学びにもなりました。自然とうまく付き合っていく、人と自然の共生というのがこれからのキーワードになってくるのだなと思いました。
- 自然との関わりを大事にしながらさまざまな活動に取り組んでいることが伝わりました。知識として学ぶだけでなく、実際に自分たちの手でやってみることで学べることの幅がとても広くなると感じました。「共生農法」について初めて知ったためそんな育て方があるのかと驚きました。
- 自然と人間がウィンウィンな関係を築くことを目指して活動していることが伝わってきました。自然に手を加えるとなると、マイナスなイメージをもつことが多いですが、自然にとってプラスのはたらきをすることもあるという気づきが得られていて素晴らしいと感じました。意識をしっかりと行動に移すということを、私も見習いたいと思いました。
- 活動理念の2つ目の自分でできることを増やすというのが素晴らしいと思いました。自然環境の保全をしていくことは重要だと分かっていてもなかなか実際にできる事ではないと思います。自分自身でできることを増やそうという意識そしてそれを実行に活かすエネルギーが持続可能な社会の実現につながるのだなと感じました。
- 只見町立只見中学校の発表にもつながる特に面白い発表でした。今後、協生農法でどれだけの作物が作れるかとても気になります。文化学園長野高等学校中高自然科学部でしかできないであろう活動だと思いました。応援しております。

●文化学園長野高等学校中高自然科学部の発表で、自然とのちょうどいい付き合い方をすることで、自然にとっても人間にとっても利益のあるWIN WINな関係が築けるという考え方について学べたと思います。また、その理想的な関係を築くことには様々な生物が関わっており、トライアンドエラーが繰り返されているということを知りました。手を加えずに作物を育成する活動では、肥料などを使わずに育てあげ、食材をとることの大変さについて知り、一概に肥料がダメとか環境に悪いとは言えないということを学びました。私も自然と人間の付き合い方について考えていきたいです。

●私たちが日ごろから自然の恩恵を受けて生活しているということを忘れてはならないと感じた。私の家でも農業を行っているので、食物に対してありがたみを感じながら生活を送ろうという意見には非常に共感した。より多くの人が自然に対して思いをはせることが、環境保全につながるのだと思う。

●田んぼを作るという経験の中から森林整備やカエルの卵の運用方法など普段知り得ない要素をこの経験から掴んで自分たちで作物を作ろうという姿勢は素晴らしいと思いました。これからもどうぞ頑張って下さい。

●こちらの発表を聞いて、「自然」との向き合い方について考えさせられた。自分でできることを増やしたり、自然との良い付き合い方を考えたり、あるいは、自然そのものを愛することであったり、様々な自然との向き合い方があることを学んだ。これからも、少しでも多くの人に自然の大切さを広げていけるように願っています。応援しています。

●自然との関わり方や自然に関することを楽しみながら学んでいる様子が伝わってきました。自然の美しい姿を改めて気づくことができ、とてもいい取り組みだと思いました。学校では目標を設定していて活動をしていて、目標に対して活動ができることがいいと思いました。自然と人間の関わり方を考えていこうと思いました。これからの活動も楽しみにしています。

●「自然とちょうどいい付き合い方をする」ための方法として、協生農法という方法があることを初めて知りました。自然と共生していくためには、「自然に負荷をかけず、人間の負担も少ない付き合い方」をしていくことが大切なのだと学びました。ひとりひとりが自然との関わり方を考えることが大切だということで、私も自然について自分ごととして捉える姿勢を大切にしていきたいと思いました。

●自然とのちょうど良い付き合い方を模索するという活動方針の一部に感銘を受けました。実際に、ただお米の収穫までをやってみたり、畑で農作物を育てたりするのではなく、人が手を加えることでどのような変化が見られるのかを研究しておられるようです。そこが園芸部などとは違う点なのかと思いました。

●今回、はじめて「協生農法」という農業形態を知り、とても興味深い試みだと感じました。発表者の方がおっしゃられていたよう、面倒臭がりな自分たちだから、というような理由があって、自らの悪い点を逆手に取りに自分の探究に活かすというのがおもしろい発想だと思いました。自然との関わり合い方について、今一度自分も考え直してみようと思える良い機会でした。

●自然科学部という活動とても新鮮でした。森林整備や森林探索、畑の管理など普段何気なく過ごしている私たちには味わえないことを経験している皆さんがとても羨ましいです。今しかできないことを十分に楽しんで十分に学んでいってください。応援しています。

●理念や目標に向かって、行動するのは当然のように出来ることでは決してありません。しかし、しっかりとした活動理念を持って、活動理念に沿った活動をしているのはすばらしいことだと思います。人間が環境問題を引き起こしている現状がある中で、皆さんの活動や発表は必ず世界を良い方向へ持っていくものになります。これからも活動を続けていって、色々な人に伝えて言ってください。私も応援しています。

●米作りや森林整備、協生農法という実際に体験しながら行う活動を通して多くの学びを得ていることが伝わってきた。やってきた結果を踏まえて、来年・これからの活動はどうするのか、どんなことをしていきたいのかが明確になっていることが素晴らしいと思った。

●部活としての活動の中で自然環境の問題に対する解決策を探る姿勢、自然と共に学んでいく姿勢が素晴らしいと感じました。長野という自然豊かな環境を活かして、主体的に学ぶ姿勢をしっかりと身につけていくことは大切ですし、今後の自分自身の成長においても大きく影響を及ぼしていくと思います。是非これからもこのような活動を続けていって欲しいと思います。

会場⑤-1 【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 3･4年生

活動テーマ わたしたちのりんご園と消費と生産のつながりを見つめて

発表概要 グリーン・ヒルズ小学校の3･4年生は、1年間りんごの栽培から販売までの活動に取り組んできました。自分たちの育ててきたりんごをなるべくたくさんの人に味わってもらいたい、という思いから、「どこで売ればよいか」「どうやって魅力を伝えればよいか」など探究を進めてきました。私たちがどのように社会とつながって生活しているのかということ、活動を通して子ども達が学んだことについて発表をぜひお聞きください。

感 想

会場⑤-1 【長野県学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 3･4年生 発表を見た方からの感想

- 発表ありがとうございました。自分たちで村上さん、有山さんと交渉をしたり、アンケートを作ったりしてりんごを販売する大変さを実感できたことが伝わってきました。大変ななか試行錯誤しながら成功させた経験は、これからきっと役に立つと思います。また、買う人の気持ちを考えて販売することの大切さを学ぶことができました。
- 諦めずに課題点を見つけて、交渉を成立させていたことが印象的でした。相手に自分たちの考えを伝えるために、まずは自分たちがりんごについて知ること、そして伝える工夫をすることなどが大切であると知ることができたと思います。消費者アンケートで保護者の人が自分たちとは異なる観点で商品を選択していることを知り、その観点から消費者の気持ちを考えた上で、選んでもらえる商品について考えることができていたと思います。りんごの販売を通して、たくさんの人とコミュニケーションを取り、人々のつながりややり遂げた達成感を得ることができたと思います。消費者の観点から、ただ安いことが大切なのではなく社会面や環境面を考えて意思決定する必要があることを知れたと思います。さらに、皮などのゴミも有効活用するなど、りんごの将来性を考えていることが素晴らしいと思いました。ひとつの商品を作り上げる大変さを知ることができたと思います。これから食材をいただくときは体験したことを思い出して欲しいと思います。全体を通して、ひとつの商品を作り上げる大切さや消費者の視点から様々なことを考えることが大切であると学ぶことができたと思います。
- りんごを売ることを通して、地域の方たちと交流が出来たり,地域の自然の豊かさをアピール出来たりして良いと思いました。商品を買いたいという気持ちをアンケートで確かめることによって、自分たちも物を買うときどのようなことを基準にしているのかということに気づけると思いました。自分たちでつくったりんごを売るというのはすごいと思いました。りんごをレザーにして加工するという発想はすごいなと思いました。
- りんごの生産から販売までの過程を自分たちですべて行っている姿が素晴らしいなと思いました。たくさんの生産にあたる課題があったと思いますが、その課題に真摯に向き合い、りんごの生産の最善の策を見つけているのが、今後の自分たちの活動にもつながると思いました。
- 地元の特産品であるリンゴに着目しているのが素晴らしいと思いました。また、アンケートの結果を見やすいように工夫して棒グラフを選択する姿勢がいいと思いました。学んだおいしいりんごの特徴を生かしてこれからおいしいリンゴを食べていきたいと思いました。
- リンゴ作り、販売、消費者について考えることを通して、生産・販売の難しさや、消費者としてどのような意識で生活していくべきなのかを学んでいる姿がとても素敵でした。消費者と生産・販売者というどちらの立場も体験することで、より一層、消費者として未来を守っていくために何ができるのか考えることができると思いました。また、皆さんの一生懸命なりんごを知って欲しいという想いが消費者であるお客さんに通じていたと思います。これからも、リンゴの良さを伝えながら未来を守っていく生産・販売者、消費者の在り方を探求して欲しいです。
- りんごを作ってから販売するまでの過程において、たくさんの人と関わり、作る側の苦労や販売する際の交渉の難しさを乗り越えて、一生懸命考えて活動したということがとてもよく伝わってきました。ICT を活用したアンケート調査もどうすれば伝わりやすいのかを考慮した工夫がされていて、とても良い活動だと思いました。
- りんごに自信を持ち、自分たちの力で活動できていてすごいですね。活動の中で想像していないような大変なこともあったと思いましたが、それを乗り越えるために交渉方法を考えたり、質問に答えられるように準備したりし、いろいろな力をつけることができたのではないかと思います。販売を行うには売るもの以外にも、消費者や加工法などにも着目することが大切ですね。活動で身に付けたことを他の分野にも生かせていけるといいなと思います。
- 素敵な発表ありがとうございました。皆さんの発表から、皆さん一人一人がりんごの栽培から販売までの一連の流れについて、さまざまな視点でとらえ、一生懸命探究したということが伝わってきて、とても面白かったです。私もりんごが大好きでよく食べるので、皆さんが発表してくれたりんごの知識を活かしてこれからの生活をより楽しいものにしていきたいと思いました。

●場所を決めるのに「1週間かかってしまった」と言っていたけれど、小学校3･4年生だけで話し合って、決められたことがすごいと思います。おいしいりんごの見分け方すごく勉強になりました。これから参考にしたいと思います！

●みなさんそれぞれがりんごにかかわる活動を行う中で、様々な学びを得られていたのが印象的で素晴らしいと思いました。自分たちで販売する人と話したり交渉したりすることを通して、りんごの魅力について詳しくなれたのではないかと想像します。これからもりんごの栽培や販売に積極的にかかわってい ってほしいなと思います。

●僕らのリンゴを循環させようという、「リンゴ」を「循環」という普段使わない言葉の使い方で非常に興味が引かれる内容であった。そのなかで1人1人が自分の興味関心のあるものについて考えながら活動に取り組んでいてとても素敵だなと思った。

●自分たちのリンゴを伝えるためにたくさんの活動をされていてすごいと思います。皆さんにとってグリーン･ヒルズのリンゴはとても思い入れのある大切なものなのですね。ぜひこれからもこのリンゴの魅力をたくさんの人に伝えるためにはどうしたら良いのか考えていってください。

●りんごを育てたり、りんごを売ったりするだけでなく、りんごを買う人に目を向けアンケートを取る活動も行っているのはとてもすごいなと思いました。また、活動の中では大変だったことも沢山あったと思いますがそれと同時に多くのことを学ぶことができたと思います。そして、この学びは今いる仲間また活動に協力してくださった方などがいたからこそ学べたことでもあると思います。そのため、それぞれの活動を通して得た経験や学びをこれからも大切にしていってほしいと思いました。「森の駅」でリンゴを売るために、みんなで考えて、交渉したことが、とってもすごいなと思いました。大学生の私でも、まだ、自分の商品を売ったり、そのために交渉したりしたことは今までにない経験です。しかも、一度断られても、なんでダメだったのかを考えて、何度もチャレンジする姿勢が本当にすごいなと思いました。とっても尊敬しました。これは、将来のためにとてもいい経験になると思います。これからも、頑張って、学習を続けていってください。

●自分たちでがんばって作ったりんごをたくさんの人に食べてもらいたいという気持ちがとても素晴らしいと感じました。消費者の気持ちになってみたり、売る側の大変さを知ったりすることは社会の様々な立場を知ることができたと思います。りんごの美味しさの見分け方とても参考になりました。私も買う時試してみようと思います。

●りんごを売るために、売る場所を話し合いで決定し、交渉も子どもたち自身で行っていることに感銘を受けました。さらには交渉で答えられない質問があり、一度で了承を得られなかったことから、話し合い後に質問に答えられるような時間を設けるといった改善策を考えていて、失敗を良い経験としているなと思いました。

●りんごを売るためにどうすればいいのか、1から自分たちで考えて行動に移していて、行動力が素晴らしいと思いました。特に、保護者の方にアンケートを取ってグラフを作ることで、自分たちで新しい気づきを得ていた点が印象的でした。りんご販売に向けて、美味しいりんごの見分け方や、消費についてなど、様々な観点から向き合っていて凄いと思いました。

●どこでリンゴを売るかというのはとても大切な決定事項なので、慎重に話合いできているところが良いと思います。交渉が一度うまくいかなくてももう一度話し合い、質問に答えられるように努力しているところが良いと思います。アンケートを作るのは私たち大学生でも簡単なことではありま線。それを小学校で作ることができていてすごいと思います。おいしいリンゴの見分け方、とても参考になりました。私もリンゴを飼う際に参考にしたいと思います。リンゴレザーは、リンゴの本来捨ててしまうところを活用して、おしゃれな小物を作っており、環境にもよいのでこれからもっと有名になってほしと思いました。リンゴの栽培だけでなく、売るときのお客さんとのコミュニケーションや、友達と協働することの大切さ、消費者選択、リンゴをどれくらいの値段で売るかの計算などたくさんのことが学べているとても素晴らしい探究だったと思います。これからも頑張ってください。

●長野県の名産品であるリンゴに着目して、様々な人に協力してもらいながら積極的に活動に取り組んでいてすごいとおもった。どのようにしたらリンゴがもっと売れるのか考える見方は、消費者として生活する中では考えない思考だと思うので、その考え方を大切にすると良いと思った。

●大人の人たちに対面したときの失敗などをしっかりと受けとめ、その失敗から分かったことを次に生かそうと自分たちで改善できることを考えて取り組む姿がすごいなと思いました。何回も作り直してより良いアンケートをつくったり、探究で分かったことから自分の生活に落とし込んで見つめなおしたり、深い探究ができているなと感じました。

●一人一人目の付け所が異なり、「そんなことにも気がつくのか！」と、とても興味深くておもしろい発表でした。失敗を次に活かしていこうとする姿勢もすばらしいと思いました。

会場⑤-2 【長野県】高山村立高山小学校

活動テーマ 高山村の「もの・ひと・こと」や環境から学び、地域のためにできることを見つけよう

発表概要 地域と保護者、子どもたちが、村のよさを共に学ぶ「わくわく村」の活動をはじめ、村の産業であるりんごや米作りの体験、美しい村連合の一村として将来に引き継ぎたい観光資源の調べ活動、今日的な環境問題の解決や共生社会について、自分たちのできることを見出し取り組んでいます。今年度は3年ぶりに「しらかば学習発表会」を開催し、各学級の取り組みを保護者に向けて発信しました。高学年での活動を中心に、その内容をダイジェストでお伝えできればと思います。

感 想

会場⑤-2 【長野県】高山村立高山小学校 発表を見た方からの感想

- 発表ありがとうございました。SDGsについてしっかりと学び、自分たちにできることを考えていることが伝わってきました。「障がいのある人は特別ではない、みんなで助け合うことが大切」ということばはとても素敵だと思いました。これからも社会のために貢献しているという誇りをもって活動を進めていってほしいと思います。
- 児童会の取り組みから、児童会の活動をSDGsに結びつけていることが印象的でした。SDGsに結びつけることによって、自分たちの活動に意味や目的を持つことができ、活動に対する意欲が向上すると思いました。わくわく村の活動から、地域の方々との交流や地域での体験を通して、コミュニケーション能力や地域を大切にする見方や考え方を学ぶことができたと思います。3〜5年生の活動でも、社会面や環境面を意識しながら学べており、社会の一員として自覚や責任が芽生えたと思います。全体を通して、社会面や環境面につながる活動で個人が考えて行動できる力が身についたと思います。
- 児童会での活動とSDGsの目標を関連させて、自分たちに出来ることからSDGsの目標を達成しようとしていて良いと思いました。廃油が海に流出してしまうという問題がたまに起こりますが、廃油を生活の中で使える石けんに生まれ変わりさせることは、SDGsの「海の豊かさを守ろう」につながるかなと思いました。自分の名前を点字で打ってみたらどうなるかなと思いました。
- 自分たちが住んでいる地域である高山に目を向け、どのような魅力があるのかを学校全体で考えている活動が素晴らしいと思いました。また、高山の自然や環境を保全するためにごみの活かし方などについて考えている点がまさにESDにつながると思いました。
- 発表ありがとうございました。児童会の活動においても各学年の活動においても、SDGsと結び付けて、工夫して活動が行われていることが分かりました。わくわく村の活動は、自然に触れるだけでなく地域の方とのつながりもうまれるとても良いものだと思いました。わくわく村の活動の様子をもっと詳しく知りたいなと思いました。
- 発表ありがとうございました。発表を聞いて、高山村ってこんなにきれいな美しい場所なのだなということがわかりました。高山小学校の皆さんは本当に地域の方々から大切にされている、愛されているのだなということがとても伝わってきました。これからもたくさんの活動をして、住みやすい街づくり、環境づくりを頑張ってください。応援しています！
- 自分の地域に着目してその良さを伝えていこうとする姿勢がいいと思いました。発表から高山村の魅力をとても感じ、ぜひ訪れてみたくなりました。また、環境保全により、地域の自然を守り抜こうとする姿勢が素晴らしいと感じました。
- 高山村の魅力を村全体で学び、感じ、伝えようとしている姿がとても素敵でした。高山村の豊かな自然を活かした地元の産業や、児童会の皆さんが高山村の、世界の未来のためにSDGsを意識した様々な活動は、みなさんの想いを未来に繋げるための重要なものだと思いました。今後も、「しらかば学習発表会」などで、保護者や地域の方々、また地域外の方々にもみなさんの活動や、高山村の魅力を伝えて欲しいと思いました。
- 発表ありがとうございました。自然豊かな村の中で特色を生かした活動や地域の人々との関わりから村を大切にしたい思いやより豊かな生活について真剣に考えている様子が伝わってきました。村を活性化させたり、自然を守るためにより地域の特性を理解したりしながら活動に取り組んでいってほしいと思いました。
- どの学年もたくさんの人と関わりをもって活動することができていて良いと思いました。特に4年生のバリアフリーを探す活動において、ライターは片手で火をつける事ができたり、シャンプーやリンスを表面の凹凸から判断することができることに気づけていたり等、身近なところにバリアフリーの工夫が施されている事に気づけていて良いなと思いました。それらを活用して暮らしやすい村づくりに結び付けられている所も素晴らしいと思います。
- 皆さんの発表を通して、緑と農産物が豊かな高山村にとても魅力を感じました。また、児童会がSDGsを意識した

活動や教室を行っている様子を見て、持続可能な社会に向けた活動の大切さを実感しました。今後も暮らしやすい村を目指し、できることをたくさん実践していってください。

●高山村立高山小学校5年生のみなさん、発表ありがとうございました。ごみへらし大作戦の中で、「資源の大切さ」に気付くことができ、今後の生活でも生かしていこうとすることはとても素晴らしいことだと思います。今回の活動はクラス全体での活動でしたが、皆さん一人一人の暮らしの中でごみを減らすためにはどんなことができそうかな？と考えてみると、今回の学習を生活に生かしやすくなると思います。

●素敵な発表ありがとうございました。皆さんの発表から、児童会の活動やわくわく村の活動、3年生の皆さんは再生紙やペットコプターを作ったこと、4年生の皆さんはバリアフリーについて勉強をしたこと、5年生の皆さんはリサイクルやリユースについての活動をしたことがわかり、SDGsに関する活動にとても熱心に取り組んでいることが伝わってきました。これからも、自然豊かで、地域の優しい方々にあふれた高山村と進んで関わり、より美しい村にしていってください。応援しています。

●児童会の取り組みについて、一つ一つの活動をSDGsの観点から見つめ直しながら取り組んでいていいなと思った。また、この取り組みから成果と課題として、自分たちが出来たと思うことや今後取り組むべきことについて目を向けられていて素晴らしいと思った。

●身近にあるたくさんの活動が、SDGsにつながっているのですね。とても勉強になりました。SDGsについて考え、行動することは、相手も、そしていいことをしている自分も、とても良い気持ちになれるということがとても良いですね。来年も、相手や自分のよりよい生活のために、たくさんの活動ができるよう、これからも頑張ってください。応援しています。

●村の自然よさを取り入れた学習をすることは、環境保護の視点を持てると思うのでとてもいい学びになると感じました。児童会がSDGsに関する取り組みをすることで少しでもみんなが環境保護などに関心を持てるので素晴らしいと思いました。この発表から環境や地域と共に協力し合って生きていることを感じることができました。

●地域の自然、伝統文化、などについてわくわく村で活動していて、楽しみながら地域の良さを感じることができると思います。バリアフリーは今注目されており、私たちが気付かなかったところにもバリアフリーの工夫があるということに気が付けており、とても良い経験だと思います。普段捨ててしまうものを集め、活用することでごみを減らし環境に負担をかけないことは大切だと思います。資源の活用についてこれからも探求していってほしいと思います。これからも頑張ってください。

●地元のことを知り、未来へどう繋いでいくかを考えるのはとても大事なことです。県外出身の私は高山村のことを知らなかったので、もっともっと高山村の魅力を発信していってほしいです。高山小学校では、SDGsにつながる活動をしていると知り、素敵な活動だと思いました。エコに関することだけでなく、みんな平等の精神を学ぶ学年もあり、この活動を通して学んだことをこれからも心に留めておいてほしいと感じました。

●地元の特長を大事にする考えが根本にあるところが素敵だなと思います。学校全体でもクラス単位でも地域全体でもSDGsについて学び、それを未来のために自分の生活につなげようとできているところがすごいなと思いました。伝えたいことが良く伝わってくる発表でした。

●SDGsからユネスコ募金に目を向けたのは非常に良いと感じました。年間を通して様々な活動に取り組み、その体験から自分たちが発見したことが分かりやすくまとめられていてとても発表を聞いていてとても面白かったです。5年生は一年間だけでなく、2年間かけて同じ内容を行っていたのでより深い学習になっていてよく活動できているな、と思いました。

●日常から、様々な活動を行っていて、それらの活動から学んだことを大切に活動しているのを感じました。また、ユネスコスクールとして、地域とのかかわりも含め、村全体での意識の高さを感じました。それぞれの学年が、未来の高山村のために考え、活動していて、子どもたちの意識も高めていて非常にいい循環だと思いました。

●村が大切にしている農産業を未来につなげるために、どのような活動がSDGsに結び付くのか、という連携ができているのがすごいなと思いました。全校が同じ目標に向かって活動することで全体の一体感も生まれ、他学年からの刺激も受けながら活動できる素敵な取り組みだなと思いました。

●SDGsと自分たちの活動がどのゴールにつながっているのか、なかなか考えて行動することができないのでしっかりと振り返りを行いながら取り組んでいることに驚きました。学校全体で高山村の自然を大切にしようとする気持ちが伝わりました。地域を大切にする気持ちを忘れずに、これからの環境学習も取り組んでいってください。

会場⑤-3 【長野県】山ノ内町立西小学校 2年生

活動テーマ 小さな命､大きな命とわたしたちとともに

発表概要
①小さな生き物　小さな草花にも　目を向けてみよう
②大豆を育てよう
③季節を感じよう

実践記録

信州 ＥＳＤ コンソーシアム
令和４年度 成果発表＆交流会　実践記録

１　学校名　対象　　山ノ内町立西小学校　　２学年　　２８名
２　探求課題
（１）活動名　「小さな命と大きな命とわたしたち　ともに・・・」
（２）目標
・自分たちは、自分の周りのさまざまなものと共に生活していることを知る。
・人、動物、植物、それぞれ命あるものとして生きていることを知る。
・知っているようで知らないことに目を向けていこう。
（３）ＥＳＤの視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携生（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　□責任制（責任持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
□コミュニケーションを行う力
（４）関連するＳＤＧｓ

（５）探求課題　活動実践の概要
①私たちの住む町をよく見てみよう。
・小さな虫や生き物発見。　・小さな草花発見。
②大豆を育てよう。
・栽培活動。　・大豆からできるもの　→　調べ、作る。
③季節を感じよう。
・その季節らしいものをみつける。　・家庭とも連携して、季節の食べ物にふれる。
３　流れ（指導計画の概略）
４・５月　①春を探しにでかけよう　②大豆を育てる準備を始めよう
６・７・８月　①夏を探しにでかけよう　②笹餅をつくろう　③大豆のお世話
９・１０月　①秋を探しにでかけよう　②秋のはっぱの絵手紙かこう　③大豆
１１月　①大豆を収穫　②大豆でできるもの（調べ）
１２・１月　①冬を探しにでかけよう　②きなこをつくろう
２・３月　①活動をふりかえろう
４　効果、反応、所感
○身近なものを見つめ直すことで、知っているようで知らないことが再発見でき、図鑑等に出てくるものが身近に存在することがわかった。
○自分たちの「食べる」にも目を向けることができ、買ってくるから作れるへ意識が向き始め、すべての食事に感謝し、おいしく食べる意識につながった。
○近年、季節感が失われつつあるが、虫や花、天気の様子などに目を向けることで、子どもたちが身近な季節を発見・感動し､さらに関心を広げようとする姿が出てきた。
○もっとこうしてみたい、家でも調べてみた、興味関心のひろがりと、学習のつながりが生まれ始めたように感じた。
５　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
・すべてを子どもたちからの発信ではなく、さわりの部分を教師が紹介していくところも大事に進めた。
・できるだけ外へ出るように心がけた。

感　想

会場⑤-3　【長野県】山ノ内町立西小学校 2年生　発表を見た方からの感想

●発表ありがとうございました。活動を通していく中で、子ども達が見えていなかった自然、知らなかった自然に実際に触れていくことで学んでいく、素晴らしい気づき・活動であったと感じました。今回の活動で気づいた街の自然の豊かさや、自分たちに自然に働きかける力があるということが今後の活動に結びついていくと良いなぁと思いました。

●身近な自然にもっと深く関わったり、大豆を育ててみたり、もっと季節を感じようとしたりと、デジタル化が進んでいく中でも進んで自然に触れようとしていて、素晴らしい活動だと思いました。まだまだたくさん魅力的な生き物や植物が自然にはあふれていると思うので、どんどんそういうものに直に触れて、楽しく生活を送ってください。素敵な発表をありがとうございました。

●身の回りの自然を見つめ直すことで、自分たちの手で触れることで「この自然を守りたい」という気持ちが芽生えてのではないかなと思いました。私も長野県出身のため、自然に触れる活動は自然を守るという点ですごく大切だと感じます。

●地域の身近なところに目を向ける活動を行うことで、それらに興味を持つようになっているのが素晴らしいと思いました。自分たちでなにか作る活動を通して、自分たちの成長や可能性を感じているのではないかと想像します。これからも地域のよいところを再発見していってほしいと思います。

●子どもたちの活動について、ESDの観点から見つめられていた。そのなかで教師が子供たちの関わりの中でどのようなことを感じたか、どのようなことを思ったのかなどを教師側の視点から話されており、今後子どもたちと関わる私たちにとって非常に有益なものであると思った。

●地域の自然などをまず触れるということはとても大切なことですね。皆さんの行った活動は周りの地域の自然を守って、住み続けたい町にしていくためにつながってくる活動だったと感じました。是非皆さんの地元愛を地域の人にも伝えることができるような活動もチャレンジしてみてください。

●植物や生き物を採ったり・捕まえたりしてみたことで色々なことを知り、たくさんのことを学ぶことができたと思います。そのため、これからも様々な生き物や植物に興味を持って、観察をしたり、触れてみたり、調べてみたりしていってほしいと思いました。

●長野県や日本規模の大きな範囲で環境問題を考えるのではなく、身近な地域や自分たちの生活を見つめ直して自分たちには何ができるのかをみんなで確認しながら活動している姿に関心を持ちました。将来の子供たちに必要な力になるのではないかばと強く感じました。

●これからの時代を作っていく皆さんが、「私たちは大きなもの、小さなもの、たくさんの生き物と一緒に生きているのだ」ということを知ることは、私たちの生活も、周りの生物の生活も、これからずーっと守っていくことにつながると思いました。皆が、協力して動くと、周りの環境は変わっていくのだということを学ぶことは、とっても勉強になったと思います。これからも、頑張ってください。

●自分たちが住んでいる地域の生物や植物を観察することで自然保護の重要性を感じることができました。子供たちが実際に手に取ったり見たりすることでたくさんの発見をすることができると思いました。この学習は未来に繋がる学習だと感じました。

●いつまでも住み続けたい町をどうつくるかを主題に全校生が地域に目を向けられるような活動を行っていることに感心した。自然が豊かな町なのに地域に目を向けられていないところに着目し、地域の良さを再発見していくことで子供たち自身にとっても住み続けたい町へと変わっていくのではないかと考えました。

●全校でひとつのテーマに沿って考えていく、という点がとても良いと思いました。「いつまでもすみつづけたい町をどうつくる？」というテーマについて考えていく中で、いつもなら見落としてしまうようなことに着目できたり、新たな発見につながったり、とても良いと感じました。

●ESDを通して自分の地域についてよく知ることができ、食べることについても、小学2年生が自分で作るところまでたどり着いているところに驚きました。これからも皆さんの探求心は成長していくと思うので、知りたいこと、やってみたいことがあったらどんどん取り組んでいってほしいです。探求学習からはコミュニケーション能力や、協働することの大切さなど普段の授業では学べないことがたくさん学べると思うので、これからも頑張っていってください。

●SDGsについて考える際に、規模の大きなところからいきなり考えるのではなく、自分の身近なところから見直すという姿勢が素敵だと思いました。地元に関する意外な発見やスーパーなどで買えるものも、自分たちで作る

ことができるということの発見など、身近な「意外」を知ることができ、たくさんの学びに繋がったと思います。私も地元のことはそこまで詳しく知らないので、調べてみようと思うき っかけになりました。

- 自分の住む地域をより深く知り、地域に根差した植物や動物について探究がされていて素敵だなと思いました。自分の身近な地域に興味を持ち大切にしていこうとする姿勢を持つことは自分自身だけでなく未来を生きる人達のためにも大切だと私自身も思いました。
- 身近な食料品を作ってみたり虫を捕まえてみたりすることで、ものづくりの大変さや自然について学べていたので良いと思った。
- 自然と触れ合うことで発見したことがたくさんあったことを知りました。環境についてよく考え、自然について考える活動をしたのだなということが伝わりました。なかなか虫や自然物が身近にある環境は少ないので、素晴らしい活動だと思いました。
- 自然の中での体験を重ねていくうちに自ら疑問を見つけていくのは理想的な探究学習の形だと思いました。小さなことにも気がつけるその感覚を大切にしていってください。
- 自分たちの住んでいる地域について調べて活動することはとても良いことであると思いました。自分たちの住んでいる地域について知って活動することで、地域の魅力に気づくことにつながると思うので、これからも続けていけると良いと思いました。
- 身近にたくさんある、自然物などを用いて改めて多くのことを再発見する活動をされていて、子どもたちにとって非常にいい経験ができていたのだろうと思いました。子どもたちが、まだまだ知らないことがあると思うため、このように実際のものを活用して考えていく活動が必要不可欠になるのだということを学びました。
- 先生が発表してくださったので、とても分かりやすかったです。教師の力を感じることができました。自分たちで、よりよくしていこうという意識が見受けられ、すごいと思いました。どの小学校にも言えることですが、意識が高いと思いました。
- 身近な自然を見直すことで、新たに見えてくる課題や大切さに気が付くことができるので、とても素敵な活動だと思いました。いろいろな目標や課題を立てて活動に取り組むことで、探究活動のおもしろさを学ぶことができるのでとてもいいなと感じました。
- 自分たちの周りの環境に目を向けて、動物や植物などの命を大切にする活動に取り組んでいることが分かりました。住んでいる地域の環境から季節を感じることは貴重な体験だと思ったので、ぜひ大切にしてほしいと思います。
- オニヤンマはとても大きくてびっくりしますよね。私が中学校の頃合唱練習をしていた時に乱入して来て、実際の大きさに驚いた覚えがあります。虫も植物も自分の体で季節を体感できた経験は貴重なものだと思います。その経験を将来の自分の子供にも伝えていけるといいですね。
- 地域の周りに特に着目していて、地元を好きになれるきっかけになると思うのでよいと思った。身近なこととESDを結び付けることによって、より良い学びにつなげていけるのだろうなと思った。生徒の興味に従って、学びを進めていた点がとても素晴らしいなと思った。
- 自分たちの身の回りの物に興味を持って学習を行うことは既存の知識と結び付けやすくなる活動方法なのでとてもいい学習方法だと思いました。また、自分たちを囲む植物や生物のことを知り、そこから新たな学習に知識を繰り広げていくことはとてもいい学習方法だなと思いました。身の回りのものから学べることをどんどん学んでいってほしいなと思いました。
- 自然は大事と思いながらもネット検索やソーシャルメディアで写される壮大な自然に目が行きがちだが、身近な自然にこそ守りたいという思いがわきやすいと考えそれを題材に活動するのが参考になりました。子どもたちも細かいことに気づく力が身についたとともに、地域の自然の食を通して地域とつながることができていてさらなる地域の魅力発見や活動ができるようになっていると思いました。

会場⑤-4 【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 5･6年生

活動テーマ 世界の子供達のために私たちにもできる小さな一歩

発表概要 グリーン・ヒルズ小学校の5･6年生は、探究学習の中で、「平等な機会にアクセスできることは人類に豊かさをもたらす」というテーマで学習を進めてきました。世界には、命の安全が保障されていない子供達や、水を汲むために一日を費やし、遊ぶことも学校に行くこともままならない子供達、カカオの農場で児童労働を強いられているために、学校に行きたくても行けない子供達がいます。世界の子供達が平等な教育の機会にアクセスできるように自分たちにどんなことができるのかということを考えたグリーン・ヒルズ小学校５・６年生の発表をぜひお聞きください。

感 想

会場⑤-4 【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 5･6年生 発表を見た方からの感想

- 発表ありがとうございました。ただ問題を調べるだけでなく, 調べたことからさらに詳しく探究していてすごいなと思いました。また、一つ一つの問題から自分たちにできることを考えていて, インスタグラムでの発信や募金など私も自分にできることをやってみようと思いました。
- ネパール出身の2人との交流を通して、日本との違いに驚き、自分の世界観が広がり、いろいろな興味や関心が湧いたと思います。恐れずに、国際交流に挑戦して欲しいと思いました。児童労働の学習から、自分たちにできることを考え、SNSを活用した取り組みを実行しているところが素晴らしいと思いました。お金を支払わない募金があることをはじめて知りました。いつでもどこでも寄付することができるので、やってみたいと思いました。自分たちの願いをしっかりと伝えることができていたと思います。全体を通して、自分たちにできることを考え、実行する力があり、素晴らしいと思います。これからも、いろいろな活動を積極的に発進していって欲しいと思いました。
- 留学生の方と交流するという活動は、SDGsの「パートナーシップ」の目標を達成できていると思い、異文化理解につながる活動でとても良いと思いました。児童労働の問題について考える活動は、「質の良い教育を皆に」という目標を達成できると思い、購入する商品を工夫するなど自分たちに出来ることからやっていくことが大切だなと思いました。積極的に寄付をしようとしていてすごいと思いました。お金の寄付が難しい場合、物の寄付をしたらどうなるかなと思いました。
- 交流を通して世界に目を向け、困っている子どもたちのために何ができるかを考え、実行に移している姿が素敵だなと思いました。是非1年間の学習にとどまらず、この先も活動を続けてほしいと思いました。子どもたちへの寄付以外の術が見つかると思います。
- 発表ありがとうございました。世界を救う第一歩として、ネパールの方と交流したり、児童労働をなくすためにできることを考えたり、寄付できるものを探したりなど様々な角度から取り組みを行っていることが分かりました。皆さんの発表からフェアトレードやクリック募金など、詳しく知らなかったことを学ぶことができたので、自分の中で支援の幅が広がったように感じました。
- 元気のいいあいさつから始まる発表ありがとうございました！ネパールの方と交流していてとてもすごいなと思いました。しおりもネパールのことがたくさん書いてあったりして、とても素敵でした。また、児童労働という言葉の意味も思っている意味とは違い、あたらしく知ることができました。これからもSNSなど活用して、活動をしていってください！応援しています。
- 世界の子どもたちにできることを、様々な分野から見て考えられている姿が素敵でした。ネパールの方との交流や、募金活動、児童労働について調べ、自分たちには何ができるのかを考え、行動している積極的な活動が、世界の子どもたちのために繋がっていると思います。皆さんの活動を全校生徒の方々や、保護者、地域の方々に伝えていくことでより大きな活動にも繋がっていくと思いました。
- 発表ありがとうございました。ネパールとの交流などを通して日本だけでなく世界の状況を考えていくことも大切だと考えました。児童労働でのフェアトレードについてあまり知らなかったが生活の中で困 っている子どもたちを助けられると考え意識して探してみたいと思います。募金も様々なところで行われている手軽に行えるボランティアだと思うためこれからも積極的に貢献していきたいと思いました。
- 世界平和は自分の夢でもあり貧富の差をなくすことは SDGs のなかでも最も重要だと考えているので少しでもできる行動していきたい。
- 学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 5･6 年生のみなさん、発表ありがとうございました。世界で起こっていることに目を向け、それぞれのグループが課題意識を持ち活動に取り組んでいく中で、皆さんでできることに気づくことができましたね。とても素敵な活動だと感じました。今後も、活動が続くようであれば、様々な地域での問

題に触れ、どのような取り組みができそうかを考えられると、さらに良い学びになっていくのではないかと思います。

●それぞれが世界の子供たちを救うというテーマに沿って現状を調べ、解決する方法について考えられていて素晴らしいと思いました。この活動を通してはじめて知ったことも多かったのではないかと思います。多くの人に知ってもらうことで、より大きな力になると思うので多くの人に伝える活動を続けていってほしいと思います。

●私たちの身近にあるものを買うことで児童労働をしている子どもたちを救えることや、クリックをするだけで寄付することができ、寄付されたお金が子どもたちの教育のためなどに使われていることは知らなかったためとても驚きました。私自身でもすぐにできることがいくつもあることが分かったので、できることから少しずつやっていきたいと思いました。

●世界の人々を救うために、何かをしようと思うその姿勢がまず尊敬します。実際に、海外の人とかかわることは、自分の理解を深め、多様な価値観を知るためにとても良い勉強になりましたね。スライドや話し方にも、とても工夫がみられて、発表をとっても楽しく見ることができました。実際のデータを使 って信ぴょう性を高めたり、問いかけるように話すことで興味を引いたり…こんな風に発表することは、大人でも難しいです。皆さんは本当にすごいなと思います。これからも、頑張って学習を続けてい ってください。応援しています。

●他国の方と交流を深めることで、世界の現状を知る事が出来ると思いました。私自身、勉強が十分にできることが当たり前ではないことが改めて分かりました。この環境に感謝したいと思いました。この発表から、児童労働に対して小さな取り組みをすることで少しでも子供たちの助けになることが分かりました。

●留学生との交流のために、ネパールについてしおりをつくり、理解を深めようとする姿勢がとても良いなと思いました。ネパールの人たちとの交流を大切にしていて良いと思いました。また、児童労働に対しても、フェアトレード商品について着目し、探究活動においての目の付け所が素敵だなと感じました。

●小学校で世界の子供たちの教育について学んでいる人たちは少ないと思うので、とても良い経験だともいます。sumitaとrenukaさんとは私たちの高校にも来てくださり、一緒に授業を受けました。同じ方と交流できていたことに驚きました。留学生と直接交流することは、分化を感じる上でもとても大切です。また、児童労働について学び、フェアトレードについても詳しく学ぶことができていて、良いと思いました。これからも世界の子供たち、世界についてたくさん学び、視野を広げていってほしいです。募金というとハードルが高いような気がしてしまいますが、クリック募金やコンビニなどにある募金なら少ない額からできるので私たちでも取り組みやすいと思いました。私も実践してみようと思います。探求学習を通して、コミュニケーション能力や友達と協働する力を身に着けることができたと思います。これからも境について視野を広くして生きていってほしいです。頑張ってください。

●ネパールとの交流をしたということがすごいなと思いました。世界の現状を知ることで私たちにできることを考えることができると思いました。児童労働について、やはり途上国に多いことが分かり、悲しくなりました。皆さんは、悲しくなるという感想だけに留まらず、何をしていけば良いかを考えることに繋げていたので、素敵だと思いました。ぜひ協力したいと思いました。支援というものは、何か特別なことをするだけでなく、身近なことから始められるということを改めて感じました。

●世界の人たちが平等に、という観点から校長先生の活動を聞き、ネパールの留学生の人にインタビューを行い、自分たちの活動を深めているのは活動内容としてとても良いものだと感じました。また、インタビューの事前学習の中で自分たちの知識を深めていたのもとても良いと思いました。
児童労働を無くそうというトピックについて、私ははっきりと分かっていませんでした。また、児童労働を無くすために、企業が行っている取り組みがある、ということも初めて知りました。自分たちでも手軽にできるものなのでやってみたいなと思いました。「クリック募金」がある、というのを初めて知りました。「クリック募金」であればだれでも簡単にできるし、また自分が誰かの助けになっていると実感することもできるのでとても良い方法だと感じました。全体を通して、どのグループも自分たちのテーマに沿って良く調べられており、とても素晴らしいと思います。

●発表をしている皆さんが楽しそうに発表をしているので、きいているこちらも楽しんで聞くことができました。世界の問題に目を向けて学習を進めていることが素晴らしいと思いました。私たちの生活とは違う人たちのことも知ることで新たな発見があると思います。

●依頼書が大人の書いたような書かれ方ですごいと思いました。ネパールという国は地理の教科書でしか知らない世界なので、留学生が日本にも来ているのだと知って驚きました。フェアトレードといった商品を買うということはその取り組みに選挙で一票を投じているようなものだと思います。その価値観を持ったまま大人になっていってほしいと思いました。寄付もそんな簡単にできる方法があるなんて知りませんでした。私もクリック募金やってみたいと思います。

●図書館で調べることから活動をスタートし、校長先生とも協力しながら、留学生の方との交流をしていてとてもいいと思った。国際交流や児童労働という少し難しいテーマを取り上げていて、凄いと思った。自分たちが具体的にできることも紹介していて、親近感がわく発表でした。

会場⑤-5 【長野県】長野市立信里小学校 3年生

活動テーマ 里山の恵み～信里に住む生き物とのふれあい～

発表概要 信里には多くのため池があり、里山の環境にも大きな影響を与えてきた。3･4年生の子どもたちは特に生き物に興味を持ち、トカゲ･カナヘビ･トンボを追いかけ観察を続けてきた。里山のよさを知り、学校目標『信里を語れる子ども』の素地を作る活動である。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名

長野県長野市立信里小学校　３学年　７名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（1）活動名　里山の恵み～信里に住む生き物とのふれあい～

（2）目　標

・信里に生息する生き物との日常のふれあいを通して、自然の豊かさを体感する。
・トンボ学習を通して、多くのトンボが生息する原因はため池にあることを知る。
・生き物の生息にとってもため池は必要なことを知り、自分たちができることを考える。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）

②育成する資質・能力

□批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDGｓ

６　安全な水とトイレを世界中に　　１５　陸の豊かさも守ろう

（5）探求課題・活動実践の概要（指導計画の概略含む）

①　トカゲやカナヘビとの遊びを通して、自分の知りたいことを探っていく。
・トカゲやカナヘビの魅力は何だろう。
・トカゲのカナヘビの種類や見分け方・特徴を研究。
・カナヘビの卵から誕生までの観察からわかったことをまとめる。

②　トンボ学習
・ヤゴを見つけ、トンボになるまでの過程を観察する。
・夏と秋のトンボ観察会　信里に見られるトンボの種類と特徴を研究。
・トンボの生息に適した環境を講師から学ぶ。

③　シナイモツゴ学習
・絶滅危惧種であるシナイモツゴの存在を知る。
・なぜシナイモツゴが絶滅危惧種になっているのか講師から学ぶ。
・信里にあるため池を維持することの意味を知る。

３．効果・反応・所感

３・４年生の子どもたちは特に生き物に興味を持ち、トカゲ・カナヘビ・トンボを追いかけ観察を続けてきた。里山のよさを知り、学校目標『信里を語れる子ども』の素地を作る活動ができた。信里には多くのため池があり、そのおかげで多くの種類のトンボが見られたり、絶滅危惧種のシナイモツゴまで敷地内の池にいたりすることは、貴重な信里の財産であることを実感してきた。この環境を守るために自分ができることは何だろうと関心を持っている。次の一歩を高学年になってどう踏み出すか課題も持てた一年間の学習であった。

４．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

【資源】　信里小学校周辺の田畑・ため池・森林
【協力者】トンボ学習　小林友広先生（千曲市在住）
シナイモツゴ学習　中野繭先生（信州大学）

感 想

会場⑤-5 【長野県】長野市立信里小学校 3年生　発表を見た方からの感想

- トカゲやトンボの絵や歌がとても素敵でした。実際に見たり触ったりして、いろいろなことを感じたことが伝わってきました。また、環境について自分たちにできることを明確にできていて、ぜひ実践していってほしいと思いました。
- 身近に住んでいる多様な生物との関わりを通して、生物を大切にする気持ちや生物の生育環境を守ろうとする気持ちが生まれたと思います。さらに、発展的に「ゴミを拾うこと」や「生物の成長を促進する」ことを考えることができていたことが素晴らしいと思いました。これから生き物を大切にするとともに、歌詞の意味を考えても学びが広がると思いました。
- 爬虫類を卵から孵して育てるという活動は、命のかけがえのなさを身をもって体験できる活動になると思うので、とても良いと思いました。卵から孵す対象を、ヒヨコなど誰もが知っていそうな身近な生物ではなく、どうして爬虫類にしたのか気になりました。歌で活動を発表していて分かりやすくて、とてもよかったです。
- 信里の自然について気づきたくさんの虫と触れ合いまたそこから自然を保全しようと試みる姿が素晴らしいなと思いました。また、トカゲを卵から育てることを通して命について考えられている点も素敵だなと思いました。
- 発表ありがとうございました。大好きな生き物たちとの触れ合いや調べ学習を通して、環境を守るための取り組みについて一人一人が自分のことのようにとらえ、考えていることが分かりました。地元が同じ長野県であることなどから、私も生き物とその環境の問題について触れ合いを通して考えていきたいと感じました。
- 発表ありがとうございました！信里賛歌を元気いっぱい歌ってくれてとても素敵でした！皆さんが大好きなトカゲとカナヘビ。頭をなでると目をつむるところや指を出すと尻尾をまいてぷらんぷらんするところなどたくさんのかわいいポイントがわかりました。また絶滅危惧種のシナイモツゴが生息していることも知ることができ、信里は素敵な場所なのだなということがわかりました。これからも信里の環境を守っていく活動をしていってください！応援しています。
- カナヘビを育てた体験が貴重でうらやましかったです。卵から出てきた瞬間を観察したりする経験はなかなかないと思います。発表は絵を描いてカナヘビ飼育の過程を見ることができたのでとても見やすか ったです。たくさんのいのちに関わることのできる学習は素敵だと思います。
- 信里に存在する多くのため池が生き物たちの大切な住処になっていること、その生物たちの生態を知り、自分たちに何ができているのか、皆さん一人一人が考えをもっている姿がとても素敵でした。自然の生態系を知り、生き物たちと一緒に生きていくために皆さんが考えたことを実践して、信里の豊かな自然を守り、その魅力をいろんな人々に伝えて欲しいと思いました。
- 発表ありがとうございました。身近にいる生き物とのふれあいから自然を大切にしようとする思いや、生き物を理解しようとする積極的な活動が伝わってきました。多くの生き物たちとの関わりから地域の問題を解決したり、環境を守るために自分たちが何をするべきか具体的に考えたりすることができていて、環境に対して真剣に向き合って活動していたのが感じられました。
- 皆さんのリンゴについての発表やトカゲやカナヘビについての発表を通して、皆さんが住んでいる街をとても好きでいることがよく分かりました。特に、生き物や植物をよく観察してスケッチしたり分類したりしているところが、理科の先生を目指す私としてはとてもいいと思いました。今後も、外での活動を通してたくさんの疑問や発見を見つけていってほしいと思います。
- 長野市立信里小学校3･4年生のみなさん、発表ありがとうございました。皆さんが住む地域の生き物に触れる中で、生き物が生きていくためには自然を守っていくことが大切だということに気づくことができましたね。また、生き物を守っていくためにどのような自然を残していくべきかにも考えられていましたね。今後は、今回の活動で気づいたことや考えたことをもとに、生き物を守るための活動ができると皆さんの力で信里の生き物を守ることにつながると思います。
- カナヘビやトカゲ、トンボなどの特徴を絵で伝えていたのがとてもわかりやすかったです。身近な生き物について観察したり学習したりすることを通してこれまで目を向けていなかった生き物にも目を向けられるようになったのではないかと想像します。最後に発表していた、環境を守るためにできることを続けていってほしいと思います。
- 里山の恵として自然との関わりから生き物の特徴やその生き物がどんな環境で生きているのか、どんな種類がいるのかなどいろいろな観点から考察が進められており、この視点を広げるということはこれからも必要になるため、とても良い学びになったのではないかと思います。

●皆さんの一つの昆虫に対する観察力や行動力は素晴らしいと思いました。こんなにも素晴らしい昆虫に囲まれた信里はみなさんにとってとても大切なふるさとなのですね。これからもふるさとの自然を大切にしていくとともに、ふるさとの人とのつながりも大切にしていってください。

●ニホントカゲやトンボなどの生き物の絵がとても上手だなと感じました。そして、絵を描くためにはそれぞれの生き物をよく観察をしないと書けないと思うのでみなさんがそれぞれの生き物をしっかりと観察してきたことが十分に伝わりました。信里の環境を守るためにみなさんが考えたことは全て大切なことだと思うので、これからもその考えを忘れずに、また大切にしていってほしいと思いました。

●周りにたくさんの自然の生き物がいて、学習することができることはとても素敵なことですね。宝物だと思います。私は、長野県の田舎の出身ですが、皆さんが住んでいる地域ほどたくさんの生き物はいないので、皆さんの環境は、とってもうらやましいと思います。実際に探して、観察して、発表することは、何よりも記憶に残り、身になると思います。これからも、たくさんの生き物と触れ合い、身の回りの生き物たちを守るために活動を続けられるとよいですね。皆さんの発表を見て、とっても勉強になりました。これからも頑張ってください。応援しています。

●自然が豊かなことを生かして、生き物たちについて調べ、考えていてとても良いと思いました。トンボについて学習したことを、田んぼとの関係性と結びつけて考察していて凄いなと思いました。生き物について考察する機会は自然が豊かである環境だからこそできることだと思うので、今後もこの環境を大切にして、色々な探究学習をしていってもらいたいなと思いました。

●地域の生き物との交流で自然と親しみ、動物の特性も学ぶことができていてよいと思います。虫の観察は小さいので難しかったと思いますが、卵をスマホで照らし、工夫して観察できていたと思います。
トンボ観察会では、どれがどのトンボかわかるのがすごいと思います。たくさんトンボについて勉強していて、知識があるからこそ特定できるのだと感じました。トンボの生態の特徴など生物学的なことについても探求できているところが良かったと思います。また、自然の大切さについて学べていてよいと思います。すべての探求の中で虫や魚の絵が描かれていて、とても上手だったので驚きました。それぞれが自然を守るためにしていきたいことを持っているので、その目標を達成できるようにこれからも頑張ってください。

●里山を守るためには、里山について知っていることが大切です。信里自慢の豊かな自然との触れ合いの中で、自然の大切さや当たり前にあるわけではないということを学び、守っていってほしいと感じました。信里にしかいない、あるいは里山にしかいないような珍しい生き物もいると思うので、ぜひ大切にしてほしいです。皆さんが生き物とのふれあいや学習の中で学んだことは自然を守る上でとても大切なことです。学んだことをこれからも心に留めておいてください。

●自分たちが住む地域への愛着がとても伝わってきました。地域にいる大好きな生き物に注目し、その生き物に詳しい方とのつながりも通して自分たち自身で深く観察したり育てたりすることで新しい発見をできていることがすごいなと思いました。そしてその生き物たちの将来のためにひとりひとり自分にできることを考え発表していて素晴らしいと感じました。

●さまざまな生物との触れ合いを通して、生物の体の構造や特徴についてうまくまとめられていたので良いと思った。また、専門家に直接会いに行き生物についてより詳しく知ることが出来ていたので良いと思った。

●素敵な歌だと思いました。生き物の観察をとても詳しくされていて感心しました。特に、赤とんぼでも3つの種類があるということに驚きました。いろいろな場所で観察して、環境問題に考えていることが伝わりました。皆さんが環境にたいして思っていることがしっかりあってすばらしいと思いました。

●自分たちの小学校の周りにある自然に目を向けて、その自然に生息している生き物について良く調べられているな、と感じました。また、説明するためのイラストも良く描かれていて、言葉の説明と合わさってとても分かりやすかったです。トンボの活動では自分たちで様々なトンボの種類を見つけていてすごいと感じました。また、先生との活動を通して、先生のお話を基にして自分たちで調べ、学習を深められている、と感じました。

会場⑥-1 【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校

活動テーマ 志賀高原ユネスコエコパークの魅力を探り発信しよう

発表概要 「志賀高原ユネスコエコパークの魅力を探り発信しよう」というテーマのもと、1自然と人間の共生　2自然資源の活用　3地域資源の活用　4文化資源の活用　5国際理解関係　という5大領域に分け、課題追求を進めてきた中で、当日は自然Eグループ「志賀高原の自然についてもっと知ろう」と、地域Aグループ「身近な取り組みから二酸化炭素排出量を減らしたい」という、2グループの発表になります。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名　対象（学年、人数）　山ノ内町立山ノ内中学校　１学年　６４名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（1）テーマ　志賀高原ユネスコエコパークの魅力を探ろう

（2）目　標　志賀高原研修旅行実施に当たり、次の５つの観点から志賀高原の魅力や課題を探り、より豊かなユネスコエコパークや山ノ内町の存続を目指そうとする。

５観点…①自然と人間の共生　②自然資源の保全　③地域資源の活用　④文化資源の活用　⑤国際理解・交流　（共生は省略名）

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

☑有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）

□その他（　　）

②育成する資質・能力

☑批判的に考える力　☑他者と協力する力

☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度

☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度

☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDGｓ　④　⑥　⑦　⑫　⑫　⑭　⑮

（5）探求課題・活動実践の概要

◇グループ別追究課題の設定　１２グループを５人の１学年職員が担当

①共生Ａ：自然と人間の共生について　共生Ｂ：自然と人間の共生についてどう取り組むか

②自然Ａ：志賀高原の自然について　自然Ｂ：自然の大切さや美しさについて

自然Ｃ：自然豊かな核心エリアをどうしたら長く守れるか　自然Ｄ：志賀高原の生物について

自然Ｅ：志賀高原についてもっと知ろう

③地域Ａ：身近な取り組みから二酸化炭素排出量を減らしたい　地域Ｂ：山ノ内町のゴミ問題

④文化Ａ：山ノ内町の特産品を守るにはどうしたらよいか　文化Ｂ：山ノ内町の観光業や特産品

⑤国際：どうすれば外国人観光客がふえるのか？

３．流れ（指導計画の概略）

５月…志賀高原研修旅行の目標や日程、活動内容の理解と、課題グループの調査、決定

６月…グループ活動、研究調査、アンケート等（４時間）

７月…志賀高原研修旅行(7/12-13)　トレッキング、外来種駆除と染め物体験、水資源保護講座等

８月～９月…研究調査したことをパワーポイントにまとめる。各第グループの代表の検討

白樺祭（学校祭）で３グループ発表…自然Ｅ、地域Ａ、国際グループ

１０月…未発表のグループの学年内発表（全グループの発表終了）

４．効果・反応・所感

・志賀高原については、小学校の頃からもなじんでいるエリアだが、実際に研修旅行で現地に赴き、ガイドからエコパークの現状と課題を知り、より身近な問題としてとらえることができた。

・外来植物のルピナスを駆除し、それを使った草木染め体験をすることで、自然保護の一過程を知り、自然の保全についての意識が高まった。

・志賀高原の自然は、あらゆるものと関連で現在があり、その自然を維持・保全していく人間のあり方について考えられる生徒もでてきた。

・生徒の感想より「２日間の研修旅行がありました。１日目はＳＤＧｓのことのお話を聞きました。２日目は、写真をとって、景色がとてもきれいでした。そめもの体験もとても楽しかったです。」

５．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

①志賀高原ガイド組合　②志賀レークホテル児玉さん　③志賀高原漁業協同組合長児玉さん

感　想

会場⑥-1　【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校　発表を見た方からの感想

●実際に行ってみないとわからないことがたくさんあった、という部分がとても印象に残っています。インターネットなどを見ることで、実際に現場に足を運ばなくても情報が入ってきてしまう今の時代、その現状を分かったつもりになってしまうことが多いです。しっかり環境の現状に対して向き合い、問題を自身たちのものと考えることができていてとても素敵だと思いました。問題を自身に関係のあるものとしてとらえられることはとても大切なことなので、ぜひ継続していってほしいです。

●身近な自然の中で課題を見つけそれについてしっかりと情報収集をできていたと思いました。しかし、言っている内容が難しいこともあり、多分自分たちの中でもその意味を理解しきれていない部分があるように思いました。自分で理解できていないことを人に説明することはできないのでその点でもっと工夫が必要だと思いました。

●中学生であるのに拘わらず、沢山の観点から考えていることに感銘を受けました。外来種の悪いところの一面だけを見るのではなく、良いところを探す姿勢にも感動しました。沢山のデータからよりよい生活を考察する姿勢も感動しました。

●志賀高原の水や動物について、魅力についても詳しく知ることが出来ました。実際に現地に行くことは良い方法だと思いました。地域Aの皆さんはデータを良く分析できていて良かったです。実際の節約できる金額が出ていて良かったです。

●大学の研修で、実際に志賀高原に行きました。とても自然が豊かな場所で固有種がしっかりと守られている場所だと感じていました。しかし、外来種の駆除など自然保護を大切にしていることで保たれている場所だということを知れてよかったです。二酸化炭素を減少させるために、私たちにできるような小さなことでも大きな効果があることが分かりました。どのくらい減少でき、お金も削減できることを具体的にデータで示していたのでとても分かりやすかったです。

●とても分かりやすいスライドと説明でした。日本が二酸化炭素排出量世界第5位に驚きました。解決策だけでなく数値も具体的に出されていて節約を頑張ろうと思いました。自分たち一人一人の行動が少しずつ世界を変えていくと思うので意識した行動をしていきたいと思いました。

●最初のグループでは自分たちの地元にある志賀高原という素敵な環境に着目して様々なことを調べられている点がとても良いと思いました。次のグループは、自分たちができる身近なところに着目している点がとても良いと思いました。私も実践してみようと思いました。

●外来種をただ駆除するわけではなく、それを用いた染物体験へとつなげるのはとても良い試みだと思いました。そこに元々生息していた生態系を脅かすため外来種は駆除が必要になりますが、駆除した植物等も何かに活用するなどの工夫がされると、より自然を守るという本来の目的につながるのだろうと発表を通し感じました。
また、二酸化炭素の排出について、私も知らない情報が多くあって勉強になりました。自分たちができることとして、具体的な提案、その結果がきちんと提示されていたのがとても良いと感じました。自分たちでできることを少しでも多く実践することで、より明るい未来を実現できるのだと思います。
実際に体験、分析を通し、どう自分たちが考え行動すべきか学びを得られた活動だったのだろうと発表から伝わりました。

●グループ①
とてもきれいに見える志賀高原の自然も、努力してその景観を守ってくれている人がいたこと、いいところに気が付いたなと思う。それを聞いてみんなが次にどんな行動をしてくかを考えることが出来たらさらにいいのかなと思った。
グループ②
自分たちにできることを考えることだけでなく、それが環境にどんないい影響を及ぼすのかまで考えられていていいなと思った。私も実践していきたい。

●ちゃんと調べてあって、さらに実体験を通し話の構成が分かりやすかった。強いて言うならスライドの文字は「ズバリ言いたいこと」だけを残すようにしたら見やすかった。

●志賀高原の自然について、外来種をうまく活用していて、ただ駆除するだけでなく染物にするというアイデアはとてもいいなと思いました。また、二酸化炭素を減らすために、大掛かりなことをするのではなく、日常の少しの工夫でもだいぶ減らせることを学べました。

●志賀高原の魅力を発揮させながら活動を行っている点がとても素晴らしいと思いました！魅力を知ってもらいながらもESDやSDGsの活動を取り組むことは一石二鳥のような感じがするのでこれからも頑張ってください‼

- スライドの文字数が少なかったため理解しやすいページが多かったです。また、資料を使って説明してくれた(二酸化炭素の排出量など)のでとても説得力がありました。
  どのグループも現実的で面白い問題に着目し、それに対して具体的な対策方法を考えられていて良かった。私も環境問題解決に向けて何かしていかなければいけないと考えさせられました。
- 外来種のルピナスという植物でハンカチ染めをしたと発表があって、それは自分たちで考えて行ったことなのかが知りたいです。私の住んでいるところの近くに染物屋さんがあって、近くにそのような場所があればコラボみたいなこともできるのかと思いました。
- 大学生顔負けの発表内容、とても驚かされました。リサーチやデータの収集もバッチリで、とても説得力のある内容にまとめあげられていたように感じます。ぜひ今後も活動を続けていき、より良い結果が得られるように応援しています。
- みなさんハキハキと発表していらして素晴らしいと思います。原稿を覚える必要はなく、原稿を見ながら必要な情報を的確に示していただきたかったです。地域Aの方々。インターネットを用いたのであれば出典を示した方がよいと感じました。
- 自然Eグループ:身近な場所でも知らないことが多く、志賀高原での探究はとても興味深いものであり、素晴らしい行動だと感じました。自然には在来種と外来種が共存していて、外来種をただ排除するのではなく、上手く活用でしていて良い活動だと感じました。
  地域Aグループ:なかなか考えても行動することは難しく、身近なことから始めることでも凄いことだと思いました。何が二酸化炭素排出に繋がるのかを調べて、考える姿勢に感心しました。
- 実際にその場に行って気づくことは多いと思います。どのグループもそのことを意識しながら、テーマを設定しようとしていることがよく伝わってきました。特に、普段の生活で何をすればどれくらい節約できるのかがデータとして調べてあげていたことが印象的でした。
- とてもよく考えていましたね、中学生とは思えないとても素晴らしい出来でした。今後こういった探求的な授業は増えてくるかと思います。ですが、今の皆さんなら更にハイレベルな授業ができると信じています。これからも頑張ってくださいね。
- 森林面積の推移と放出酸素量・吸収された二酸化炭素量が年代別に調べた結果緑豊かな山ノ内町の森林面積でも減ってくる傾向にあるということがまとめられていてわかりやすかったです。また二酸化炭素排出量のグラフも見やすくてよかったです。
- 志賀高原の自然を守るための取り組みなどについて丁寧にまとめられていました。私自身、何度も志賀高原を訪れたことがありますが、動植物など、初めて知ることが沢山ありました。実際に現地に足を運んで調査を行っているため、発表内容にとても説得力があり、良い発表だと感じました。
- 自然の中での観察だけでなく、観察の際に見つけた植物で一歩踏み入った染物体験をしていることを知り、良い体験だと感じた。二酸化炭素に関する発表では、自分たちの町で排出している量と吸収している量を調べたり、自分たちにできることを考えてまとめたりしていて良い学びだと思った。
- ESDの活動を5つのジャンルに分けそれぞれグループになって探究したということで、ある話題について徹底して調べることができたのではないかと思います。
  自然Eグループの「志賀高原の自然について」では、教室を出て現地に出向き調査や体験を行っている様子がわかりました。探究活動に一生懸命取り組んでいたことがわかったし、体験しないとわからないリアルな現状やそれに対する皆さんの感想が聞けてよかったです。
  地域Aグループの「身近な取り組みから二酸化炭素排出量を減らしたい」では、インターネットから必要な情報を吟味し自分たちの地域の現状を分析し、それをわかりやすくまとめていたと思いました。
- 志賀高原の自然について関心を持ち、探求を進めることが素晴らしいと感じました。「外来種」という種の生存を脅かす生き物に着眼点をおき、外来種を用いた活動を行っている点がとても面白く、素晴らしいと感じました。また、どのグループも探求を行うことで、今まで知らなかったことや新たな気づきを得ている姿が印象的でした。新たな発見を通して、自分を成長させることをこれからも繰り返していただきたいです。

会場⑥-2 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学校生徒会

活動テーマ 廃油石鹸プロジェクト！ ～4つのRで、海の豊かさを山の私たちから守る～

発表概要 家庭から出る廃油が川の汚染に大きくかかわっていることを知り、廃油でっ件を制作。文化祭や地域イベントで300個以上を売りました。途中、廃油せっけんが合成洗剤よりも環境に負荷をかけているという調査結果を見つけ、自分たちで条件設定して「本当にそうなのか」を探りました。

感 想

会場⑥-2 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学校生徒会 発表を見た方からの感想

●内容自体も身近な課題を掘り下げたよく考えられたものだと思いましたが、何よりも発表者の話し方のわかりやすさと、パワーポイントの見やすさが素晴らしいと思いました。情報量が多いため早口になる場面があったが、そのときにもしっかりと伝わるはきはきとした声とトーンで語られていたので、自分も見習わなければいけないと思いました。

●生活排水に注目していることにまず驚きました。生活排水から環境破壊、生態系の保護まで広げて考えている点に感銘を受けました。問題となる油を問題ない洗剤に変化させるという観点にも驚きました。そこから生まれる課題や期待に考察できることは簡単ではないと思います。

●廃油20mlだけでもきれいな水に戻すのにバスタブ20杯分も必要なのは驚きました。廃油石鹸というものがあることも初めて知りました。また、廃油石鹸を作って満足するのではなくその後の洗浄に必要な水の量まで考えられることが良い着眼点だと思いました。詳しく化学物質まで調べて比較できていて良かったです。

●身近な石鹸から環境問題に向き合っていくという取り組みが、とても素晴らしいと思いました。また、石鹸づくりで終了してしまうのではなく本当にそうなのかという再考を行うことでより環境に対する知識を深められていてしっかりと探求をできた活動でとても素敵だなと感じました。

●廃油の水質汚濁の問題がよく出ていますが、廃油石鹸というものを初めて知りました、廃油石鹸をただ作って終わりではなく、懸念点を見つけて、しっかりと検証していることが良いと思いました。もし見つけたら買ってみます。

●廃油を石鹸にするなんて自分には想像もできないので本当にすごいと思いました。自分のやっていることが本当にエコなのかを考えて色々な比較をしていて、いかに本気なのかが伝わってきました。新しいことを始めるのは勇気がいるけど挑戦していてとってもかっこいいなと思いました。

●自分たちが感じた課題に対して多角的に実験を行いながら、試行錯誤してよりベストな結果が出されていることがとても良いと思いました。また、地域の方に使っていただいた感想をお聞きすることで新たな課題解決につながったことに関してはとても勉強になりました。

●どんな石鹸がいいのかいろいろな観点で比較出来ていて素晴らしいなと思いました。普段意識せず使っていた洗剤が地球に悪影響を及ぼしていたことを知れたのは良かったですね。ぜひ今後も意識してみてほしいなと思います。

●私たちの生活がどのように環境負荷へとつながっているのかが具体的にデータで示されていて、それに対する実感がわきました。自分たちの生活がどのように環境へ影響を与えるか知っておくことで、普段の中で少しでも意識ができるようになると思いました。
また、廃油石鹸を作成・販売する活動をして終わるのではなく、反省からさらに探究し、分析・考察する姿勢が素晴らしいと感じました。活動から発展し、その先にも視野を向けることで、より自分たちが活動で得た学びを活かすことができると思います。

●視覚的に情報をもたらすスライドの役割を、文字をできるだけ少なくしたり、図を使ったりしてわかりやすく見せることで十分に使えている。そして話も分かりやすかった。

●廃油石鹸のデメリットにきちんと向き合い、検証し、デメリットにならないことをきちんと証明していたので、とてもいいと思いました。また、メディアをうまく活用していたり、販売していたりするのもとてもいいと思いました。

●皆さんが環境にやさしいものを常に考えて石鹸を作る、という活動を行っている事がわかりました。文化学園長野中学校の生徒会の皆さんが作った石鹸をつかってみたくなりました。どんな匂いがするのかなと気になりました。

●取り上げられる事例の内容のレベルの高さに驚きました。私たち大学生とは違う価値観を持っているからか、そういう発想はなかったという風に感じました。
洗剤を使った実験の結果を用いて考えたことが述べられていて良かった。論理的発表だったので説得力が感じ

られました。

- 4つのRというものを大学生なのに知りませんでした。廃油石鹸は家でもできるのでしょうか。石鹸を作って終わりではなく、さらなる課題を見つけているところがすごいなと思いました。
- 大学生顔負けの発表内容、とても驚かされました。リサーチやデータの収集もバッチリで、とても説得力のある内容にまとめあげられていたように感じます。ぜひ今後も活動を続けていき、より良い結果が得られるように応援しています。
- 廃油石鹸ってそんなに汚れが落ちるのですね。パーム油の生産を無くしてしまうという発想ではなく、生まれてしまう廃油を利用しようという発想が素晴らしいと思いました。ぜひ、実験の方法とまとめる前の実験結果も詳しい説明は無しで良いので示してください。結果と考察の信憑性が増します。
- 過去の活動からさらに深めた活動を探求していることに感心しました。廃油石鹸というものは知らなか ったし、少量の油が水を汚染するということは詳しく知らなかったので、興味深い内容でした。また、疑問に思ったことを詳しく調べる姿勢も素晴らしいと感じました。
- 発表の内容も非常にクローズな視点から考えられていますし、廃油石鹸というユニークな発想も素敵だと感じました。スライドも見やすく、非常に引き付けられる資料だと思います。ただ作っただけで終わらない、その先の課題も設定していることは今後も必要な姿勢だと考えているので、大切にしてほしいと思います。
- パーム油の問題が写真付きで説明されていてわかりやすかったです。4Rの視点から廃油石鹸を紹介して制作の様子まで紹介していて面白かったです。また手づくり石鹸の課題までまとめていたことがよいと思いました。
- 廃油石鹸の発表を聞いて、私も中学生の時に同じように調べたことがあると懐かしく思いました。昔から言われているけれど、なかなか多くの人が使うことが実現されてはいないと改めて思いました。
- 発表の構成が良かったと思います。また、スライドも非常に丁寧に作られていて理解し易かったです。廃油石鹸の有用性について数字を使って示していたため、説得力があると思いました。廃油石鹸を実際に作る過程での試行錯誤した様子から、活動への思いが伝わってきました。発表お疲れ様でした。
- 4Rの視点から合成洗剤の問題点を知り、そこから水を汚さない廃油石鹸の作成に取り組むところに辿り着くのが素晴らしいと思った。また、作って終わりではなく、本当に環境にやさしいのか、洗剤としての効果はどうなのかまで、調査しているところが良いと感じた。
- 自分たちが取り組んだ活動をただ発表するのではなく、聞く人がわかりやすいように、課題・活動・結果が示されていていい発表だと思いました。活動をして終わりではなく、「余計水を汚してしまうのではないか」「本当にエコなのか」と新たな反省と課題を設定し、よりよい探究を続けようとする気持ちが感じられました。
- 環境について考えることは、身近なようでとても難しい問題だと思います。Think Globally Act Localという言葉のように、文化学園長野中学校生徒会さんの活動が地球環境に大きく関与していることが発表から感じることが出来ました。このような活動を行い、学びを得た経験は、とても貴重なものだと感じます。これからも環境のために何ができるかという大きな問いを持ちながら生活してみてほしいです。
- 廃油石鹸プロジェクトというとても斬新なテーマでとても惹かれました。SDGsの17の目標に着目して自分たちに何ができるのかということを、テーマにそって詳しく調べたことがとても伝わってきましたし、興味をひくようなスライドと共に紹介していた点もとても良かったです。そして4Rという1つの中心的な視点から言及していることで、より内容が明確になっており、お話の内容が入ってきやすかったです。また学んだことや良かったところだけではなく、実践によってわかった課題点もしっかりと示されていて、現実的に考えられていることがわかり、良かったです。
- 海洋汚染の原因として、廃プラではなく、生活排水に着目するのはとてもいい着眼点だと思った。廃油は生活の中でもよく目にするものであるし、処分に困ることもあると思うので、自分たち自身にとってはもちろんのこと、伝える人にも伝わりやすい学習であると思った。今は小規模で販売を行われているようだが、環境問題は自分たちだけではどうにもならないこととして、広くこの活動を伝えるにはどうすればよいかを考えることで、より意味のある学習になると思う。
- 生活排水は川や海を汚す大きな原因となっているため、環境問題を解決するためには無視できないところだと思います。今回の探究活動で、生活排水が地球環境に及ぼす影響について調べ、問題を改善するために廃油石鹸をつくるという発想は面白いと思いました。

会場⑥-3　【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学校3年生

活動テーマ　ART MILE PROJECT

発表概要　今年度、インドの学校と、壁画を完成させるアートマイルプロジェクトに参加しました。お互いの意図が伝わらないオンライン交流の限界や、異文化理解とは何かを考えた1年でした。それでも精一杯できることをしつくし、クラスで協力して1枚の壁画を仕上げたことは、中学最後の忘れられない思い出です。

感　想

会場⑥-3　【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学校3年生　発表を見た方からの感想

- インドの姉妹校との交流が文化の共有だけではなく、自分たちの環境や状態がより学ぶことができたという点に印象が残っています。努力だけではだめだとしても実際にかかわりを持とうとした行動が素敵だと思いました。日本に住むインド人の方とのお話をする機会ができて、よりインドの学生と仲を深められる機会をえられるといいですね。
- 英語での、プレゼンテーションは驚きました。準備も大変なものだったのだろうと、思うと頑張ったのだろうなと思います。しかし、プレゼンテーションの本質は相手に伝えることだと考えます。英語に固執するのではなく、相手に伝えるためになにができるのか、を考えることが重要だと考えます。
- 英語で話すという挑戦をしながらも、パワーポイントは日本語にしたり、簡単な英語を使ったりするなどの工夫をできていて素晴らしいと思いました。国際交流に絡めて英語での発表となったのだと思いますが、もう少しその辺の説明を日本語でしてから英語の発表をするなど、違和感のない流れにできる工夫をするとさらに良くなると思いました。
- 水と宗教をつなげて考えるのは面白い発想だと思いました。インドの人達との交流を通して自分たちの課題を見つけられていて良かったです。違う言語や宗教の人達との意思相通は難しい所もあるけれど、そういった壁をなくしていくことが今後重要になってくると思いました。
- 日本に住んでいるからこそインドの特有の文化や宗教に目を向けることができ、そこから課題解決につなげることができると感じました。また、オンラインを多く活用し実際にインドの方と対話をしている点は課題解決の実現に大きく役立つと感じました。
- 言葉も思うように伝わらない中で、どうにかコミュニケーションをとろうと努力してきたことがよくわかりました。国際交流の大変さは体験したことがないので完全に理解しきれているかは自信がないが、理解しようとする強い姿勢だけでも素晴らしいと思う。今回はうまくいかなかったかもしれないが、その過程の行動や考えには胸を張っていただきたいなと思った。
- 実際に異文化圏の人々と関わることで、ただ調べるだけでは実感がわかない当事者の抱える問題や事情に対する理解がしやすいのだと発表を通し考えました。異文化に触れ、自分たちとは違う常識を持つ人々に出会うことで、どうすればいいのかわからず悩んだという話から、それこそが異文化理解の一歩であり、本質なのだろうと思いました。表面的なことで終わらせるのではなく、真摯に皆さんが活動を通し異文化と向き合い、深く考えたのだろうということが発表から伝わりました。
- SDGsの活動やESDの活動を行う中で、言語の違いの問題も重要な問題であるという事がわかりました。話し合いや、計画を練っていく中で言語の違いやそれぞれ文化の違いなどの問題も出てくると思いますが、それらも考えながら活動を行っていくことは大変だなと思いました。
- 実際に東京大学院の先生にお話を伺っていて行動力があってよいと感じました。私も自分で調べたことだけでなくそういう人からの意見を聞くということをやってみたいと思いました。また、英語でのスピ ーチには何事にも挑戦する姿勢がみられてよかった。そういう人たちの発表には説得力も感じられました。
- Your English skill was great!!! Great speech!!!
  I'm looking forward to improve your skill more and more in the future!!
- インドと日本の学校をインターネットで繋ぎ、インドの水質問題について考えることに驚きました。インドとのコミュニケーション問題などさまざまな問題がある中で、少しずつ関係を築き、課題に取り組む姿勢に感心し、素晴らしいと思いました。
- I found it very interesting that Japanese and Indian students are trying to solve problems in India jointly. While realizing the difficulty of cross-country exchange, I hope that it will lead to better research. We hope for further growth.

●とても流暢な英語で、堂々と発表していて素晴らしいと思いました。インドの学生と関わりながら活動を行う上で様々な課題に直面しながらも、工夫を凝らしていく姿に感銘を受けました。活動が終わってからも、反省点を分析している点が良いと思いました。

●インドとの交流を通して、国際間の違いを知り、課題を見つけて、工夫するというサイクルを繰り返していて、教科書の中からは学べない学びをしていると感じた。日本側の課題としては英語を用いたコミュニケーションだと知ったので、私も自分の英語のスキルを伸ばすとともに、教師になったら英語の必要性を伝えられるようになりたい。

●距離的にも遠く離れており、宗教や生活環境といった文化の面でも日本とは大きく異なるインドとのオンライン交流について、困難や課題もありのまま発表されていて、興味深く拝見しました。活動そのものの反省と、交流についての反省を一つのプレゼンにまとめたことで多少情報が散乱している印象はありましたが、短い発表時間のなか一つにまとめていてすごいと思ったし、その分濃い内容だったので聞けて面白かったです。

●コロナ禍ということで直接インドの方と交流出来なかったという点は少し寂しかったとは思いますが、それでも自分たちで熱をもって探求をし、自分たち自身で答えを出しているところもとても素晴らしくて、感動しました。

●インドの学生との共同探求は、まずすべて英語で発表するという斬新さが新鮮で良かった。そして、課題をこなしていくうちにぶち当たる文化の違いを肌で感じられたのは大きな成果だと思った。その課題をこれからどうしていくのか、制限がある中でチャレンジし続けてほしいと感じた。

●英語での発表、とても衝撃を受けました。こんな流暢な英語を話せる中学生と出会ったのは初めてです。異文化の活動を経験したことで、学んだことや見つけた課題を端的まとめられていて、頭にスラスラと入ってきました。義務教育の異文化交流の機会はそれほど多くはないですが、その貴重な体験を深い学びに使えていたように感じました。見習いたいです。

●全文英語を使っての発表より、異文化について深く学んだことが伝わってよかった。もともとSDGsとは世界全体で手を取り合い取り組んでいくものであると思うので、日本から離れた異国の地に歩み寄り、互いに学習し合うことはとても価値のあることだと思った。コロナ禍でコミュニケーション関連については課題があるようだが、置かれた環境のせいにせずに、できる範囲での努力はできていたはずなので素晴らしいと思った。これからもぜひ海外の国との学習、活動を続けていってほしい。

●多くの国から様々な目的で、日本に移住したり留学したりする外国人が多い現在、異文化理解はとても大切なことだと言われています。違う国に住んでいる人と交流すると、言語や文化の違いに悩むこともあると思いますが、今後も多くの国の人と関わって、将来に生かしてほしいと思いました。

●成果発表お疲れ様でした。日本とインドの文化の差や学習設備の差が出てしまったことは残念でした。全ての子どもが、平等に学習できる環境を目指すことの第一歩として良い機会になったと思います。これからも交流を続けて問題解決に向けてSDGsを促進させてほしいです。

●インドの水問題に目を向けているところが素晴らしいと思いました。文化や言語面などの様々な苦労を乗り越えて、自分たちで工夫して交流を行ったということが伝わってきてとてもすごいと思いました。取り組みのうまくいったところや大変だったところを分析しているところが良いと思います。

●まず全部英語で発表していて本当にすごいです。スライドが日本語じゃなかったら内容を理解できませんでした。色々な困難を味わうことで見方が変わってきたり、新しい考え方に出会えたりすると思います。頑張ってください！

●英語での発表を見ることが初めてで、それがYouTubeの生配信であることを考慮してやっているのであればすごいと思うし、英語自体が上手いと思った。

●実際に東京大学院の先生にお話を伺っていて行動力があってよいと感じました。私も自分で調べたことだけでなくそういう人からの意見を聞くということをやってみたいと思いました。また、英語でのスピーチには何事にも挑戦する姿勢がみられてよかった。そういう人たちの発表には説得力も感じられました。

会場⑥-4

【長野県】中野西高等学校

活動テーマ　脱プラ･地域復興「麦ストロー制作」

発表概要

水害のあった長沼地区の復興の一つとして､麦ストロー栽培をしていることを知り､本部活動のイベント販売時で使用しているストローにおける脱プラを目標に掲げ､種からストロー作りに挑戦した｡実際に作成してみると予想以上に手間がかかることを実感し､持続可能な開発にするためにはまだ課題が残ると考えた一方で､販売時に添えて出すことでお客様に喜んでもらえたことが誇りとなり､活動を継続している。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和４年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．**学校名　対象（学年、人数）**中野西高等学校　ESD 珈琲倶楽部　　38 名
２．**探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等**
（1）活動名　ONE COFFEE TO THE WORLD …麦ストロー制作
（2）目　標　①コーヒーを通してフェアトレードの理念を広め、農家さんに公正な対価を払うことにより、豆の質の保証、教育の保証に貢献する。
②コーヒーを通して関連する課題に目を向け、多角的視点から SDGs 目標を達成する。
（3）ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
☑批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力
（4）関連する SDG s

１，貧困をなくそう
４，質の高い教育をみんなに
１０，人や国の不平等をなくそう
１２，つくる責任、つかう責任
１４，海の豊かさを守ろう

（5）探究課題・活動実践の概要
◆**問題の所在**　フェアトレードを広めるコーヒー販売において使用する資材がプラスチックであること
◆**探究の目的**　飲料販売で使用するプラスチック製品を持続可能な製品に変える
◆**先行研究**　珈琲農家の調査、飲料販売用品における脱プラ製品の調査、マイクロプラスチックが海洋生物や人体に及ぼす影響について調べる
◆**実験・調査方法**
①新潟海水浴場におけるプラスチックごみの現状調査、砂の採取
②ストロー制作
③次年度に向けた反省、手順のまとめ、種の管理等
◆**結果**
・種上から収穫までは肥沃でない土地でも育ったこと、水やりなどの手入れが必要ないことから、被災地などの復興につながる。
・一から手作りしたことで、販売次にお客様からの反応が多くあったことから、脱プラの選択肢として麦ストローを広めることができた。
・収穫後からストローにするまでの作業に手間がかかるため、市場販売価格が高いことがわかった。
◆**今後の課題**
・企業で広く使われるための大量生産方法と持続可能性のあり方を探究する必要がある。
・紙ストローの使用で脱プラをかなえる企業と消費者意識とのギャップを埋める必要がある。（紙ストローは焼却の際、二酸化炭素を排出し温暖化に貢献してしまうことを認識すること。）
３．**流れ（指導計画の概略）**
R3.12 月　長沼地区復興支援として麦ストロー制作を行っている方のご指導を受けて、種まき
R4. 7 月　収穫、長さを揃えて切る、ワタ取り、煮沸消毒、乾燥の手順でストロー完成
R4. 7 月　イベント販売で使用
R4. 1,2 月　発表　マイプロジェクト、信州 ESD コンソーシアム
４．**効果・反応・所感**
フェアトレードの理念を広めるために、オリジナルブレンドの開発・販売と実践してきたが、実践を通して「気が付いてしまった」新たな課題を一つ一つ考え、更なる実践を通して、問題を解決できることを体験している。また、実践しっぱなしではなく、いくつかの発表会に参加することで、部員たちが自ら振り返り、自分の言葉で探究を深めている姿がある。「探究を通して探究している」「結果が成功に終わらなくてもいいんだ、それが探究だとおもう」と、１年生の言葉として出てきたことに驚いた。また、活動を継続することで地域への周知が広まり、イベントや共同開発などのお声がけをいただいている。
５．**指導方法・体制の工夫（協力者や資源）**
協力者：①オリジナルブレンドの開発・・・丸山珈琲　丸山健太郎社長
②ストロー制作：ふぞろいのストロープロジェクト・・・塚田真由さん
③イベント出店：おごっそフェア・・・中野市商工会青年部

感 想

会場⑥-4 【長野県】中野西高等学校　発表を見た方からの感想

●コーヒー農家の現状を知り、さらに深め、多様なことを考える姿勢に感銘を受けました。実際にストローを製作するチャレンジ精神やその中で気づいた課題と向き合う姿にも感銘を受けました。脱プラには多様な問題があり、安易なものではないことを知りました。いつか理想的なものが生まれることを期待しています。

●個人的にとても興味深い内容だった。ストローに関しては自分もまだまだ課題が多くあると思っていました。実際に自分たちで足を運んで学び課題を発見するという流れの活動は他の学校でも行うべきと思う素晴らしい活動だと思います。今後も自分たちで見つけた課題を考え続けてほしいと思いました。

●コーヒー農家さんの儲けの値段を聞いて低さに驚きました。困った農家さんは麻薬を作るようになってしまうのも、そうせざるを得ない状況が問題だと思いました。ライ麦ストローを作る大変さを知りました。実際に自分たちで体験することはとても重要なことだと思いました。

●プラごみについて、実際に現場に行ってどのようになっているのかということを見に行ったということを聞いて、個人的にとてもうれしくなりました。私の出身は海に面した県で、砂浜はプラごみの山とな っているからです。プラスチック削減のためのストローづくりをするにあたって、作る工程だけではなくその処理、又これを普及するための方法まで考えられていてとても素敵だと思いました。

●脱プラ製品でライ麦ストローというものがあることを初めて知りました。紙ストローは処理で二酸化炭素を排出してしまうことを考え、植物のライ麦からストローを作ることにしたのは凄いと思いました。肥沃な土壌でなくても作れるため、どのような場所でも作ることが出来、広まっていけば当たり前のものになっていくのではないかと思いました。これからもコーヒーからSDGsについて考えていってほしいです。

●麦ストローの存在を初めて知りました。実際に作ることで何にお金がかかっているのかを知ることができ、課題を見つけていてとてもいい経験をしているなと思いました。私も麦ストローを作ってみたいです。また、このような活動ができる部活があることに驚きました。環境に配慮した活動をしたいと思っても一人ではなかなかできないので、とてもすてきだなと思いました。

●プラスチックの問題点が世間で広まる一方でどのような問題点が生じているのか詳しいことまで知らない人が多くいます、そのような中で問題点を自分たちの目で実際に確認したことは、とても良いことだと思います。また、多くの人に伝えられるようにメディアやSNSの活用は発展に繋げられると思います。

●麦ストローの存在を初めて知った。紙ストローで満足するのではなく、廃棄のことも考えてさらにいい手がないかを模索する姿勢は素晴らしいなと思った。確かに手間も時間もかかってしまうのかもしれないが、せっかく見つけたこの“麦ストロー”を活用していけたらいいなと思う。手軽に作成できる方法を模索してみるのもいいのかなと思った。

●自分たちの活動として、学びを広めることにも力を入れているのが素晴らしいと思います。コーヒー豆などの原料の生産者側が搾取されている現状はうっすらと知っていましたが、実際にデータを見せられることで、変えていかなければいけないという意識を改めて持ちました。
活動を通して自分たちや周囲の問題意識をより高めるというだけでなく、そこから新たに見えてきた課題を取り上げ、持続可能な社会に向け考え、活動し続ける姿勢を見習いたいと思いました。

●麦のストローがあることを初めて知りました。再利用が出来るストローは地球にやさしいと思います。プラスチックごみの問題で海が汚れてしまうということをよく耳にするので、このような活動はとても大事なものだと思いました。

●最近ではプラスチックのストローではなく、紙ストローが増えている中で、ライ麦のストローを作るというのはとても素晴らしい活動であると感じました！このような活動から、環境にやさしいもので溢れていったらいいなと思いました。

●最近では使用量が増えてきているものの少し批判のある紙ストローに着目していて面白かった。麦ストローの具体的な制作方法や、メリットデメリットについて考えられていて良かったです。プラスチックのストローは使わないようにしようという意識を持つようになることができました。

●ライ麦ストローの存在を知らなかったので、新たな知識になりました。実際につくってみたからこそ、意外と時間がかかることを知ることができると思うので大切な経験なのではないかと思いました。

●大学生顔負けの発表内容、とても驚かされました。リサーチやデータの収集もバッチリで、とても説得力のある内容にまとめあげられていたように感じます。ぜひ今後も活動を続けていき、より良い結果が得られるように応

援しています。

●紙ストローについて私は不快な思いを感じていたのですが、麦ストローというものがあるということに驚きました。自分たちで1から麦ストローを作ることで問題点などが見えてきて、改善することができる素晴らしい活動だと感じました。

●コーヒーのフェアトレードについて探究活動を行っていくうちに、SDGsとの関わりを見出しているところが良いと感じました。ライ麦ストローだけでなく、米ストローなど様々なエコストローがあることをこの発表から知りました。実際に体験して感じた考察はこれからも大切にしていってほしいと思います。素晴らしい発表をありがとうございました。

●ライ麦ストローを実際に制作した後、提供してみるところがすごいと感じました。ライ麦ストローを取り入れることの課題が分かりやすくてよかったです。またコーヒーを生産するよりもコカインや覚せい剤を再産するほうがもうかるという当たり前のことを今まで知りませんでした。

●聞き手に質問をしながら発表を進めている点が良いと思いました。映画や先行研究から明らかになったことが、とても分かり易くまとめられていました。活動を通じて得られた新たな疑問についても興味深く思いました。コーヒークラブの思いが伝わる良い発表でした。お疲れ様でした。

●フェアトレードについて調べて、持続可能な社会実現のために自分たちにできることを試していることがすごいと思った。特に、プラスチック製品削減のために、ライ麦ストローを作ってみて、そこから発見した欠点をどう解決するかまで考えていて、素晴らしい学びをしていると感じた。

●フェアトレードについて知る機会というのはこういったプレゼンや授業など堅い場面が多いと思うので、ESD珈琲倶楽部では実際にコーヒーを楽しんでもらう中でフェアトレードについて興味を持ちながら知ってもらえるというのが素晴らしいと思いました。また発表の内容について、実際にライ麦からストローを作る活動があったからこそ、実用化の難しさがよく伝わったと思うので、いい発表だったと思います。

●環境のために私たちに何ができるのかについて考え、ライムギに焦点を当てていることがすごいと感じました。実際にライ麦ストローの制作を行うことで、なぜコストが高くなってしまうのかという課題点に気づくことが出来ているところが、素晴らしいと感じました。何度も行動を起こし、反省を繰り返すことで、さらに良い製品を作っていくことが出来るのではないかと感じました。これからも活動を行っていただきたいと感じました。

●ごみの具体的な行き先をはじめに紹介して伝えることで、より次の内容がさらっと入ってきました。なぜ、ゴミはプラスチックではいけないのか、なぜ土にかえらなければいけないのかなどの根拠となることなので、はじめに紹介するという順序はとても工夫されているなと感じました。また、麦ストローなど実際にストローを制作することで、実際に発生した課題なども取りあげて、より説得力が増す発表となっており、素晴らしかったです。

●今プラスチックではなく紙でストローを提供し始めている中で、麦ストローという土にかえることができるものを作るという発想はとても良いことだと感じました。確かに人件費などの課題はたくさんあると思うが、実際に普及できれば良いなと思いました。

●紙ストローは知っていたけど麦ストローははじめて知った。土にかえるという利点に着目し、自分たちで作ってみるという実践的な取り組みを行った点に感銘を受けた。また、その取り組みから見えた課題まで思考していて主体的な学習ができていると感じた。

●フェアトレードについて、さらに海洋に浮かんだプラスチックごみなどの環境問題について発表してくれました。海洋プラの課題解決のための脱プラ製品の存在を今回初めて知りました。ライ麦のストローの製作体験を通して、感じたことや学んだこと、新たに発見した課題についてわかりやすくまとめられており、自分も大きな学びがあったと感じています。

●地元の復興とSDGs達成の2つの目標を掲げた上での活動は大変だったと思いますが、明確な目標を持ち取り組んでいる姿勢がとても良いと思いました。プラスチックを材料にしないストローは今後広く利用されるようになると感じます。

会場⑥-5

【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校生徒会

活動テーマ 生徒会におけるSDGs活動

発表概要

今年度SDGsに関する様々な活動を行いました。社会問題の解決に向けて高校生にできることは何かを探り、実践しました。

①カムカムカミプロジェクト　②暑さを防ゴーヤプロジェクト
③ながの環境フェアボランティア参加　④ぬうぞうくんプロジェクト
⑤長野駅前クリスマスツリーデザイン　⑥smile design week クリスマスプレゼント企画

感　想

会場⑥-5 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校生徒会　発表を見た方からの感想

- 今何かと話題のSDGsに関して、あまり普段耳にしないような具体的なプロジェクト名などを発表していて、自分の無知さを知りました。SDGsという言葉だけが一人歩きすることが多い中、しっかりと自分たちで具体的な内容を考えて、生徒会活動をしていてとても社会的意義のある活動だと思いました。
- コロナ禍のなかで活動が制限されるなか、何ができるのかを考えて行動することは大切なことだと思いました。実際に SDGs の目標に絡めて、文化祭などを利用して知ってもらうのは良い方法だと思いました。緑のカーテンや雑巾を縫うなど、身近なことを例に挙げることでより関心が持てそうだと思いました。
- コロナでたくさんの人が落ち込んでいる中、学校や地域の人に元気を出してもらおうと色々な企画を出して、イベントを行っていることが凄いと思います。SDGsから企画を考えているため、SDGsへの生徒達の意識も変わると思いました。
- プロジェクトの名前が、ユーモアがあって印象的でした。本当にたくさんの活動をしていてすごいと思いました。全校生徒を巻き込んで行っているので生徒会活動が活発になるし、SDGsにも興味を持ってもらえるきっかけになるのでとてもいいと思いました。私も生徒会で似た活動をしたことがありますが全校生徒に参加してもらうのが難しかったのを覚えています。私の学校は SHR や SNS、放送などを使いました。頑張ってください!!
- いろいろな取り組みが発表されましたが、特にヘアドネーションの取り組みはこのように周知することが可能だったのかと驚きました。どの取り組みも環境について考えられているとともに、とても実用的な活動ばかりでとても素敵だと思いました。地域に貢献する善光寺のプロジェクトなどはとても素敵な作品でした。
- SDGsを常に意識している活動の数々に驚かされた。また、ただ SDGsを意識しているというだけでなく、どの分野をターゲットにしているのかを明確にして取り組んでいるのがいいなと思った。全校生徒に協力してもらうことが難しいという話があったが、新しいことを始めていくうえでは避けられない問題だと思う。これからのためにその改善策を模索していくことも大事だが、今年やってみた活動をぜひ継続していってほしいなと思った。継続して学校文化として創り上げてしまえば今以上の全校生徒の協力が期待できると思う。改善しつつ、自身をもって継続していってほしいなと思った。
- 今までのグループは自己探求でしたが、文化学園高等学校生徒会は、周囲に働きかけているという点が素晴らしいと思いました。やはり、SDGsなどの世界的な問題解決には多くの人間の協力が必要不可欠です。そのようなことを理解して活動しているのかな、と考えました。
- 文化祭というイベントを通し、異文化理解やヘアドネーションについての活動を行うことで、より参加しやすい環境が工夫し作られているというのが素晴らしいと感じました。特にヘアドネーションは、学校から声かけを行うことで、それなら自分もやってみようという意識を持ちやすく、とても良い取り組みだと思います。私が高校生だったときにはあまりそういった活動が学校の中で積極的に行われてきたことはなかったので、自分たちで具体的かつ学びを得られ、社会にも貢献できる企画が多く行われていることに驚きました。私は将来教員になることを目指していますが、こうした活動がしやすい環境を整えることが教師として必要だと発表を通し強く思いました。
- 生徒会の活動を活発にしつつ、SDGsの活動につなげていてすごいと思いました。古タオルで雑巾をつくり、地域の動物園に寄付したというお話を聞き、高校と地域との繋がりを大切にしていて素敵だと思いました。文化祭もイベントがたくさんあり、楽しくSDGsについて考えられるいい環境だと思います。
- いつも駅で見ていたクリスマスツリーが文化学園の皆さんがデザインしたものということを初めて知りました。とても綺麗でした。課題もたくさん出てくると思いますが、これからもユネスコスクールとしての活動を頑張ってください応援しています！
- SDGs対策というと二酸化炭素排出量について考えがちであるものの世界平和に着目していて面白かった。また、その活動は高校生や中学生向けになっていて若者が取り組みやすい内容になっているとともに、生徒会活動へ

興味を持たせることができることを知りよくできたプロジェクトだと思いました。

- 大学生顔負けの発表内容、とても驚かされました。リサーチやデータの収集もバッチリで、とても説得力のある内容にまとめあげられていたように感じます。ぜひ今後も活動を続けていき、より良い結果が得られるように応援しています。
- 生徒全員に活動に参加させるのって難しいですよね。生徒会が考える問題点や活動の目標を多くの人に「共感」してもらうことが、大事かなって思います。
- さまざまなSDGsの活動を行っていることに感心しました。学校ではSDGsというものを扱うことがあるが、実行するまでには至らないことが多い中でさまざまな活動を行っていることに感心しました。や ってみようの精神で取り組むことの大切さを学びました。
- 文化祭でヘアドネーションを行う、ゴーヤで暑さを防ぐ、動物園に雑巾を寄付するなど様々な視点からの発想が大変興味深かったです。皆さんがSDGsとの関わりを意識しながら活動しているということは重要なことだと考えます。今後もそのような新しい視点を取り入れた活動を続けていってほしいです。素敵な発表をありがとうございました。
- SDGsの問題解決に向けて考えられた各活動がどれも非常にユニークでアイディアに富んでいると感じました。また、考えた活動を実際に形にする行動力も素晴らしいと思いました。工夫をすることで、一部の人ではなく全校を巻き込んで活動に取り組もうとしていた点が良いと思いました。発表お疲れ様でした。
- SDGsの一つのテーマだけでなく、様々なテーマに様々な内容での取り組みをしていて今の時代に合った教育であると思った。また、生徒会の中だけでなく、学校内や街の中での計画も行っていて、人と人とのつながりが発生していて良いことだと感じた。
- コロナ禍で思ったように活動ができなかったり制限が多かったりする中で、できることを見つけて積極的に活動しようとしてきた様子が伝わりました。普段の活動でもSDGsの観点を忘れず「省くことはできないか」「世界に貢献することはできないか」という思いから様々な活動につなげていましたが、これは私自身も身に着けたい考え方だと思いました。なかなか簡単にできることではないと思うので、すごいと思いました。
- ヘアドネーションはSDGsの3.4.8.10の4つもの目標に一致している知り、知らないことでとても驚きましたし、興味深かったです。またそれを自分たちの文化祭でステージの上で実際に美容師の方をお呼びして行うことで、より皆さんに知ってもらう機会となりとても良い活動だなあと感銘を受けました。私も今回の発表を聞いて、ヘアドネーション考えてみようかなという気づきになる素敵な機会を頂けました。ありがとうございました。また私のカメラロールにも素敵なクリスマスツリーの写真がありました。綺麗で素敵なものをありがとうございます。
- 制限のある中で自分たちに何ができるのかを考え、行動していた点に感銘を受けた。また、SDGsの項目の中でどれに当てはまるのかを考えている点に深い学びが出来ていると感じた。特にヘアドネーションを学校でやるというのは世界を見てもこの学校だけの取り組みだと思い、興味深かった。
- 発表をみて、学校をよりよくしようとする生徒会の思いが伝わってきました。生徒の意見を聞き、生徒にとって居心地のいい学校、個性のある学校を目指しているように感じました。しかし、学校全員の考えを運営に反映することはとても難しいと思いました。生徒会の仕事はとても大変と思いますが、より良い学校を実現できるように応援しています。
- 自分の力を活かし地域を盛り上げている点が良いと思いました。様々な事にチャレンジしている点が良いと思いました。聞き手の表情が見えなく発表が難しいZoomを用いての発表でしたが、落ち着いて、ハキハキと発表できていて良いと思いました。お疲れさまでした。
- 廃油石鹸について理解が深まった。廃油石鹸は4つのRに当てはまっていることを知り、とても環境によいことを知った。また、廃油石鹸を自分たちで作り、売るといった廃油石鹸という環境のよいものを地域に広めているのも積極的に環境を良くしようとしていてとても尊敬した。
- 活動を行うにあたって、考え込んでしまうのではなく、とにかく行動に移してやってみるという姿勢は、総合的な時間の学習の中でも、主体的な学習として重要な姿勢だと思った。また、自分たちは何をすべきか、何ができるのかを考え、取り組みを行う中で、SDGsの番号にからめて、解決につなげようと努力しているのが感じられてよかった。そして、活動の範囲を学校内のみならず、地域にも広げているのがいいと思った。

Ⅳ

研修会資料

ESD/SDGs学校研修会（山ノ内南小）
2022/04/20　15:20～16:40

ユネスコスクールとしてのESD/SDGsの進め方

水谷瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設／信州ESDコンソーシアム）

信州ESDコンソーシアム

今日の内容

- ユネスコスクール
- ESDとSDGs
- ESD/SDGsをどう学びに取り入れるか

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクール

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとは

ユネスコが認定した，平和や国際的な連携の実践により，ユネスコ憲章に示された理想を実現する学校です。

◎ユネスコ憲章（抜粋）
第1条 目的及び任務

1. この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、 人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

National Coordination Japan
UNESCO Associated Schools

4

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールネットワークの現状

世界182か国で11,500 校以上が加盟し，国内では1,116校の幼稚園，小・中・高校および教員養成系大学などが参加しています。

校種	学校名
幼稚園(1)	信州大学教育学部附属幼稚園
小学校(7)	山ノ内町立東小学校 高山村立高山小学校 山ノ内町立西小学校 山ノ内町立南小学校 茅野市立永明小学校 信州大学教育学部附属長野小学校 信州大学教育学部附属松本小学校
中学校(4)	信州大学教育学部附属松本中学校 山ノ内町立山ノ内中学校 高山村立高山中学校 信州大学教育学部附属長野中学校
一貫校等(1)	文化学園長野中学・高等学校
高等学校(2)	長野県中野西高等学校 長野県長野西高等学校
特別支援学校(1)	信州大学教育学部附属特別支援学校

- ASPnet;Associated Schools Project Network
- 2018年10月時点
- 信州大学教育学部は，ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク（ASPUnivNet）に参加

5

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン①

ユネスコスクールの活動の質を確保することを目的として，ユネスコスクールガイドラインが策定されています

ユネスコスクールとして大切なこと

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、ＮＰＯ等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 学校校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- 必要に応じ、ASPUnivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

6

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン②

ユネスコスクールは，日本ではESDの推進拠点としても位置づけられています。

持続可能な開発のための教育（ESD）推進拠点として大切なこと

- ESDを通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ESDの推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESDの理念の普及に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

7

信州ESDコンソーシアム

参加校に求められること

ユネスコスクールには積極的な活動が求められるほか，日本ユネスコ国内委員会に毎年，年次報告書を提出する義務があります。

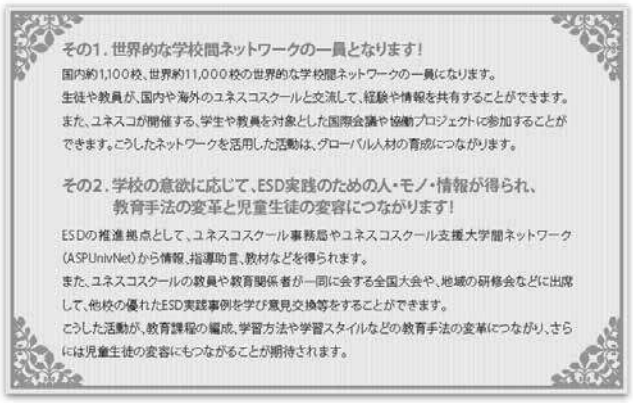
平成29年度ユネスコスクール年次報告書　（附属松本中）

8

信州ESDコンソーシアム

参加のメリット

世界的な学校間ネットワークの一員となり，交流を通じて様々な情報などが得られるほか，各種支援の取り組みもあります。



ユネスコスクールで目指すSDGs
http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP?action=common_download_main&upload_id=21113

ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト
年10万円助成，12月～1月募集

日本のユネスコスクールの課題

日本は世界最大のユネスコスクール加盟国ですが，その活動内容の見直しが求められています。

【今後の加盟申請における注意点】

① 「目標：心と体の健康」等、特にユネスコが定めるユネスコスクールの目標や優先活動分野（※1）とは関連が薄く、ほぼすべての学校に共通する一般的な情報が多い
② ユネスコが定めるユネスコやユネスコスクールの目標や優先活動分野とは関連が薄い分野（ex.一部の環境教育や防災）に関する非常に概略的な活動を提案している
③ ユネスコスクールに加盟するにあたって適切ではない、一般的な教育課程の内容を説明している
④ ユネスコスクールとして適切と思われる特別活動を記載しているが、ほとんどが半日のイベントで、準備も学年度を通して1時間しか費やしていない
⑤ 国際理解や地球市民に関することではなく、地域やコミュニティの課題や、学力・知識の習得や評価に特化し、比重を置いている
⑥ 簡単な外国語の指導を「国際的」、「異文化教育」と解釈している
⑦ 他のユネスコスクール加盟校とネットワークを築いたり、連携したりする意志や興味を示す学校が少ない
⑧ 学校が使用している資料について、国定の教科書や資料のみ記載されている

今後の加盟申請に関するお知らせ（ユネスコスクール事務局，2018年8月）抜粋

ユネスコスクールが注力すべき活動分野

ユネスコスクールには3つの優先行動分野への取り組みを中心に，SDGs（とくにSDG4）達成への貢献が期待されています。

6.2

Thematic focus

In line with its mission and objectives (*see Sections 2 and 3*), ASPnet contributes to the achievement of global and national goals which can vary over time. In the context of the SDG agenda, and in particular SDG 4 - Education 2030, the thematic action areas of ASPnet include:

a. global citizenship and a culture of peace and non-violence,
b. sustainable development and sustainable lifestyles; and
c. intercultural learning and the appreciation of cultural diversity and heritage.

In view of the decisions made by the Member States of UNESCO, the International Coordinator develops global or regional ASPnet projects on specific themes, in collaboration with the relevant units of the Secretariat.

a. 地球市民教育、平和と非暴力の文化
b. 持続可能な開発と持続可能なライフスタイル
c. 異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重

Education 2030

UNESCO Associated Schools Network -Guide for National Coordinators-
https://unESDoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000261994

11

信州ESDコンソーシアム

ESD/SDGs

信州ESDコンソーシアム

ESDとは何か

ESD (持続可能な開発のための教育) は，持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

- ESD（Education for Sustainable Development）
- ESDは，環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において，『これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動』（日本ユネスコ国内委員会 2013）

13

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指した，2030年を年限とする世界共通の目標です。

- 国連サミット(2015/9)で加盟193か国が全会一致で採択
- 17の目標と169のターゲットで構成され，232の指標で評価

14

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

- 持続可能な開発のための2030アジェンダ
  - 国連持続可能な開発サミット（2015）
  - MDGsの後継プログラム
- 17のゴール・169のターゲット
  - MDGsよりも普遍的（先進国を含む）・網羅的
- 誰一人取り残さない（No one will be left behind)
  1. 貧困の根絶（経済・社会開発）と環境保全の両立
  2. 不平等（格差）の是正
  3. 開発途上国だけでなく全ての国を対象

信州ESDコンソーシアム

SDGsの17の目標①

1. 貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

2. 飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

3. すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

4. 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

5. ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

6. 安全な水とトイレを世界中に
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

信州ESDコンソーシアム

SDGsの17の目標②

7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

10. 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する

8. 働きがいも経済成長も
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

11. 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

12. つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

信州ESDコンソーシアム

SDGsの17の目標③

13. 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

16. 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

14. 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

17. パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

15. 陸の豊かさも守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

信州ESDコンソーシアム

SDGsのターゲットにおけるESD

	ターゲット
4.1	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
4.2	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
4.3	2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
4.5	2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
4.6	2030年までに、全ての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
4.a	子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
4.b	2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、並びにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
4.c	2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

19

信州ESDコンソーシアム

SDGsの指標におけるESD

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。 By 2030, ensure that all learners acquire the knowledge and skills needed to promote sustainable development, including, among others, through education for sustainable development and sustainable lifestyles, human rights, gender equality, promotion of a culture of peace and non- violence, global citizenship and appreciation of cultural diversity and of culture's contribution to sustainable development	4.7.1 ジェンダー平等および人権を含む、(i)地球市民教育、及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b)カリキュラム、(c)教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル Extent to which (i) global citizenship education and (ii) education for sustainable development, including gender equality and human rights, are mainstreamed at all levels in (a) national education policies, (b) curricula, (c) teacher education and (d) student assessment

12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。 By 2030, ensure that people everywhere have the relevant information and awareness for sustainable development and lifestyles in harmony with nature	12.8.1 気候変動教育を含む、(i)地球市民教育、及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b)カリキュラム、(c)教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル Extent to which (i) global citizenship education and (ii) education for sustainable development (including climate change education) are mainstreamed in (a) national education policies ;(b) curricula ;(c) teacher education ;and (d) student assessment

持続可能な開発目標（SDGs）指標仮訳（総務省）
http://www.soumu.go.jp/main_content/000562264.pdf

20

信州ESDコンソーシアム

SDGs達成に貢献するESD

ESDはSDGsの目標・ターゲット・指標であると同時に，SDGsすべての達成に貢献することが期待されています。

現状理解

教育/ESDとSDGs

教育はSDGsの目標4に位置付けられており、ESDは目標4の中のターゲット4.7に配載されています。しかし、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。ですから、ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。また、SDGsを、ESDで目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできます。

次の一歩

SDGsを取り入れたESDの推進

ESDを推進すること自体がSDGsの達成に貢献することを踏まえ、SDGsが掲げる17の目標（課題）を、ESDの取組に取り入れ、今後のESDの推進に役立てていただきたいと考えます。例えば、ESDの取組をSDGsの観点から見直すことを通じ、自分自身のESDの活動に新たな意義や価値付けを行うことや、ESDの目標を明確化することが可能です。具体的なアプローチは、その学校・地域の課題やESDの取組方により様々ですが、SDGsを見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大事に、ESDを推進していただくことが重要です。

ユネスコスクールで目指すSDGs
http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP?action=common_download_main&upload_id=21113

信州ESDコンソーシアム

21

ESD for 2030

Education for Sustainable Development (ESD) is "an integral element of the SDG on quality education and a key enabler of all the other SDGs."

(UNGA resolution 72/222)

ESD はSDGsの必要不可欠な要素であり，またSDGsの達成の鍵

信州ESDコンソーシアム

ESD/SDGsを
どう学びに取り入れるか

信州ESDコンソーシアム

学習指導要領におけるESD

改訂学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」としてESDの理念が意識された記述がされています。

【前文（幼・小・中）】

- これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

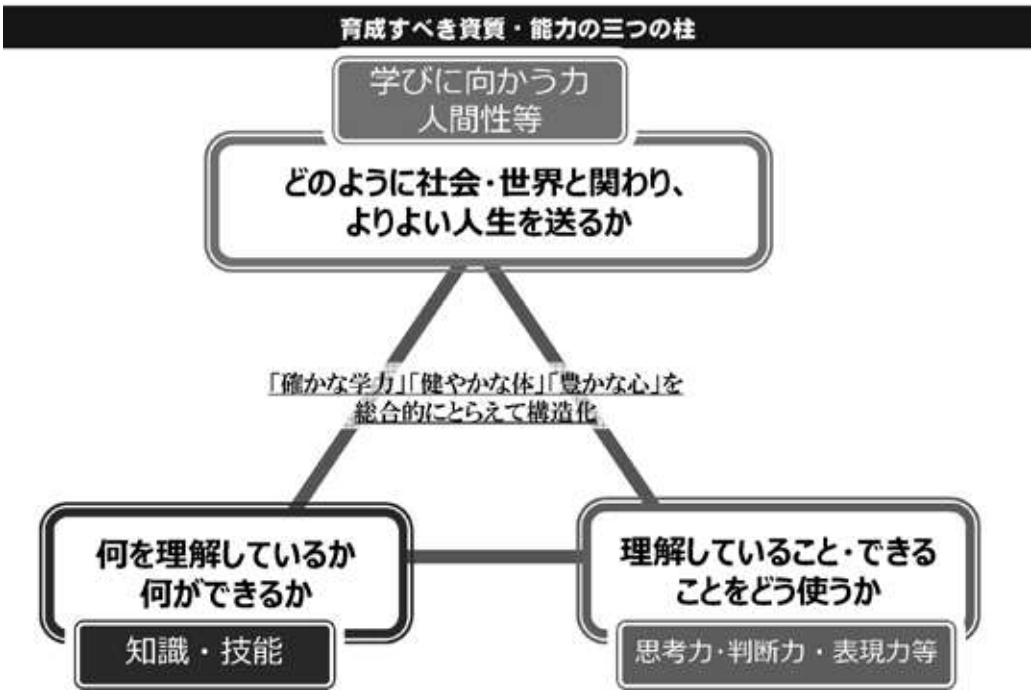
【総則（小・中）】

- 第1　小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割
- 3　2の（1）から（3）までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、…総合的な学習の時間及び特別活動…の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。

24

信州ESDコンソーシアム

学習指導要領におけるESD



25

信州ESDコンソーシアム

平成27年度文部科学白書＞
第4章　初等中等教育の充実

ESDの視点を持った学びとは

持続可能な社会を目指す価値観や必要な資質・能力を育む，主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的な学びです

－持続可能な社会づくりの構成概念（例）－

Ⅰ　多様性（いろいろある）	Ⅳ　公平性（一人一人大切に）
Ⅱ　相互性（関わり合っている）	Ⅴ　連携性（力を合わせて）
Ⅲ　有限性（限りがある）	Ⅵ　責任性（責任を持って）

－ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）－

① 批判的に考える力
② 未来像を予測して計画を立てる力
③ 多面的・総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度
⑥ つながりを尊重する態度
⑦ 進んで参加する態度

ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み（国立教育政策研究所）
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf

信州ESDコンソーシアム

26

ESD授業と”総合”

ESD授業の学習の流れや目指す資質・能力は，従来の”総合”で目指していたものと共通しており，これに持続可能性の価値観を加えたものがESDです。

第2章　今、求められる力を高めるための学習指導

第１節　学習指導の基本的な考え方……
1．探究的な学習
2．協同的な学習
3．体験活動の重視
4．言語活動の充実
5．各教科等との関連

第２節　探究的な学習における学習指導……
1．課題の設定
2．情報の収集
3．整理・分析
4．まとめ・表現

文部科学省（2010）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）

(文部科学省HP)

持続可能な社会の価値観=SDGs

27

信州ESDコンソーシアム

ＥＳＤ授業の例

「見つめよう　わたしたちの自然」
～ギフチョウから考える薦原の自然と未来～

実　施　校　名張市立薦原小学校
授業実施者　松田 淑子 先生
　　外部講師　伊賀ふるさとギフチョウネットワーク
対　　象　小学4年生　21名
参考としたモデルプログラム
生き物たちとの持続可能な社会を考えよう

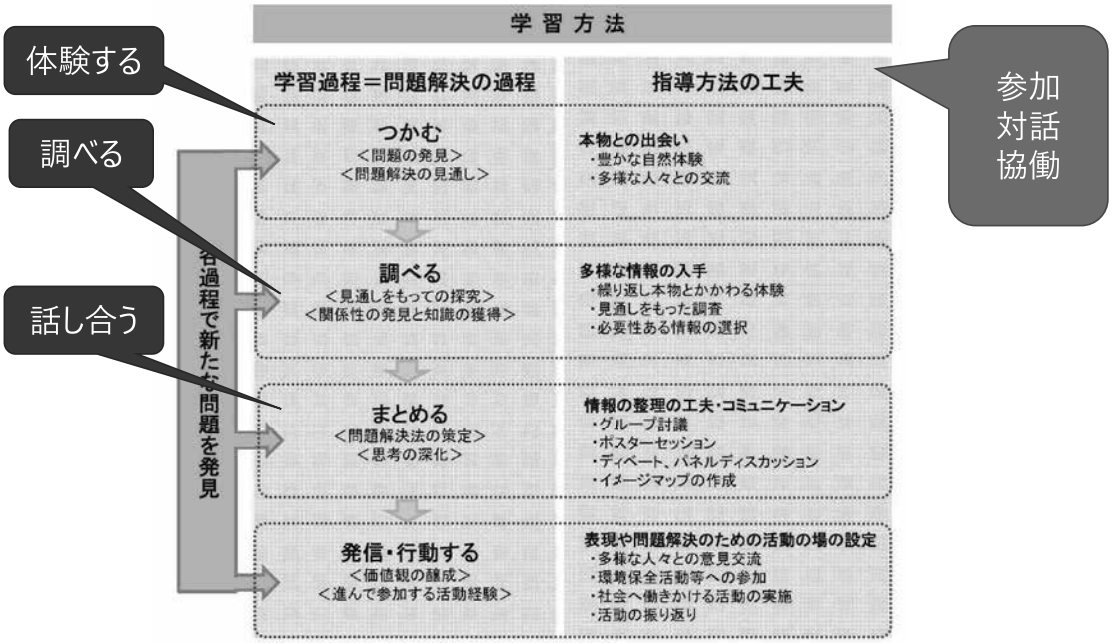
プログラムの流れ（総時数40時間扱い）

時間	題材名	活動・学習内容
1～3時間目	ギフチョウを見に行こう（春）	ギフチョウ見学、昆虫についての学習
4～9時間目	ギフチョウについて、さらに調べよう	生息地、食べ物、生態などをグループに分かれて調べる。
10～11時間目	ギフチョウの卵を観察しよう	学校周辺に発見されたギフチョウの卵を見に行く。
12～13時間目	調べたことを発表しよう	グループで調べたことを学級で発表する。
14～15時間目	全校のみんなに発信する方法を考えよう	ギフチョウの生息環境を守るために、全校に発信する。
16～19時間目	薦原の自然を調べよう（夏）	地域の自然の環境調査を行う。
20～23時間目	調べたことをまとめよう	薦原地域の生き物についてまとめる。
24時間目	絶滅危惧種の観察をしよう	校内のハナダカバチの観察をする。
25～28時間目	薦原の自然を調べよう（秋）	夏の地域の違いを見ながら観察に出かける。
29～36時間目	全校児童、地域に発信しよう	コモコモふれあい祭りで、ギフチョウ、薦原の自然について全校児童、地域の方に発信する。
37～40時間目	地域の自然を守るためにできることを考えよう	ギフチョウの観察や、薦原地域の探検からわかったことをまとめる。 【映像①】春の女神（ギフチョウ） 【映像②】幻の女神（ギフチョウ） 【映像③】ギフチョウの食べ物 【映像④】ギフチョウがいる僕らの町 地域を守っていくために、自分たちにできることを考えよう。 【映像⑤】ギフチョウネットワークの活動 グループで話し合う。 地域の自然の素晴らしさを再確認する。 伊賀ふるさとギフチョウネットワークからメッセージを得る。

信州ESDコンソーシアム

環境省中部地方環境事務所（2016）
ESD授業のつくりかた　ー22のエピソードー

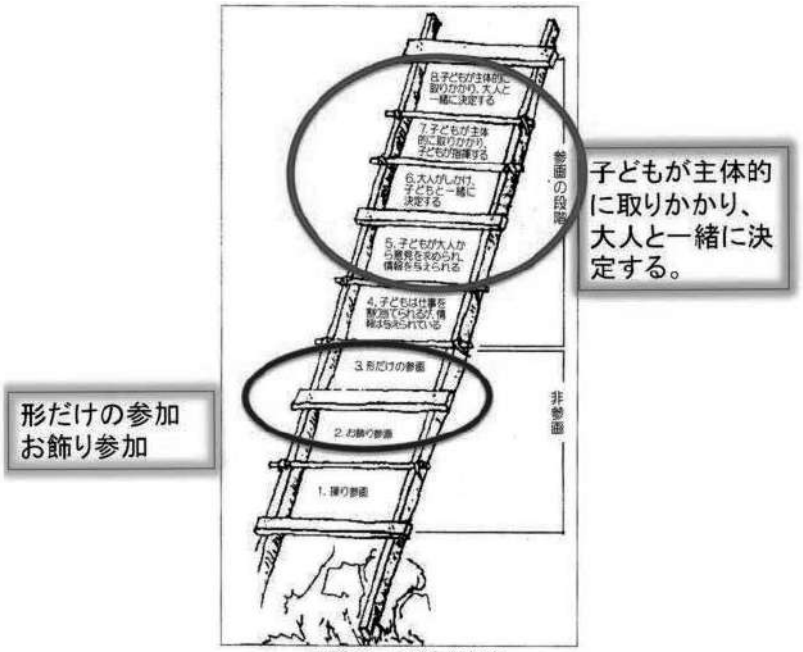
ＥＳＤ授業の学習方法



ESD 環境教育プログラムモデルガイドブック③
https://edu.env.go.jp/esd/news/702

信州ESDコンソーシアム

参画のはしご



図表6　子どもの参画
出典）ロジャー・ハート『子どもの参画』萌文社

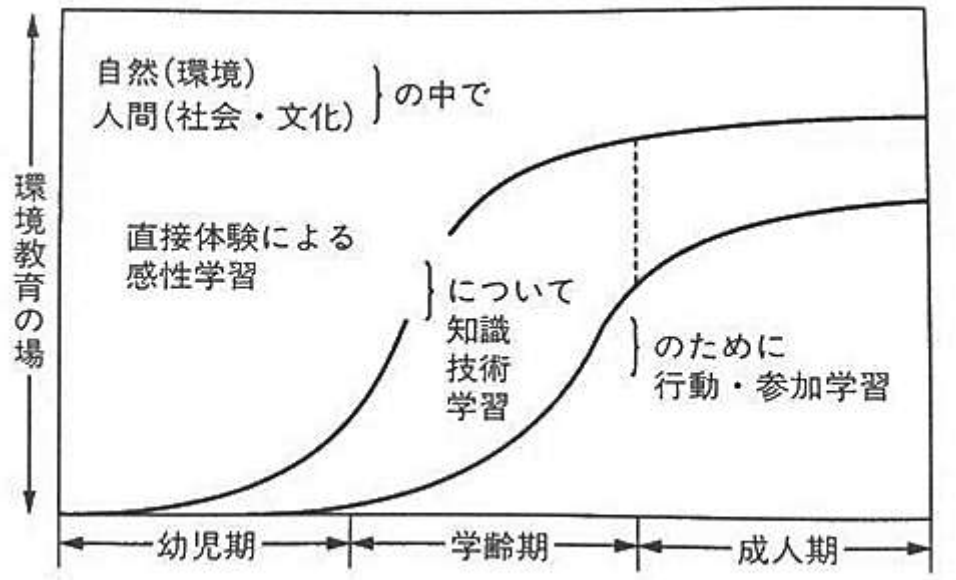
信州ESDコンソーシアム

身近な自然や社会・地域の教材化

- Think globally, act locally
- 発見がある
- 多様な学習・体験学習が可能
  - 参加型，探求型学習に向く
- 郷土愛や地域への愛着を培う

信州ESDコンソーシアム

発達段階に応じたテーマ設定

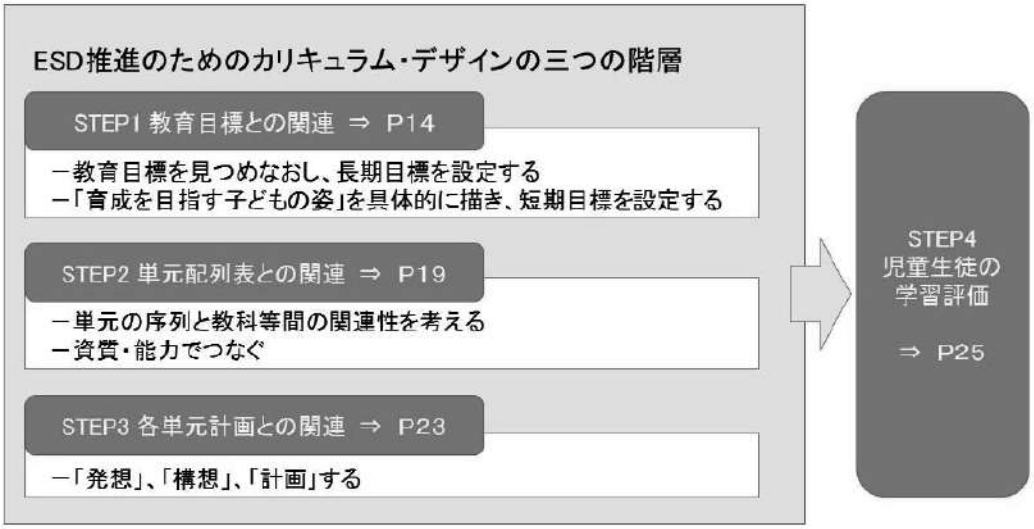


生涯学習と環境教育

子どもと環境教育（阿部学，1993）

信州ESDコンソーシアム

ESD推進のためのカリキュラムデザイン



持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引（令和３年５月改定　日本ユネスコ国内委員会）
https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf

信州ESDコンソーシアム

教育目標との関連

信州ESDコンソーシアム

ESDカレンダーと指導計画

ESDカレンダーは教科横断的な学習指導のイメージマップで，行事や教科・領域とのつながりを見える化し，学びを深めるのに役立ちます

教育課程の編成における教科横断的なカリキュラム・マネジメント

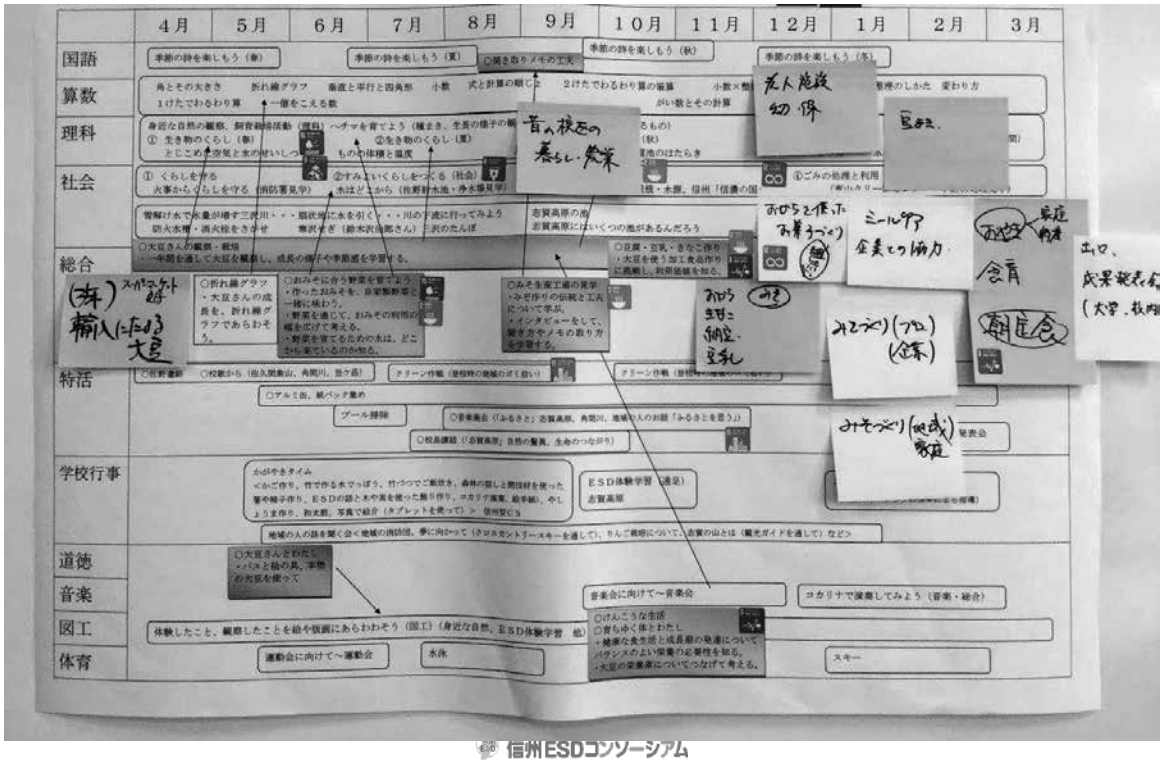
教育課程の実施における授業改善問題解決的な学習過程

セットで必要・変更をおそれない（予定調和でない学び）

信州ESDコンソーシアム

35

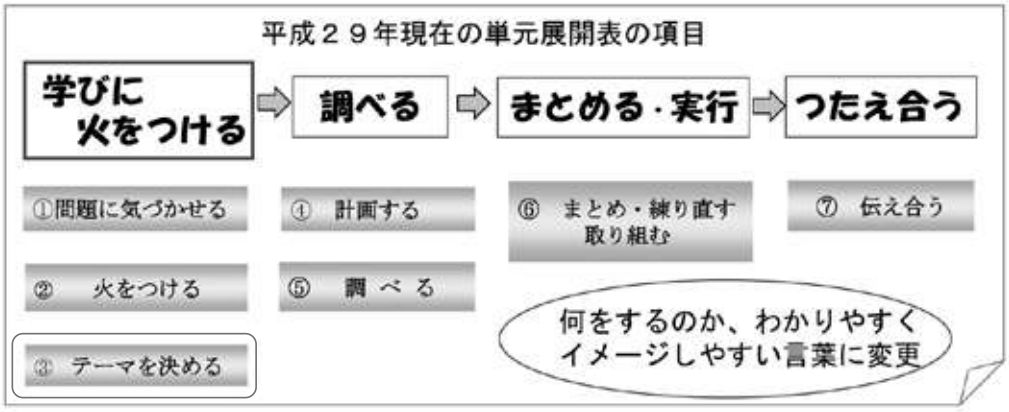
年間学習指導計画とSDGs（山ノ内南小）



信州ESDコンソーシアム

ESD授業の作り方

総合を軸としたESD授業では，体験などから気づき→調べる→まとめる・考える→つたえあう，という流れが一般的です



主体的な参画

手島利夫「学校発・ＥＳＤの学び」（教育出版）

ESD実践記録（山ノ内南小）

2019 年度 ESD 実践のまとめ

1 実施校、対象
山ノ内町立南小学校 5学年 男子6名 女子7名 計13名

2 授業課題の概要、ねらい、目標
（1）探究のテーマ 共同浴場ってどんなところなのだろう
（2）目 標
ねらい ①地域の中の温泉（共同浴場）と地域の方の関係に関心を持ち、大切にしていることがわかる。
②共同浴場の価値について自分の考えをもつことができる。
③多様な立場の意見に気づき、それを尊重しようとしている。

（3）探究課題の概要
5年生の子どもたちは、これまでに町独自などで、地域の様々なものに触れてきた。そのような子どもたちにとって地域の温泉（共同浴場）は当たり前のようにあるもので、当然のように子どもたちの日常の風景の一部となっている。前回の4月に子どもたちに「町のことを教えてほしい」と言うと、温泉を紹介しようとする子が少なくなかった。日常的な風景の一部であり身近な温泉は、子どもたちの意識では地域の特色と考えているようだった。そして、具体的に温泉（共同浴場）を利用する子どもも少数ではあるが、温泉というと旅館や観光施設をイメージした場所にあって、この子どもたちの実態は発きであり、温泉（共同浴場）は大きな魅力の詰まった場所なのではないかと感じられた。
そこで、教師はまず、全員で温泉に入りに行き、温泉につかる時間を共有したいと考えた。そこから様々なひと、もの、ことと関わる中で共同浴場の価値を見いだす活動を中心に行うこととした。

3 流れ（指導計画の概略）
4月： 地域巡り（上野原方面・道の駅方面）
5月：地域巡り（雪・湯沢方面・地獄温泉方面）
6月：共同温泉入浴
7月：共同浴場について探究課題を決める話し合い
9月：穂波温泉共同浴場入浴・松脂共同浴場入浴（伝建・大日堂共同浴場の活動協力実施）
10月：ゲストティーチャーのお話を聞く、地域で共同浴場を利用する方のお話を聞く）
共同浴場に関する疑問をするためのアンケート作成（先輩・保護者・地域住民に実施）
11月： アンケート結果の概要・分析
12月： アンケート結果から考察（考察したことを学級で交流）
1月：共同浴場についてわかった考えたことをまとめる
2月：わかったこと、考えたことを地域に発信

4 効果、反応、所感
子どもたちは、山ノ内といえば「大自然、志賀高原・スキー場・温泉・地獄谷・りんご」など様々な魅力があることを知っていたが、「共同浴場 という新しい地域資源に気付くことができた。また、共同浴場が観光入浴体験をされていただいたことから、その価値を実感することができた。
子どもたちは、共同浴場の学習を進めていけば進めていくほど、共同浴場のよさに気付くことができた。一方で、情報活動や施設の維持、温泉の源泉の管理など多くの課題や地域住民への利用しかることになった。このような活動から、将来共同浴場はなくなるのではないかという考えをもつ子どもがおおくなった。現実を知ることで、共同浴場を残したいという要望に考える子が多くなく、そうでないよいのか？と真剣に考えることができた。

5 指導方法、指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：仲野共同浴場管理者・山本さん 穂波温泉共同浴場管理者・仲藤さん
角間温泉共同浴場管理者・黒島さん

2019 年度 ESD 実践のまとめ

1 実施校、対象（人数も）
山ノ内町立南小学校 5学年 男子15名 女子6名 計21名

2 授業課題の概要、ねらい、目標
（1）探究のテーマ「これからも残したい大切な場所 夜間瀬川」
（2）目 標 地域を巡ることで様々なひと、もの、ことと出会い、自分が住む地域を見つめ直すこととでその魅力や価値を再発見することができる。
ねらい ① 川に親しむ中で、川を取り巻く社会的な事象と出会い、防災や減災化社会への対心などの社会的課題について知り。（知識、技能）
② 社会的課題に対して解決するために自らができることを考え、実際に試すことができる。（思考力、判断力、表現力）
③ 仲間と協力して活動し、課題の解決に向かい考え行動し続けることができる。（学びに向かう、学びに向かう人間性）

（3）探究課題の概要
4月から観察していた地域巡りの中で出会った、夜間瀬川。子どもたちは、夜間瀬川で遊ぶことが楽しさに溢れる中で、「これからも夜間瀬川を大切にしていきたい」「夜間瀬川が活気から遊ぶ者全てを楽しめる場になってほしい」「地域の人が集まって会話できるような場所にしたい」と願うようになった。また、「川のつくり」「堰堤のバリアフリー」と目が向いてきた。そこで子どもたちは、社会課題解決、事業参画の方との学習から課題を解決しようとした。そして、願いの実現に向けて、町子ども議会での発表や、協力を得たベンチ作りを行った。

3 流れ（指導計画の概略）
4月：地域巡り（夜間瀬川、湯沢方面）
5月：地域巡り（横湯、立川、上信野方面）
6月：地域巡り（雪、ﾊﾞｲﾊﾟｽ方面） 6月から6年生持参をカメラを持たせ、おもしろいと思ったものを撮影し、共有するようにした。（国立大学の水谷先生からの協力をいただいた）
7月：地域巡り（穂波温泉方面）、探究課題の決めだし
9月：川遊び（毎週2時間程度）、社会協働推進会の方との場所での楽しい体験
10月：北信建設事務所の方の話、子ども議会に向けてまとめの準備
11月：子ども議会（学校での発表と教室での発表）
12月：子ども議会を受けての今後の活動についての話し合い
1月：素材を利用したベンチ作り
2月：素材を利用したベンチ作り 学校への設置

4 効果、反応、所感
子どもたちは自ら考えて、試すことの大切さと楽しみを感じることができた。また、前まで何もないと思っていた地域に、子どもたちにとって今も大切にしたい魅力あるもの、があふれていることに気がついた。また、それを取り巻く社会的な事象や多くの人の存在を知り、思うがままにだけにならない状況とも出会うことができた。
頭の中で考えるだけでなく、実際に自ら活動し、そこから生まれた思想を大切にすることを子どもたちも教師自身も学びの学習だった。これから大人になっても、様々な形で地域を大切にする子どもたちになっていくことを期待している。また、特に、どこに住んでいたとしても、それぞれの場所に郷土あふれるものがあり、それにかかわる人がいることを感じたのではないかと思う。

5 指導方法、指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：山ノ内町環境協議会 北信建設事務所 湯本工務店
農牛放牧主員の山本さん
活用した資源：夜間瀬川 地域にある建物や石碑、看板 車いす 協材 など

まとめ

- ユネスコスクール
  - ユネスコ憲章の理念を実現する学校
  - ネットワークと交流を通じた学びあい・活動の深化，モデル的役割
  - ESD推進拠点と位置づけられ，とくにSDGsへの貢献が期待

- ESDとSDGs
  - ESD はSDGsの必要不可欠な要素であり，またSDGsの達成の鍵
  - 持続可能な社会を目指す価値観（→SDGs）や必要な資質・能力を育む，主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的な学び
  - 地域の学習材の活用＋グローバルな視点（SDGs），発達段階に応じたテーマ設定

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとしてよりステップアップするために

- ３つの優先行動分野への注力
  - 地球市民教育、平和と非暴力の文化
  - 持続可能な開発と持続可能なライフスタイル
  - 異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重

- カリキュラム・マネジメントによるESD/SDGsの深化
  - 地域の学習資源を教員が主体的に使いこなす
  - 体験を重視しつつ，それだけに終わらせない学び
  - ESDカレンダー，指導計画，実践記録（PDCA・改善のツール，SDGs）

- ESD推進拠点としてのモデル的役割
  - 強みを活かしたESD実践（地域資源・コミュニティスクール）
  - 学校全体でのESD/SDGsへの取り組み（ホールスクール）
  - 学校間交流・情報発信
  - 志賀高原ユネスコエコパークを活かしたESD/SDGs実践

信州ESDコンソーシアム

ESD/SDGs学校研修会（山ノ内東小）
2022/05/17　16:10～16:25（講演）
16:25～16:50（WS）

ユネスコスクールとしてのESD/SDGsの進め方

水谷瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設／信州ESDコンソーシアム）

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとは

ユネスコが認定した，平和や国際的な連携の実践により，ユネスコ憲章に示された理想を実現する学校です。

◎ユネスコ憲章（抜粋）
第1条 目的及び任務

1. この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

National Coordination Japan
UNESCO Associated Schools

3

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールネットワークの現状

世界182か国で11,500 校以上が加盟し，国内では1,116校の幼稚園，小・中・高校および教員養成系大学などが参加しています。

校種	学校名
幼稚園(1)	信州大学教育学部附属幼稚園
小学校(7)	山ノ内町立東小学校 高山村立高山小学校 山ノ内町立西小学校 山ノ内町立南小学校 茅野市立永明小学校 信州大学教育学部附属長野小学校 信州大学教育学部附属松本小学校
中学校(4)	信州大学教育学部附属松本中学校 山ノ内町立山ノ内中学校 高山村立高山中学校 信州大学教育学部附属長野中学校
一貫校等(1)	文化学園長野中学・高等学校
高等学校(2)	長野県中野西高等学校 長野県長野西高等学校
特別支援学校(1)	信州大学教育学部附属特別支援学校

- ASPnet;Associated Schools Project Network
- 2018年10月時点
- 信州大学教育学部は，ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク（ASPUnivNet）に参加
- 新規加盟校：ユネスコ正式承認前にキャンディデート校として位置づけ

4

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン①

ユネスコスクールの活動の質を確保することを目的として，ユネスコスクールガイドラインが策定されています

ユネスコスクールとして大切なこと

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、ＮＰＯ等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 学校校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- 必要に応じ、ASPUnivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

5

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン②

ユネスコスクールは，日本ではESDの推進拠点としても位置づけられています。

持続可能な開発のための教育（ESD）推進拠点として大切なこと

- ESDを通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ESDの推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESDの理念の普及に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

6

信州ESDコンソーシアム

ESDとは何か

ESD (持続可能な開発のための教育) は，持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

- ESD（Education for Sustainable Development）
- ESDは，環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において，『これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動』（日本ユネスコ国内委員会 2013）

7

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指した，2030年を年限とする世界共通の目標です。

- 国連サミット(2015/9)で加盟193か国が全会一致で採択
- 17の目標と169のターゲットで構成され，232の指標で評価

8

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

- 持続可能な開発のための2030アジェンダ
  - 国連持続可能な開発サミット（2015）
  - MDGsの後継プログラム
- 17のゴール・169のターゲット
  - MDGsよりも普遍的（先進国を含む）・網羅的
- 誰一人取り残さない（No one will be left behind）
  1. 貧困の根絶（経済・社会開発）と環境保全の両立
  2. 不平等（格差）の是正
  3. 開発途上国だけでなく全ての国を対象

信州ESDコンソーシアム

SDGsのターゲットにおけるESD

	ターゲット
4.1	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
4.2	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
4.3	2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
4.5	2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
4.6	2030年までに、全ての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
4.a	子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
4.b	2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、並びにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
4.c	2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

10

SDGs達成に貢献するESD

ESDはSDGsの目標・ターゲット・指標であると同時に，
SDGsすべての達成に貢献することが期待されています。

ユネスコスクールで目指すSDGs
http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP?action=common_download_main&upload_id=21113

Education for Sustainable Development (ESD) is "an integral element of the SDG on quality education and a key enabler of all the other SDGs."

(UNGA resolution 72/222)

11

学習指導要領におけるESD

改訂学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」としてESDの理念が意識された記述がされています。

【前文（幼・小・中）】

- これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

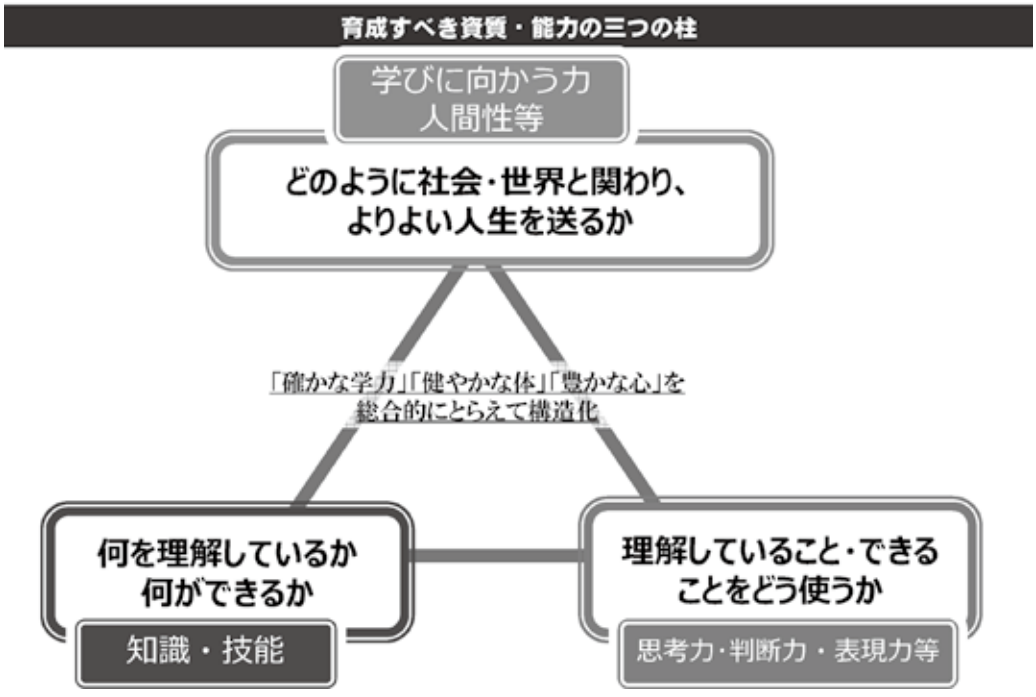
【総則（小・中）】

- 第1　小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割
- 3　2の（1）から（3）までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、…総合的な学習の時間及び特別活動…の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。

12

信州ESDコンソーシアム

学習指導要領におけるESD



13

信州ESDコンソーシアム

平成27年度文部科学白書＞
第4章　初等中等教育の充実

ESDの視点を持った学びとは

持続可能な社会を目指す価値観や必要な資質・能力を育む，主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的な学びです

―持続可能な社会づくりの構成概念（例）―

Ⅰ　多様性（いろいろある）
Ⅱ　相互性（関わり合っている）
Ⅲ　有限性（限りがある）
Ⅳ　公平性（一人一人大切に）
Ⅴ　連携性（力を合わせて）
Ⅵ　責任性（責任を持って）

―ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）―

① 批判的に考える力
② 未来像を予測して計画を立てる力
③ 多面的・総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度
⑥ つながりを尊重する態度
⑦ 進んで参加する態度

ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み（国立教育政策研究所）
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf

信州ESDコンソーシアム

14

ESD授業と”総合”

ESD授業の学習の流れや目指す資質・能力は，従来の”総合”で目指していたものと共通しており，これに持続可能性の価値観を加えたものがESDです。

第2章　今、求められる力を高めるための学習指導

第１節　学習指導の基本的な考え方……
1．探究的な学習
2．協同的な学習
3．体験活動の重視
4．言語活動の充実
5．各教科等との関連

第２節　探究的な学習における学習指導……
1．課題の設定
2．情報の収集
3．整理・分析
4．まとめ・表現

文部科学省（2010）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）

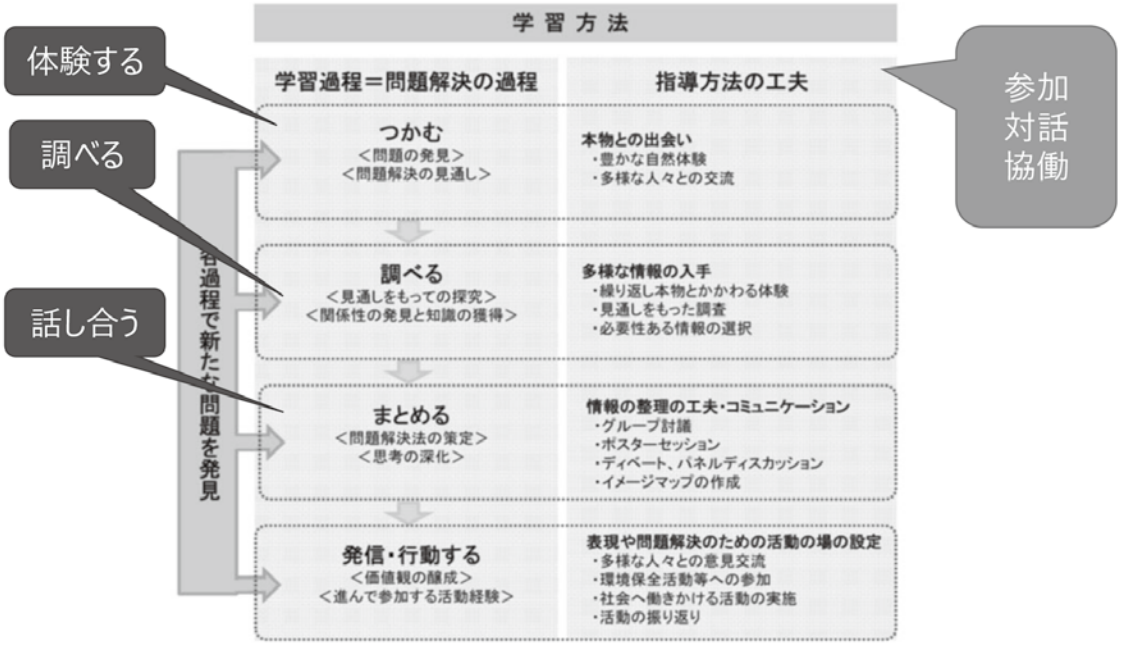
(文部科学省HP)

持続可能な社会の価値観=SDGs

信州ESDコンソーシアム

15

ＥＳＤ授業の典型的な流れ



ESD 環境教育プログラムモデルガイドブック③
https://edu.env.go.jp/esd/news/702

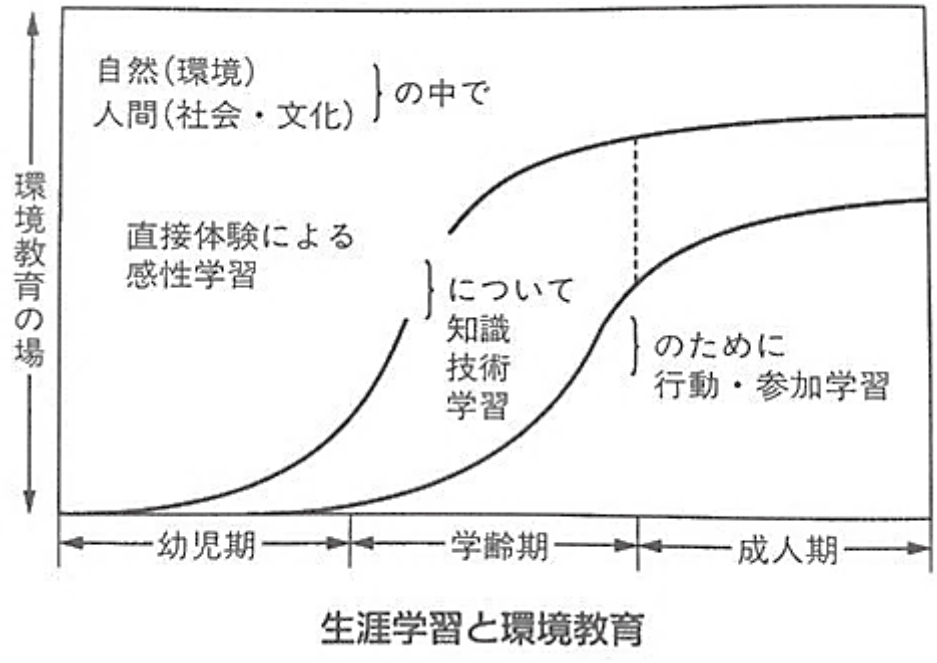
信州ESDコンソーシアム

身近な自然や社会・地域の教材化

- Think globally, act locally
- 発見がある
- 多様な学習・体験学習が可能
  - 参加型，探求型学習に向く
- 郷土愛や地域への愛着を培う

信州ESDコンソーシアム

発達段階に応じたテーマ設定



生涯学習と環境教育

子どもと環境教育（阿部学，1993）

信州ESDコンソーシアム

ESD推進のためのカリキュラムデザイン

ESD推進のためのカリキュラム・デザインの三つの階層

STEP1 教育目標との関連 ⇒ P14

－教育目標を見つめなおし、長期目標を設定する
－「育成を目指す子どもの姿」を具体的に描き、短期目標を設定する

STEP2 単元配列表との関連 ⇒ P19

－単元の序列と教科等間の関連性を考える
－資質・能力でつなぐ

STEP3 各単元計画との関連 ⇒ P23

－「発想」、「構想」、「計画」する

STEP4
児童生徒の
学習評価

⇒ P25

持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引（令和３年５月改定　日本ユネスコ国内委員会）
https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf

信州ESDコンソーシアム

教育目標との関連

ESDカレンダーと指導計画

ESDカレンダーは教科横断的な学習指導のイメージマップで，行事や教科・領域とのつながりを見える化し，学びを深めるのに役立ちます

教育課程の編成における教科横断的なカリキュラム・マネジメント

教育課程の実施における授業改善
問題解決的な学習過程

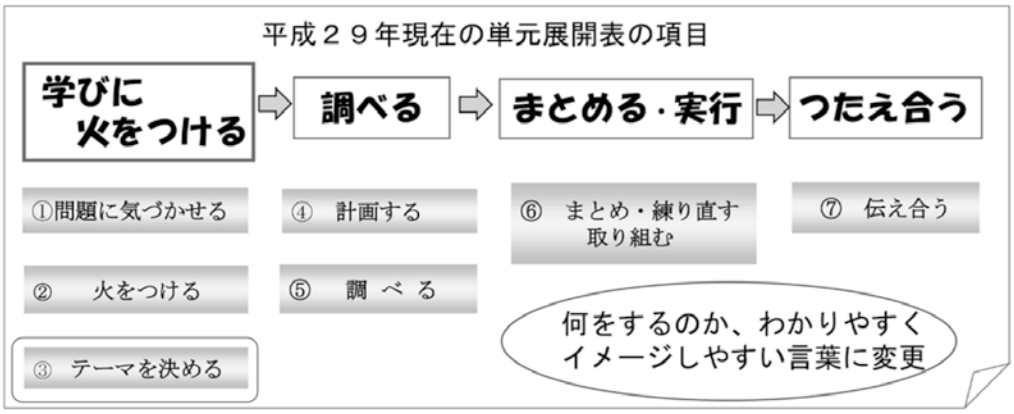
セットで必要・変更をおそれない（予定調和的でない学び）

信州ESDコンソーシアム

21

ESD授業の作り方

総合を軸としたESD授業では，体験などから気づき→調べる→まとめる・考える→つたえあう，という流れが一般的です



主体的な参画

手島利夫「学校発・ＥＳＤの学び」（教育出版）

ESD実践記録（山ノ内南小）

2019 年度 ESD 実践のまとめ

1　実施校，対象
山ノ内町立南小学校　3学年　男子6名　女子7名　計13名

2　探求課題の概要，ねらい，目標
（1）探究のテーマ　「共同浴場ってどんなところなのだろう」
（2）目　標
ねらい　①地域の中の温泉（共同浴場）と地域の方の健康に関わっていることがわかる。
②共同浴場の価値についても自分の考えをもつことができる。
③多様な立場や意見に気づき，それを尊重しようとしている。

（3）探究課題の概要
3年生の子どもたちは，これまでに「町探検」などで，地域の様々なものに触れてきた。そのような子どもたちにとって旅館の温泉（共同浴場）は当たり前のように昔からあるもので，当然のように子どもたちの日常の風景の一部となっている。教師が4月に子どもたちに「町のことを教えてほしい」と言うと，温泉を紹介しようとする子が出てきがいた。日常的な風景の一部であり身近な温泉は，子どもたちの意識では地域の特色と考えているようだった。そして，共通的に温泉（共同浴場）を利用する子ども多数であるがいた。温泉というと観光や温泉街のイメージした教師にとって，この子どもたちの実態は驚きであり，温泉（共同浴場）は大きな魅力の詰まった教材なのではないかと感じられた。
そこで，教師はまず，全員で温泉に入りに行き，温泉につかる時間を共有したいと考えた。そこから様々なひと，もの，ことと関わる中で共同浴場の価値を見いだす活動を中心に行うこととした。

3　流れ（指導計画の概略）
4月：地域巡り（上野野方面・道の駅方面）
5月：地域巡り（雷・岸沢方面・地蔵温泉方面）
6月：共同温泉入浴
7月：共同浴場について探究課題を決める話し合い
9月：横湯温泉共同浴場入浴・秘湯共同浴場入浴（延喜・大石金井共同浴場の訪問温泉実施）
10月：ゲストティーチャーのお話を聞く，（地域で共同浴場を利用する方のお話を聞く）
共同浴場に関する調査をするためのアンケート作成（先輩・保護者・地域住民に実施）
11月：アンケート結果の整理・分析
12月：アンケート結果から考察（考察したことを学級で共有）
1月：共同浴場についてわかった考えたことをまとめる
2月：わかったこと，考えたことを地域に発信

4　効果，反応，所感
子どもたちは，由ノ内といえば「天白祭，志賀高原・スキー場・温泉・地蔵等・りんご」など様々な魅力があることを知っていたが，「共同浴場　という新しい地域資源に気付くことができた。また，共同浴場に実際に入る体験をさせていただいたことから，その価値を実感することができた。
子どもたちは，共同浴場の学習を進めていけば進めていくほど，共同浴場の良さに気付くことができた。一方で，情報収集や施設の維持，管理の現状など多くの課題や地域住民への負担も知ることになった。このような活動から，廃止共同浴場になるなどのでないかという考え方をもつ子どもがおおくなった。探究を深めることで，共同浴場を残したいと真剣に考える子が多くなり，そうすればよいのか，より真剣に考えることができた。

5　指導方法，指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：佐野共同浴場管理者・山本さん　種湯温泉共同浴場管理者・佐藤さん
角間温泉共同浴場管理者・黒島さん

2019 年度 ESD 実践のまとめ

1　実施校，対象（人数も）
山ノ内町立南小学校6学年　男子15名　女子6名　計21名

2　探求課題の概要，ねらい，目標
（1）探究のテーマ「これからも残したい大切な場所　夜間瀬川」
（2）目　標　地域を巡ることで様々なひと，もの，ことと出会い，自然が住む地域を知り愛着をもつ意識とともにその魅力や価値を再発見することができる。
ねらい　①　川に親しむ中で，川を取り巻く社会的な事象と出会い，防災や環境と社会への関心などの社会的課題について知り，（知識，技能）
②　社会的課題に対して解決するために自らができることを考え，実際に試すことができる。（思考力，判断力，表現力）
③　仲間と協力して協働し，課題の解決に向かい考え行動し続けることができる。（学びに，学びに向かう人間性）

（3）探究課題の概要
4月から実施していた地域巡りの中で出会った，夜間瀬川。子どもたちは，夜間瀬川で遊ぶことの楽しさに浸りこれの中で，「これからも夜間瀬川を大切にしていきたい」「夜間瀬川が地域から愛着をもてるような場になってほしい，「地域の人が集まって会話できるような場所にしたい，と願うようになった。また，「川のつくり」「堰堤思いのバリアフリー」に目がいくできた。そこで子どもたちは，社会課題解決，解決事例のかたの学習から資料を解決しようとした。そして，願いの実現に向けて，町子ども議会での発表や，協材を利用したベンチ作りを行った。

3　流れ（指導計画の概略）
4月：地域巡り（仙堂温泉、滝沢方面）
5月：地域巡り（雷、岸沢、上倉野方面）
6月：地域巡り（雷、上野方面）　6月から9月は授業材をカメラを持たせ、おもしろいと思ったものを撮影し、共有するようにした。（信州大学の水谷先生からの協力をいただいた）
7月：地域巡り（横湯温泉方面）、探究課題の決めごと
9月：川遊び（毎週2時間程度）、社会福祉協議会の方との協働での楽しい学習
10月：北信建設事務所の方の話、子ども議会に向けたまとめの準備
11月：子ども議会（学校での発表と発標での発表）
12月：子ども議会を受けての今後の活動についての話し合い
1月：素材を利用したベンチ作り
2月：素材を利用したベンチ作り　学校への設置

4　効果，反応，所感
子どもたちは自ら考えて，試すことの大切さと楽しみを感じることができた。また，自分で何もないと思っていた地域に，子どもたちにとって今後も大切にしたい魅力あるもの，があふれていることに気がついた。また，それを取り巻く社会的な事象や多くの人の存在を知り，思うがままに行かない状況とも出会うことができた。
他の事で考えるだけでなく，実際に自ら行動し，そこから生まれた知恵を大切にすることを子どもたちも教師自身も学ぶ学習だった。これから大人になって，様々な形で地域を大切にする子どもたちになっていくことを期待している。また，将来，どこに住んでいたとしても，それぞれの場所に愛着あふれるものがあり，それにかかわる人がいることを感じてのでないかと思う。

5　指導方法，指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：山ノ内町区長協議会　市川事務事務局　赤木工務店
農業振興主任の山本さん
活用した資源：夜間瀬川　地域にある看板や看板、木橋　幸いす　協材　など

まとめ

- ユネスコスクール
  - ユネスコ憲章の理念を実現する学校
  - ネットワークと交流を通じた学びあい・活動の深化，モデル的役割
  - ESD推進拠点と位置づけられ，とくにSDGsへの貢献が期待
- ESDとSDGs
  - ESD はSDGsの必要不可欠な要素であり，またSDGsの達成の鍵
  - 持続可能な社会を目指す価値観（→SDGs）や必要な資質・能力を育む，主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的な学び
  - 地域の学習材の活用＋グローバルな視点（SDGs），発達段階に応じたテーマ設定

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとしてよりステップアップするために

- カリキュラム・マネジメントによるESD/SDGsの深化
  - 地域の学習資源を教員が主体的に使いこなす
  - 体験を重視しつつ，それだけに終わらせない学び
  - ESDカレンダー，指導計画，実践記録（PDCA・改善のツール，SDGs）
- ESD推進拠点としてのモデル的役割
  - 強みを活かしたESD実践（地域資源・コミュニティスクール）
  - 学校全体でのESD/SDGsへの取り組み（ホールスクール）
  - 学校間交流・情報発信
  - 志賀高原ユネスコエコパークを活かしたESD/SDGs実践
- より深く理解するために
  - 持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引（令和３年５月改定　日本ユネスコ国内委員会）https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf
  - 『ユネスコスクールガイドブック』ESDの活動を通じて創る未来（令和4年3月改訂）https://www.mext.go.jp/content/20220406-mxt_koktou01-000021810_1.pdf

信州ESDコンソーシアム

令和４年度　山ノ内町教職員ESD研修会
2022/08/05
志賀高原総合会館98

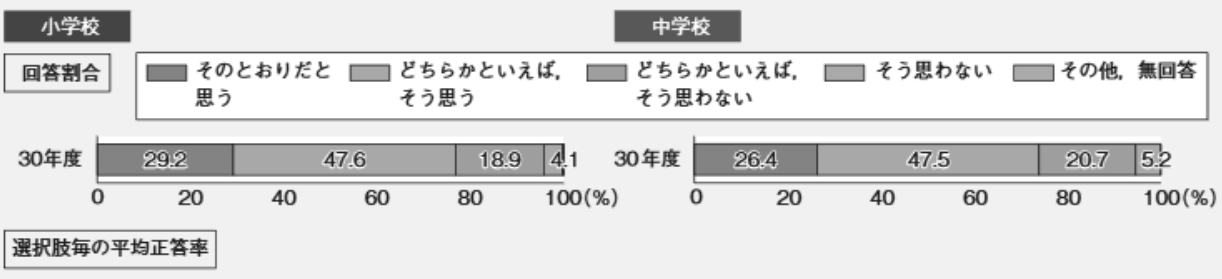
ESDによって培われる資質・能力と小中一環カリキュラムデザイン

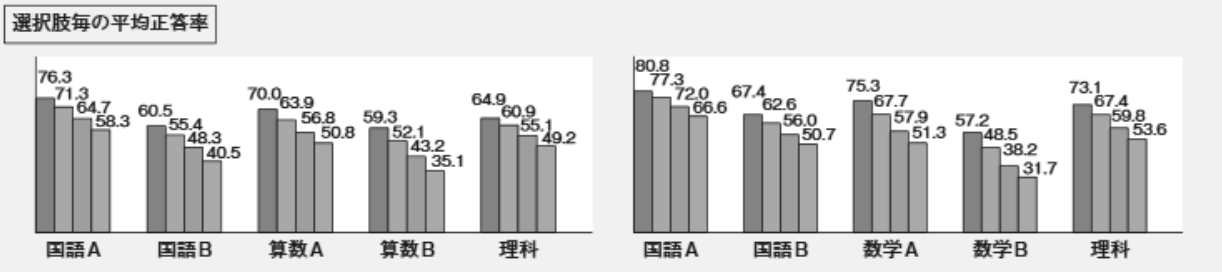
信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設
水谷瑞希

信州ESDコンソーシアム

課題解決力と学力

【児童生徒質問紙】 ５年生まで〔1，２年生のとき〕に受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から進んで取り組んでいたと思いますか。（新規）





平成30年度文部科学白書 > 第4章　初等中等教育の充実

信州ESDコンソーシアム

これからの時代に求められる資質・能力

・21世紀型能力（日本）
- 実践力（自律的活動力など）／思考力（課題解決など）／基礎力（基礎的スキル）

・21世紀型スキル（米）
- 思考の方法（課題解決，イノベーション）／仕事の方法（ITリテラシー）／仕事のツール／社会生活

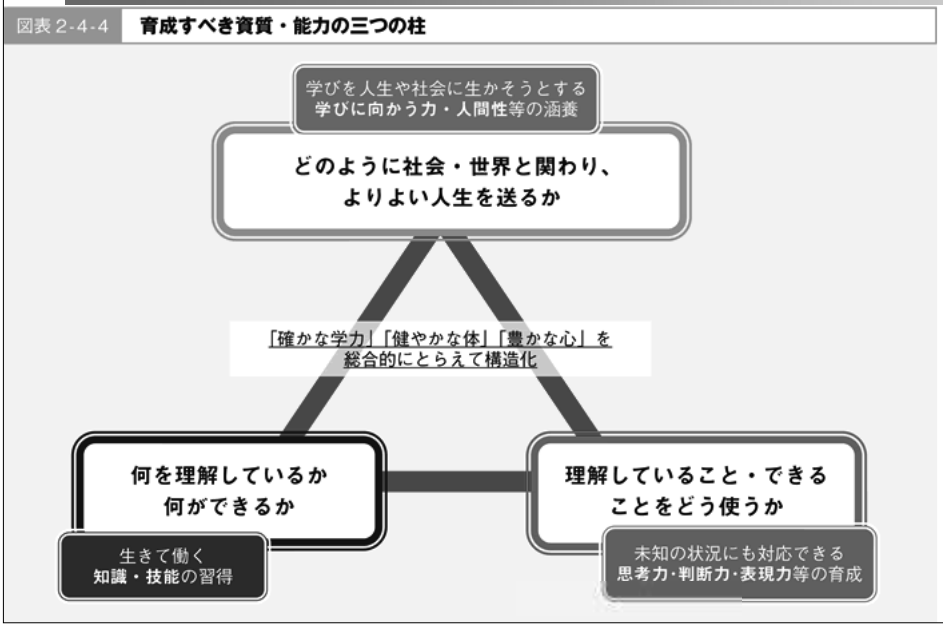
・キーコンピテンシー（OECDなど）
- 基礎的スキル／社会性／自律的活動力

・OECD Learning Framework 2030（OECD, 2018）
- 新たな価値を創造する力／対立やジレンマを克服する力／責任ある行動をとる力

信州ESDコンソーシアム

新学習指導要領の理念（平成29・30年改訂）

図表 2-4-4　育成すべき資質・能力の三つの柱



平成27年度文部科学白書 >
第4章　初等中等教育の充実

ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み

人を取り巻く環境に関する概念

- Ⅰ 多様性 *いろいろある*
  自然・文化・社会・経済は，起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物（ものごと）から成り立ち，それらの中では多種多様な現象（出来事）が起きていること
- Ⅱ 相互性 *関わり合っている*
  自然・文化・社会・経済は，互いに働き掛け合い，それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり，情報が伝達・流通したりしていること
- Ⅲ 有限性 *限りがある*
  自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられながら，不可逆的に変化していること

人の意思・行動に関する概念

- Ⅳ 公平性 *一人一人大切に*
  持続可能な社会は，基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが，地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること
- Ⅴ 連携性 *力を合わせて*
  持続可能な社会は，多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し，互いに連携・協力することにより構築されること
- Ⅵ責任性 *責任をもって*
  持続可能な社会は，多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンをもち，それに向かって変容・変革することにより構築されること

- ❶ 批判的に考える力
  合理的，客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き，ものごとを思慮深く，建設的，協調的，代替的に思考・判断する力
- ❷ 未来像を予測して計画を立てる力
  過去や現在に基づき，あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し，それを他者と共有しながら，ものごとを計画する力
- ❸ 多面的，総合的に考える力
  人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し，それらを多面的，総合的に考える力
- ❹ コミュニケーションを行う力
  自分の気持ちや考えを伝えるとともに，他者の気持ちや考えを尊重し，積極的にコミュニケーションを行う力
- ❺ 他者と協力する態度
  他者の立場に立ち，他者の考えや行動に共感するとともに，他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度
- ❻ つながりを尊重する態度
  人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち，それらを尊重し大切にしようとする態度
- ❼ 進んで参加する態度
  集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち，自分の役割を理解するとともに，ものごとに主体的に参加しようとする態度

ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み（国立教育政策研究所）
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf

信州ESDコンソーシアム

5

持続可能な社会づくりの構成概念

多様性 いろいろある

自然・文化・社会・経済は、多種多様な事物から成り立っています。そうした多様性を尊重するとともに、事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。

相互性 関わり合っている

自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合うシステムであり、人もそれらとつながりをもち、人同士も関わり合って相互に作用していることを認識することが大切です。

有限性 限りがある

自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源は有限であり、それらに支えられた社会発展には限界があることを知るとともに、将来世代のために有効に使用していくことが大切です。

公平性 一人ひとり大切に

持続可能な社会の基盤は、一人ひとりの人権や生命が尊重されることです。権利の保障や恩恵の享受は公平である必要があり、地域や世代を超えて保持されることが大切です。

連携性 力を合わせて

持続可能な社会の構築・維持には、多様な主体の連携・協力が不可欠であり、意見や立場が違っても、適宜順応・調和を図りながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。

責任性 責任をもって

持続可能な社会を構築するためには、一人ひとりが責任と義務を自覚し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持って、他人任せにせずに自ら進んで行動することが大切です。

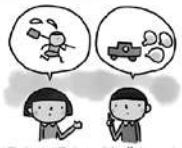
環境省：こども環境白書（2016年度）
https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/full.pdf

ESDで重視する能力・態度

批判 批判的に考える力

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力。

未来 未来像を予測して計画を立てる力



過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力。

多面 多面的、総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力。

伝達 コミュニケーションを行う力

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。

協力 他者と協力する態度

他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度。

関連 つながりを尊重する態度

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度。

参加 進んで参加する態度

集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度。

環境省：こども環境白書（2016年度）
https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/full.pdf

ESD授業と”総合的な学習の時間”

第2章 今、求められる力を高めるための学習指導

第1節 学習指導の基本的な考え方……
1. 探究的な学習
2. 協同的な学習
3. 体験活動の重視
4. 言語活動の充実
5. 各教科等との関連

第2節 探究的な学習における学習指導……
1. 課題の設定
2. 情報の収集
3. 整理・分析
4. まとめ・表現

文部科学省（2010）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）

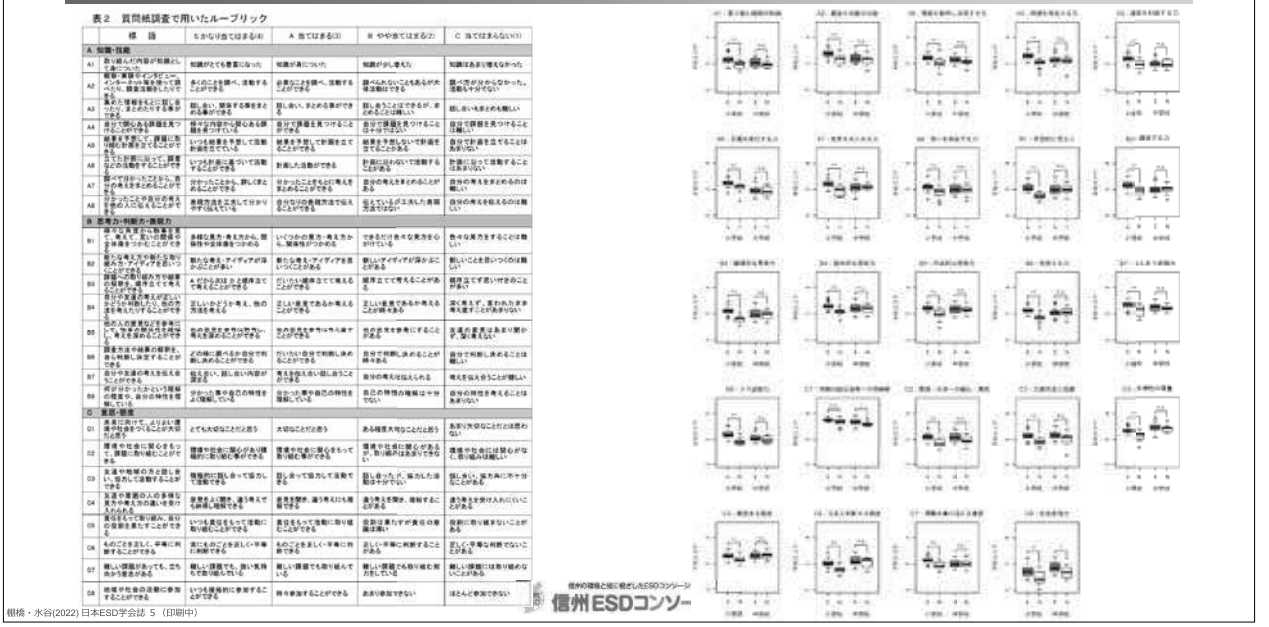
(文部科学省HP)

信州ESDコンソーシアム

ESDによって育まれる資質・能力の自己評価

表2　質問紙調査で用いたルーブリック

	項　目	5 かなり当てはまる(4)	A 当てはまる(3)	B やや当てはまる(2)	C 当てはまらない(1)
A 知識・技能					
A1	取り組んだ内容が知識として身についた	知識がとても豊富になった	知識が身についた	知識がやや増えた	知識はあまり増えなかった
A2	解答（実験やインタビュー、インターネットや本を使って調べたり、観察活動をしたりする）を求めた理解をもとに話し合ったり、まとめたりする事ができる	多くのことを調べ、活動することができる	必要なことを調べ、活動することができる	調べられないこともあるが大体活動はできる	調べ方がよくわからなかった、活動もやや少ない
A3	集めた情報をもとに話し合ったり、まとめたりする事ができる	話し合い、関係する事をまとめる事ができる	話し合い、まとめる事ができる	話し合うことはできるが、まとめることは難しい	話し合いもまとめも難しい
A4	自分で関心ある課題を見つけることができる	様々な内容から関心ある課題を見つけている	自分で課題を見つけることができる	自分で課題を見つけることはやや苦手だ	自分で課題を見つけることは難しい
A5	結果を予測して、課題に取り組む計画を立てることができる	いつも結果を予測して活動計画を立てている	結果を予測して計画をたてることができる	結果を予測しないで計画を立てることがある	自分で計画を立てることはあまりない
A6	自ら主体的に考えて、課題などの活動をすることができる	いつも計画に基づいて活動することができる	計画した活動ができる	計画には従わないで活動することがある	計画に沿って活動することはあまりない
A7	調べて分かったことから、新しいほこめることができる	分かったことから、詳しくほこめることができる	分かったことをもとに考えをまとめることができる	自分の考えをまとめるのは苦手だ	自分の考えをまとめるのは難しい
A8	自分ごとに引き込んで考えるための入口になることができる	表現方法を工夫して分かりやすくしている	自分なりの表現方法で伝えることができる	伝えているが工夫した表現方法ではない	自分の考えを伝えるのは難しい
B 思考力・判断力・表現力					
B1	様々な視点から物事を見て、考えて、言いの問題や課題をつかむことができる	多様な視点・考え方から、問題点や課題をつかめる	いくつかの視点・考え方から、問題点がつかめる	できるだけ色々な視点を心がけている	色々な視方をすることは難しい
B2	新たな考え方やアイディアを取り組み方・アイディアを出すことができる	新たな考えやアイディアを多くだすことができる	新たな考えやアイディアを出すことがある	新しいアイディアが浮かぶことがある	新しいことを思いつくのは難しい
B3	課題への取り組み方や結果の解釈を、順序立てて考えることができる	A ができた次は B と順序立てて考えることができる	だいたいの順序立てて考えることができる	順序立てて考えることがある	順序立てて思いつくのは難しい
B4	自分や友達の考えがよいかどうか判断して、他の方法を考える	正しいかどうか考え、他の方法を考える	正しい答えであるか考えることができる	正しい答えであるか考えることがある	深く考えず、思われたまま考え直すことがあやふや
B5	他の人の意見などを参考にして、考えを深めることができる	他の人の意見などを参考にして、考えを深めることができる	他の人の意見などを参考にすることがある	自分の意見にあまり関心がない	自分の意見にあまり関心がない
B6	調査方法や結果の解釈を、色々判断し決定することができる	どの様に調べるか自分で判断し決めることができる	だいたい自分で判断し決めることができる	自分で判断し決めることは難しい	自分で判断し決めることは難しい
B7	自分や友達の考え方を伝えることができる	伝えたい、話し合い内容が深まる	考えを伝えたい話し合うことができる	自分の考えは伝えられる	考えを伝え合うことが難しい
B8	何がおかったかという理解の程度や、自分の特性を把握している	分かった事や自己の特性を詳しくしている	分かった事や自己の特性を理解している	自己の特性の理解は十分でない	自分の特性を考えることはあまりない
C 意欲・態度					
C1	未来に向けて、より良い環境や社会をつくることが大切だと思う	とても大切なことだと思う	大切なことだと思う	ある程度大切なことだと思う	あまり大切にこだわる思わない
C2	環境や社会に関心をもって、課題に取り組むことができる	環境や社会に関心があるので取り組む事ができる	環境や社会に関心をもって取り組むことができる	環境や社会に関心があるが、取り組みはあまりできない	環境や社会には関心がなく取り組みは難しい
C3	友達や地域の方と話し合い、協力して活動することができる	積極的に話し合って協力して活動できる	話し合って協力して活動できる	話し合ったり、協力した活動はやや少ない	話し合い、協力共に不十分なことがある
C4	友達の意見の人の多様な見方や考え方の違いを受け入れられる	意見など違和、違う考えでも積極に理解できる	意見を聞き、違う考えにも理解できる	違う意見を聞き、理解することがある	違う考えを受け入れにくいことがある
C5	責任をもって取り組み、自分の役割を果たすことができる	いつも責任をもって活動に取り組むことができる	責任をもって活動に取り組むことができる	役割は果たすが責任の意識は薄い	役割に取り組まないことがある
C6	ものごとを正しく、平等に判断することができる	常にものごとを正しく・平等に判断できる	ものごとを正しく・平等に判断できる	正しく平等に判断することがある	正しく平等な判断でないことがある
C7	難しい課題があっても、立ち向かう姿勢がある	難しい課題でも、強い気持ちで取り組んでいる	難しい課題でも取り組んでいる	難しい課題でも取り組む姿勢に欠けている	難しい課題には取り組めないことがある
C8	地域や社会の活動に参加することができる	いつも積極的に参加することができる	時々参加することができる	あまり参加できない	ほとんど参加できない



ESD実践の有無・校種ごとの傾向

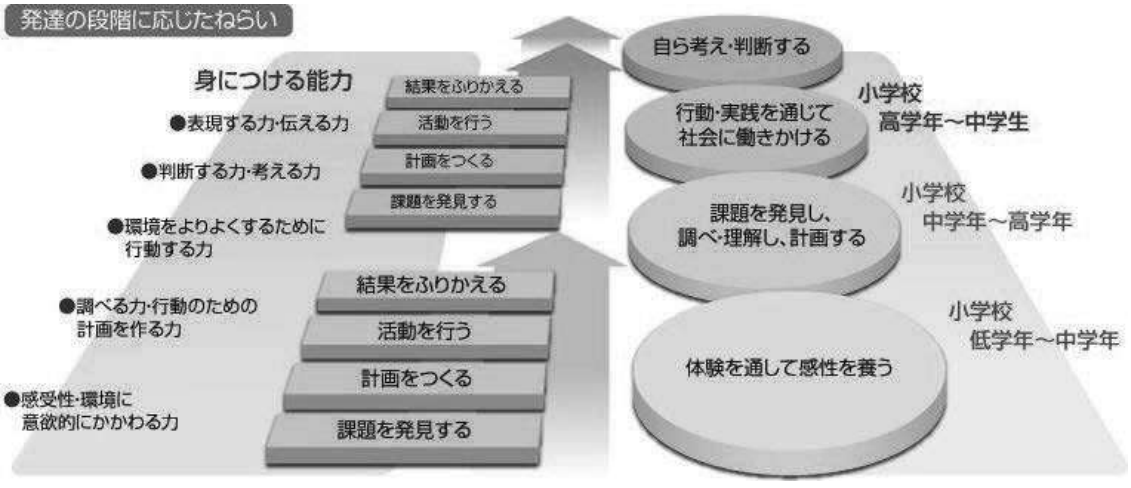
ここまでのまとめ

ESDによって育まれる資質・能力等は
・これからの時代に求められる資質・能力
・持続可能な社会に向けた価値観

ESD教育実践により
・小学校では期待される資質・能力が育っている
・中学校では課題も
　－教科外の学習活動・ホールスクールの重要性
　－活動の形骸化に注意

信州ESDコンソーシアム

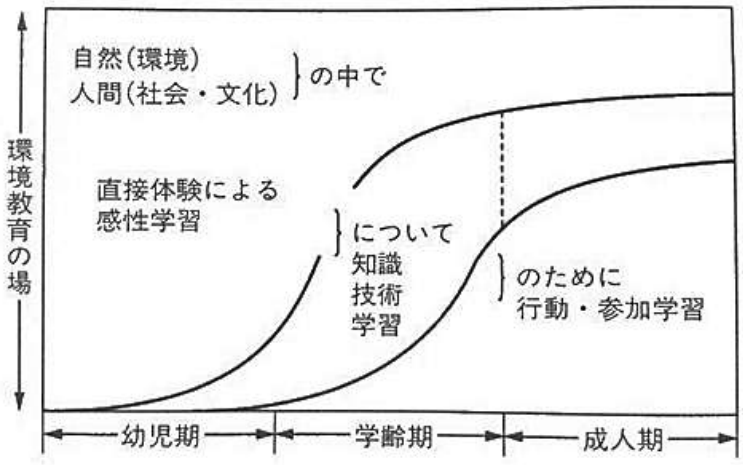
発達段階に応じたねらい



環境省HP『授業に活かす環境教育』
(https://www.eeel.go.jp/env/nerai/EnvEdu/guide.html)

信州ESDコンソーシアム

発達段階に応じたねらい



生涯学習と環境教育

信州ESDコンソーシアム

子どもと環境教育（阿部学，1993）

ふるさとキャリア教育

未来の綾町を担う人づくり

幼保小中一貫した取組（総合的な学習の時間）

With（地域とともに）

For（地域のために）

About（地域について）

In（地域の中で）

中学３年〔自分への探究〕
自分の未来を考える２
綾と自分をつなげる
・福祉体験学習
・地域貢献
・礼法指導
・綾人体験

中学２年〔人への探究〕
綾の町づくりを探る２
自分の未来を考える１
・綾の人から学ぶ　・子ども議会
・綾町自主研修
・京都市自主研修

中学１年〔自然への探究〕
自然と共生する綾を探る
綾の町づくりを探る１
・ジオパーク探索（自然観察・宿泊体験学習）
・綾エコパーク探索（自然観察活動）
・京都自主研修に向けて（調べ学習）
・修学旅行

小学６年　綾のよさを伝える・自分ができることを考える
・農業、観光、福祉に関する調査

小学５年　綾の産物を生産する・自分のことを見直す
・米作り学習

小学４年　綾の自然を追求する・自分のことを知る
・新１年生との交流
・森の探検、水生物調査

小学３年　綾の物事を知る・綾の人を知る
・町内施設見学二分の一成人式
・福祉施設見学・交流

小学２年　綾の自然を楽しむ
・町探検
・イモの収穫と活用

小学１年　綾の自然・季節を知る
・イモ収穫

幼稚園・保育所　綾の自然に浸る
・公園散策
・ネイチャーゲーム（自然体験活動）

地域の中で体験する・浸る
地域について知る・伝える
地域のために貢献・課題解決する
地域とともに自分の未来を描く・結ぶ

ワーク

1. 現在の活動を位置づける
2. テーマ，資質・能力等を検討
   -偏り，不足
3. 足りない部分を補う活動を追加
4. 気づいた山ノ内ESDの強み，弱み，課題，改善の方向性など

信州ESDコンソーシアム

講義内容・テーマ:学習プログラムの編成と実践　ーESD についてー
担当講師：安達仁美

1.ESDの概念
ESDとは，Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されている。世界規模，地球規模で捉えると，現代社会には，環境，貧困，人権，平和，開発といった様々な課題が，互いに複雑に絡み合いながら山積している。ESDとは，それらの課題を自らの問題として捉え，取り組む（think globally, act locally）ことにより，課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと，そして，それによって，持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことである。

2.ESDの歩み
ESDの歩みは，1992年にリオ・デ・ジャネイロで行われた「環境と開発に関する国連会議」において，「持続可能な開発」が中心的な考え方具体的に示されたことから始まる。その後，2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）」において，小泉総理大臣（当時）が「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」を提唱したことを受けて，同年の国連総会において2005年～2014年までの10年間を国連「ESDの10年」とすることが決定された。国連での採択を受け，世界的な展開されることとなったESDであるが，その契機となったのが日本からの提案である。国連「ESDの10年」が終了した2014年以降は，後継プログラムとして，「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が採択され，「政策的支援」，「機関包括型アプローチ」，「教育者」，「ユース」，「ローカルコミュニティ」の5つを優先行動分野とし，活動が展開されている。日本国内においては，2015年に「持続可能な開発のための教育（ESD）に関する関係省庁連絡会議」が設置され，2016年には「ESD国内実施計画」が策定されるなど，具体的な方針が立てられており，教育機関，企業，行政，NPO等の様々なステークホルダーが連携したESD活動が推進されている。

3.学校教育におけるESD
2016 年 12 月 21 日に公表された中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」において，ユネスコが提唱する ESD が学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念であることが明記された。さらに、2018 年 6 月に閣議決定された第三期教育振興基本計画において「今後 5 年間の教育政策の目標と施策群」の中で「ESD の実践・普及や学校間の交流を促進するとともに，ESD の深化を図る」ことが示されており，ESD の理念が日本の教育全体に反映されることとなっている。
ESDの視点に立った学習指導に関しては，学校教育や社会教育においても多様な取り組みがなされているが，その指針の1つとして国立教育政策研究所教育課程研究センターでは、6つの概念と7つの能力を示している（表1，表2）。また、ESD推進拠点校に位置づけられているユネスコスクールの数も増えており，日本では1120校（2019年11月現在）の学校が加盟している。

表1．6つの構成概念

多様性	自然・文化・社会・経済は，起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物（ものごと）から成り立ち，それらの中では多種多様な現象（出来事）が起きていること。
相互性	自然・文化・社会・経済は，互いに働き掛け合い，それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり，情報が伝達・流通したりしていること。
有限性	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられながら，不可逆的に変化していること。
公平性	持続可能な社会は，基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが，地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること。
連携性	持続可能な社会は，多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し，互いに連携・協力することにより構築されること。
責任性	持続可能な社会は，多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンをもち，それに向かって変容・変革することにより構築されること。

表2．ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

批判的に考える力	合理的，客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き，ものごとを思慮深く，建設的，協調的，代替的に思考・判断する力
未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき，あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し，それを他者と共有しながら，ものごとを計画する力
多面的・総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し，それらを多面的，総合的に考える力
コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに，他者の気持ちや考えを尊重し，積極的にコミュニケーションを行う力
他者と協力する態度	他者の立場に立ち，他者の考えや行動に共感するとともに，他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度
つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち，それらを尊重し大切にしようとする態度
進んで参加する態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち，自分の役割を理解するとともに，ものごとに主体的に参加しようとする態度

【参考文献】
・文部科学省日本ユネスコ国内委員会（2021）『持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引』

講義内容・テーマ：ESD 特論②　SDGs と ESD と環境教育
担当講師：渡辺　隆一

はじめに
SDGs が世界的に認知され、日本の教育界でも ESD 同様に広く認知されるようになってきたが、新学習指導要領において表記された「ESD:持続可能な社会のための人材育成」とどの様な関係にあるのだろうか。また、教育現場においても広く普及し、筆者も研究してきた環境教育とはどう関連するのだろうか。以下、紹介したい。

Ⅰ　SDGs とは
2015 年に国連総会において採択された「持続可能な開発のための 2030 年目標」で、政府間だけでなく世界の NGO とも協力して設定されたあらゆる課題の網羅的な解決をめざす意欲的な目標です。17 の各目標は、いずれもが相互に関連しており、課題解決のためにはその全体像を意識して取り組むことが求められるようになった。そのために、あらゆる機関、組織、そして人々「17：パートナーシップの活性化」が最後のゴールに設定され、「誰ひとりも取り残さない！」という全体のスローガンにもなっている。

ⅠⅠ　ESD（持続可能な社会・開発のための教育）とは
ESD と SDGs の両者における共通の SD＝「持続可能な開発」とは、世界的な環境の悪化に対する対抗理念として国際的に生み出されたものであり、中でもその中核として「教育」が当初から最も重視されてきた。日本においては、やや遅れたが文科省も 2018 年の新学習指導要領において「ESD:持続可能な社会の創り手となる」ことが全教科をとおした教育の役割として示された。さらに、文科省はユネスコスクールを ESD の推進拠点として位置づけ各地大学の支援も得てネットワークを強化することで地域への ESD を広めようとしている。長野県でも「信州 ESD コンソーシアム」が 2016 年に設立され、支援活動が継続的におこなわれている。

Ⅲ　環境教育とは
日本においては戦後の経済復興に伴う環境悪化によって水俣病や四日市喘息などの公害病が頻発し、学校教育においても各地で「公害教育」がおこなわれるようになった。また、経済発展は観光開発などでの自然破壊も引き起こし、自然保護運動も活発になった。長野県でもビーナスラインや南アルプススーパー林道の建設が問題となった。日本や世界中で頻発する環境問題への対応として教育の重要性が提唱され、1975 年には最初の環境教育の国際会議の成果として「ベオグラード憲章：環境教育の世界的枠組み」が制定され、世界中において環境教育が急速に進展した。日本でも全国および各地の教育研究集会で「公害・環境教育部会」として取り組まれ、1990 年には「日本環境教育学会」が設立された。環境教育は日本では教科ではないが、世界の趨勢から 1996 年には「環境教育指導資料」が文科省から発行され、全ての教科において環境にかかわる事項を体系的に扱うこととされた。2000 年より実施されている総合的な学習の一分野として環境教育が示されたことで学校に定着し、現在では、全ての学校種において学校行事や生徒児童活動を含めた教育課程で環境教育はほぼ 100％実施されている。この点では ESD や SDGs よりも認知度、実践度ははるかに高い。

Ⅳ　環境教育と ESD や SDGs との違い
SDGs や ESD も環境にかかわる内容が多いが、環境教育とはどのように異なるのだろうか。環境教育も自然環境のみならず、温暖化のような課題でもその原因や解決策を考えれば、人の生活様式や社会の在り方に大きく関係していることを学習せざるをえない。現代の環境や社会の課題はあらゆる分野が関連しており、総合的な視点・観点が必要とされる。それでも、従来の環境教育と ESD や SDGs とは大きく異なる側面がある。環境教育は公害や地球温暖化などの現存する環境問題をテーマにスタートし、その原因や課題を学習する中で、どのように解決するか、自分たちができることはなにか、と考え、行動することが求められる。それに対して、ESD や SDGs では、これからの社会はどのようになったら良いか、どのようにしたいかの未来を考え、そのために今から何をするか、何ができるかを学習し、行動する。この未来志向の考え方はバックキャスティングと呼ばれ、現状分析から始まる環境教育の考え方はフォアキャスティングと呼ばれる。私たちの思考はどちらかというと現在の困った課題・問題の解決を重視して、未来社会がどうあるべきかを考える訓練は少なかったように思う。この両者はどちらが優れているということではなく、未来と現状、そして自分たちの能力、資質の三角形を全体として理解し、行動することが大事であろう。

まとめ
ESD は SDG s の 4 番目のゴール「質の高い教育」の中に「全ての学習者に ESD を」と明記され、ユネスコにおいては、「教育が全ての SDGs の基礎」であり、「全ての SDGs が教育に期待」していると述べている。もとより日本の教育は「誰一人取り残さない」万人のものとして優れた面をもっているが、大きく変化する時代への「未来を予測して計画を立てる力」や「進んで参加する主体的な態度」（ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例:国立教育政策研究所より）などは必ずしも十分ではなかった。これからの ESD で求められる力は、むしろ SDGs を意識することで発揮されるのではないだろうか。
長野県においては「ふるさと学習」や「地域学習」、「信州学」など地域に根差した学習が位置づいており、「持続可能な社会」を教材とした学習の伝統がある。半面で、世界の課題である SDGs については、日本では見えにくい「１：貧困」や「５：ジェンダー」などを観念的に学ぶだけではなく、途上国支援 NGO の協力もえて世界的な構造的差別を深く学ぶことで、日本にもそうした貧困や男女差別の根があるのではないかと考える必要がある。どうしたら地域から貧困や差別をなくしていけるかを考え、行動しなければならない。ESD は SDGs を意識することでより主体的で深い学びになるだろう。

講義内容・テーマ：ＥＳＤ特論③　地域文化資産を活用した社会教育活動
―学部・善光寺界隈の史跡探訪―
担当講師：西　一夫

Ⅰ　地域文化資産を活用する背景

①長野県教育委員会の平成 27 年度基本方針に明示された「３つの柱」の「学力向上」施策において「児童生徒がふるさとを誇りと愛情を持ち大切にする心情を育む「信州学」を推進」することが盛り込まれ，高等学校での実施状況と具体的内容の集約が行われた。翌年度には「信州学」の実施１００％を目指すことがあきらかにされている。その後、学習指導要領の改訂に伴って探究的な学習が推進されていることから「信州学」の学校独自の活用と教育効果の検証とが求められている。

②長野県が実施した県歌「信濃の国」に冠する意識調査で以下のような結果がある。
全部または１番を歌える：79.4%，部分的に歌える：11.3%（合計 90.7%）
メロディーは知っているが歌えない：7.4%
メロディーも知らないので歌えない：1.4%
（県在住 1202 名内 794 名の回答，2015 年 8／9 月調査）
「全部または 1 番を歌える」を世代別に見ると 30 代が５割にとどまる。この結果については世代的に学校教育において県歌を教えない時期が存したことが原因との分析がある。
また，世代を超えての交流機会として，地域の文化時や史跡を探訪する企画が各地で盛んになっている。このような潮流はＮＨＫ総合の「ブラタモリ」なども影響していると思われる。実際、本年度は県内でも諏訪湖・松本が放映されるなど、さまざまな地域探訪が行われている。長野県では「信州の文化財ガイドブック」(2021 年８月公開）の作成・公開が行われている（bunkazaiguidebook.pdf (nagano.lg.jp)）。これらの文化資産は公的に認定を受けた文化財であり、これらの文化財に指定されていない史跡を含めれば，日常生活には多くの歴史を背景に持つものが存在することになる。これらを探訪することを通して，日常生活の見直しを図り，地域への愛着や歴史を知ることが地域活性化への手がかりともなる。このような活動は信州大学大学史資料センターでも行われており，「信州大学歴史探訪マップ 1873-2019」の作成・公開が行われている（190319_HistoryMapA4_表裏（shinshu-u.ac.jp））。

Ⅱ　教育学部と善光寺、善光寺周辺の文化資産

本学部は善光寺に隣接し，立地としても歴史的にさまざまな文化資産・史跡が周辺に多数存在する地域である。そうした生活に密着する空間の歴史を，実地で確認しながら，その背景や経緯を知る契機として，善光寺周辺地域は有効に活用できる土地柄である。さらに文学史跡も豊富に存在し，門前町としての風格を示す要素を多く含んでいる。これらを総合的に理解して地域理解へと結び付けることで，生活空間への愛着も深まることになる。また、昨年度の理科教育コースの卒業生（三村海斗）による大学周辺を歩いて発見する門前町長野の歴史と理科的な大地の魅力をまとめた冊子と動画の作成など，活用できる資料が整いつつある。

Ⅲ　地域の文化資産を知ること

ＥＳＤの普及啓発が進む中，環境・エネルギー・国際理解・防災・多様性等に目が向けられがちであるが，さらなる要素として「世界遺産・地域の文化財等」に対する学びも重要な要素と位置づけられている。このような背景から地域に存在する文化資産を活用しながら，地域の楽し方行く末を考える契機とするために本講座を設けている。

各地域で実施可能な地域文化資産へ着目する手がかりを掴むことができるよう，Online の活用も含めて，さまざまな要素を取り入れながらフィールド研修を行う。

【主要参考文献】

・善光寺事務所監修・長野まち歩き研究会編，2003，善光寺と長野を歩く［第２版］，カシヨ出版センター
・長野県の歴史散歩編集委員会編，2006，長野県の歴史散歩，山川出版
・長野県立博物館編，2014，歴史館版　善光寺道名所図会，長野県立博物館
・長野県立博物館編，2015，山と海の回廊をゆく―信濃と北陸をつなぐ道―，長野県立博物館
・堀井正子，2015，出会いの寺　善光寺，信濃毎日新聞社
・信州大学大学史資料センター編，2019，信州大学歴史探訪マップ 1873-2019，信州大学大学史資料センター
・長野県教育委員会編，2021，信州の文化財ガイドブック，長野県教育委員会
・三村海斗編，2022，プラ信大　＃1　長野　教育キャンパス，三村海斗
・三村海斗編，2022，第一話　プラ信大―長野　教育キャンパス【教育キャンパスの歴史】（YouTube 限定公開）
・三村海斗編，2022，第二話　プラ信大―長野　教育キャンパス【教育キャンパスの地形・地質編】（YouTube 限定公開）

講義内容・テーマ：社会教育に関する現地巡検（ユネスコエコパーク）
担当講師：信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設　水谷瑞希

１．地域資源を活かした持続可能な地域づくり

近年，SDGs を始めとして，「持続可能性」が大きく注目されるようになった。この背景には，とくに 20 世紀以降の世界人口の急増に伴って，人間活動が社会経済や地球環境に及ぼす影響が加速した結果，気候変動などの異常事態が顕在化し，「このままでは人類の存続が危うい」という危機意識が共有されるようになったことが挙げられる。持続可能性の追求は現在，人類にとって主要な課題のひとつとなっている。

逆に国内においては，少子高齢化が持続可能な社会づくりの危機要因となっている。地方では近い将来，若者の地域流出や過疎の進行により，地域コミュニティ機能の衰退や崩壊といった切実な事態が予想される地域もあり，活力を維持した持続可能な地域社会地域社会の構築は，重要な課題である。一方，地方には山，森林，河川，海やそこに生育・生息する動植物といった自然環境や，自然を利活用するなかで形成された里地，里山，里海の景観，伝統的な建築物や歴史的遺産，地域の自然環境を生かした農林水産物や特産品，地域の伝統的な祭事や文化など，様々な地域固有の地域資源が存在する。これら地域資源を地域の「宝」として活用し，持続可能な地域づくりを目指そうとする動きが，現在各地で始まり，注目を集めている。本講義では，国際的な地域認証制度の一つであるユネスコエコパークを活用した地域活性化の取り組みを取り上げる。

２．ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークはその呼称からイメージされる通り，世界遺産と同様のユネスコの事業である。「ユネスコエコパーク」は日本独自の呼称であり，国際的には生物圏保存地域（BR：Biosphere Reserve）と呼ばれる，ユネスコ MAB（人間と生物圏：Man and the Biosphere）計画に基づく地域認証制度である。MAB 計画は 1970 年ユネスコ総会で政府間プログラムとして承認され，1976 年に生物圏保存地域が制度化された。MAB 計画は人間活動を含めた生物圏全体の保全と教育を目的としたプログラムであり，それを地域で実践するための制度が，生物圏保存地域である。生物圏保存地域は現在，世界 134 カ国で 134 サイトが登録されている（2022 年 6 月現在）。このうち日本国内では①志賀高原，②白山，③大台ヶ原・大峯山・大杉谷，④屋久島・口永良部島，⑤綾，⑥只見，⑦南アルプス，⑧祖母・傾・大崩，⑨みなかみ，⑩甲武信の 10 サイトが登録されており，さらに新規登録を目指す動きも複数の地域で進みつつある。

ユネスコエコパークは，保全機能，経済と社会の発展，学術的研究支援（教育を含む）という３つの機能を有しており，この機能を発揮するために，核心地域，緩衝地帯，移行地域という３つの地域区分が設定されている。単に優れた自然環境がある場所に保護地域を指定するのではなく，その周辺で関連した生活が営まれる地域を含めて指定すること，またその機能として地域の社会・経済の発展を掲げ，持続可能な開発（＝地域づくり）を指向する事は，他の自然保護区等とは異なる，この制度の大きな特徴である。このため生物圏保存地域は SDGs 達成のモデル地域としても位置づけられており，ユネスコのホームページでは「持続可能な開発について学ぶ場」と表現されている。

３．ユネスコエコパークと地域振興

上記のような理念を掲げているユネスコエコパークだが，実は当初からそのことが正しく認識されていた訳ではなく，また MAB 計画における制度の位置づけ自体も，何度かの見直しを通じて整理されてきた経緯がある。

日本で最初にユネスコエコパーク（当時は生物圏保存地域）になったのは，1980 年に登録された志賀高原，白山，大台ヶ原，屋久島（いずれも当時）の４サイトであった。しかし当時は国際的な自然保護制度としての認識で，この地域認証は地域ではほとんど認知されておらず，地域活性化のために有効に活用しようという動きもなかった。

この状況が変わったのは，綾（2012 年登録）が地域づくりや観光，農業などの活性化に活用できる制度として生物圏保存地域を「再発見」し，登録を目指したことがきっかけであった。この後，他の地域でもこの制度を地域活性化に活用しようとする動きが広がり，またこの制度の普及を目指して「ユネスコエコパーク」という呼称が採用された。また当初に登録された４サイトでも，ユネスコが指定する制度にあわせて管理・運営が見直され，制度を活用した地域活性化の取り組みが行われている。

４．ユネスコエコパークと ESD

生物圏の保全・利用・教育の調和を図るユネスコエコパークは，ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）のフィールドとして適しており，またその相乗効果が期待されている。教育はユネスコエコパークにとって，柱となる機能のひとつであると同時に，その理念を実現するための主要な手段である。この目的を実現するためには，次世代育成のための学校現場などでのフォーマル教育における ESD だけでなく，ノンフォーマル教育による地域住民や多様な主体を対象とした ESD の実践によって，地域資源や持続可能な地域づくりへの意識を醸成することが不可欠であり，その主要な担い手としての社会教育機関などへの期待は大きい。

５．その他の地域認証制度

ユネスコエコパークのような地域認証は，地域資源に「お墨付き」を与えるものであり，地域資源の再評価や，それらを活用した地域活性化の起爆剤となることが期待される。国際的な地域認証制度としては，他にも世界遺産，ユネスコ世界ジオパーク，ラムサール条約登録湿地，世界農業遺産などがあり，今後の活用が期待される。しかし重要なのは，地域住民によりその地域資源の価値が認識され，利活用されることであることを忘れてはならない。地域資源を発掘，評価し，その価値を地域に普及するとともに，外部に発信していくことも，社会教育機関に期待される大きな役割である。

参考文献

文部科学省「生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）」https://www.mext.go.jp/unesco/005/1341691.htm（2022.6.20 確認）
松田裕之・佐藤哲・湯本貴和（編）『ユネスコエコパーク：地域の実践が育てる自然保護』京都大学出版会，2019 年

長野市教育センター研修講座

キャリア教育の現状とESD

信州大学教育学部　安達仁美

意見共有ツール

『Mentimeter』

- アプリのダウンロード

GET IT ON Google Play

Download on the App Store

・もしくは、以下にアクセス

www.menti.com

2

日本におけるキャリア定義

文部科学省のキャリア定義

人が、生涯の中で役割を果たす過程で、
自らの役割の価値や自分と役割との関係を
見出していく連なりや積み重ねが「キャリア」
の意味するところである。

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
平成23年1月31日より

ドナルド・E・スーパーのキャリア定義

pp.78-80

ドナルド・E・スーパー（1910～94）
・アメリカ
・職業心理学者

スーパー(Super.D.E.)のキャリア定義

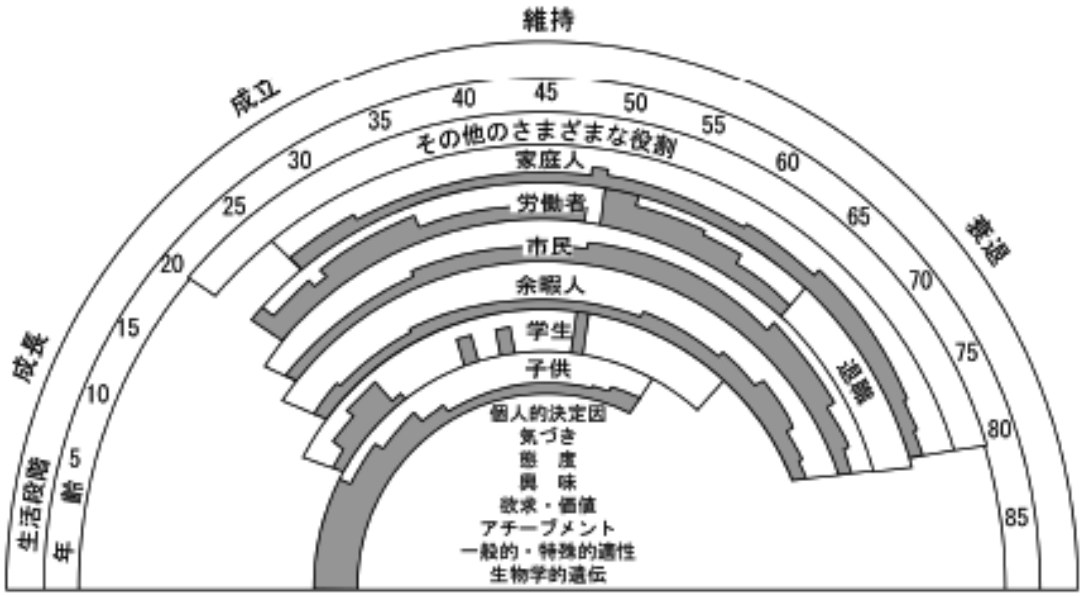
キャリアとは生涯過程を通して、あるひとによって演じられる諸役割の組み合わせと連続

スーパーの8つのキャリアロール

子ども	親に対して注がれる時間
学生	学ぶという立場
職業人	仕事をやるという立場
配偶者	夫・妻という役割
家庭人	親元を離れて始まる役割
親	子どもを持ったときから始まる役割
余暇人	好きなことをして楽しむ立場
市民	社会を構成する一員としての立場

※人は複数の役割を、その時々の重要性に応じて果たしていく。

スーパーのキャリアレインボー



日本におけるキャリア定義

文部科学省のキャリア定義

人が、生涯の中で役割を果たす過程で、
自らの役割の価値や自分と役割との関係を
見出していく連なりや積み重ねが「キャリア」
の意味するところである。

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
平成23年1月31日より

キャリア教育とは・・・
出口指導・職業指導だけではない

一人一人の　社会的・職業的自立　に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

（中央教育審議会“在り方”答申 平成23 年1 月）

一方、進路指導とは・・・

進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。

（中央教育審議会答申 平成23 年1 月）

ニート（若年無業者）の定義

「教育を受けず、労働をおこなわず、
職業訓練もしていない人」のことを指している。

Not in **E**ducation , **E**mployment or **T**raining

N E E T

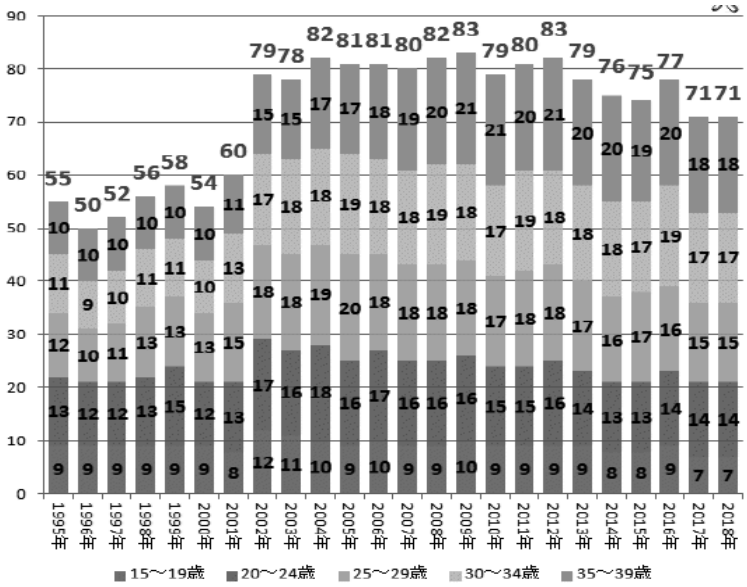
厚生労働省：

年齢が15歳～34歳、非就業、非求職、非通学、非家事（4つの非）

学籍はあるが実際は学校に行っていない人

既婚者で家事をしていない者　→　**家事手伝い含まない**

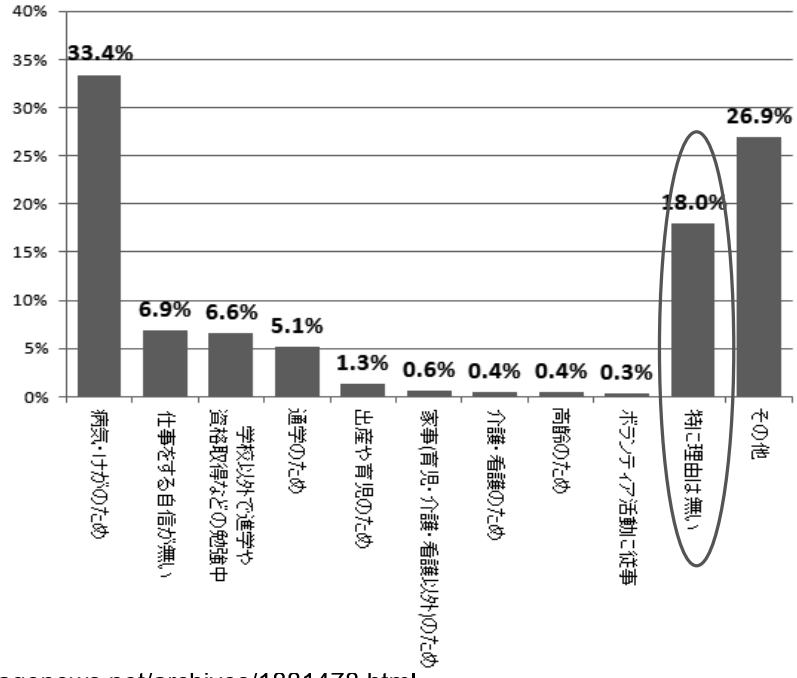
ニートの数



若年層の人口減少と相対して減っているが、
35歳以上のニートも存在している

http://www.garbagenews.net/archives/2039329.html

なぜ？ニートであるのか



http://www.garbagenews.net/archives/1881478.html

フリーターの定義

1987年に雑誌『フロム・エー』で初めて使われた。
フリーアルバイターの略であり造語である。

free:時間の自由な（英語）
Arbeit：労働（ドイツ語）
-er:～する人（英語）

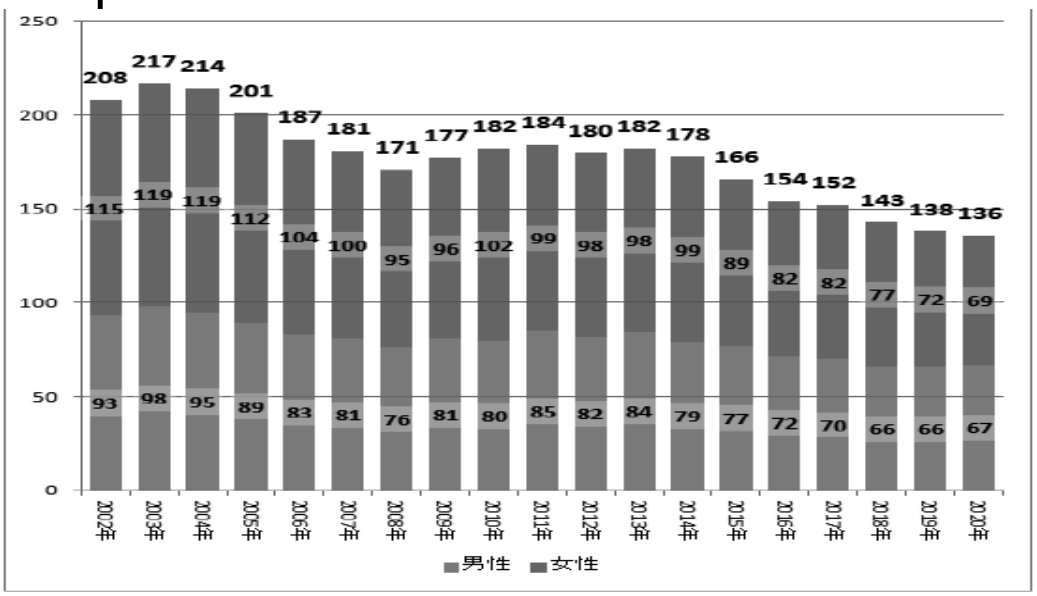
厚生労働省：

年齢が15歳～34歳、在学していない者

勤め先における呼称が「アルバイト・パート」である者

「アルバイト・パート」の仕事を希望する者 → **「正社員になりたくない人」**

フリーターの数



減少傾向にあるのは「派遣社員」「契約社員」等の非正規雇用が増えたため

http://www.garbagenews.net/archives/2039329.html

フリーターの3タイプ【モラトリアム型】

離学モラトリアム型

就職や将来に対する目標を持たず進学はしたが中退した者、就職活動をせずフリーターとなったタイプ。

離職モラトリアム型

職場での人間関係や仕事内容が合わず、見通しもはっきりしないまま退職し、フリーターとなったタイプ。

フリーターの3タイプ【やむをえず型】

正規雇用志向型

正規雇用を志向しつつフリーターとなったタイプ、新卒時に就職活動がうまくいかなかったケースなど社会的状況が影響する場合が多い。

期間限定型

学費稼ぎや次の入学時期や就職時期までといった、期間限定の見通しを持ってフリーターとなったタイプ。

プライベート・トラブル型

本人や家族の病気、事業の倒産などのトラブルが契機となってフリーターとなったタイプ。

フリーターの3タイプ【夢追求型】

芸能志向型

バンドや演劇、俳優など、芸能関係を志向してフリーターとなったタイプ。

職人・フリーランス志向型

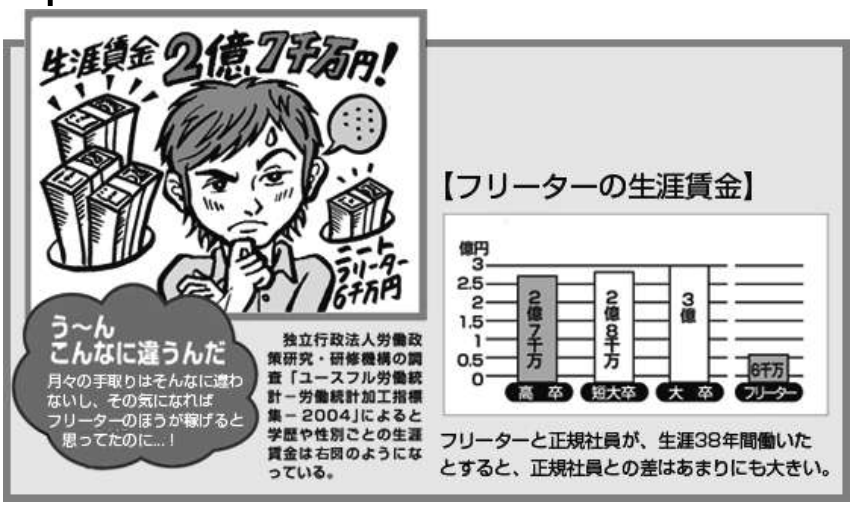
自分の技能・技術で身を立てる職業を志向してフリーターとなり、試行錯誤のプロセスを通して参入の機会を待っているタイプ。

日本の正社員信仰

サイト：「ハタラクティブ」 https://hataractive.jp/useful/129/jp

フリーターと正社員

- 生涯賃金の差は約2億5千万円



フリーターは、賃金があがらない。ボーナスもない。
正規社員は、昇給があり、ボーナスがつく場合が多い。

フリーターと正社員

- 保証される正社員・自分で保障するフリーター

フリーター	正社員
社会保険原則的になし	昇給・ボーナスが見込める
税金は自分で手続き	家族や通勤などの手当てがある
時給制（日給制）	退職金の支給が見込める
ボーナスなし	会社が半分負担する社会保険
国民健康保険・国民年金は個人で加入	保育所などの福利厚生
ローンの審査基準はパスしない	技能・資格などを取る環境

フリーターは、常に不安な状態での生活が続く
正規社員は、手厚い保障が受けられる

フリーターと正社員

- 老後の暮らしに差

国民年金と厚生年金では、老後に支払われる金額が違う。

（例）
フリーター：月0～7万弱

正社員：月10～20万

（引用）さんぽう進学ネット：http://www.sanpous.net/useful/freeter_neet/6.html

フリーター、ニートの増加要因

・若年者の就業・職業に対する意欲・意識の低下

・経済的目的に基づいた就業意識が低水準

・コミュニケーション能力など社会人基礎力

・早期離職者数の増加

などの問題が指摘されている。

厚生労働省「若年者キャリア支援研究会報告書」
内閣府「青少年の就労に関する研究調査」

フリーターの増加要因

□労働力の「弾力化」「流動化」 →人件費削減、低コスト化

＜バブル崩壊後の労働者の3つのタイプ＞

①「長期蓄積能力活用型グループ」（正社員雇用）

②「高度専門能力活用型グループ」（非正規雇用）

③「雇用柔軟型グループ」（非正規雇用）

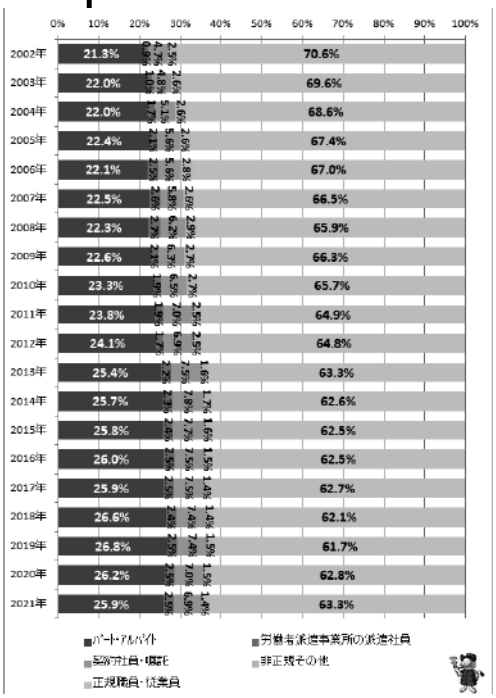
□働き方の多様化・女性の社会進出

◎「自分の都合のよい時間に働きたい」人の増加（女性）

◎「家計の補助・学費などを得たい」人の増加（女性）

◎「正規社員になりたかったがなれず、仕方なく」
→男性2割、女性1割

構造的に生み出される非正規枠



２０２１年

正社員比率
６３.３%

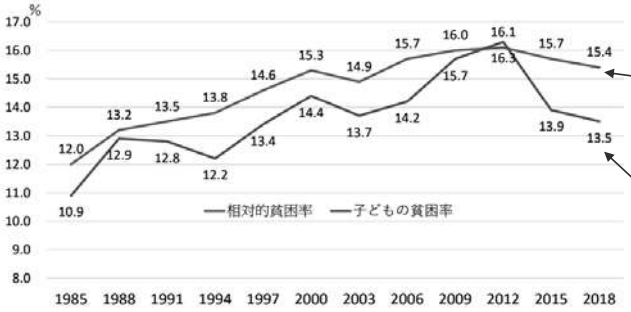
非正規社員比率
３６.７%

総務省統計局が2022年2月に
発表した労働力調査より

http://www.garbagenews.net/archives/2139575.html

日本は豊かなのか？

2019年　厚生労働省「国民生活基礎調査」



日本の相対的貧困率
15.4%

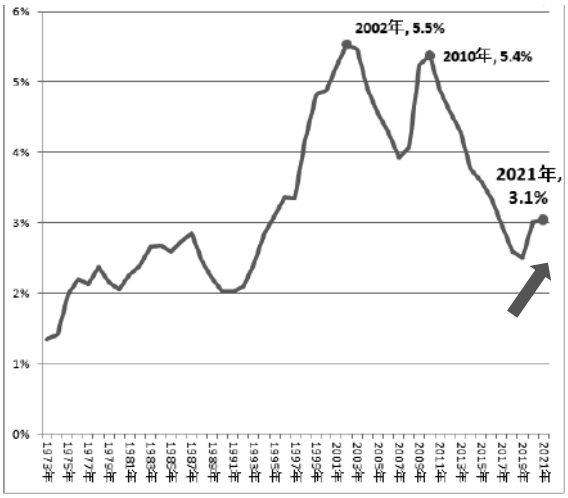
日本の子どもの貧困率
13.5%（7人に1人）

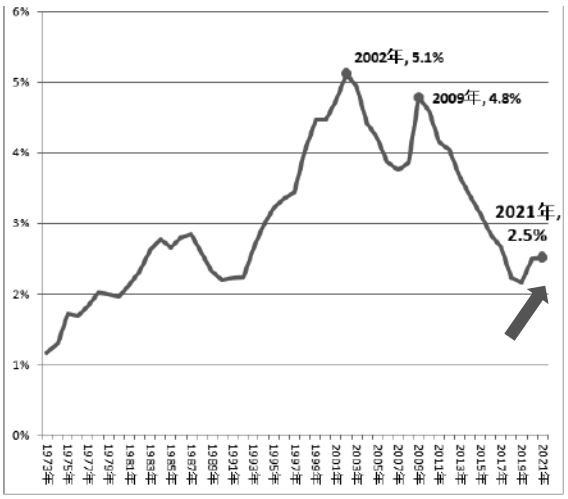
相対的貧困率とは・・・
等価可処分所得の中央値の半分の額に当たる「貧困線」に満たない世帯の割合

１人世帯・・122万　　2人世帯・・172.5万
３人世帯・・211.5万　　４人世帯・・244万

引用：https://onl.bz/fcNHeaz　阿部彩「相対的貧困率の動向：2019年国民生活基礎調査を用いて」

完全失業率　コロナで上昇





男性　3．1%　　**女性　2．5%**

（参照　http://www.garbagenews.net/archives/2229177.html）

計画的偶発性理論

- ジョン・D・クランボルツ
- 18歳の時に考えていた職業に現在就いている人は全体の約2%に過ぎない（ビジネス成功者への調査）
- 人生の80%は予期しない出来事や偶然の出会いによって決定される

(1)「好奇心」―― たえず新しい学習の機会を模索し続けること
(2)「持続性」―― 失敗に屈せず、努力し続けること
(3)「楽観性」―― 可能になるとポジティブに考えること
(4)「柔軟性」―― こだわりを捨て、信念、概念、態度、行動を変えること
(5)「冒険心」―― 結果が不確実でも、リスクを取って行動を起こすこと

キャリア教育のウソ

「銀行型」のキャリア教育から
「料理教室型」のキャリア教育へ

＜社会に出ていく準備＞
生涯いろいろなレシピを参考に自分で料理を作る。創意工夫をして、自分なりの環境に合わせていく力を！

＜仕事世界に出ていく準備＞ **正社員信仰をやめる！！**
①非正規での働き方の多様性、メリットデメリット。
②正社員への転換への見通しの立て方。
③公的な職業訓練や休職者支援などについての情報提供。
④労働法についての学習。

児美川孝一郎　筑摩新書　2013年

社会の変化とスキルの変化

- **アメリカ・デューク大学　キャシー・デビッドソン氏**
  - 2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう

YOUTUBER、インスタグラマー、17ライバー
ドローン宅配、ビッグデータドクター、ロボットトレーナー
仮想通貨バンカー…

社会が変わり、必要なスキルが変わる。
- 人工知能の発達、技術の発達により機械が仕事をする。
- 変化の激しい時代の中で、常に新しい知識を得て、新しい価値を生産しなければならない。

学習指導要領の教育観

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

「主体的・対話的で深い学び」

能動的（脳動的）な学び

ESDとキャリア教育

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

「主体的・対話的で深い学び」

持続可能な開発のための教育（ESD）は、次期学習指導要領改訂の全体において**基盤となる理念**であると言えるが、

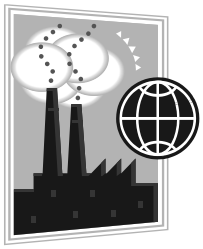
【中略】各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、**総合的な学習の時間が中心的な役割**を果たしていくことが期待 される。

H28 .12.21 中央教育審議会 教育課程企画特別部会　答申より

現代社会が抱える諸問題

持続可能な社会を作るためには、一つの側面だけでは簡単には答えが得られない複雑な諸問題を解決する必要がある

- 気候変動・自然災害
- 貧困・経済格差
- 紛争・人権侵害
- 感染症
- 少子高齢化
- 過疎地域・地方創生
- ゴミの処理
- エネルギー問題



など…

31

Education for Sustainable Development
持続可能な開発のための教育

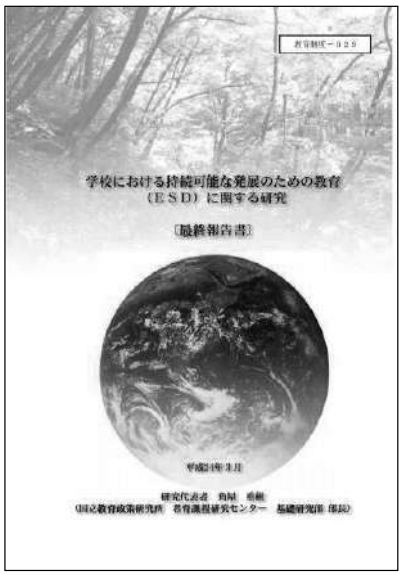
（引用）http://www.esd-jpnatcom.jp/about/index.html

地球規模の課題（平和、貧困、人権、環境等）を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと（think globally, act locally）を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動

ＥＳＤ＝持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

ＥＳＤによって育む能力・態度

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的・総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する力
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度



平成24年3月　国立政策研究所

キャリア教育との関連

ESDで育む能力・態度

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的・総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する力
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

基礎的・汎用的能力

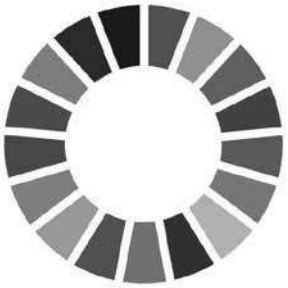
①人間関係形成・社会形成能力
②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力
④キャリアプランニング能力

持続可能な開発目標（SDGs）とは

2030年を年限とする世界共通の開発目標

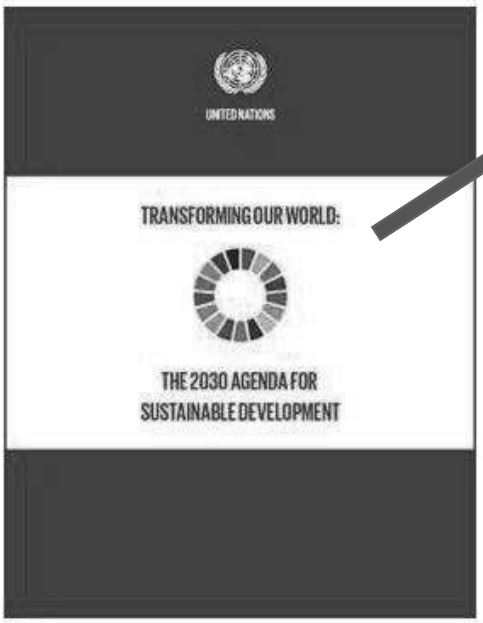
2015年の国連サミットで全会一致で採択

- ▶17の目標
- ▶169のターゲット
- ▶232の指標で評価



35

持続可能な開発目標（SDGs）の特徴



2030アジェンダの表紙

Transforming Our World

「世界を変革する」

No one will be left behind

「誰一人取り残さない」

“地球市民全員の力で世界を変革する“

信州大学 大学院 教育学研究科

SDGsとESDの関係

「教育が全てのSDGsの基礎」

「全てのSDGsが教育に期待」

ESDはSDGsの達成に直接・間接につながるもの

ESDGs
: Education for Sustainable Development Goals

37

信州大学 大学院 教育学研究科

ESD推進の手引き

持続可能な開発のための教育(ESD)
推進の手引

令和3年5月改訂
平成30年5月改訂
平成28年3月初版
文部科学省国際統括官付
日本ユネスコ国内委員会

令和3年5月に改訂版が出ました

ESD　手引き　令和3年　検索

38

行動の10年のスタート

2030年までにSDGsを達成するには、取り組みのスピードを速め、規模を拡大しなければならない。

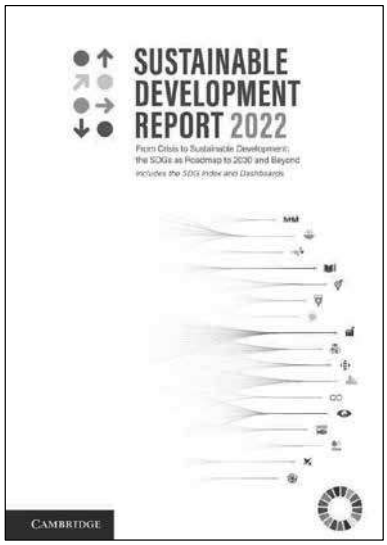
2020年1月から、SDGs達成のための
「行動の10年（Decade of Action)」
がスタートしている。

DECADE OF ACTION

ロゴマーク

SDGs達成状況ランキング

信州大学 大学院 教育学研究科



SDGsレポート2022

https://www.asahi.com/sdgs/article/14635843

日本は１６３ヵ国中

第１９位

（過去の順位）
2017年：11位
2018年：15位
2019年：15位
2020年：17位
2021年：18位

ランキングの上位20カ国のうち日本以外の19カ国は欧州の国々が占めており、日本はアジアではトップ。
韓国は27位、中国は56位だった。
1位はフィンランド。

40

信州大学 大学院 教育学研究科

SDGsレポート2022のKeyメッセージ

- ◆コロナ、気候変動、紛争などによりSDGs達成が危ぶまれている。
- ◆コロナは、これまでの貧困撲滅の進捗を一掃し、2020年には更に9,300万人を極貧な状態に追い込んでいる。
- ◆ウクライナでの戦争は、最大の難民危機を生み出し、さらに価格高騰を招き、世界的な食糧危機の脅威を煽っている。
- ◆世界の温室効果ガス排出量を2030年までに43%削減し、2050年までに完全にゼロにする必要があるが、2030年までに14%近く増加する。
- ◆**人類史上かつてない規模での抜本的な変革と行動の加速が求められている。**

https://unstats.un.org/sdgs/files/report/2022/SDGs_Report_Key_Messages

41

信州大学 大学院 教育学研究科

日本のSDGsの達成状況（2022）

赤：深刻な課題がある
オレンジ：重要な課題がある
黄色：課題が残る
緑：達成済み

https://dashboards.sdgindex.org/profiles/japan

42

信州大学 大学院 教育学研究科

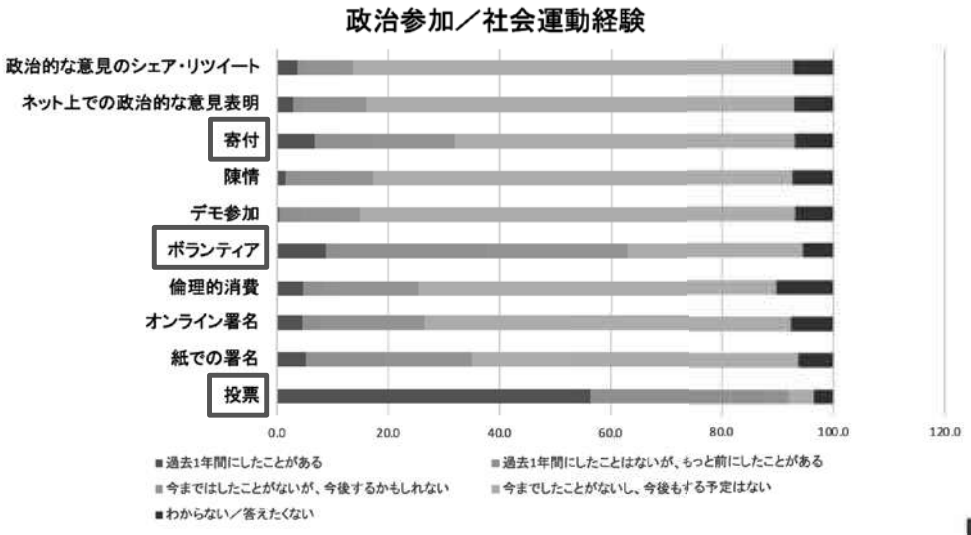
「深刻な課題がある」分野

43

信州大学 大学院

日本人の社会問題に対する意識

シノドス国際社会動向研究所「生活と意識に関する調査」
対象：国内20歳～69歳の男女　　サンプル数：6600人



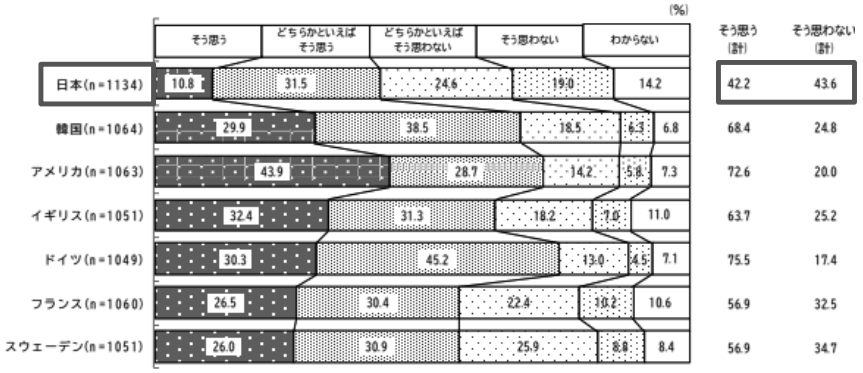
44

信州大学 大学院

日本の若者の社会問題に対する意識

内閣府（平成30年度）「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」
対象：13歳～29歳の男女　　サンプル数：各国1000人

Q24（a）社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい



社会問題に対して取り組もうとする意識が低い日本の若者たち。

参考：内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）」令和元年6月

45

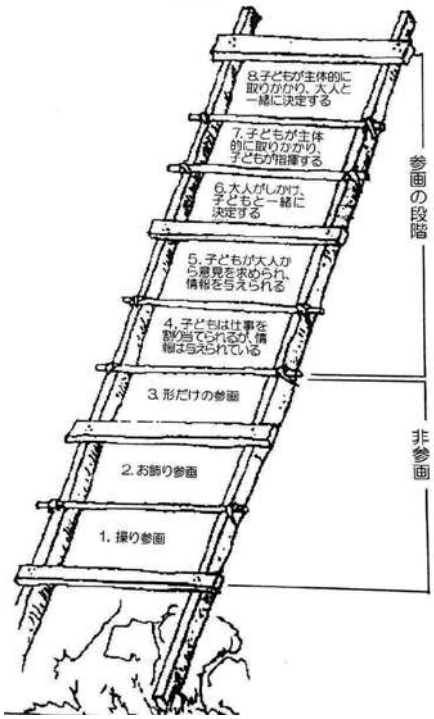
信州大学 大学院 SHINSHU UNIVERSITY 教育学研究科

社会を変革する参加の在り方

（事例）
学校で共同募金を行うに当たって実行委員会を作った。実行委員会のメンバーは担当の教師3名と生徒会の代表3名であった。教師側が昨年通りのやり方を提案して、生徒会代表がそれに従った。会議は15分で終わった。募金の報告書には、実行委員の生徒の名前が記載された。

参加　or　非参加？

46



様々な参加（参画）の段階

ロジャー・ハート（2000）はユニセフとのプロジェクトにおいて，子どもが環境問題に参画していく事例を整理し，子どもの参画について，その原理および方法論をまとめた。

子どもたちが主体的に参画していくまでの過程を8段階で捉えた。はじごの上へ行くほど，子どもたち主体的に関わる程度が大きいことを示している。

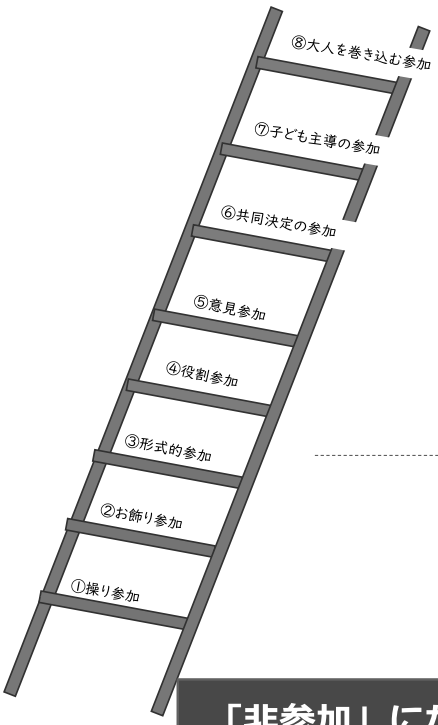
原書タイトル『CHILDREN'S PARTICIPATION』

参画：積極的に主体的に関わっている意味内容をもつもの
参加：それ以外

＊訳文では「参画」と「参加」を使い分けている

（出典）ロジャー・ハート著，木下勇・田中治彦・南博文監修IPA日本支部訳（2000）『子どもの参画−コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』萌文社，p.42。

信州大学 大学院 教育学研究科



参加の段階

非参加の段階

「非参加」になっていないか？妨げるものは何か？

校内ESD研修（長野市立東条小学校）
2022/11/30　15:10～16:15

ユネスコスクールとしてのESD/SDGsの進め方

水谷瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設／信州ESDコンソーシアム）

信州ESDコンソーシアム

今日の内容

・ユネスコスクール
・ESDとSDGs
・ESD/SDGsをどう学びに取り入れるか

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとは

児童・生徒の「心の中に平和のとりでを築く」ことにより、ユネスコ憲章に示された理想を実現する、ユネスコに認定された学校です。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」
（ユネスコ憲章前文）

ユネスコスクールとは

ユネスコスクールでは、『学びの４本柱』を重視した質の高い教育を目指しています。

【学びの4本柱】

知ることを学ぶ (Learning to know)	・複雑な世界の理解に備え、将来の学習のための基礎を作る
為すことを学ぶ (Learning to do)	・グローバル化する経済や社会において機能するためのスキルを身につける
人間として生きることを学ぶ (Learning to be)	・個人がそれぞれの知的・社会的な可能性を活かせる、バランスの取れた情緒と身体を育む
共に生きることを学ぶ (Learning to live together)	・個人や社会が平和的に共存できるよう、社会のあらゆるレベルでの人権・民主主義・異文化理解と尊重・平和と人間関係に触れる

（UNESCO. 1996. *Learning: the treasure within.* に基づきACCU作成）

https://www.unesco-school.mext.go.jp/about-unesco-school/aspnet/ 信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールネットワークの現状

世界182か国で11,500 校以上が加盟し，国内では1,120校の幼稚園，小・中・高校および教員養成系大学などが参加しています。

校種	ユネスコスクール	キャンディデート校
幼稚園(1)	信州大学教育学部附属幼稚園	
小学校(7+5)	山ノ内町立東小学校 高山村立高山小学校 山ノ内町立西小学校 山ノ内町立南小学校 茅野市立永明小学校 信州大学教育学部附属長野小学校 信州大学教育学部附属松本小学校	飯田市立上村小学校 飯田市立和田小学校 長野市立東条小学校 長野市立信里小学校 安曇野市立豊科南小学校
中学校(4+1)	信州大学教育学部附属松本中学校 山ノ内町立山ノ内中学校 高山村立高山中学校 信州大学教育学部附属長野中学校	飯田市立遠山中学校
高等学校(3)	学校法人上田学園　上田西高等学校 長野県中野西高等学校 長野県長野西高等学校	
中高一貫校等(1)	文化学園長野中学・高等学校	
特別支援学校(1)	信州大学教育学部附属特別支援学校	

- ASPnet;Associated Schools Project Network
- 2019年11月時点
- 信州大学教育学部は，ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク（ASPUnivNet）に参加

5

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン①

ユネスコスクールの活動の質を確保することを目的として，ユネスコスクールガイドラインが策定されています

ユネスコスクールとして大切なこと

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、ＮＰＯ等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 学校校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- 必要に応じ、ASPUnivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

6

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン②

ユネスコスクールは，日本ではESDの推進拠点としても位置づけられています。

持続可能な開発のための教育（ESD）推進拠点として大切なこと

- ESDを通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ESDの推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESDの理念の普及に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

7

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールで行うこと

- ✓ 私たちは世界に平和を構築するというユネスコの使命に貢献することを**約束する**。
- ✓ 私たちは自分たちの学校の組織、方針、課程、体制、授業、及びプロジェクトにおいて、ユネスコの**価値と目的**を重視する。
- ✓ 私たちは人権と人間の尊厳、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、正義と民主主義、多様性の尊重及び国際的連帯を**指導し、実践する**。
- ✓ 私たちは同じ志を持つ学校の**グローバル・コミュニティの一員**であり、世界中の何万もの校長、教員及び生徒とつながり、知識と経験を共有し、共同プロジェクトを行う。

「ユネスコスクール：メンバーズガイド」（和文／仮訳）https://www.unesco-school.mext.go.jp/about-unesco-school/aspnet/#:~:text=%E3%80%8C%E3%83%A6%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%BC%E3%83%AB%EF%BC%9A%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%80%8D%EF%BC%88%E5%92%8C%E6%96%87%EF%BC%8F%E4%BB%AE%E8%A8%B3%EF%BC%89

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールではないこと

ユネスコスクールは、異なる事情とリソースを持った様々な状況にある全ての学校に開かれています。

以下のようなものではありません。

- ✓ 「エリート校」のネットワーク
- ✓ 学問的な優秀さや学校のランキングに重点を置いている

加盟校は平和、国際理解及び持続可能な開発に貢献することに対する自発的なコミットメントです。

以下のようなものではありません。

- ✓ 賞
- ✓ 達成に対する「品質ラベル」

「ユネスコスクール：メンバーズガイド」（和文／仮訳）https://www.unesco-school.mext.go.jp/about-unesco-school/aspnet/#:~:text=%E3%80%8C%E3%83%A6%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%BC%E3%83%AB%EF%BC%9A%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%80%8D%EF%BC%88%E5%92%8C%E6%96%87%EF%BC%8F%E4%BB%AE%E8%A8%B3%EF%BC%89

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールの継続条件

日本のユネスコスクールでは、その理念を実現するために、以下を含む積極的な活動が求められます。

- 国内委員会に年次活動計画・報告書を提出する
- 国際連合が定める「国際デー」を記念する活動を、毎年少なくとも2回は実施する
- ユネスコまたはナショナルコーディネーターが実施・提案する活動に積極的に参加する
- ユネスコスクールとしての活動を、国内外に向けて積極的に発信する

- ESD推進拠点（実践・発信・交流）

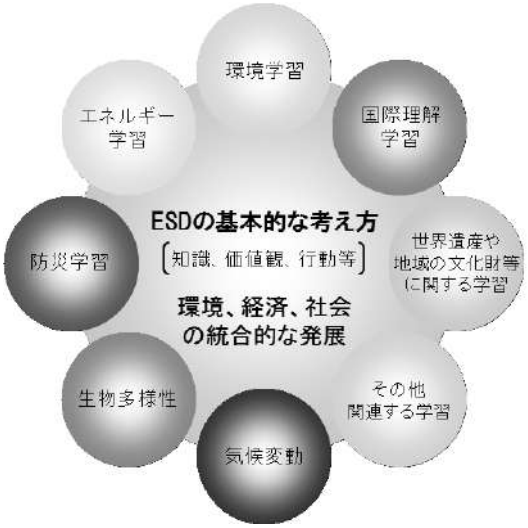
https://www.unesco-school.mext.go.jp/about-unesco-school/aspnet/ 信州ESDコンソーシアム

ESDとは

ESD (持続可能な開発のための教育) は，持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において，『これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動』

（日本ユネスコ国内委員会 2013）

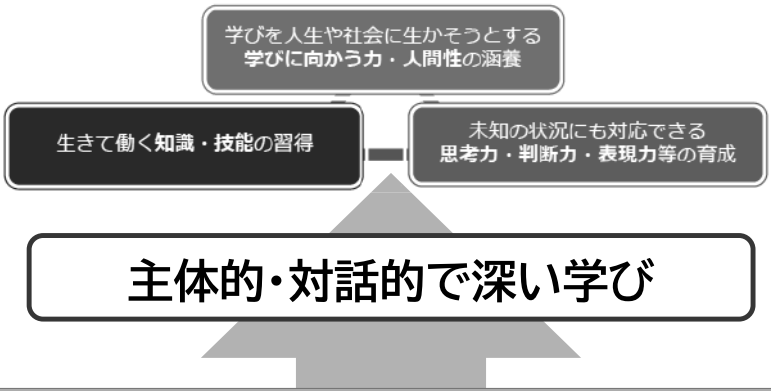


（文部科学省HP）

信州ESDコンソーシアム

学習指導要領におけるESD

育成すべき資質･能力の3つの柱



持続可能な開発のための教育（ESD）は、次期学習指導要領改訂の全体において**基盤となる理念**であると言えるが、【中略】各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、総合的な学習の時間が中心的な役割を果たしていくことが期待される。

H28.12.21中央教育審議会教育課程企画特別部会答申

信州ESDコンソーシアム

学習指導要領におけるESD

改訂学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」としてESDの理念が意識された記述がされています。

【前文（幼・小・中）】

・　これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

【総則（小・中）】

・　第1　小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割

・　3　2の（1）から（3）までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、…総合的な学習の時間及び特別活動…の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指した，2030年を年限とする世界共通の目標です。

・ 国連サミット(2015/9)で加盟193か国が全会一致で採択

・ 17の目標と169のターゲットで構成され，232の指標で評価

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

持続可能な開発のための2030アジェンダ

- 国連持続可能な開発サミット（2015）
- MDGsの後継プログラム

我々の世界を変革する

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

・17のゴール・169のターゲット
  - MDGsよりも普遍的（先進国を含む）・網羅的

・誰一人取り残さない（No one will be left behind）
  1．貧困の根絶（経済・社会開発）と環境保全の両立
  2．不平等（格差）の是正
  3．開発途上国だけでなく全ての国を対象

信州ESDコンソーシアム

SDGsのターゲットにおけるESD

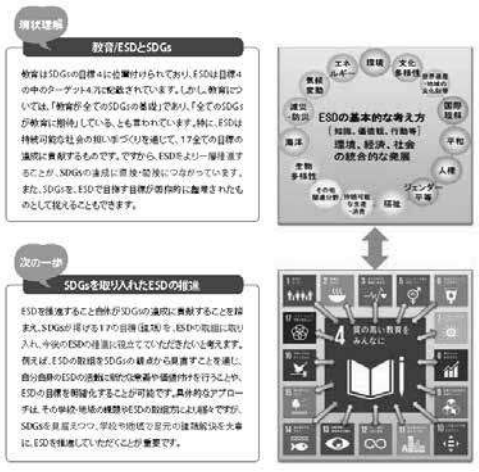
	ターゲット
4.1	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
4.2	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
4.3	2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
4.5	2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
4.6	2030年までに、全ての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
4.a	子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
4.b	2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、並びにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
4.c	2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

18

信州ESDコンソーシアム

SDGs達成に貢献するESD

ESDはSDGsの目標・ターゲット・指標であると同時に，
SDGsすべての達成に貢献することが期待されています。



Education for Sustainable Development (ESD) is "an integral element of the SDG on quality education and a key enabler of all the other SDGs."

(UNGA resolution 72/222)

ユネスコスクールで目指すSDGs
http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP?action=common_download_main&upload_id=21113

19

信州ESDコンソーシアム

ESDの視点を持った学びとは

持続可能な社会を目指す**価値観**や必要な**資質・能力**を育む，**主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的**な学びです

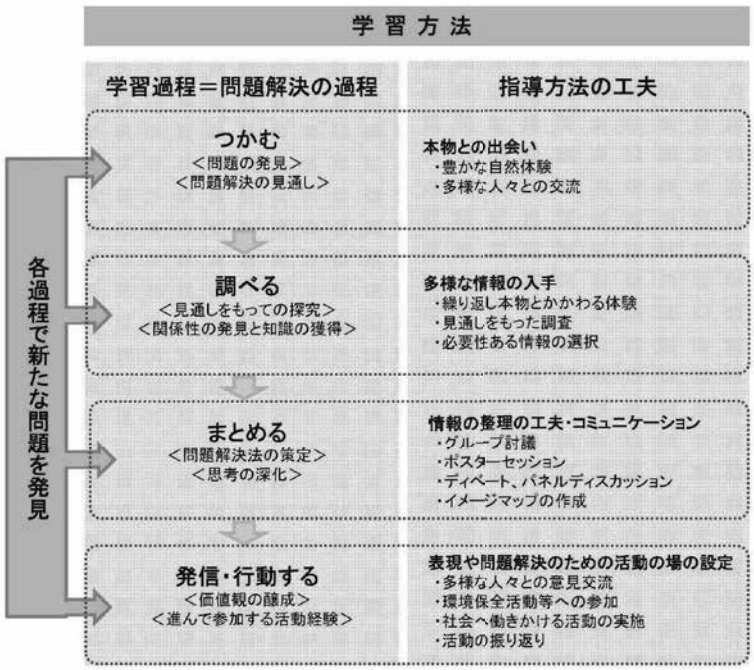
教科等の学習活動を進める中で、
持続可能な社会づくりに
関わる課題を見いだし、
それらを解決するために必要な
能力や態度を身につける
ことを通して、
持続可能な社会の形成者として
ふさわしい資質や価値観を養う。

ESDリーフレット「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」｜国立教育政策研究所
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf
環境省：こども環境白書（2016年度）
https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/full.pdf

信州ESDコンソーシアム

20

ＥＳＤ授業の典型的な流れ



体験的な学び

探究的な学び

主体的・対話的で深い学び

予定調和的でない学び

ESD 環境教育プログラムモデルガイドブック③
https://edu.env.go.jp/esd/news/702

信州ESDコンソーシアム

ESD授業と”総合”

ESD授業の学習の流れや目指す資質・能力は、従来「総合」で目指していたものと共通しており、これに持続可能性の価値観を加えたものがESDです。

第2章　今、求められる力を高めるための学習指導 ……

第1節　学習指導の基本的な考え方……

1．探究的な学習
2．協同的な学習
3．体験活動の重視
4．言語活動の充実
5．各教科等との関連

第2節　探究的な学習における学習指導……

1．課題の設定
2．情報の収集
3．整理・分析
4．まとめ・表現

文部科学省（2010）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）

(文部科学省HP)

持続可能な社会の価値観=SDGs

22

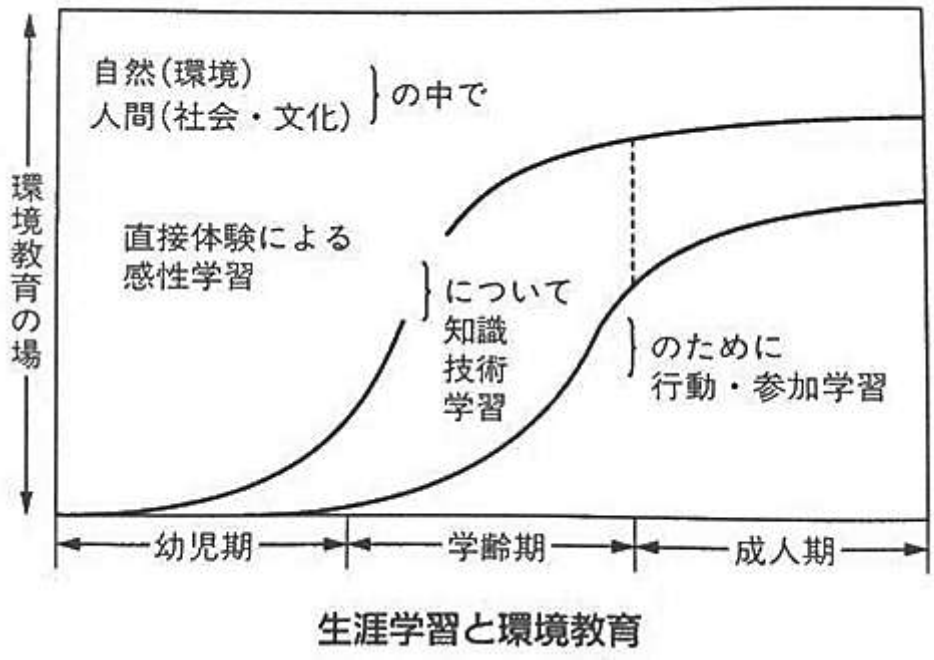
信州ESDコンソーシアム

身近な自然や社会・地域の教材化

- Think globally, act locally
- 発見がある
- 多様な学習・体験学習が可能
  - 参加型，探求型学習に向く
- 郷土愛や地域への愛着を培う

信州ESDコンソーシアム

発達段階に応じたテーマ設定

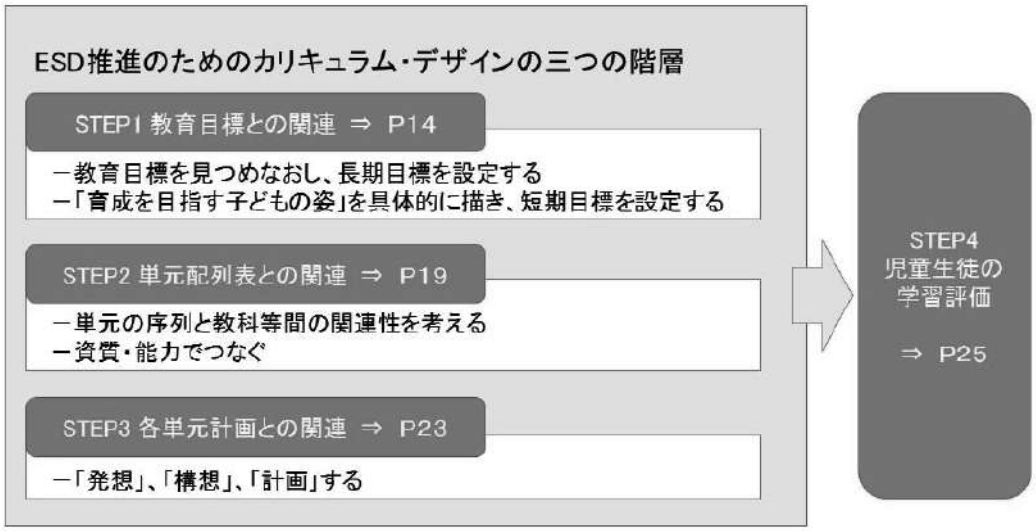


生涯学習と環境教育

子どもと環境教育（阿部学，1993）

信州ESDコンソーシアム

ESD推進のためのカリキュラムデザイン



持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引（令和３年５月改定　日本ユネスコ国内委員会）
https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf

信州ESDコンソーシアム

教育目標との関連

ESDカレンダーと指導計画

ESDカレンダーは教科横断的な学習指導のイメージマップで，行事や教科・領域とのつながりを見える化し，学びを深めるのに役立ちます

教育課程の編成における教科横断的なカリキュラム・マネジメント

教育課程の実施における授業改善問題解決的な学習過程

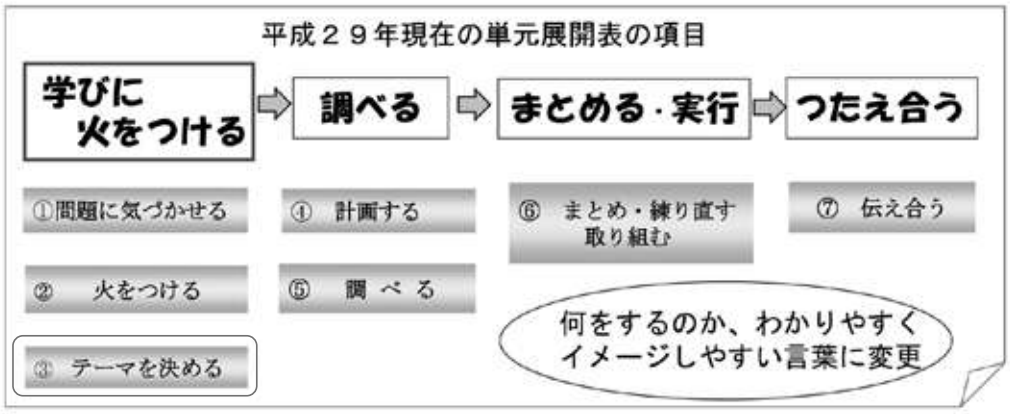
セットで必要・変更をおそれない（予定調和的でない学び）

27

信州ESDコンソーシアム

ESD授業の作り方

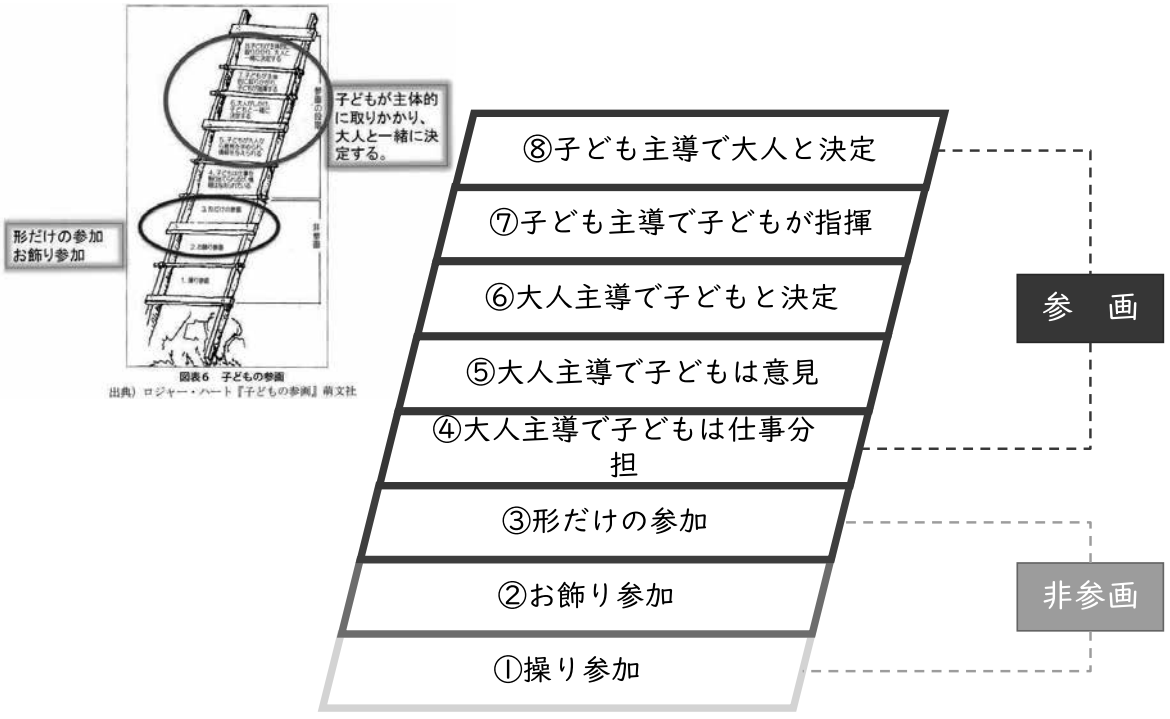
総合を軸としたESD授業では，体験などから気づき→調べる→まとめる・考える→つたえあう，という流れが一般的です



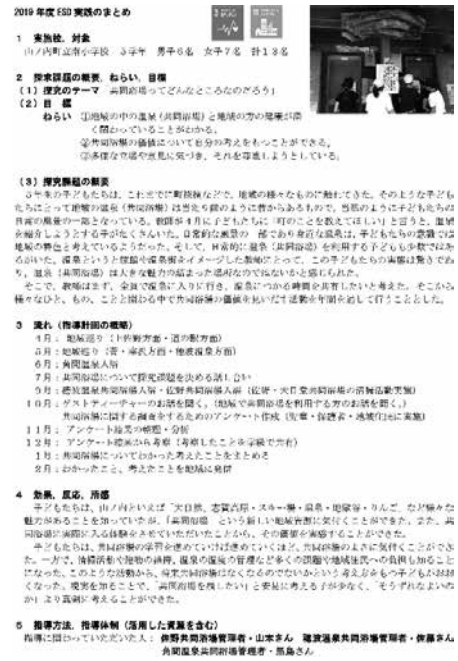
主体的な参画

手島利夫「学校発・ＥＳＤの学び」（教育出版）

主体的な参画



ESD実践記録（山ノ内南小）



2019年度ESD実践のまとめ

1　実施校，対象
山ノ内町立南小学校　3学年　男子6名　女子7名　計13名

2　探求課題の概要，ねらい，目標
（1）探究のテーマ　「両沢湯場ってどんなところなのだろう」
（2）目　標
ねらい　①地域の中の温泉（両沢湯場）と地域の方の関係に関心を持っていることがわかる。
②両沢湯場の価値について自分の考えをもつことができる。
③様々な方法や意見に関心を持ち，それを尊重しようとしている。

（3）探究課題の概要
3年生の子どもたちは，これまでに町探検などで，地域の様々なものに触れてきた。その上で子どもたちにとって地域の温泉（両沢湯場）は当たり前のようにそこにあるもので，当然のように子どもたちの日常の風景の一部となっている。校区外4月に子どもたちに「町のことを教えてほしい」と言うと，温泉を紹介しようとする子が少ない。日常的な風景の一部であり身近な温泉は，子どもたちの意識には地域の特色と考えているようだった。そして，積極的に温泉（両沢湯場）を利用する子どもも少数ではあるがいた。温泉というと観光や温泉街をイメージした施設だとって，この子どもたちの実態は驚きであり，温泉（両沢湯場）は大きな魅力の溢まった適切なものではないかと感じられた。
そこで，教師はまず，全員で温泉に入りに行き，温泉につかる時間を共有したいと考えた。そこから様々なひと，もの，ことと関わる中で共同浴場の価値を見いだす活動を中間を通して行うこととした。

3　流れ（指導計画の概略）
4月：地域巡り（上野原方面・道の駅方面）
5月：地域巡り（雷・岸沢方面・地震探索方面）
6月：両関温泉入浴
7月：共同浴場について探究課題を決める話し合い
9月：穂波温泉共同浴場入浴・松野共同浴場入浴（花壇・天狗・堂所共同浴場の清掃活動実施）
10月：ゲストティーチャーのお話を聞く。（地域で共同浴場を利用する方のお話を聞く。）
共同浴場に関する調査をするためのアンケート作成（児童・保護者・地域住民に実施）
11月：アンケート結果の検証・分析
12月：アンケート結果から考察（考察したことを学級で共有）
1月：共同浴場についてわかった考えたことをまとめる
2月：わかったこと，考えたことを地域に発信

4　効果，反応，所感
子どもたちは，山ノ内といえば「大自然，志賀高原・スキー場・温泉・地獄谷・りんご」など様々な魅力があることを知っていたが，「共同浴場　という新しい地域資源に気付くことができた。また，共同浴場に実際に入る体験をさせていただいたことから，その価値を実感することができた。
子どもたちは，共同浴場の学習を進めていけば進めていくほど，共同浴場のように気付くことができた。一方で，施設清掃や掃除の維持，温泉の管理など多くの課題や地域住民への負担も加えることになった。このような活動から，将来共同浴場はなくなるのではないかという考えをもつ子どもも出てくるかもしれない。現実を知ることで，「共同浴場を残したい」と要望に考える子が多くなく，そうすればよいのかにより真剣に考えることができた。

5　指導方法，指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：**仲野共同浴場管理者・山本さん　穂波温泉共同浴場管理者・保科さん**
両関温泉共同浴場管理者・黒島さん

2019年度ESD実践のまとめ

1　実施校，対象（人数も）
山ノ内町立南小学校3学年　男子13名　女子8名　計21名

2　探求課題の概要，ねらい，目標
（1）探究のテーマ：これからも残したい大切な場所　夜間瀬川
（2）目　標　地域を知ることで様々なひと，もの，ことと出会い，自分が住む地域を見つめ直すことでその魅力や価値を再確認することができる。
ねらい　①　川に親しむ中で，川を取り巻く社会的な事象と出会い，時代や環境化社会への対応などの社会的課題について知り，（知識，技能）
②　社会的課題に対して解決するために自らができることを考え，実際に試すことができる。（思考力，判断力，表現力）
③　仲間と協力して協働し，課題の解決に向かい考え行動し続けることができる。（学びに向かう人間性）

（3）探究課題の概要
4月から実施していた地域巡りの中で出会った，夜間瀬川，子どもたちは，夜間瀬川で遊ぶことが楽しかったり，その中で，「これからも夜間瀬川を大切にしていきたい」「夜間瀬川が活気ある観光者で楽しめる場になってほしい，「地域の人が集まって会話できるような場所にしたい，と思うようになった。また，「川のつくり」「堆積岩のパラアソリー」と興味がでてきた。そこで子どもたちは，社会課題解決会，事業者懇談の方との学習から課題を解決しようとした。そして，願いの実現に向けて，町子ども議会での発表や，資材を利用したベンチ作りを行った。

3　流れ（指導計画の概略）
4月：地域巡り（穂波温泉，湯沢方面）
5月：地域巡り（雷，岸沢，立川，上original方面）
6月：地域巡り（雷，岸沢方面）　6月から10月は，教材をカメラを持たか，おもしろいと思ったものを撮影し，共有するようにした。（信州大学の水谷先生からの協力をいただいた）
7月：地域巡り（探究課題の決定）
9月：川遊び（課題と問題意識），社会協働推進会の方との場所での思いや体験
10月：共同浴場事業者の方の話，子ども議会に向けてまとめの準備
11月：子ども議会（学校での発表と教室での発表）
12月：子ども議会を受けての今後の活動についての話し合い
1月：素材を利用したベンチ作り
2月：素材を利用したベンチ作り　学校への設置

4　効果，反応，所感
子どもたちは自ら考えて，試すことの大切さと楽しみを感じることができた。また，自分で何もないと思っていた地域に，子どもたちにとって今も大切にしたい「魅力あるもの」があふれていることに気がついた。また，それを取り巻く社会的な事象や多くの人の存在を知り，思うがままに行かない状況とも出会うことができた。
頭の中で考えるだけでなく，実際に自らが体験し，そこから生まれた疑問を大切にすることを子どもたちも教師自身も学べた学習だった。これから大人になっても，様々な形で地域を大切にする子どもたちになっていくことを期待している。また，将来，どこに住んでいたとしても，それぞれの場所に郷土あふれるものがあり，それにかかわる人がいることを感じたのではないかと思う。

5　指導方法，指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：山ノ内町温泉組合連合会　寺田神医事務所　鈴木工務店
民生児童委員会の山本さん
活用した資源：夜間瀬川　地域にある施設や看板，本屋　車いす　資材　など

信州ESDコンソーシアム

まとめ

- ユネスコスクール
  - ユネスコ憲章の理念を実現する学校
  - ネットワークと交流を通じた学びあい・活動の深化，モデル的役割
  - ESD推進拠点と位置づけられ，とくにSDGsへの貢献が期待

- ESDとSDGs
  - ESD はSDGsの必要不可欠な要素であり，またSDGsの達成の鍵
  - 持続可能な社会を目指す価値観（→SDGs）や必要な資質・能力を育む，主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的な学び
  - 地域の学習材の活用＋グローバルな視点（SDGs），発達段階に応じたテーマ設定

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとしてよりステップアップするために

- カリキュラム・マネジメントによるESD/SDGsの深化
  - 地域の学習資源を教員が主体的に使いこなす
  - 体験を重視しつつ，そこから探究的な学びにつなげる
  - ESDカレンダー，指導計画，実践記録（PDCA・改善のツール，SDGs）

- ESD推進拠点としてのモデル的役割
  - 強みを活かしたESD実践（地域資源・コミュニティスクール）
  - 学校全体でのESD/SDGsへの取り組み（ホールスクール）
  - 学校間交流・情報発信

- より深く理解するために
  - 持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引（令和３年５月改定　日本ユネスコ国内委員会）https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf
  - 『ユネスコスクールガイドブック』ESDの活動を通じて創る未来（令和4年3月改訂）https://www.mext.go.jp/content/20220406-mxt_koktou01-000021810_1.pdf

信州ESDコンソーシアム

2023/01/30

ESD in Shiga Highland BR and Collaborative Activities with Shinshu ESD Consortium

Mizuki MIZUTANI
Faculty of Education, Shinshu Univ.

信州ESDコンソーシアム

What is ESD?

- Education for Sustainable Development

Education for Sustainable Development (ESD) is "an integral element of the SDG on quality education and a key enabler of all the other SDGs."

(UNGA resolution 72/222)

信州ESDコンソーシアム

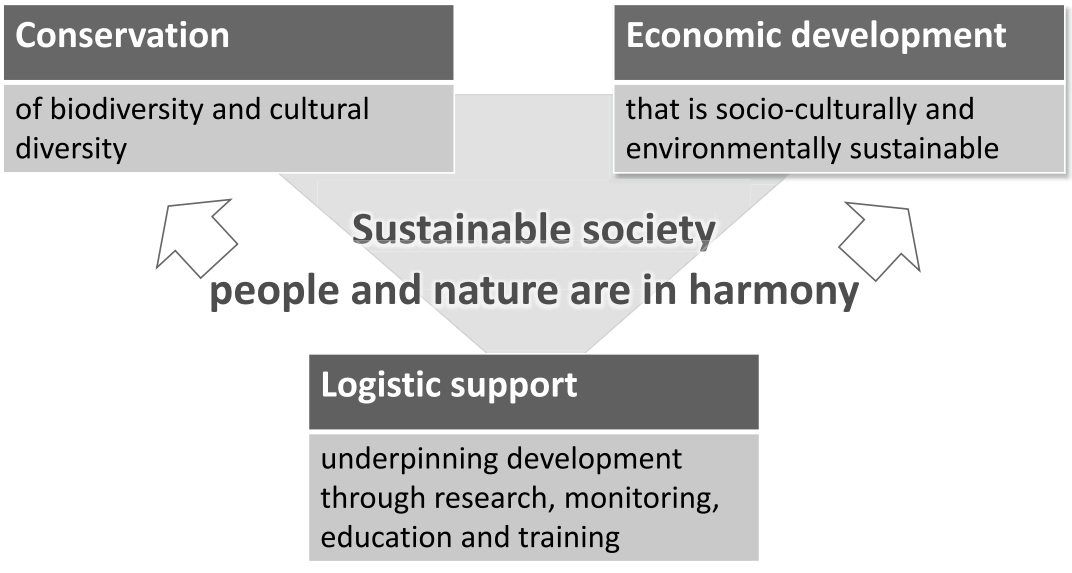
BR and ESD

- Experiential environmental education Programs
- Fieldwork on nature conservation activities
- Workshops on local history and culture

- Opportunities to learn ideas and actions for coexistence with nature and sustainable local communities
- Suitable as a place for ESD

信州ESDコンソーシアム

ESD is the key for BR to its function



信州ESDコンソーシアム

ESD in Schools

- UNESCO Associated Schools are positioned as ESD Promotion Hubs
- ESD is the foundational principle of latest National Curriculum Standards(2018～)

ESD on curriculum

- Mainly implemented during "the Period of Integrated Study"
- Inquiry-based and problem-solving learning through proactive and interactive approaches

Find issue → Research → Discuss → Presentation, Take action

Qualities and abilities emphasized in ESD

Concepts of sustainable society-building

1. Diversity (variety exists)
2. Interdependence (relating to each other)
3. Limitation (limits exists)
4. Fairness (valuing everybody)
5. Cooperation (cooperating with others)
6. Responsibility (taking responsibility)

Competencies and attitudes

1. Ability to think critically
2. Ability to plan with anticipation of a future scenario
3. Ability to think in multidimensional and integrative ways
4. Ability to communicate
5. Ability to cooperate with others
6. Attitude to respect relations and connections
7. Attitude to participate proactively

信州ESDコンソーシアム 7

CASE1 Environmental Education Program

The Shiga Kogen Tourism Association and Guide Association offer environmental education programs for schools.

信州ESDコンソーシアム

CASE2 Joining UNESCO ASPnet

All elementary and junior high schools in Shiga Highland BR are members of ASPnet.

CASE3 Collaboration with various stakeholders

Children participate in nature conservation activities of government and citizen groups.

CASE4 Shiga Highland BR Seminar

BR Seminars are held for local residents to discuss sustainable regional development utilizing BR.

信州ESDコンソーシアム

CASE5 Youth & Teacher training for students

For more than half a century, Institute of Nature Education in Shiga Heights, Shinshu Univ. has been engaged in nature education for students of the Faculty of Education.

信州ESDコンソーシアム

CASE6 Teacher training

Shinshu ESD Consortium provides Environmental Education and ESD/SDGs training for in-service teachers.

信州ESDコンソーシアム

Shinshu ESD Consortium

Members include Shinshu University Faculty of Education, UNESCO School, municipal boards of education, private firms, NGOs, etc.

信州ESDコンソーシアム

Achievement Presentation & Networking Meeting

Students from ASPnet schools in Nagano Pref gather at Shinshu Univ to present the results of their studies and interact with each other.

FY2021: Achievement Presentation & Networking Meeting

Became an online event for BR schools nationwide starting in FY2021.

https://esd-nagano.org/conference2022/

ユネスコエコパークとESD

ユネスコエコパーク（Biosphere Reserve:BR）は、ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画の枠組みに基づいて国際的に認定された、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目指すモデル地域で、「持続可能な開発について学ぶ場」として注目されています。
世界131カ国に727サイトのBRがあり、このうち日本では10サイトが登録されています（2021年7月現在）。
ユネスコエコパークには豊かな自然や、自然と調和した営みを続けてきた歴史、伝統、文化などの学習資源が豊富で、ESD実践の場として好適です。またユネスコエコパークにとっても、持続可能な地域社会の担い手を育てるESDは重要な要素と言えます。
今回の実践発表校のうち、各地のユネスコエコパークでESDを実践する学校は以下の通りです。

只見BR
・只見町立只見中学校

みなかみBR
・みなかみ町立新治小学校

志賀高原BR
・山ノ内町立西小学校
・山ノ内町立東小学校
・山ノ内町立南小学校(3年生)
・山ノ内町立南小学校(6年生)
・山ノ内町山ノ内中学校(1年生①)
・山ノ内町山ノ内中学校(1年生②)
・山ノ内町立山ノ内中学校(2年生①)
・山ノ内町立山ノ内中学校(2年生②)
・高山村立高山小学校
・高山村立高山中学校

南アルプスBR
・飯田市立上村小学校
・飯田市立和田小学校
・飯田市立遠山中学校

白山BR
・白山市立鳥川中学校

大台ヶ原・大峯山・大杉谷BR
・森と水の源流館（コメント）

綾BR
・綾町立綾中学校

屋久島・口永良部島BR
・屋久島町立八幡小学校(3・4年生)
・屋久島町立八幡小学校(5年生)

FY2022: Achievement Presentation & Networking Meeting

Online on February 3 and 4, 2023

English ver website for FY2021meeting coming soon.

17

信州ESDコンソーシアム

Significance and Effectiveness of ESD in BR

Materials for environmental and community study	Diverse Human Resource Development
• World-class Nature environment • Traditional culture and history	• School education, development of the next generation • Social education, cooperation and collaboration

- Motivation to Engage in ESD
- Activation of activities for BR
- Establishment of local identity
- Exchange and Information Dissemination
- Increase the sense of hometown pride

信州ESDコンソーシアム

V

長野県内のユネスコスクール年次報告

信州大学教育学部附属幼稚園　加盟年:2018年

1 2022年度活動分野

減災・防災、環境、持続可能な生産と消費

2 2022年度活動の概要

本園は「自然環境を大切にする心を育む」を活動テーマとしてESDを学びの場と捉え、ユネスコスクールが重点的に取り組む「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」の実践を通して、資源の再利用を通した環境保全を主体的に進めようとする力の育成を目標とした。具体的には資源回収、資源の分別、資源の再利用を柱に①資源回収にかかわる活動、②再生資源を使った遊びにかかわる教育、③環境・資源にかかわる教育を行った。

①資源回収に係わる活動

本園では、家庭で捨てられてしまうトイレットペーパーの芯や牛乳パック、空き箱、ヨーグルトカップ等の回収を保護者に呼びかけ、幼稚園の回収箱に分別して入れていただいている。回収箱は中身が見える半透明な箱に写真をつけ、保護者だけでなく子どもたち自身も分別できるようになっている。

②再生資源を使った遊びに係わる教育

資源回収で集まった素材を物によっては洗浄・消毒し、子どもたちの創作活動や遊びに自由に使える素材として提供している。子どもたちはトイレットペーパーの芯や牛乳パック、空き箱等を使って、乗り物や生き物を作って遊ぶことを通して、物をゴミとして簡単に捨ててしまうのではなく、資源として生かすことができるという考え方が身に付いてきている。

③環境・資源に係わる学習

子どもたちは、資源回収で集めた素材で乗り物や生き物を作り、家に持ち帰っている。子どもと保護者が話をして、使わなくなった乗り物や生き物は元の資源に戻し、もう一度遊びの素材として使えるように幼稚園の回収箱に持ってくる姿も見られる。②と同様、子どもと保護者が話をする中で、資源としてもう一度生かそうとする姿が見られる。また昨年度同様今年度も、市の環境課の方から年長児を対象に○×クイズも織り交ぜた「リサイクル」についてのお話をしていただき、資源を大切にしようとする気持ちを育んできた。

3 2023年度の活動計画

令和5年度は11月に公開研究会も予定されている。その際には本園の回収ボックスや素材置き場も積極的に公開し、他園の幼稚園の職員にも本園の回収方法やリサイクルの仕方について紹介するとともに、環境問題の受け止めや、遊びの素材としてリサイクルしている本園の活動について共に考えていきたい。また資源の再利用について、子どもたちと共にPTAや地域住民などに協力を願い、幼稚園内での活動から、PTAや地域住民へと取り組みの裾野を広げ、協働した資源再利用を進めていきたい。

茅野市立永明小学校　加盟年:2017年

1 2022年度活動分野

減災・防災、環境、人権、福祉、持続可能な生産と消費

2 2022年度活動の概要

本校は2017年度にユネスコスクールとなった。学校目標は『ともに拓く』～なかよく・かしこく・たくましく～。今までの教育活動をESDの視点で捉え直し、「つむぎ合い」を中心にすえて取り組んできた。

具体的には、①書き損じはがき集めに係わる活動、②「縄文科」学習、③SDGsを意識した学習、④地域の自然と関わる活動、⑤ベルマーク募金、⑥ユネスコスクールのロゴを使って各通信の発信　を行った。

①書き損じはがき集めに係わる活動

回収ボックスを昇降口に置き、1月下旬まで回収する。世界には公的教育を受けられない小学生がいる事実を知り、

自分ができることから行動に移そうとする姿を育むことができた。

②茅野市では二体の国宝土偶が出土していることから、市内全小中学校で「縄文科」学習に取り組んでいる。一例では、4学年の1クラスで昨年度からの課題「縄文人は火を灯し続けるために、どのような燃料を使っていたのか」を解決するべく調査を継続。そして、エゴマ油を使っていたかもしれないと考え、地域の方の協力も得て栽培を行い搾油に取り組んだ。工夫を行い、協力や協働なくしては油ができなかったと感想を持ち、縄文人も力を合わせて生活していたことを体感した。

③SDGsを意識した学習
4年3部は、昨年度から継続して、給食で出される牛乳ビンのふたを紙の部分は洗って乾かして紙ゴミとして、ビニールの部分はプラスチックゴミとして分別している。「燃えるゴミを少しでも減らしたい。そうでないと、地球がゴミを燃やした灰でいっぱいになる。二酸化炭素の発生も減らしたい。」という願いから、取り組み始めた。そして自分たちだけのクラスだけではなく、全校にもこの有意義な活動を広めたいと考え、クラス訪問を行って呼びかけた。今年度は、各児童が「My SDGs」として、環境問題やリサイクル等で関心のあることを調べ、自分ができることを考え、実践し始めている。ゴミの分別、節電、節水、残食ゼロなど、Act Localである。5年3部では、茅野市のよいところや課題を考える中で、茅野市の環境問題に興味を持った。公園や通学路のゴミ拾いを行ったり現在社会で行われている取り組みを調べたりすることを通して、地域に貢献するために自分たちができることは何かを考えている。

④地域の自然と関わる活動
1学年は、秋に地域にある「永明寺山」に遠足に行った。永明寺山ふれあいの森を創る会の方々に、道案内をしていただき、途中途中で見どころや草木のこともお話しいただき、自然に親しんでいた。生活科の学習でリース作りをするとき、拾ってきた松ぼっくりを使おうとアイデアが浮かんだ。永明寺山の自然を身近な作品に生かそうとする姿があった。

⑤学校だよりや学年学級通信等にユネスコスクールのロゴを掲載し、児童や保護者、地域の方にユネスコスクールであることを広く発信した。

3 2023年度の活動計画

ESDの理念や「持続可能な開発目標（SDGs）」を職員に周知し、学習活動や行事のねらいを角度づけしていく。具体的には、学年別指導計画をSDGsの視点がねらいとなっているものを、シンボルマークで示す。また、生活科および総合的な学習の時間を学級の中核活動にすえ、各教科横断的なつながりを付け加え、ESDカレンダーを作成し、SDGsを意識して授業を展開する。

全学年が縄文科の学習を通して、縄文土器や土偶に興味をもったり、どんな暮らしをしていたのか思いを馳せたりする。知恵を働かせ、協力して生活していた素晴らしさについて、体験を通して学ぶ。

ユネスコ協会の取組として行っている書き損じはがき回収に引き続き協力していく。

地域の方々や外部団体の方々と協力して学ぶことが本年度も難しかった。制限が緩和されるに従って、諸外国について学ぶ機会を、講演会や社会の授業、平和学習などを通して行っていきたいと考えている。

過年度は行ったベルマーク募金について、委員会活動と関連させながら再開したい。その目的を理解して協力をしていく活動を醸成し、集まったベルマークの中から「アフガニスタン寺子屋プロジェクト」に友愛援助資金として寄付していきたい。

高山村立高山小学校　加盟年:2015年

1 2022年度活動分野

減災・防災、気候変動、環境,、文化多様性、 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、国際理解、人権,、福祉、健康,食育、エコパーク

2 2022年度活動の概要

高山小学校のユネスコスクールの活動は、「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に、高山村の人や環境から学び、地域のためにできることを見つけ、実践していくことを目的として学習を進めている。具体的には、2015年のユネスコスクール加盟時から継続的に取り組んでいる3つの取り組みを柱としている。1つ目は、学校・

PTA・公民館が共催する親子体験講座「わくわく村」。2つ目は、生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習。3つ目は、学校支援ボランティアの支援による教育活動である。また、それらの成果の発表として「しらかば学習発表会」を位置づけ、地域にも発信している。今年度は、ここ3年間コロナ禍において開催を見合わせてきた発表会が、規模を縮小した保護者のみの公開であったが、開催できたことが大きな成果であった。村内へ出かける調査活動ヤ体験活動、交流活動等、本来の活動を変更したり、見直しをしたりしながら、ユネスコスクールとしての責務を果たすために、身近な活動を地道に継続させた1年間となった。

①学校・PTA・公民館が連携した「わくわく村」講座の取り組み
○親子ふれあい体験講座である「わくわく村」を、中止や延期も考慮しながら、できるだけ多くの参加機会が得られるように昨年度より3講座増やし、今年度は21講座開催
【開催した講座（関連分野）】切り絵教室（文化）・自然探検（環境）・ホタル学習教室（環境）・ハーバリウム教室（文化）・サバイバル飯体験教室（防災）・文化財探訪（地域遺産）・太極拳体験（国際理解）・SDGs入門（総合）・食材と上手に付き合う教室（食育/環境）・廃油石鹸作り（環境）・星空観察会（環境）・古道を歩こう（地域遺産）・太田せぎ・湯倉洞窟探検（地域遺産）・布草履と和綴じ作り教室（地域文化）・親子レクレーション（交流）・親子高山太鼓教室（地域文化）・アートとデザイン教室（文化）・親子木工教室（文化）・ソルガム収穫体験教室（食育）

②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶ体験学習
○生活科・総合的な学習の時間における地域に学ぶ学習および各教科とSDGsの関連付けをアイコンで示した年間活動計画である「ESDカレンダー」の作成
○11月26日（土）に本校体育館で「しらかば学習発表会」を開催し、取り組みの成果を保護者や地域に発信
【各学年の主な取り組み】1年生…「秋探しに行こう」「ようこそ高山小学校へ（来入児との交流）」、2年生…「前田牧場へ行こう」「給食センターへ行こう」「大豆でみそづくり」、3年生…「高山の桜めぐり」「りんご作り体験」「共同選果場見学」「紙のリサイクルに挑戦」、4年生…「みんながくらしやすい村をめざして」「パラスポーツに親しもう」、5年生…「米作り体験」「ごみへらし大作戦②」「み力発見！美しい村高山村」、6年生…「ものづくりに学ぶ」「とれた野菜でできること」

③学校支援ボランティアの活用による活動
○周辺地域および村内の新型コロナウィルスの感染状況に応じて、外部講師の来校を調整しながら活動支援を依頼
【支援を受けた主な取り組み】わくわく村各講座の運営および講師（全校）・りんご栽培体験学習（3年）・みそづくり学習（2年）・米作り体験学習（5年）・外国語学習での民話紙芝居（6年）・読み聞かせ（全学年）・書道指導（3〜6年）・水泳指導（全学年）

3 2023年度の活動計画

令和5年度の本校の活動計画は、新型コロナウィルスの収束を念頭に、「afterコロナ」を見越した活動を推進していく。ユネスコスクール加盟当初より、村をあげて大切にしてきた活動を継続、あるいはリニューアルさせながら、本年度同様「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に、学びを進めていくことになるだろう。先に述べた三つの柱である「学校・PTA・公民館が共催する親子体験講座『わくわく村』」・「生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習」・「学校支援ボランティアの支援による教育活動」を核に、高山村の自然や文化を深く知り、持続させていくことを願う心情をもち、高山村を通して日本や世界の今日的な課題にも目を向けられる子どもたちを育むような活動を展開していきたい。また、自校、自村にとどまらず、同じゴールを目指す、県内・国内・世界の人々とつながる活動にも広がっていくことを願いたい。

山ノ内町立東小学校　加盟年:2014年

1 2022年度活動分野

生物多様性、環境、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、持続可能な生産と消費、エコパーク、その他の関連分野

2 2022年度活動の概要

本校は、「よく考え行う子　なかよく力を合わせる子　気力にあふれやりぬく子」を学校目標に据え、ESD活動

のテーマを「～E…いいと思うことを　S…すすんで　D…できる子～」として活動を進めてきた。ESD活動における目指す子どもの姿を「○自分の願いや疑問を持ち、やりたいことを決め出すことができる。○主体的に判断して学習活動を進めたり、よく考え、解決に向けてねばり強く取り組むことができる。○自分の活動を振り返り達成感を感じたり、友だちの活動のよさを感じ取ったりして, 表現することができる。」と設定し、今年度は、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度のうち、特に「批判的に考える力」を養うことを重点目標に進めてきた。

①1年生「畑でやさいをてよう」「ハムスターをかおう」
じゃがいも・ポップコーン・さつまいもなどを栽培し、簡単な調理活動もした。ハムスターの飼育活動では、ハムスターの喜びそうな遊び場を考えて作成した。子どもがそれぞれ願いを持って活動し、生命の大切さを学んだ。

②2年生「ぐれちゃん（ヤギ）との生活」
1年生のころから飼育しているヤギのエサ代を自分たちで工面するために、サツマイモの栽培活動と販売活動を行った。また、成長したヤギに子どもを設けさせるための計画を行った。

③3年生「目指せ！ぐるぐる名人」
様々なこまや回るおもちゃに挑戦したり、こま回しの名人と交流したりした。また、地域のお菓子屋さんの「うずまきパン」の製造についても学ぶことができた。多面的・多角的に身の回りを見つめることを通して、地域の良さを発見する活動となった。

④4年生「ぼくのわたしのコカリナ」
志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習してきた。演奏の鑑賞、作り手の方との交流、楽曲の発表、などを通して、コカリナには自然環境の保持や資源の有効活用などの願いが込められたことを知り、コカリナの魅力も伝えられるよう、活動にとり組んできた。

⑤5年生「山ノ内のブランド米雪白舞を育てよう」
山ノ内のブランド米「雪白舞」の栽培に挑戦した。町役場のTさんや米にご協力いただきながら、田植えから収穫まで、山ノ内の自然や気候を活かした栽培を体験した。育てたお米は目標にしていた米・食味分析鑑定コンクール国際大会で金賞を受賞した。

⑥6年生「絶滅危惧種や在来種の住みやすい山ノ内町・志賀高原にするために」
志賀高原の外来種や在来種、絶滅危惧種について研究をした。外来種が増えた原因を探ったり、在来種、絶滅危惧種を守っていくために自分たちができることを考えたりした。自分たちが考え、まとめた内容を町内のESD交流発表会で提案した。

3 2023年度の活動計画

「ABMORI～いのちを守る森作り～」に関わる活動やふるさと志賀高原遠足、高原学習（志賀山登山）、コカリナなど、志賀高原ユネスコエコパークに関わる活動を来年度も活性化させていく。また、ESD活動を子どもたちの成長に有効に繋げるために、教職員が活動を通じて目指す子どもたちの姿を明確にし、様々な教科や教育活動との関連を意識しながら価値づける仕組み、指導・評価を行っていく。さらに、児童自身も自分たちの学習や活動とSDGsがどのように関連しているのかを意識づけるために、ESD活動の中に、校内、地域、他地域などへの情報発信や他校との情報交換の場を充実させていく。

山ノ内町立西小学校　　加盟年:2017年

1 2022年度活動分野

生物多様性、エネルギー、環境、文化多様性、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、人権、福祉、持続可能な生産と消費、食育、エコパーク

2 2022年度活動の概要

本校は、ESD活動において、まずは身近な「ふるさと山ノ内」に目を向け（E･･･いつまでもS･･･住み続けたい町をD･･･どうつくる）を目標として、自ら考え判断し、知識技能を活かしながら主体的・協働的に問題解決できる児童の育成に取り組んでいる。そしてユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野に基づき、地域の人々と協働し、自然や環境を大切にした持続可能なライフスタイルに目を向けると共に、地域の歴史に基づく文化やその多様

性とそこに暮らす人々を尊重できる児童の育成を目標として取り組んでいる。

①1年生の活動「ウコッケイさんといっしょに生活しよう」
1年生は、飼育している烏骨鶏のために「太陽の光を浴びることができる小屋」を建てて烏骨鶏と触れ合った。また「ウコッケイさんの紹介カード」を作って地域の方々に烏骨鶏さんを紹介した。こうした活動を通して、命を守り育てることの大変さを理解し、一人ではできないことも、みんなで協力すれば成し遂げられることを実感することができた。

②2年生の活動「小さな命と大きな命とわたしたち　ともに…」
2年生は、SDGsの目標である「陸の豊かさも守ろう」を中心に、身近な自然を季節ごとに感じるために、様々な生き物や植物と触れあい、絵に描いたり季節のものを使って作品にしたりしてきた。また自分たちの畑で青大豆を育てて収穫し、大豆をおいしく食べるために、大豆をきなこにして食べる方法について調べることができた。

③3年生の活動「山ノ内町のじまんの作物を育てよう」
3年生は、りんごに関する作業を支援員の方に教えていただき共に作業していく中で、りんごの世話の多くが手作業なのは、りんごを大切にしているからなのだと実感することができた。また前坂大根の栽培では、種まきから収穫、漬物作りの作業を行い、地元の方の伝統野菜に対する思いを感じながら、地域を大切にする活動に一緒に参加することができた。

④4年生「前坂大根を作ろう！」
4年生は、地域の伝統野菜の前坂大根を初めて知り、保存会の方にお話をお聞きしながら前坂大根についていろいろ調べ、前坂地区で種まきから収穫、漬物作りまでを行った。また学校の畑でも前坂大根の栽培に挑戦し、前坂地区で育てた大根と大きさや形が違うことに気づき、さらに前坂大根について調べたいという意欲をもつことができた。

⑤5年生「地域自慢の雪白舞を作ろう」
5年生は、学校田と須賀川地区の田の両方で米づくりを行った。学校田の水管理や草取りを自分達で行う中で、米作りの大変さを実感した一方、無農薬・無肥料で米づくりを行った須賀川地域の田のお米は、米・食味分析鑑定コンクールで「特別優秀賞」を受賞し山ノ内町からは「雪白舞」として認定された。おいしいお米を作るには、恵まれた土地と地域の人々の努力が必要であることに気づくことができた。

⑥6年生「みんなのために　自分たちにできること」
6年生は、山ノ内町では高齢者の割合が増えていることに気づき、お年寄りとよりよい生活ができるよう、老人養護施設との交流を行った。施設の草取り・プランターの花のプレゼント・ダンスの発表・コカリナ演奏などの交流を進め、出てきた課題を解決していく中で、相手の気持ちや状況を考え、他者を思いやることの大切さに気づくことができた。

3 2023年度の活動計画

①学校運営委員会（コミュニティスクール･･･CS）を活かしたESD活動の充実
これまでCSと協力して、役割や専門性を発揮できるよう地域素材の教材化を行ってきた。今後は児童とCS、学校が共に活動し学んでいける体制を整え、本校が目指すESDの目標とその子ども像をCSと共有しながら、学びを見守りともに伴走していく活動を仕組んでいく。

②多様な交流活動の推進
人口が減ってきている自分たちの地域において、世代が違う人々が互いにコミュニケーションをとり、知識や情報を得て、生活を豊かに楽しくしていくことは、地域に暮らす人々にとって今後ますます大切なこととなっていく。そこで交流活動においてさまざまな年齢層が幅広く交流できる活動内容や、ネットを使って広域で交流を行っていく。

③持続可能な活動を目指して
持続可能な活動にしていくためには、子どもたちが願いをもって主体的に活動し、なおかつ楽しんで活動できることが大切である。そのため自己有用感・達成感を感じられる体験学習や活動に軸を置き、ポートフォリオなどを使って、自分たちの活動の成果や変化を分析しながら、次の活動に繋げていける力を育てていく。

山ノ内町立南小学校　加盟年:2017年

1 2022年度活動分野

生物多様性、エネルギー、環境、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、福祉、食育、エコパーク

2 2022年度活動の概要

本校はユネスコスクールとして、国内のESDの推進拠点という役割を意識しながら学習活動を展開しようとしている。私たちはESDを、地域学習、環境学習といったものにとどまらず、地域と共に学び、地域に貢献するための行動化を促す学びであると考える。それが地域の持続可能性を高めることであり、子どもたちにとっても将来の幸せを追究することにつながると考えている。今年度は目指す子ども像を次のように設定した。

○複数の事象の関連性に目を向け、課題の解決に向けて多様な他者と協働する子ども
○課題を発見し、自分の問題としてとらえ、本当かと問い直し、多面的に考えを深める子ども
○身の回りの他者と関わりながら、自分の世界を広げていく子ども
○豊かな原体験の中で、自分のやりたいことを満たし互いを認め合う子ども

今年度も総合的な学習の時間や生活科と他教科との関連性を考慮しながらESDカレンダーを作成し、目指す子どもの姿に迫っていきたいと考えた。

各学年の学習

①1年生テーマ「はたけはおいしいね　～栽培活動を通して～」

外で遊ぶこと、自然に触れ合うことが大好きな一年生、また、調理をしたり、食べたりすることが大好きな一年生。また、兄姉の話から、アサガオの一人一鉢栽培に、とても期待していた。当初は、「おさんぽ」から校外での活動を計画したが、子どもたちの興味関心から、「作って食べる」活動を中心に仕組んだ。最初は自分たちがおいしく食べることだけを考えていた子どもたちが、「アサガオの種、来年の一年生にあげたいな。」「読み聞かせをしてくれた3年生にポップコーンをつくってあげたいな。」と他者への意識に広がっていった。特に、兄弟学級の6年生に対しては、「一緒におでんパーティーをしたいな」「僕たちがおいしかったキャラメル味のポップコーン、あげたいな」と様々な活動を願うようになっていった。コロナの関係で「食」に対しての規制が大きく、子どもたちの願い通りの活動がなかなかできずにいる。しかし、今年の体験が2年生でのりんご作りにつながっていくことと思う。さらに、自然豊かな地域でのこの活動が、地域の特徴への理解、さらには地域への愛につながっていくものと願っている。

②2年生テーマ　「りんごを育てよう」

子どもたちは、4月にりんごの畑に行ってもりんごの木に触れることなく、これから始まる学習に見通しや関心を持てずにいた。ところが、6月の摘果活動で初めてりんごの木に触れ残したい実を選んでから様子が変わり、学習に主体的になっていった。りんごに働きかけたことで、自分たちのりんごを大切に育てたいと思ったのではないかと考えられる。その後、子どもたちはりんご栽培に関する図書を探し、その記述や聞き調べたこと、生活経験を基に自分たちにできることが何かについて考え合った。このときに「りんごの観察をしていただけでは、りんごを育てることができない」ということを語っていた。本学習のよさは次の点が挙げられる。①りんごに働きかける活動が、子どもたちにりんごを大切に育てたいという思いを生み、自分たちができることについて考え活動する姿を育てる。②子どもたちが多くの人によって支えられ、県内外の方々とつながっていることを感じた。③自分たちで考え自己決定しながら歩む学習を大切にしてきたことにより、子どもたちにみんなで考え合おうとする姿が育ってきた。課題は、大人の力を借りなければりんごの栽培ができないことである。

③3年生テーマ　「山ノ内町のSDGs探検隊！」

昨年度のりんご販売の体験から、山ノ内町（南小学校区中心に）の良さを見つけたいと願い、町探検を通して町の良さなどを探してきた。南小学区には温泉や果樹園が多いことや、ソーラーパネルなどがあることを知り、豊かな水源がないと温泉や果樹園は作れないことから、水や電気は有限性があることに気づいてきた。また、そういった豊かな自然や住みやすい街を守るために、路上に落ちているゴミ問題をなんとかしたいという思いが強まった。昨年の3年生がゴミについて学習していたことや「応援！みんなのチャレンジ！」で川のごみ拾いをしている小学生の存在を知ったことから、「自分たちもゴミ拾いをしたい。」と願い、ゴミ拾い活動を始めたが、路上のごみが思った以上に多いことから、どうしたらよいかを考えた。はじめは「ポスターを貼るだけではゴミは減らない。」という意見が多く、隔週でゴミ拾い作戦をすることでごみが減ってきているように感じ、「自分たちが拾えばいい。」と考えていたが、町探検をする中で昨年の3年生が作成したごみのポスターを見つけ、「やっぱりポスターを貼ると、自分たちみたいに見る人がいて、ゴミをもっと減らせるかもしれない。」と考えが変わっていった。そこで、自分たちが拾ったごみを絵にかいて貼り合わせたポスターを作製した。ポスターに入れて伝えたい言葉も「なんでごみを捨てたらだめなのか、考えてもらえるような言葉にしたい。」という意見が出て、子どもた

ちの中で少しずつ環境への関心が高まっているように感じている。

④4年生テーマ　「みんないきてる　みんなでいきてる」～みんなが安心してくらせる世界に～
歩きスマホの原稿が信毎にのるそうです。今までの障がいのある方のことを勉強してきて、それを根拠として考え「歩きスマホは危ない。危険だ。」と感じ、作文にして訴えたいと決め、そして作文を書くという行動を起こし投書しました。これは、今年南小学校が目指している「根拠を持って考え、決め、行動する。」姿そのものだと思いました。みなさんの投書を読んで歩きスマホがへるといいですね。（N030号のお便りから）

⑤5年生テーマ　「志賀高原の豊かな自然を通して考える持続可能な町づくり」
田んぼの観察から始まり、7月の高原学習（志賀高原）やESD体験学習（笠ヶ岳）を通して、子どもたちの中に「志賀高原の豊かな自然を大切にしたい」という気持ちが強くなっていった。9月・10月には町役場の養田さんからエコパークのことや山ノ内の観光業などのお話を聞いたり、登山ガイドの清水さんからは志賀高原で増えている外来種の話を聞いたりした。その中で、「志賀高原の豊かな自然を守りながら、人口減少が続く山ノ内町をどう発展させていくか」ということの話し合い活動をした。結論を出すのは非常に難しいが、自分事として考えていきたい。

⑥6年生テーマ「佐野遺跡の魅力再発見　竪穴住居をつくって地域の憩いの場にしよう」
私たちが住んでいる地域の魅力的なものといえば、志賀高原、渋温泉、湯田中温泉、スキー場など、南小学区にないものばかりが思い浮かぶ子どもたち。一方で、身近な地域には国指定の史跡「佐野遺跡」があるが、その価値を理解している子ども達は少ない。佐野遺跡を学ぶことを通して、「縄文人がこの土地に暮らしていたことに驚いた」や「自給自足のくらしは持続可能な社会づくりにつながっている」など遺跡に関心を寄せていた。子ども達からは、「土器をつくりたい」「住居を建てたい」という意見が寄せられたため、それらを課題としてどのようにすればよいか探究した。縄文人のくらしの知恵を知り、この豊かな土地の魅力を感じられることができた。

3 2023年度の活動計画

①外部の有識者との連携体制
ESDカレンダーを作成しながら活動を進めているが、活動を展開していくにあたって、担任も何に焦点を当て、どんな活動をしていけば、ねらいが達成できるか、迷いや不安が多い。そこで、各学年の取り組みについて意見交換をする場を何回か設け、外部有識者（県生涯学習課指導主事）に入っていただきアドバイスを受けるようにしたい。活動への意味付けや考えられるこれからの展開について示唆をいただくことで、担任も自信をもって子どもたちと取り組むことができるようにしたい。

②交流活動の推進
多様な見方・考え方に触れる機会を大事にするということからも、来年度も子どもたち同士、職員間の交流の場を探りたい。それが価値観を揺さぶられる機会となるのではないだろうか。本校は陸域の小さな学校であるので、海域の学校、都市部の学校、温暖な地域の学校、本校と同様にユネスコエコパーク内の学校などとかかわりをもてるようにしていきたい。そのためにも、職員が積極的に研修などに参加し、つながりの輪を広げていくことを大切に考えていきたい。

③中学校との連携
中学校との連携の在り方も大きな課題である。まずは、お互いどんな活動をしているか知るところから始めたい。今年度はやまのうちESD交流会で6年生が活動したことを山ノ内中学校の先生にもオンラインで見ていただいた。ESDカレンダーを交換するなど、本校でも中学校の活動の様子について職員（内容によっては児童）も知ることで、小中9年間を見通したねらいや活動を決め出していきたい。

長野市立東条小学校〔キャンディデート校〕

1 2022年度活動分野

生物多様性、減災・防災、人権

2 2022年度活動の概要

①生物多様性に関わる活動

6年生および児童会が中心となり、ホタルが生息できる環境の保全活動とホタル観察会実施に向けてのPR活動を実施した。外来生物アメリカザリガニの駆除や幼虫の上陸に備えた川岸の整備などを行ったり、ビデオ会議システムを活用して、東条地域のホタルに興味関心のある方々とホタル鑑賞に関する留意点などについて、情報提供や広報活動を行ったりした。6月17日に実施した今年度のホタル観察会では、東条地区で300匹あまりの個体数を確認できた。そして、これらの活動について、真田サミットin松代などにおいて発表した。

②減災・防災に関わる学習

9月10日（土）、全児童とその保護者を対象にした引き渡し訓練を実施した。1学期下校時近くに発生したゲリラ豪雨による混乱の反省を生かし、リアルタイムで保護者引き渡し状況を確認できるようなシステムを構築した上で取り組み、関係者一同で確実な避難や安全確保を学んだ。身近な所でも発生した気象災害、4年生は、令和元年10月13日の台風19号による、地域の水没状況を映像資料から学んだり、現在の減災・防災対策を調査したりした。自助・共助・公助の観点から、自身ができる対応について、マイタイムラインを作るなどし、家庭に持ち帰り保護者と共有し、災害に備えることを行った。

③人権に関わる活動

年2回、福祉教育の視点から外部講師を招き、共生について学習を深めている。コロナ下であり、思うような交流はできないが、福祉施設訪問活動も継続することができた。11月には、なかよし月間を設け、児童の発達段階に応じた人権尊重の心情を育むことを目的に様々な授業や活動を実施した。「自分も大切にでき、他の人も大切にできる子」に成長していくことを願い、身近な友達関係のあり方を考え合い実践した。児童会では、ポカポカ郵便、折鶴を用いた廊下歩行改善、児童会長自ら毎朝の挨拶による温かい学校づくり等を推進するなど、すすんで考え、できることを実践している。

3 2023年度の活動計画

本校は、ホタルなどを通して学ぶ身近な暮らしのSDGsを活動テーマとして、各学年の発達段階に応じた、学習問題を設定し、主体的な活動を丁寧に紡ぎ、自分事として問題解決に取り組んでいく児童の育成をめざす。例えば、「手入れをしなければすぐに里山はだめになる」と述べ、国蝶オオムラサキの保全活動に取り組んでいる地域の方々から、その思いや活動の具体を学ぶことなどから、持続可能な自然環境の在り方について、具体的な行動がとれるような活動を計画していく。人・もの・こととの実体験を通した、関わりやふれあいを重視した活動の実施と、地域の専門機関との連携による評価などにより、活動内容の成果と課題が、児童自らにとっても明確になるようにしていく。児童個々の興味や関心を大切しながら、地域との関わりを深めることで、地域をよりよくしたいという思いの醸成につながった学習事例を今後も継続させていきたい。

長野市立信里小学校〔キャンディデート校〕

1 2022年度活動分野

生物多様性、減災・防災、環境、人権、持続可能な生産と消費、グローバル・シチズンシップ教育（GCED）

2 2022年度活動の概要

本校は、「信里を語る子ども～ふるさとの語りかけを受け止める子ども～」を学校理念として、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、ふるさと信里の自然・文化・社会などの多種多様な物事や現象に直接関わりながら、多面的に見たり考えたりして、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成を目標とした。

①地球市民および平和と非暴力の文化をテーマとする活動については、尊重し合う姿勢を育むために異学年で編制した縦割り班で児童会行事、清掃活動等を行った。また、りんごなどの作物を地域の方と栽培することで、その努力と工夫、苦労について学ぶとともに、地域との関わりを深め地域への愛着をもつことをねらいとした。さらに一人一人の人権を大切にする喜びを感じることを願い、児童会で計画する「なかよし遊び」「児童会祭り」などの活動を行った。

②持続可能な開発および持続可能なライフスタイルをテーマとする活動については、到達目標を「追究する力の育成」とし、活動ゴールを学級で決め、学習カードにSDGsのタグを貼りながら進めた。地域の豊かな自然環境を実感し、その特色を生かした信里の未来を考えるきっかけになればと願いトンボなど生き物とかかわる学

習を行った。また、地域防災学習では、地域防災マップづくりに向けて危険箇所や安全施設を調べた。地域の防災と自分たちの生活を結びつけ、安全・安心な地域づくりに自ら関わろうとする意識を高めることができた。花苗栽培を通じ地域の方との交流を行ったり、信里の過疎化や高齢化について学んだりすることで、地域の課題について理解を深め一住民としての役割について考えることができた。

③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重をテーマとする活動については、文化の継承と自然や祖先への畏敬の念を感得させるため、地域について詳しい方から信里の歴史を学んだり、篠ノ井地区に伝わる民話などを読んだりして、地域や市内の文化に関わった。また米作りを通して、水の大切さと先人たちの願いや苦労を考えたり地域の課題について理解を深めたりした。

3 2023年度の活動計画

信里の自然を受け継ぐ活動として、学校林や池に生息するトンボや絶滅危惧種のシナイモツゴなどを学校ボランティアの協力の下、捕獲・観察・学習を進める。地域の豊かな環境を守っていくためにできることを考え、信里のよさを後世に伝えていく活動につなげる。地域の人々との交流活動として、地域防災学習や花苗作りを通して地域とかかわる活動を継続していく。今年度地域の方と共有した危険箇所や安全施設をさらに見直し、この地域ならではの防災マップを作成する。さらにその活用や発信方法等について子どもたち自らが提案する。地域の産業（生活）を支える活動として、リンゴや米、大豆の栽培活動を体験し販売活動を行う。農作物ができるまでの過程や農家の方の思いを受け止め、活動の中から生まれた疑問や問題点を自ら追究する活動へと発展させていく。

安曇野市立豊科南小学校〔キャンディデート校〕

1 2022年度活動分野

海洋、気候変動、エネルギー、環境、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、国際理解、人権、ジェンダー平等、福祉、持続可能な生産と消費、健康、食育、貧困

2 2022年度活動の概要

2022年度の本校の活動は児童会や生活・総合的な学習、各教科を中心にSDGsを意識した取り組みを行った。それらの活動が充実するように係を中心に、ユネスコスクールの意識を持ち、子どもの学びをESDの目線で学んでいけるよう職員間で連携して進めてきた。

①児童会

グリーンアドベンチャー…校内にあるビオトープや自然林などを巡りながら、自然に関するクイズに挑戦した。高学年と低学年がペアになって環境への理解を深めた活動。

クリーン大作戦…学校のそばにある世界かんがい遺産の堰をきれいにする活動。中に落ちているゴミを拾うことで、流れ着く川をきれいにすることになり、さらに川がきれいになれば世界中の海がきれいになるという意識を持ってゴミ拾いをした。

残食減らそう給食…児童からアンケートをとり、人気な給食を考え、できるだけ残さないで食べる企画。目標を立て、3回実施した。

花壇作り…中庭の中心に花壇を作り、FBC（フラワーブラボーコンクール）へ応募した。長野県教育委員会賞を受賞した。

②生活・総合的な学習

里山を守ろう（6年）…里山プロジェクトに参加し、里山で伐った間伐を再利用してベンチを作った。手作りの堆肥で玉ねぎや花を育てた。

絶滅危惧種の蝶を守ろう（4年）…ジャコウアゲハという蝶の保護活動を行った。えさになるウマノスズクサを育て、専門家と協力して環境を次につなげていく活動を行った。

伝統を引き継ごう（4年）…太鼓の演奏を習い、地元の祭りで踊る盆踊りを覚えた。コロナ禍で祭りが出来ず廃れてしまうことを危惧し、それらを広める活動を行った。

エネルギーを大切にしよう（6年）…節水節電に関する取り組み。校内に放送で呼びかけ、使わないときは電気を消すようになった。

ペットボトルキャップを集めよう（6年）…使用済みのペットボトルキャップを全校に呼びかけて集め、ワク

チンに変える取り組みを行った。
花壇作り（特別支援・4年）…花を育て、公民館や駅に届ける活動。学校の周りの花壇を色鮮やかに花を育てる活動をしました。
アサガオの栽培（1年）…1人1鉢アサガオを育て、命の始まりと終わりを意識し大切にした。たたきぞめをしたり、つるをリースにした。
うさぎの飼育（2年）…2匹のウサギの世話と行いながら命の大切さに触れ、生き物を大切にする心を育てる活動を行った。

③各教科
図工…造形遊びで使った新聞を違う工作に再利用する。また、造形遊びにいらなくなったものをつかったり、段ボールなどを再利用するようにした。
社会…水がどこからくるのか、どこへいくのかを学びながら水を汚さず大切にしようという意識を持つ。ごみの処理の仕方を学び、分別の意味や意義を学ぶ。町探検で地元の良いところを名所を知る。郷土の発展につくした人々の学習。
理科…植物の栽培　生き物の観察　星などの自然環境に関する知識理解。
道徳…男女問わず「さん」をつけて呼ぼう。どの子も違いがあっていいということを認め合う。ありがとうカードで木に花を咲かせよう。体の不自由な人に配慮したバリアフリーについて。など

3 2023年度の活動計画

次年度は、本年度行ってきたことを土台と。加えて、ビオトープの整備や校内環境を材にした学習をさらに行っていきたい。児童会活動を中心にSDGsへの取り組みを続け、ユネスコスクールの意識を継続して持ち、活動をつづけていけるようにしたい。そのためにも職員間での情報伝達を継続し、ユネスコボード（各学年のSDGsの取り組みを書き込む用紙）を書くことで互いに見合い、学び合える環境を続けていきたい。

飯田市立和田小学校〔キャンディデート校〕

1 2022年度活動分野

気候変動、環境、文化多様性、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、国際理解、人権、持続可能な生産と消費、健康、食育、貧困

2 2022年度活動の概要

当校は、「地域に根ざし、地域と共にある学校」を学校理念とし、ユネスコスクールが重点的に取り組む三つの分野の②「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」に関わって、「地育力による未来をひらく心豊かな人づくり」に取り組んでいる。地域と共に遠山の良さを認識し、直面している地域の課題の共有と、その解決に向けて一緒に活動していくことを目標としている。具体的には、「ESD」、「他校との交流」を柱に、①自然に係わる活動、②他校との交流学習、③伝統文化（祭り）にかかわる活動を行ってきた。

①自然に係わる活動
自然豊かな環境にめぐまれた本校では、地域で育つお茶（わだっ子茶）やさつまいも（わだっ子いも）の収穫・販売活動を行っている。地域の保育園と連携し、年間を通じて保育園児とのかかわりをもちながら、地域の方とも一体となって取り組んできている。これらは、喫緊の課題である「児童数増」に向けての取り組みの一つであり、和田小学校のPR活動でもある。子どもたちは、「どのようにしたら和田小学校のことを知ってもらえるか」、「どのようにしたら商品を買ってもらえるか」について考え合い活動した。これらは、SDGsの目標11にあたる。
5年生では、地域・JA・県の農業担当者の方の支援を受けて米作りを行った。この学習から「今、自分たちができることは何か」を考え、社会科の教科書に載っている米作りの盛んな地域との比較から、気候や土地利用に目を向けて学習のテーマを「日本の『米作り』を守っていこう」とし現在に至っている。これらは、SDGsの目標2・3・4・12・15・17にあたる。
6年生は、自分たちの住む地域の良さを、「映えスポット」として調査し発信した。公的機関や地元の食材・ジビエを中心にお店を営む方々への取材を通し、自分たちが考えていた以上に地域の良さや地域の方の願いがあることを学んだ。

②他校との交流
5･6年生は、東京の私立郁文館グローバル高校「地域創生ゼミ」の学生と交流を行っている。夏休みには学生らが和田小学校へ来校し、5･6年生と初めて対面しながら和田地域の題材をもとに絵本作りを行った。
3･4年生は、リニア新幹線の駅がある東京都品川区立品川学園と「ふるさと交流プロジェクト」を発足させ交流を行っている。今年度は、東京で品川学園の子どもたちと一緒に「わだっ子茶」を販売し、子どもたちの願いの実現に向けた。

③伝統文化（祭り）に係わる活動
遠山地域には、伝統的な「霜月祭」がある。本校では、諏訪神社と八重河内八幡神社でほぼ全校児童が舞いを奉納している。本年度は、「霜月祭保存会」の指導による舞の練習を5回行い、当日は堂々と自信をもって舞うことができた。

3 2023年度の活動計画

①自然に係わる活動
5月…地域や保育園と一緒に「わだっ子茶」の茶摘みを行う。
10月…和田小学校のPR活動としてお茶販売を行う。（郁文館高校･天龍峡マルシェ）
6～10月…地域の方の指導のもと、サツマイモの栽培
4～11月…米作りを行う中で、持続可能な日本の農業について考える。
11月…わだっ子茶･サツマイモ･米の販売を行う。（地域のイベント）

②他校との交流
･郁文館グローバル高校の学生との交流
･品川学園と「ふるさと交流プロジェクト」を継続し、リニア新幹線でつながる地方と都市の交流を深める。
･オーストラリアのDarlington Primary Schoolと交流を行い、異文化学習に取り組む。

③伝統文化の継承
霜月祭に参加することにより、伝統を受け継ぎ守っていく。

④その他
カネト合唱団による合唱劇「カネト」の公演に参加する。差別の歴史を知り、アイヌ民族への理解を深める。

飯田市立上村小学校〔キャンディデート校〕

1 2022年度活動分野

生物多様性、海洋、減災･防災、気候変動、環境、文化多様性、世界遺産･無形文化遺産･地域の文化財等、平和、人権、ジェンダー平等、福祉、持続可能な生産と消費、食育、貧困、エコパーク、ジオパーク、グローバル･シチズンシップ教育（GCED）

2 2022年度活動の概要

長野県飯田市にある本校は、市の教育ビション「地育力による未来をひらく心豊かな人づくり」を受け、「郷土を愛し、社会の一員として自立した生活ができる子どもの育成」を学校理念としている。そのため、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野の活動を通して、飯田市と遠山郷のよさや課題を認識し、直面している課題の解決に向けて地域と共に、一緒に活動していくことができる力の育成を目標とした。

①地球市民および平和と非暴力の文化について
○1月24日：教育の国際デー
1･2年生が「世界には学校に通えない多くの子どもたちがいることを学習したこと」に触れ、自分たちにできそうなこと“書き損じはがきの収集”を呼びかけた。
○9月21日：国際平和デー
新聞の一面に取り上げられていた「国際平和デー」を呼びかける記事を全校に読み聞かせ、紹介した
○12月10日：人権デー
5･6年生が本校のなかよし月間に関わって、「人権デー」の目的や歴史について全校に知ってもらい、なかよし月間の意味について考えた。

②持続可能な開発および持続可能なライフスタイルについて
南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークについて地域、保護者と共に体験活動（自然塾キャンプ等）を通して学び、それぞれの立場で地域のためにできることを考えた。

③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重について
遠山地域を代表する「霜月祭」について学び、祭りに関わる地域の方の思いや祭りへの憧れを知った。そして、自分なりの祭りへの関わり方を考えた。

3 2023年度の活動計画

①この地域の「霜月祭」に寄せる地域の思いがあるように、他地域にも世界の文化遺産や地域の文化財を守ってきている人たちの思いがあることを知る。

②世界寺子屋運動「書き損じハガキ回収キャンペーン」に参加する。

③地域や保護者と共に行うキャンプを通して、南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークについて学ぶ。

④上村特産の「下栗芋」栽培や椎茸栽培等について地域の方から学んだりする。

⑤遠山三校でこの地域のよさと課題を考え、何ができるかを共有する。

⑥墨田区にある母子生活支援施設「ベタニアホーム」と交流する。

⑦社会福祉教師会と連携し、「目が見えないこととはどんなことなのか」「老いることとはどんなことなのか」「海外の方から、その国のを文化」に関わって体験的に学ぶ。

信州大学教育学部附属長野小学校　加盟年:2018年

1 2022年度活動分野

生物多様性、気候変動、環境

2 2022年度活動の概要

①あさがおの栽培活動（1年生）
春、あさがおの種を思い思いの鉢にプランターに植えました。家から持参する子、学校の片隅にあるプランターを見つけてくる子など、様々でした。自分が育てていくあさがおの鉢をどこに置くのか。ここも一人一人が考え、置く場所も決めていきました。数日後、芽が出ます。ところが、全員のあさがおから芽が出ることはありませんでした。どうして芽が出ないのか、子どもたちにとっては不思議な出来事です。地域で活動をする、あさがお栽培の専門家（アドバイザー）をお招きし、質問します。原因は、土のどのくらいの深さに種を蒔くかでした。子どもたちは教えてもらった通りに、再度種を蒔きました。芽が出なかった子たちも今回は成功です。あさがおはすくすくと大きななり、たくさんの花が咲きました。あさがおのトンネルをつくり、あさがおが咲く様子をトンネルの内側から眺め、友達同士で喜び合う姿もありました。夏休みには、自宅へ持ち帰り、お世話を続けました。秋には、リースも作りました。あさがおは種をつけました。その種を次の春を待つのではなく、すぐに新しい花を咲かせてほしいと、すぐに種をまく姿もありました。子どもにとっての本当は、やってみないと見い出せないのです。あさがおと出合い、仲間とつながり、植物の美しさと力強さを知ることができました。

②地域の神社に手作りの百葉箱を設置（3年生）
学校近くにある神社は、田んぼに囲まれた中にあります。風が通り、夏でも涼しさを感じられる場所です。温暖化が進む今、田んぼに囲まれた環境が過ごしやすいことを実証しようとする地域の方に、神社の活動を通じて子どもたちは出会いまました。そして、その方から、百葉箱を制作してほしいという依頼を受けます。百葉箱づくりが始まります。気温に目が向いた子どもたちは、理科の「ひなたとひかげ」の学習を通じて温度計の見方を学び、田んぼに囲まれている神社の気温はどのように変化するのか、そんな問いも抱きながら、百葉箱を制作していきました。完成した百葉箱を神社に設置する時には、神社を管理する方にもご参加いただき、小さな設置式を行うことができました。気温の計測を通して、わたしたちが暮らす田んぼに囲まれた環境の過ごしやすさを、数値からも立証できればと思います。

③様々な生き物との暮らし（2年生、3年生）
2年生では、アヒルとヤギ、3年生では三元豚と鶏の飼育を行ってきています。アヒルはひよこから育てています。小さかったアヒルは、日に日に大きくなり、その間、アヒルが水浴びできる池をつくり、獣に襲われない頑丈な小屋をつくりことができました。今は、その小屋で元気に過ごしています。ヤギはメスのヤギです。赤ちゃんを産んでほしいと願った子どもたちは、牧場にお願いし、オスのヤギを借りることができました。12月、交尾をするところを観察することもできました。春の赤ちゃん誕生が楽しみです。三元豚はお肉になる豚です。子どもたちはそのことを受け入れ、おいしいお肉にさせるため、毎日決められ餌をあげ続けました。そして、1月、出荷のできる体重に到達し、お別れの時を迎えました。トラックに載せられ、そのトラックが見えなくなるまで、子どもたちは手を振り続けました。お肉は加工され、子どもたちの手元へ戻ります。最後は、ニワトリです。有精卵を購入し、孵卵器から5羽の雛が生まれました。卵が少しずつ割れて、中から雛が生まれた時、大きな歓声が上がりました。小さな小さなひなも大きくなり、オスのニワトリは、毎朝立派に鳴くようになりました。どんなに大きくなっても、子どもたちはニワトリを抱きかかえ、ぬくもりを感じています。飼育する間には、各学級おもいもよらない出来事に遭遇します。そんなときは、すぐに答えを求めるのではなく、常にみんなで話し合い、自分たちにとっての答えを見いだしています。

④学校の大池をきれいにしたい（5年生）
5年生は、今年、メダカを育てています。近くの用水からと学校の大池に生息するメダカをとり、学級で購入した大きな水槽に入れ、お世話を続けています。お世話をしていく中で、学校の大池を、水中に生息する生き物にとって、もっと過ごしやすいきれいな環境したいという思いが芽生え、秋から冬にかけ、寒い中ポンプで水を抜き、泥などを取り出し、環境をきれいにしていきました。もちろん、大池に生息している生き物は一時避難させました。網ですくい、メダカやフナを見つけ出す作業も大変でしたが、子どもたちは清掃活動をやり遂げることが出来ました。春になれば、大池に水を入れ、生き物たちも池に戻す予定です。生き物にとっての過ごしやすい環境をどうつくっていったらよいのか、子どもたちの探究は続きます。

⑤身近な土器づくりから本格的な陶芸へ（6年）
6年生では、本格的な焼き物に挑戦しています。4年生の時の野焼き（土器）をきっかけに、焼き物を続けてきています。5年生では、ドラム缶を改造して『ドラム缶窯』を製作して焼き物をしました。そして6年生の今年は、地域の松代焼きと出合い、職人さんの焼き物作りを間近で見ることもできました。ひび割れのない丈夫な焼き物、そして、より美しい焼き物をつくるにはどうしたらよいのか、釉薬にも目を向け、本格的な焼き物に発展しました。子どもたちの探究は、まだまだ続いています。

3 2023年度の活動計画

＜SDGsと繋がる学び＞
各学級の中核活動とSDGsとのつながりだけでなく、児童会の活動でもSDGsとのつながりを意識し、全校一人ひとりが、持続可能な社会をめざす一人として、探究する学びを実現させていきたい。

信州大学教育学部附属松本小学校　加盟年:2018年

1 2022年度活動分野

減災・防災、環境、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、人権、貧困

2 2022年度活動の概要

本校は、「心身ともにたくましく心豊かな真の地球市民の育成と、国際的・地球的視野から崇高な生命と地球を保全し、社会と人類の幸福に貢献することのできる児童の発達に寄与すること」をねらいとして、活動を行っている。

①“暮らす”の観点に係わる学習
昨年に引き続き、もし災害に遭ったときにはどんな備えが必要なのだろうと考えた子供たちの姿があった。全員で同じ活動を行うのではなく、各自が必要だと考えた防災グッズ作るなどの活動を続け、全校にその防災グッズを使ってもらう「防災博物館」を企画し、実行していった。自分たちが作成した防災グッズを使ってもらったり、防災に関わる動画を低学年の子供たちが意欲的に見る姿を見て、「自分たちだけでなく全校にも防災のことを知ってもらえて嬉しかった」とこれまで以上に積極的かつ発展的に、よりよい解決策を考え続けることができた。

②“暮らす”の観点に係わる学習
松本市には逢初町（あいぞめちょう）と呼ばれる地域がある。もともとその地域は藍染が盛んだったことが由来であるという。その土地で今もなお藍染を続ける職人の方から藍の種を譲り受け、自分たちも藍染をしたいと活動してきた子供たちの姿も見られた。藍を通して様々な植物に関心をもち、比較し藍の特徴をより明らかにしていった。さらに、藍を自分の友達や家族のように考え、藍のために活動し続ける中で次第と藍染職人の方への興味やなぜ、その土地で藍染を続けるのかなどの問いが生まれてきている。藍染職人の方を通して、地域社会に対する誇りや愛情、地域社会の一員としての自覚を深めるきっかけになる芽が出てきたように思う。

③“生きる”の観点に係わる学習
昨年度に引き続き、児童会本部と、ユネスコ委員会が協同でユニクロの「服のチカラプロジェクト」に参加した。服のチカラプロジェクトとは、子どもたちが主体となって、不要になった子ども服を回収して、難民の方々など世界中で服を本当に必要としている人々に届ける活動である。この活動を通じて、次世代を担う子どもたちが国際問題や環境問題に関心をもつだけでなく、服のチカラを知り、自分にもできる社会貢献があると気づくねらいがある。この活動を通して、現在世界には「難民」と呼ばれる、戦争や紛争、政治情勢の悪化に伴って、家をはなれ、国を追われることになった人々が約6850万人以上いる状況を理解し、そうした人々に対して、自分たちが行えることは何か考えることができた。子ども達は、委員会を中心に、服の収集を呼びかけた。難民の方にどんな服だったら良いのかを考え、怖くないデザインの服がいいのではないかと考えポスターをつくったり、校内で呼びかけ、多くの服の収集を行うことができた。

3 2023年度の活動計画

①児童は、自然や生き物、環境のことに興味を持ち、主体的に取り組むことができているので、次年度も各学級での取り組みは継続したい。

②保護者や地域の方々にも理解・協力していただいている活動（エコキャップ集めなど）は次年度も継続する。

③持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれているので、ESDの考え方を念頭に置きながら教育を実施していきたい。

④chromebookを積極的に活用しながら、学んだことをさらに発信していきたい。

高山村立高山中学校　加盟年:2017年

1 2022年度活動分野

環境、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、持続可能な生産と消費、食育

2 2022年度活動の概要

本校は、「自ら学び高みゆく」を学校理念とし、自分が興味・関心・意欲をもって、よりよい自分づくり・仲間づくりへの高まりを追い求めてゆく生徒の育成を目指している。

今年度2学年では、3つの分野の②における持続可能な発展に関わる高山中学校（高山村）の取り組みとして、学校給食センターで取り組まれている地産地消への意識を高めるための取り組みとその効果について、昨年度に引き続き、数学的な手法を用いて、分析・判断することを通して、そのよさを実感し、その価値を意味づけることを目的とした学びを深めた。

今年度は、昨年度の2学年の学習を基に、今年度の4月と11月の給食に用いられた食材のフードマイレージを分析し、箱ひげ図に表し、比較分析した。

また、本校は志賀ユネスコエコパークの「移行地域」に位置している。2学年は志賀ユネスコエコパークを実際に散策し「緩衝地域」と「核心地域」の境目を実際に見たり「命を守る森　エビモリ」を知ったりすることを通して、自分たちが接している自然の生態系のすごさと、人の手が入ることで維持されるものがあることなどに気づくことができた。

3 2023年度の活動計画

①地球市民および平和と非暴力の文化

地域の方のお話や歴史から、戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、自ら判断して行動できるようになる。

②持続可能な開発および持続可能なライフスタイル
地産地消の学びを実生活に役立てるとともに、生徒会活動でもSDGsを意識した活動を取り入れていく。

③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重
人権学習や海外青年協力隊経験者の方のお話を通して、世界の子供たちの環境などに目を向け、高山村から自分たちのできることを考える。

山ノ内町立山ノ内中学校　加盟年:2017年

1 2022年度活動分野

生物多様性、海洋、気候変動、エネルギー、環境、文化多様性、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、国際理解、平和、人権、福祉、持続可能な生産と消費、エコパーク

2 2022年度活動の概要

本校は、ESDの目標を「地域活性化のために自分たちができることをやろう」と定め、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野の②「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」に関わって総合的な時間を使い、中学3年間のESD活動を設定して取り組んできている。

1学年では、「志賀高原ユネスコエコパークの魅力を探り、それを発信していこう」というテーマの元、ESDとの関連で5つの追究課題(共生、自然、地域、文化、国際)を設定し、4〜5人で追究課題を持ち、町の役場の聞き取り調査やアンケート、志賀高原研修旅行を通して研究し、それを学校祭で発信してきた。

2学年では、「他地域の取り組みを参考にする」というテーマの元で、魅力の〝比較〟を、志賀高原ユネスコエコパークでもある、群馬県草津温泉を訪れ、研究調査したことを、1学年と同様学校祭で発信してきた。

3学年では、「魅力ある山ノ内町を発信する」というテーマの元、11月に「中学生が夢見る町づくり討論会」を行い、町の理事者や議員、地域の団体長などに、自分たちの考えた町作りの提案が、3会場で9提案された。参加者からのアンケートを見ると、すぐにでも町で取り組めそうな提案や、検討に伏してもよいという回答もあり、町の皆さんにとっても、温かい目で中学生のESD活動を評価することもあった。

その他に、4月の全校でのESDオリエンテーションでは、ESD/SDGsの歩みを知った後、最後に「私のESD/SDGs宣言」を行い、一年間のESD/SDGsに対する目標を、各学年の樹に花びらシールで張り出している。2022年度は、ロシアとウクライナの戦争に平和への思いを寄せSDGsの⑯番が第2位となった。それを受けて、生徒会のふれあい委員会が、ウクライナ支援のための募金を行うという活動も生まれた。

3 2023年度の活動計画

4月	ESD/SDGsオリエンテーション(全校)「私のESD/SDGs宣言」
	3学年修学旅行:京都で山ノ内町の魅力発信活動
5月	第13回国際ユース作文コンテストへの取り組み
6月〜7月	1学年志賀高原研修旅行:グループ別課題追究並びに踏査研修
	2学年草津研修旅行:グループ別課題追究並びに踏査研修
	3学年「中学生が夢見る町づくり討論会」
8月〜9月	1・2学年:文化祭に向けて課題追究、発表スライド準備、発表
10月〜11月	1学年:地域自慢の旅　2学年:職場体験学習　3学年:高校進学に向けて
12月	全学年:「私のESD/SDGs宣言」振り返り

飯田市立遠山中学校〔キャンディデート校〕

1 2022年度活動分野

海洋、減災・防災、気候変動、エネルギー、環境、文化多様性、世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等、国際理解、平和、人権、ジェンダー平等、福祉、持続可能な生産と消費、健康、エコパーク、ジオパーク

2 2022度活動の概要

「みがきあい」を学校理念として、地域住民の意見を反映した子ども像「郷土を愛し、社会の一員として、自立した生活ができる子ども」を目指し総合的な学習の時間や生徒会活動を通して実践を重ねてきた。

①本校がある遠山郷は、800年の歴史を誇る無形文化遺産「霜月祭」が今に続き、その文化伝承のため総合的な学習の時間を利用し、地域指導者を招き学社連携で学習を深めた。舞の意味や所作を知ることを通して、田畑の豊穣と天下泰平を祈る精神を体得した。

②生徒会の新たな活動として、「国際デー」を紹介している。記念日の中で、特に生徒に関わりがあるものを選び、校内放送で意義について紹介する取り組みをした。生徒たちは初めて知った記念日も多く、国際デーについて関心が高まった。

③本校では1959年から学校林を所有しており、それを生かした「学有林学習」を行っている。林業関係者へ協力を依頼し実地学習の前に、SDGsの視点から森林が私たちの暮らす地域だけではなく海洋環境にまで影響を及ぼすことや、林業の未来について学んだ。実地学習では、昔ながらの手作業による伐採と機械化された伐採との違いを学び、安全なチェンソーの使い方を学んだり実際に操作したりする体験も行った。地域で林業に従事する方々の手際良い作業を間近で見学したことで、進路選択の一つとして考える生徒もいた。

④1、2学年の登山行事において南アルプスユネスコエコパーク緩衝地域にある御池山に登った。講師を招き、核心地域を一望できる場所で学習を行った。

⑤異文化理解として、カナダに暮らす2家庭とオンラインでの交流を英語の授業で行った。カナダの暮らしや観光名所を教えていただいたり、遠山郷の暮らしや文化について伝えたりした。遠山郷の紹介について準備を進める中で、改めて自分たちの暮らしぶりを見つめ直すとともに、交流を通して海外の暮らしぶりや観光資源の違いを知ることができた。

⑥人権教育として「多様な生き方」と題してLGBTについて学んだ。講師をお招きし、ご自身の体験から生きづらい世の中が、だんだん変化してきていることや、まだまだ改善されなければならないことがたくさんあることを教えていただいた。

3 2023年度の活動計画

①無形文化遺産「霜月祭」を継承するために、保存会より舞の指導を受ける。成果発表として、9月末に行う文化祭の中で「郷土の舞」として地域・保護者に披露する。

②「遠山郷を守ろうプロジェクト」を継続していく。9年目を迎える活動だが、生徒たちが地域のためにできることを考えて行動する生徒会のボランティアである。新年度の活動内容についてはこれから話し合われる。また、「国際デー」の紹介も継続していく。

③環境教育として学校林を活用した「学有林学習」を9月上旬に行う。併せて南アルプスエコパーク、ジオパークについての学習も行っていく。

信州大学教育学部附属長野中学校　加盟年:2018年

1 2022年度活動分野

生物多様性、海洋、減災・防災、気候変動、エネルギー、環境、国際理解、平和、人権、福祉、健康

2 2022度活動の概要

本校は、学校目標「ともに学び　一人となる」のもと、予測困難な時代において新たな価値を創造できる人の育成を目指すとともに、ユネスコスクールとしての活動を、総合的な学習の時間、学友会活動を中心に進めています。

①総合的な学習の時間「ヒューマン・ウィーク」

7月中の4日間を、終日総合的な学習の時間に取り組む「ヒューマン・ウィーク」を設けました。そこでは、各学年で設定した大テーマに基づいて生徒が個別課題を設定し、その解決のために学習を進めました。

1年生は、「10年後の社会を生きる私たち」をテーマとして、持続可能な社会にするための課題を個人で設定し、課題追究をしました。食糧問題について課題設定をした生徒は、地元の信州みそ製造会社の全面的な協力を得て、工場見学をしたり、大豆ミートについて調べたり、実際に調理活動を行って大豆ミートの特徴を確かめたりしました。生徒はこの学習を通して、SDGsに関する考えをより深めていきました。

2年生は、社会でよりよく生きていくために必要なことや自分の生き方を考えるための追究テーマを、個々に設定して課題追究をしました。「自分がやりたいもの、努力できるようなものを見つけるにはどうすればよいか」というテーマを設定した生徒は、社会体験学習として職業体験をしたり、職場の方と意見交換する中で、自分のテーマを解決していくうえで他者との関わりが大きな視点や解決の糸口となることを、自分なりの答えとして導きだしました。

3年生は「これからの社会を生きる私」というテーマのもと、自分の興味のあることを追究しました。英語について課題を設定した生徒は、訪日外国人のカルチャーギャップによるトラブルを減らしたいと考え、調査活動等を行いその成果をまとめ、まとめたものを「NAGANO SDGs PROJECT」のホームページに投稿しました。生徒はこの学習を通して、異文化学習および文化の多様性について理解を深めていきました。

②生徒会活動

環境委員会と信州大学工学部が連携し、大学が開発した製紙機を用いて、生徒が回収した古紙で「世界にひとつの附属長野中学校産の再生紙」を作りました。本年度は創立75周年記念事業として「附属長野中学校校舎ジオラマ ペーパークラフト」にこの再生紙を利用しました。この活動を通して、全校生徒が古紙回収や資源の有効利用に関心を高めています。

3 2023年度の活動計画

ESDの理念を本校の教育活動に位置付けるとともに、SDGsとの関連を明らかにして教育活動を展開します。

総合的な学習の時間では、をSDGsを視点にした追求課題を個々の生徒が設定し、探究していく活動を設定します。その中で問題解決能力を高めていきます。

特別活動、生徒会活動等では、協働・話し合いの場を重視し、コミュニケーション力を高めていきます。

教科横断的な学習を数多く設定し、多面的・総合的に考える力を高めていきます。

信州大学教育学部附属松本中学校　加盟年:2011年

1 2022年度活動分野

環境、持続可能な生産と消費、エコパーク、グローバル・シチズンシップ教育（GCED）

2 2022年度活動の概要

本校は、「たくましく心豊かな地球市民」を学校理念として、ESDの活動を据えることを具現のための手がかりと捉え、ESDの実践を通して生徒に内在する自己表現力・課題探究力・社会参画力を視点におき、生徒の学びの姿を追った。

具体的には、教科等の総合化を柱に、①環境に係わる活動、②持続可能な生産と消費に係わる活動、③エコパークに関する活動、④グローバル・シチズンシップに係わる活動を行った。

①環境に係わる活動

住みよい環境を持続できる生徒を育むため、生徒会を中心に有志を募り、学校内の環境整備、落ち葉掃きなど各種活動を推進した。また、コロナ禍で規模を縮小して行っていた「菊づくり」を復活させ、全校で協力して栽培を行った。

②持続可能な生産と消費に係わる活動

全校生徒がユネスコスクールの生徒であることをさらに自覚するために、学校行事や生徒会活動において、SDGsの17の項目とのつながりを意識し、各委員会が主体となって、各種活動を企画・推進した。

③エコパークに係わる関する活動
地球規模の気候変動や普段体験することのできない環境での生態系を学ぶことで、日常生活について再度感謝の気持ちをもつことができるよう、志賀高原ユネスコエコパークでのトレッキングツアーを実施した。

④グローバル・シチズンシップ教育に係わる活動
地域への誇りと愛着や「持続可能な社会」づくりへの担い手を育み、自分の生き方を問い続けることができるよう、学級単位で3年間を通して行う総合的な学習の時間を設けている。「もの・ひと・こと」と直接的に関わる中で、問いを見いだし、探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的に課題を解決していく時間としている。本年度はさらに「地球市民集会」と題した集会を年間通して継続して行い、異学年で構成した小グループで「地球市民とは」というテーマで話し合いを行った。その中で、人との関わりや社会・地球環境とのつながりについて考えることで視野を広げた。

3 2023年度の活動計画

「たくましく心豊かな地球市民」の具現のために、自己表現力・課題探究力・社会参画力が発揮されるためのカリキュラムの開発の推進を継続していく。その際、幼小中一貫教育を展開していることを活かし、学校園としての12年間にわたる生徒の学びについての成果と課題をまとめていく。次年度も、SDGsの17の項目の目標と生徒会活動や総合的な学習な時間がどのような関連性があるのかを考え、17の目標を意識して生活できるようにする。また、1～3年時の宿泊行事の目的の一つにESDの視点を盛り込み、持続可能な社会の実現のために系統立てて展開していくことを継続していく。国内外のユネスコスクールとの交流を工夫していく。

長野県中野西高等学校　加盟年:2015年

1 2022年度活動分野

生物多様性、減災・防災、環境、文化多様性、国際理解、平和、人権、福祉、持続可能な生産と消費、健康、食育、貧困、エコパーク

2 2022年度活動の概要

本校は「教育基本法の精神に則り、平和的な国家・社会の有為な形成者を育成し、敬と愛と信に満ちた学園を創る。」という学校目標のもと、ユネスコスクールとしてESD活動を生徒育成の重要な柱として位置づけ、持続可能な社会の構築に向けて、現代社会の諸問題を自らの問題として捉え、主体的に身近なところから取り組んでいる。そして問題解決につながる新しい価値観や行動規範を身につける生徒の育成を目指している。その中で生活のあらゆる場面の課題がESDにつながるという視点を重視し、学年・学級活動や学校行事、生徒会活動・クラブ活動など教育活動全般を通じて問題意識を高めており、これらの知識を進路選択に生かす生徒も増えてきている。地域との連携・協働もESDには欠かせないが、長年のユネスコスクールとしての取り組みが広く地域に認知され、従来から継続している活動に加え、多くの外部団体から連携・協働の依頼があり、生徒たちが積極的に参加する姿が見られる。

①学年・学級活動
「総合的な探究の時間」での学びとユネスコスクールとしての取り組みを連動させ実践している。1学年では身近な環境を見直すことから始め、環境整備に取り組んだ。2学年ではグループごとの探究テーマに沿った探究活動を進めているが、新たな実践として「地場産業における気候変動の影響」をテーマに気候と発酵食品(味噌)について調査研究し発表した。

②学習活動
3年生の「時事英語」の授業では、ウクライナ人やロシア人へのオンラインでの直接的なインタビューを通して、国際情勢をより身近なものとして理解した。また、「異文化理解」の授業では、日本文化の紹介ビデオを作成し11月に台湾の高校生とのオンライン交流を行い、互いの友好関係を高め、台湾文化や自国の日本文化に対する理解を深めることができた。

③生徒会活動

「あいさつ運動」・「募金活動」や各種ボランティア活動への参加により他者理解を深め、より良い社会とはどうあるべきかを考えることができた。

④ボランティア活動、地域との連携
◯サマーチャレンジボランティア（市内の社会福祉協議会の事業所でのボランティア）参加。
◯志賀高原湿原再生ボランティア　志賀高原の湿原に生えた葦を撤去および分別する作業に参加。撤去された葦の量は軽トラックで32回運搬分にもなり、葦は紙として再生利用される予定。
◯古着販売ボランティア　県内大学生が運営する持続可能な古着屋（一人一人の服に込められたストーリーを聞いて次の人に販売する）において、洋服の回収、仕分け、販売のボランティア活動に参加。
◯志賀高原東館山での山小屋環境整備活動　県内外からの登山客らの登山が快適なものとなるよう、標高2300mの岩菅山頂にて山小屋の修繕・整備を実施。暖をとるための薪運び、トイレ清掃等も行った。
◯中野市一本木公園「バラ祭り」支援ボランティア　イベント企画と運営補助及びバラの維持管理のための冬囲いに参加。
◯こどもSDGsスタンプラリーボランティア　地元の子どもたちが、SDGsについて考え、体験するイベントをサポート。

⑤ABMORI
山ノ内町志賀高原での植樹活動「ABMORI」では、本校生が植樹リーダーとして参加。また、植樹後のモニタリング調査を継続して担当しており、志賀高原の植生への理解を深めるとともに、貴重な学術データの蓄積に貢献している。

⑥ESD珈琲クラブ活動
コーヒー豆のフェアトレードについて学び、本校オリジナルコーヒーを企業の協力を得て企画・販売している。児童労働や公平な貿易についての理解を深め、啓発活動を行っている。

⑦学校行事
創立以来の伝統行事クリーン・オリエンテーリング（COL：ゴミを収集しながら市内を周り、地域の歴史や文化を学ぶ活動）では、中野市の協力を得ながら、地域の環境美化に貢献している。

3 2023年度の活動計画

本校のユネスコスクールとしての活動が広く地域から認知されるようになり、生徒が様々な活動に参加している。今後も環境保全の大切さへの理解を深めるための環境保護教育活動には積極的に参加していく予定である。また地元行政との地域協働活動にもボランティアスタッフや企画運営スタッフとして関わり、生徒の主体的な成長を促していきたい。

校内においては、「総合的な探究の時間」でのグループ探究活動の成果について全校発表会を行い、生徒の考えや活動を校内外に発信していきたい。また、高大連携による講演会や特別講座を通してユネスコスクールとしての理念やESDに対する理解を一層深めたい。今年度、実際に現地に出向いての活動を通して発見したことを土台にした「実のある」探究活動を展開する取り組みが増えたが、それらがさらに継続発展するように支援していく予定である。また、新たに国内外のユネスコスクールとの連携を図り、相互交流による意見交換などを通して活動を発展させていきたいと考える。

生徒のESD活動を通じて芽生えた問題意識を効果的に進路や将来につなげていくことができるようにするための生徒育成プログラムの導入等、新たな体制づくりについても検討し、より発展的な取り組みを行っていきたい。

長野県長野西高等学校　加盟年：2017年

1 2022年度活動分野

環境、文化多様性、国際理解、平和、人権、ジェンダー平等、福祉、持続可能な生産と消費、貧困

2 2022年度活動の概要

本校は、「社会に奉仕するための資質を養う」を教育目標の1つに掲げている。その目標に基づいた教育活動を行う上で、ESD（持続可能な開発のための教育）を重要な学びと考えている。

ESDを本校における課題解決型探究学習の核と捉え、地域や国際社会の課題を自分のこととして考え、ESDの

実践を行う中で、自分で考え、周りと協働し、主体的に行動することを通して、課題を解決に導く力を育成し、広く社会に奉仕する担い手を育むことを目標としている。

2020年度以来、新型コロナウイルス感染症対策のため、教育活動が十分に行われず、特に交流面での制約から、リモートや校内での学習が中心になっていたが、今年度に入り少しずつではあるが、感染症対策を講じながら取り組み始めることができた。また、昨年度まで2年間にわたり、オリンピックパラリンピック教育推進事業の指定校となり、パラスポーツを題材に「障がい」や「共生社会」について引き続き校内で学んでいる。

2022年度もこれまでの方針を継続し、「地域や社会とのかかわり・人とのつながり」を柱に、①地域の課題解決に係わる活動、②国際交流・異文化理解に係わる学習を計画し、これまでの取り組みを再構築していくことを目標とした。

また、地域や企業、NPO等と連携し、SDGsの実現に向けた具体的行動を「キャンパスSDGs」の取り組みとして広げていこうとしている。生徒会の「ユネスコスクール特別委員会」が中心となり、SDGsへの理解を深めながら、全校の意識を高めるべく啓発活動にも取り組んでいる。

①地域の課題解決に係わる活動

◯地域を知る活動の実施

地域の歴史・伝統・状況等を調べ、地域の課題を知り、自分たちができることを探るために、1年生全員が長野市内で地域の産業を支えている企業に取材・見学に行き、30余りの企業や公共団体についてグループで担当し、企業の強み・課題・提案等を考え、プレゼンテーションを行った。また、生徒会ユネスコ委員会が有志とともに、過疎が進む長野市西山地区で拡大する竹林を有効活用する「竹紙プロジェクト」を、市内の企業の協力を得て取り組み始めた。高校生目線でのアイデアを形にしていくことを期待されている。SDGsは世界規模だけでなく、地元の身近なところでの取り組みでもあることを再認識し、課題解決に向け自分たちにできることを模索している。

◯文化祭における全校活動

地域や社会に対して発信する企画として、「届けよう、服のチカラプロジェクト」を今年度も企画した。ユネスコ委員会が中心となり、着ることができなくなった子供服を回収し、服を必要としている難民キャンプなどの子どもに送るというユニクロの企画に参加した。事前学習として世界の貧困の状況を学び、途上国の子どもの境遇を考えるきっかけになるとともに、服を送ることがどのような国際協力になるのかといった学びを深めていった。また「アルクマとポラロイド写真をとろう」という企画を初めて実施した。長野県のゆるキャラであるアルクマと写真を撮って展示していくものであるが、来客者の笑顔があふれ、地域の振興について考えるきっかけとして大きく貢献した。

②地域と連携した活動

◯スポーツレストラン

スポーツレストランとは、3年生の選択体育の受講生徒が店員となり、様々なニュースポーツをメニューとして提供し、地域の皆様にスポーツを楽しんでいただけるように公開している授業である。一緒に取り組める日のためにニュースポーツやパラスポーツを中心にメニューを考え地域の方々と交流を深めた。

◯地域の方々と一緒に行う防災訓練

全校で防災訓練を実施するとともに、避難所となっている本校周辺に住む方々にも避難訓練に参加していただく予定であったが、密を避けるために実施することが出来なかった。

◯ボランティア活動

例年積極的に地域に出てボランティア活動を行っているが、今年度は新型コロナウィルス感染症拡大で地域に出られなかったため、書き損じはがきを集めたり、フェアトレードチョコを販売したり、募金活動などの活動を行った。落葉や積雪の際には、生徒会や運動系クラブの生徒が中心となって、学校周辺の落ち葉履きや雪かきを行い、地域に貢献する活動を行っている。開かれた学校づくりを行うとともに、地域について学び、地域が必要としていることを考え、行動に移すことで、社会に奉仕する心の育成につながっている。

◯生理用品無償配置の取り組み

長野市内のNPO法人の、困窮・孤立支援の取り組みを一緒に行い、女子トイレに生理用品を無償設置する活動を行っている。取り組むにあたり、困窮・孤立するひとり親家庭の親子の食を守りながら関係性を築き、孤立を防ぐことの意義を学んだ。次にできる行動を考えている。

③国際交流・異文化理解に係わる学習

◯善光寺ガイド研修

国際教養科1学年を対象に善光寺ガイド研修を実施した。長野県通訳ガイドネット会員の方2名を招き、実際に自分たちでガイドする時のことをイメージしながら、熱心に取り組んだ。身近な善光寺について新たな発見があったり、どのような英単語を知っていると良いか、ガイドする際に気を付けるべきことを学んだりすることができた。ガイドのテクニックと日本文化を英語で捉え直すきっかけとなった。

◯ワールドフェスタ

国際教養科1年生が「ワールドフェスタ in 長野2022」において、「クイズで世界を知ろう」というブースを出し、クイズを通して来場者に国際理解を深めてもらう取り組みを行い、日本語・英語で外国の人々と交流した。

◯外務省高校講座
モルディブ大使竹内みどりさんに異文化交流についての話を伺った。職場（外務省）での女性の活躍等について話された際に「前例にとらわれず、あなたがロールモデルとなりなさい」という強いメッセージを受け、社会の現状に目を向けるとともに自らの未来について考えるきっかけとなった。

④その他　平和活動
有志によるウクライナ侵攻反対行進や募金活動を行い、学校の枠を超えて学生や大人たちと世界のために行動する意識が高まった。

3 2023年度の活動計画

ユネスコスクール認定7年目となる。生徒会のユネスコスクール特別委員会が中心となって「SDGsタイムズ」を発行し、イラストを使ってSDGsの目標を分かりやすく解説し、SDGsへの意識を高める活動を行っている。2023年度はこれまでの取組みを発展させ、地域やNPO等と連携し、SDGsの実現に向けた具体的活動をユネスコスクールとして実践し、広い視野で主体的に課題に向かえる学びを実現したい。

また、本校の取組みの成果として、学校の枠を超え、NPOや長野市等の自治体の取り組みに積極的に参加し、自らの課題を持って活動する生徒も出てきている。

国際教養科を中心とした国際交流事業や、校内ですでに実施している様々な活動が、SDGsの実現に向けたESDであることを認識し、校内の様々な活動を有機的に結び付け、地域や様々な組織と連携して学校全体として組織的にESDの活動を実践していくことを計画している。

学校法人上田学園上田西高等学校　加盟年：2022年

1 2022年度活動分野

生物多様性、減災・防災、環境、文化多様性、国際理解、人権、福祉、健康、その他の関連分野

2 2022年度活動の概要

本校は、生徒に「自主性を確立」させること、「社会性を養う」ことを学校理念としている。そこで、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、「自ら考え正しいと思うことに向かって行動する力」の育成を目標とした。

①地球市民および平和と非暴力の文化」については、9月27日に行った人権学習において、映画『今日も明日も負け犬。ー起立性調節障害とつむいでいくー』を視聴した。この映画は、立性調節障害の女子高生監督が自身の中学生時代の壮絶な経験を実写化、主演、原作、監督、脚本はじめ、映画製作に関わる全て高校生が行った作品であり、本校生徒が同世代の感覚で視聴し、仲間や社会の人たちについて思いやる心を育んだ。

②持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」については、生徒会が開催主体となり、様々な学習テーマを決めて講座を開設し、生徒が集まり学習を深める、「上田西高校学びプロジェクト（略称UNMP）」を7月から10月にかけて実施した。SDGsナンバーに対応した9講座に70名の生徒が参加した。例えば、No.15に対して、「千曲川の水質調査」を開講し調査を行った。また、No.3に対して「若者の悩みに寄り添う、ゲートキーパーになりませんか」を開講し、行政（上田市健康推進課）から講習・指導を受けた。いずれの講座もこれからの社会にどの様に活かされるべきかをSDGsと関連付けて生徒に意識させながら実施した。

③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重」については、以下の活動を行った。
7月、フィリピンエンデラン大学への語学留学（11日間）を実施した。
8月、豪Bishop Druitt Collegeから、長期留学生（半年）の受け入れを再開した。本校からは2023年2月より1名、4月より1名派遣予定である。
2年生の授業（World Studies I）でも、「グローバルクラスメート」のプログラムを通じ、ハワイのSacred Hearts Academyと交流中である（2022年9月～2023年2月）。
部活動ECCでは、豪姉妹校CCGSとのオンライン交流を6月に3回実施した。なお、CCGSからは短期留学生3名受け入れ、本校から長期留学生2名、短期留学生11名派遣予定である。
また、文科省の世界部経由で今後韓国の三光高校と交流予定である。

3 2023年度の活動計画

①地球市民および平和と非暴力の文化」について、昨年同様人権学習を実施する。テーマおよび学習教材は検討中。

②持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」について、昨年に引き続き「上田西高校学びプロジェクト（UNMP）」を行う（2024年1月）。テーマは前回からの継続活動のもの（千曲川水質調査など）や、新たに設定するものもある（本校卒業生による職業講話からライフスタイルを考える等）。

③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重」については、2023年7月にフィリピンへの短期留学、9月～翌2月にグローバルクラスメートへの参加、10月～12月に姉妹校CCGSより留学生の受け入れ、11月に2学年の台湾修学旅行、2024年1月以降にCCGSなどへ長期・短期留学生の派遣などを予定している。

文化学園長野中学・高等学校　加盟年：2017年

1 2022年度活動分野

環境、文化多様性、国際理解、平和、人権、ジェンダー平等、福祉、健康

2 2022年度活動の概要

本校は「知識・技能の習得だけを目的にしない。ひとりの人間として社会を生き抜く力をつける。」を教育上のテーマとし、「自ら考え・判断して、行動する力」の育成を目標としている。

今年度は、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野すべてを網羅し、ESDが育てたい7つの能力・態度を身に着けるロールモデルの育成に力を入れた（1）。「③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重」については、（2）を基軸として活動を行った。また、「②持続可能な開発・ライフスタイル」については（3）を、「①地球市民及び平和と非暴力の文化」については（3）、（4）を行っている。※ただし、（1）～（4）それぞれの活動は、3分野①～③すべてにかかわりがあることを認識しつつ行っている。

（1）【探究合同ゼミナール】　中学生・高校生が合同で、探究学習を行うゼミを開設し、11名が参加している。それぞれが興味のあるプロジェクトを立てて実施し、プレゼンテーションを作成した。1月24日、東京大学の北村友人教授のゼミを訪問し、プレゼンテーションに対して先生やゼミ生からフィードバックをもらうといった機会に恵まれ、ブラッシュアップもできている。このうち、高校2年生のペアが、全国マイプロジェクトアワード長野県大会本選に出場、長野県教育委員会賞を受賞した。

（2）【中学1・2年生対象】English Camp – カンボジアの学校と交流しよう。
今年度、カンボジアとのオンライン交流を前提に、カンボジアでの海外協力隊経験者の方にお話をしていただいたり、カンボジアの文化を学んだりした。交流では、1年生が地元の三宅太鼓保存会の方に太鼓の指導をしていただき、発表した。2年生は、呉服店の方に着付けを習い、着物に関するプレゼンを行った。ブレイクアウトルームで少人数の交流を行い、自己紹介やゲームなどを楽しんだ。
【中学3年生対象】アートマイルプロジェクト　インドとSDGsを学び、壁画を共同制作。
一般社団法人ジャパンアートマイルが実施するアートマイルプロジェクトに参加し、インドとのオンライン交流や電子フォーラムでのやり取りでSDGsを学び、水をテーマにした壁画を作成した。
生徒でプロジェクトチームを作り、主体的な活動を促進した。

（2）【中学生徒会】4R廃油石鹸プロジェクト
「海の豊かさを山の私たちから守る」をコンセプトに、家庭から集めた廃油を石鹸に加工、文化祭や地域イベントなどで販売した。製造過程で油汚れを大量に流していることに気付き、モノを作ること自体の環境負荷を考えたり、廃油石鹸が本当に環境にやさしいかを、実際にBODを調査するなどして、科学的に証明した。トライ＆エラーの中でPDCAを自ら作り、深い探究ができていた。
【高校生徒会】暑さをふせゴーヤ！プロジェクト　ぬうぞうくんプロジェクト
体育館ベランダなどにゴーヤを植え、緑のカーテンを作った。
全校でぞうきんを縫い、水害の被災地などに送った。

（3）【中学1年】「世界がもし100人の村だったら」　ワークショップ（入学オリエンテーション）
【中学3年】「パーム油のはなし」「貿易ゲーム」　ワークショップ（社会科授業）
【高校1年】「SDGs2030カードゲーム」（イマココラボ）,（別添資料④）

SDGsの理解促進や、公正とは何かを考えさせるために、ゲーム性のあるワークショップを行った。
高校生は、課題探究活動の基礎学習という位置づけ。

(4)【高校2年】平和学習
イギリスへの修学旅行の代替として、長崎を訪問。事前学習として標記授業を行った。
【中学3年】模擬選挙　模擬裁判
国連ニューヨーク本部職員とのオンライン対話(社会科授業)グローバルシティズンシップの涵養を目的に、対話的な授業を行った。外部との連携を重視し、市選管、検察、国連職員らに依頼し、公民の学習内容と紐づけた標記授業を行った。

3 2023年度の活動計画

①中学:生徒会が自治的組織として自立すること、リーダーを育てることを意識し、学校は見守り・サポートを行う体制づくりを引き続き構築するよう活動する。昨年度、実証的に行った社会科・総合・英語科などの教科連携を今年も実現し、オンラインなどで海外交流を行えるように計画する。

②高校:探究ゼミは、「総合的な探究の時間」のアドバンス版と位置づけ、高校1・2年生の探究学習を極めたい生徒を対象に引き続きゼミを行っていく。今年度行った合宿や東京大学訪問に加え、夏期海外研修を予定している。この生徒たちが本校の探究学習の在り方のロールモデルとなり、教員や生徒へ一つの学習の形を示すことが目的である。生徒会活動も活発になってきており、自主性を尊重しながら引き続き見守っていく。

信州大学教育学部附属特別支援学校　加盟年:2018年

1 2022年度活動分野

環境、人権、福祉

2 2022年度活動の概要

本校では、自らの力をじゅうぶん発揮し、主体的に取り組む生活を今と将来にわたって実現する児童生徒の育成を学校目標に掲げ、小学部、中学部、高等部の児童生徒が毎日の学校生活に生き生きと取り組んでいる。

小学部においては、「みんなで仲良く遊んだり、活動したりする心情や意欲を育てる」、中学部では、「身近な人と一緒に活動しようとする態度を育てる」、高等部では、「今と将来の生活を見据え、社会の一員として自らかかわりをもとうとする意欲や態度を育てる」等を設定し、生活年齢と発達段階に応じて、地域の一員として生きていく力を身につけていけるよう取り組んでいる。これは、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野における「持続可能なライフスタイルの実現」に通じるものと考え活動している。

①行事や生活単元学習を通した地域との交流(中学部)
例年、お楽しみ会やクリスマス会、新年会といった行事にお越しいただき、地域の方々や隣接している附長野中学校生徒とともに楽しんでいる。生活単元学習「ミュージックフェスを開いてみんなで音楽を楽しもう」では、ともに制作した楽器を演奏して楽しんだり、音楽に関わるゲームを工夫したりして交流した。コロナ禍ではあるが、感染対策に留意しながら、交流を深めることができた。活動後には、交流相手や地域の方に楽しかった気持ちや交流のお礼を伝えたいと願い、「朝陽野通信」を生徒たちが作成し、自分たちの手で直接届けた。

②太鼓の活動を通した地域との交流(中学部)
毎週木曜日の音楽の時間に位置付けている太鼓の演奏を通して交流に取り組んだ。地域の運動会が３年ぶりに開催され、晴天のもと自分たちの制作した楽器を使ってともに演奏し、交流することができた。

③作業単元学習を通した地域との交流(高等部)
本校高等部には陶芸班・木工班・手工芸班の三つの作業班があり、地域の作品展に自分たちの製品を出品したり、販売会を企画したりしている。地域の方に販売会のチラシを配り、オンライン注文を受け販売を行った。店舗の駐車場の一角をお借りし、保護者のみならず地域の皆様にも、製作の様子や自分たちの頑張りを紹介しながら販売することができた。

3 2023年度の活動計画

コロナ禍ではあるが、令和４年度に感染対策に留意することで交流を進めることができた。令和５年度も、感染対策に留意し、これまでよりさらに一歩進んだ形で交流を進めていきたい。

①生活単元学習を通した地域との交流（中学部）
中学部では、花の栽培や公園の整備を通して、地域の皆さんに喜んでいただけるよう活動していきたい。

②作業単元学習を通した地域との交流（高等部）
地域の方とのかかわりを確保できるようチラシ配りを継続したり、対面の販売活動により人と人とのかかわりを大切にした活動を継続していきたい。

VI

ESD 通信

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No.44
2022.7.15
信州 ESD コンソーシアム 事務局

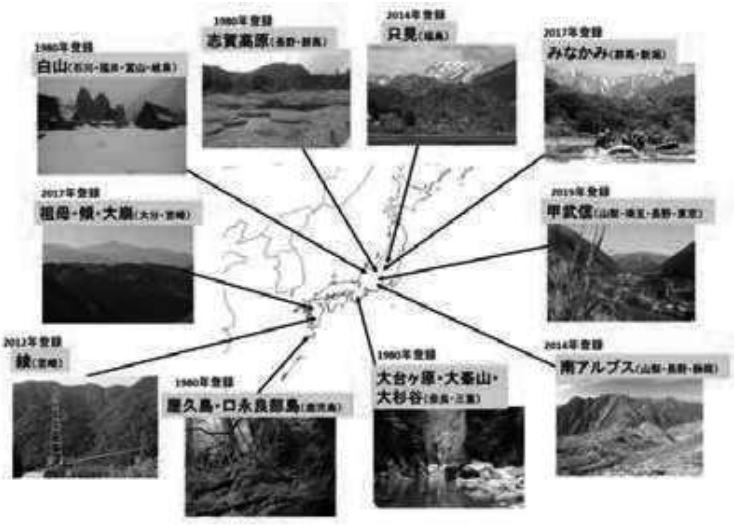
目次：コンソーシアム総会／今年度事業計画採択／2021年度報告書

8月20日　信州ESDコンソーシアムの総会が開催されます

本年もコロナ対策のためオンラインで開催されます。ご予定ください。

5月26日　今年度事業計画が採択されました

「ユネスコエコパークを核としたESD／SDGs実践カリキュラム開発支援と国際交流の促進」が令和４年度ユネスコ活動費補助金：SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業に採択されました。その目的は以下のようです。



生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としたユネスコエコパーク(BR)は、SDGs達成のモデル地域であり、持続可能な開発について学ぶ場として位置づけられています。山ノ内町ほか、国内BRのユネスコスクールではSDGsを意識したESD実践事例が蓄積されつつあります。本事業ではその資産を活かし、ESD／SDGsの深化とユネスコスクールの国際交流の促進に取り組みます。これまでのユネスコスクールでの活動により、BRを活用したESD／SDGsは普及しつつあり、いくつかのBRでは深化を目指す段階にあります。また信州ESDコンソーシアムの成果発表交流会など、BR間の交流機会の創出により、BRを活用したESD/SDGs事例の収集・発信も可能になってきました。本事業ではこれらの資産をさらに発展させ、教師がみずから地域や学校の特色を生かしたESD／SDGsの学びを構想し、実践することを支援するため、教育実践に向けてのカリキュラム開発の参考となる資料の作成と発信を目指します。またESD／SDGs実践事例の国際的な発信や、信州大学のグローバル教育と連携した国際共修プログラムの開発によりBRで学ぶユネスコスクールの国際交流力の向上を図り、海外との学校間交流の実現を目指します。具体的には、

ア　成果発表＆交流会の発表を元にESD／SDGs実践事例の紹介冊子の作成
イ　エコパークを活用したカリキュラム開発資料の作成
ウ　エコパークを活用したESD／SDGs実践事例の海外への発信
エ　留学生などへのエコパークを活用した国際共修プログラムの構築
オ　海外のユネスコスクールなどとの国際的な学校間交流の実現

などで、これらの事業計画は、8月の総会にて詳細が協議されます。

※ユネスコエコパークとは：豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域です。世界での認定地域は131か国727地域、日本には10地域あり、長野県には志賀高原、南アルプス、甲武信の3地域があります。

SDGs ESD ニュース

「信州ESDコンソーシアム成果報告書2021」ができました。8月にはホームページ上にも掲載される予定です、ぜひご覧ください。

発行：信州ESDコンソーシアム事務局　編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6ー口 信州大学教育学部
事務局：清水・松橋　TEL026-238-4034　kyoesd@shinshu-u.ac.jp

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No.45
2022.8.
信州ESDコンソーシアム事務局

山ノ内町ESD研修会／社会主事講習（ESD）／信州ESDコンソーシアム総会

8月5日　山ノ内町教職員ESD研修が実施されました

令和４年度山ノ内町教職員ESD研修会（主催：山ノ内町教育委員会、共催：信州ESDコンソーシアム）が志賀高原で開催され、水谷・渡辺（ESDコンソーシアムコーディネーター）が講師を務めた。参加者は山ノ内町内の教職員など18名でした。午前は前日の豪雨と打って変わった晴天となり、涼しい高原での現地散策研修で、木戸池から蓮池8月6日と8日、19日に長野・新潟社会主事講習でESD特論＆演習がおこなわれましたされた高層湿原や天然カラマツ、風穴の奥のヒカリゴケなど多様で興味深い自然を観察した。普段の教室での仕事から解放的な大自然の中で皆さんにこやかに談笑しながら終始楽しく自然を学ぶことができた。

午後からは、蓮池の98会館で、ESDの意義・成果と課題についての講演の後、「山ノ内町型ESDの構築に向けて」と題したワークショップをおこなった。2班に分かれて各自の持ち寄ったESD授業実践や関心を基に、実践におけるテーマや学習材、重視する構成概念や資質・能力を確認し、現状の強み・弱みや将来目指すべき方向性について議論することができた。（水谷・渡辺）

8月6日と8日、19日に長野・新潟社会主事講習でESD特論＆演習がおこなわれました

新潟・長野両県でおこなわれている主事講習が今年は信州大学教育学部で開催され、その内容の一部にESDが組み込まれ、コンソーシアムのコーディネーター4名が担当しました。

安達はメンチメーターでESDの認知度を問いかけ、SDGsは様々な企業や団体が活用し、90%と高いがESDは50%以下であった。SDGsの17目標をダイアモンドランキングすることで価値観が人によって異なることなどの課題を指摘した。ESDとは、これからの社会が変わればスキルが変わり「OK！Google」では分からない内容を探究するための基盤となる理念であり、地域の未来のために必要とされると紹介。そして、ユネスコスクールはESD拠点校であり信州ESDコンソーシアムはユネスコスクールの普及・支援、発表会を近年はオンラインで実施していると紹介した。

渡辺は、環境教育を中心にESDやSDGsとの関連を紹介した。環境とは温度など単なる周りではなく、生き物の育てるという基本的な理念を解説し、ネパールやチベットなどでの自然と人の生活を具体例として紹介した。また、環境教育の手法として、体験と知識とから将来予測ができ各自の願望との相違から成すべき行動が導かれるという「環境タイムライン」試行した。

西は、地域文化資産を活用した実践例やICTを活用した複数の学問領域に関わる地域文化資産の発信事例を紹介して、その可能性についてディスカッションした。その後、学部内と周辺に散在する地域文化資産（明治天皇行幸碑・皇太子行啓碑・学内石碑公園・附属小学校門柱等）を実際に視察して、各文化資産の価値や来歴について現地で講義した。

8日は志賀高原ユネスコエコパークにおいて、水谷が町担当課、

地元講師らと協力して、核心地域、緩衝地域、移行地域それぞれの地域資源を巡る現地巡検を行い、これらを活かした地域活性化と社会教育との関わりについて考えた。

19日の社会教育演習では、ESDのまとめとして「巡検を行った地域(善光寺地域,志賀高原ユネスコエコパーク)もしくは自らの活動地域の地域資源を活かした持続可能な社会の実現に向けた社会教育施設(公民館等)でのESD活動を立案する」というテーマのもとグループに分かれて講座づくりの演習を行った。受講生の関心や課題意識から、研修の地域をテーマにした志賀高原・善光寺の2チームと、各自の地域をテーマにした3チーム、各5,6名の5チームに分かれてSDGsも意識したプログラムにチャレンジした。これまでの講習内容を踏まえ、講座設定の理由・背景にESDやSDGsの視点を組み込みながら熱心に議論した。一日かけて立案された各講座のタイトルは以下の通りである。

・黒姫物語に学ぶ地域の歴史
・善光寺のあるまちづくり～善光寺から地域を考えよう～
・竹起こしで町おこし ～竹街(待)っく天国Woo！ Bamboo!!!～
・アイシテル妻有
・SDGsそうだ！ダッシュ村だ！元気な祭りだ！最高だ！

最後に各チームの発表と質疑をおこないプログラムの改良にいかして演習の仕上げとした。

(安達・水谷・西・渡辺)

8月20日　信州ESDコンソーシアムの総会が開催されました

13時より14時半まで各種協議と各参加団体の実践報告がオンラインでおこなわれた。参加者は30名でした。最初に、村松会長が出張のためビデオで、信州におけるESDの着実な進展と一層の発展を期待するメッセージが送られた。次いで西運営委員長が議長に指名され進行をおこなった。令和3年度の事業報告及び4年度の事業計画が事前資料および成果報告書2021に基づいて説明され、質疑の後承認された。以下、各団体からの報告で、コロナの困難な中でもESDの学びが着実に進んでいることが共有できた貴重な機会となった。

●**ユネスコアジア文化センター(ACCU)**　主な活動として、ユネスコスクール活動指導案と実践報告募集のお知らせと文科省の学校、行政、企業、市民の協同参加によるユネスコ未来共創プラットホーム(事務局運営を受託)の始動についての紹介があった。

●**環境省EPO中部＆中部ESD活動推進センター**　中部7県のESD・環境活動の支援及び主催イベント学びあいの場について紹介があり、今年度もジオパークを活用したESDダイアローグが福井県勝山市で開催され本コンソーシアムも協力します。

●**一社)長野県環境保全協会**　信州環境カレッジ(地域講座、学校講座)や長野県と長野市の温暖化対策推進センターの運営を担い、省エネや脱炭素などの環境資料を提供している。また、今年も信州環境フェア実行委員に参加している。

●**諏訪ユネスコ協会**　5月総会にて企業からの講演、国際理解・異文化理解の交流会を実行し、プロジェクト未来遺産申請中で、諏訪湖アダプトプログラム(諏訪湖清掃、年3回)に参加している。ユネスコ通信を発行しているのでご覧いただきたい、と。

●**直富商事**　021年1月長野県SDGs推進企業に認定さ

れ、社内勉強会を毎月開催している。小学生対象の企業見学受け入れやリモート学習・動画のYouTube配信し、高校生の企業訪問受け入れ等の紹介があった。

●**長野県PTA連合会**　ホームページ紹介で、長野県531校15万人の児童生徒のため活動推進している。現在、子どもたちのSDGsの取り組みと保護者の学び促進のための研修会などをおこない、PTAの各事業計画をSDGsの観点で整理、検討している。活動は座談会や動画配信、県PTA新聞、広報誌等でおこない、長野県SDGs推進企業にも登録している。子どもの負けないようESD活動を推進する。今年度より参加いただきました、今後ともよろしくお願いいたします。

●**長野県NPOセンター**　ナガクルを用いてSDGsコネクト信州を運営して若者の学びのサポート等をおこなっている。

●**附属幼稚園**　3～5歳を対象とした資源回収、分別、再利用の遊びを通したリサイクルなどの学びを紹介。

●**山ノ内町南小学校**　5年生は志賀高原学習ほか全学年で地域探検をして、りんご、ゴミ、障がい者支援等など様々なテーマでの学習の紹介があった。

●**山ノ内町西小学校**　低学年はヒツジなど飼育体験のほかりんご、稲作など、6年生は無農薬の大豆づくり、地域特産の前坂大根などの実践と学習を通して地域との交流の紹介。

●**山ノ内町東小学校**　志賀高原、温泉など地域性を活かしながら、栽培活動、飼育活動、伝統学習、雪代米栽培、自然学習、ABもりの植樹活動のほか、職員のESD研修・勉強会等の紹介し、故郷を大事にできる子を育てたい。

●**信里小**　グラウンドデザインの「信里を語る子ども」を基軸とした自然とのふれあいで育つっている子どもたちであり、過疎もあるが、りんご栽培等を通した自然と人の関わりについての学習活動を紹介。

●**附属松本中学校**　教育目標「たくましく心豊かな地球市民」を基軸とした生徒会のESD活動やアルミ回収、梅の栽培・手入れ・販売、菊づくりの再開、地球市民集会での異学年グループでのディスカッションなどの実践について紹介があった。

●**附属特別支援学校**　知的障がいの児童生徒の生き生きとした地域市民としての関わりを促す活動をしており、地域清掃などで交流したり、職場実習等についての紹介をいただいた。

●**高山村高山中学校**　ユネスコエコパーク志賀高原の学習をして、緩衝地域、移行地域の違いについてなど学び、ABもりも現地学習するなども紹介であった

●**文化学園長野中学高等学校**　ユネスコスクール(6年目)としての活動で、当事者を意識したホールスクールとして学校全体での体制強化(生徒、教員、保護者、地域)へ注力し、アートマイル国際協働学習プログラム(インドの学校との協働)、Englishキャンプ(途上国、カンボジアとの交流)、中学生徒会による長野盲学校との連携、海を守るために排水を考え廃油石鹸づくりの活動、ユネスコスクールニュースの発行等の紹介があった。

●**上田西高等学校**　ユネスコスクールキャンディデート校として生徒会主導の国際交流や上田西学びプロジェクト(課題解決型講座;地域の方などを講師として招待)、クルクル市などの文化祭での取り組み等についての紹介があった。

以上、いずれの報告も、ESD活動の参考になるもので、貴重な機会でした。さらに、意見交換がおこなわれ、文化学園の長田先生より、今年計画案にあったように、コロナ下で国際交流にどうむずびつけるのかと困難を極めている。交流先校を探すのが非常に難しく、どのように探したらよいのか、と質問があった。ACCUの藤本氏より、学校間交流を推進しており、学校間のマッチングの手伝いをしている。公式サイトにて交流希望の募集を行っているので、そこから希望内容などお申込みいただきたい、との回答があった。次いで、山ノ内東小学校の大木先生より、「ABIMORIについて高山中からお話があったので、具体的な活動について紹介したい。山ノ内中学校は植樹活動の素晴らしさを広げる活動をしているので、機会があれば一緒に植樹についての学習や広げる活動をしていきたい。また連絡をいただきたい。」と提案があり、高山中学校の原田先生は、「ありがとうございました、生徒と相談しながら進めていきたいのでよろしくお願いします。」と述べられました。こうした交流の機会は有益だと確認できた総会でした。次回の、活動報告会＆交流会(2月3、4日)も大いに期待できるでしょう、ご予定ください。

発行：信州ESDコンソーシアム事務局　編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6ー口 信州大学教育学部
事務局：清水・松橋　TEL026-238-4034　kyoesd@shinshu-u.ac.jp

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 46
2023. 2.28
信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：信州ESD/SDGs成果発表＆交流会

2月3日&4日　信州ESD/SDGs成果発表&交流会が実施されました

令和４年度の成果発表＆交流会が「ユネスコエコパークと共に学ぼう」を副題として開催されました。今回は、参加校も全国からと多く交流を重視したので、3日の午前、午後、4日の午前に各２会場の計６会場を設定し、会場ごとに交流会を設け、両会場の全体共有の時間をもとりました。発表はユーチューブでも配信し、参加児童生徒400名に加えて、総視聴者数は940名となり盛会でした。以下、会場順に概要を報告します。

――3日（金）9：50～15：30――

9：50　開会　西コンソーシアム運営委員長の司会により、以下の開会挨拶があった。

●中村信州大学長　全国から発表は楽しみ。現在は多様な課題が多い、信大は人と自然の調和をめざして研究教育を行っている、中でもこれからは教育が重要になってきており、これからもESD活動に尽力していきます。

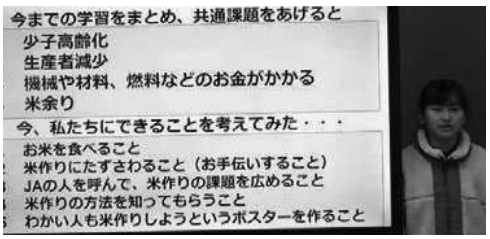
●村松コンソーシアム会長・信州大学教育学部長　多様な発表ありがとう、学びの観点として1.多様な考え、2.自分で調べる、大事だと思う、指導の教員にも今後事もよろしくお願いします。

●大津イオン財団マネージャー　イオンは平和で地域に貢献を理念とし、1992年に地球環境を守る財団を設立し、持続可能な里山里海つくりを支援し、エコパークと提携した環境教育に取り組み、ESDにも力をいれている。

全体での開会行事の後、会場１と２に分かれて発表と交流が行われた。

会場１　司会と学校紹介者が自己紹介し、画面での全参加者撮影の後、各校の発表が順次行われた。（以下、各会場同様）

●山ノ内町立南小学校３年生　地域の魅力探しでゴミが多いことに気づき、ごみ拾いを始めました。中でもプラごみが気になり、町の人に呼びかけるポスターを作成し張り出しました。校内でも紙のリサイクルを呼びかけ、CO_2の削減量を計算しました。



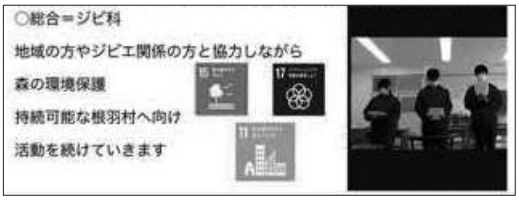
●飯田市立和田小学校５年生　「米作り」を、楽しみだな、やり方を覚えるぞと関心を高めていました。社会科の「米作りのさかんな地域」で課題に出会うことで「日本のお米を守ろう」を学習テーマにしました。草取りや稲刈りは大変でしたが米を60Kg、もち米を40Kgも取れ、販売もしました。高齢化や消費減などの課題を学び、お米を食べる、手伝いをする、米粉をひろめるなど自分たちでできることを考え発表しました。

●みなかみ町立新治小学校５年生【群馬県】　日本を代表する豊かな生態系の「赤谷の森」のイヌワシなど自然の素晴らしさを体験し、地形、植物、動物の３班で探求活動しました。また、「ニホンジカの増加」という課題に気づき、専門家へ質問したりして人とシカの関係について考え、駆除の必要性やその活用法などを「たより」を作って町の人にも配布しました。

交流会　グリーンヒルズ小より新治小へ、なぜシカが畑に出るのですかと質問、シカを保護したので増えて山の植物が少なくなって里に出てきましたと回答。新治小から南小へ、ごみはいつが多いですか、ポスターを張り出した効果はありましたかと質問、夏にはプラごみが、秋には紙ごみが多かったです、ポスターでごみが減ったと思いますと回答。和田小から新治小へ、町の人への訴えはどうでしたかと質問、今のところわかりませんと回答。

●飯田市立遠山中学校生徒会　“遠山郷を守ろうプロジェクト”は「地域のために自分達も何かをしたい」と始まった生徒会主体の活動です。学校周辺のゴミ拾いや花をつくり地元に送る活動を継続し、現在は小中3校交流プロジェクトや地域フォーラムなど地域の一員として役に立てる事を考えながら活動しています。学有林での林業体験や霜月祭りなどにも取り組んでいます。

●根羽村立義務教育学校根羽学園　1・2年生は季節の生き物、3・4年生は根羽村を知る、5・6年生は池の水抜き、7・8年生は木工、9年生は根羽杉のブランド化など、9年間を通して村の森林資源を題材にESDを行っている。また全校でシイタケ栽培に取り組むみ、総合的な学習では地域の人やものを活かし村に貢献する協働的で探究的な深い学びを実践し、インスタグラムで発信もしている。



交流会　新治小から遠山中に、花を贈ってどんな反応でしたかと質問、お年寄りなどから感謝され嬉しかったですと回答。和田小から根羽学園に、木工では何を作っていますか、インスタグラムでは何を発信していますかと質問、椅子などを作って提供しています、インスタでは根羽村の季節の景色や行事の様子を発信していますと回答。

講評　安田先生（大牟田市前教育長）　各学校の取り組みを個別に講評いただきました。そして共通していることとして、地域の魅力を調べ、同時に課題も発見することでそれを自分たちでできる解決策まで考え学びを深めています。それを地域へも発信するという行動にまで移しているのがすばらしい。交流会で活発な質問意見がでていましたが、他校の発表をしっかり聞いていた証拠です、すばらしい交流ができました。皆さんは地域の宝です、これからも頑張ってくださいとエールをいただきました。

会場2

●飯田市立上村小学校5・6年生　大好きな上村で上村PR大作戦を展開しています。その中でSDGsの『陸の豊かさを守ろう』に関わり特産品のシイタケやシモグリイモ、ソバの栽培・販売活動、『住み続けられるまちづくりを』に関わり地区に花を植えゴミ拾いをし、東京の母子生活支援施設との交流もおこない、上村の魅力とSDGsを関連付けて幅広く活動をしました。上村地区に愛情をもち、一生懸命魅力を伝えました！

●長野市立東条小学校6年生　ホタルは昔から村で保全され学校では飼育放流し、水路整備をし、大臣表彰など長い歴史がありますが、近年では少なくなっています。そこで「ホタル復活大作戦」を開始し、幼虫が上陸できるように水路を整備し、ザリガニを駆除して、6年ぶりに大復活し、万歳！　ホタル水路を整備している滋野小学校ともオンラインで交流しました。大人になってもっと増えたホタルを見たいと将来の夢を語ってくれました。

●山ノ内町立南小学校6年生　学校脇にある佐野遺跡に注目し、そのPR活動に取り組みました。土器創りをし、竪穴住居を作ることにしました。

材料や組み立ては大変でしたがやっと人が入れる小屋が完成しました。町への観光客に佐野遺跡を知ってもらうために小屋の制作過程を動画撮影して、英語も入れて発信しています。

交流会　東条小から南小へ、縄文の小屋作りは大変でしたかと質問、大変だったけど中に入って楽しかったと回答。上村小からも南小の小屋はすごいと感想。南小から東条小のホタル復活すごいと感想。各学校からも、それぞれSDGsに関連して行動しているのがすばらしいと感想。

●綾町立綾中学校生徒会【宮崎県】　最初に綾中学校のきれいな木造校舎の紹介があり、後に校舎がうらやましいとの感想がありました。生徒会によるこれまでの①ペットボトルキャップとコンタクトレンズキャップの回収に加えて今年度はゴーヤ栽培によるSDGs活動をおこなった。さらに総合的な学習の時間で制服の改善、エコバッグ作り（500枚）、服の力プロジェクト、森の健康診断、など地域と関わる活動もいろいろおこなった。

●高山村立高山中学校　学校給食の食材をフードマイレージで計算し、箱ひげ図で表して地産地消の良さや課題を分析しました。ジャガイモは地元と長崎産とでは500倍もマイレージが高く驚きました。さらに海外からはより大きな負荷があることがわかりました。これからは地元産の給食を感謝でいただきたいと調査の感想を述べてくれました。

交流会　南小から綾中へ、すごい数のキャップ集めはどうやりましたか、道の駅など地域の方々の協力で年々増えましたと回答。綾中から、高山中の給食は、地域の特産物のフードマイレージまで計算していてすごいとの感想。南小から綾中に、新聞紙でのバッグ作りはすごい、どのくらい作りましたかと司会から質問、1年生が500枚と回答、すごいと声があがりました。

講評　市瀬先生（宮城教育大学教授）　上村小学校は、歌でPRが良かった、芋も良いですね。東条小学校はホタルが復活して良かった。南小学校に作った土器は使えますかと質問、試していませんと児童から回答。綾中学校はゴーヤの緑のカーテンの効果を実際に検証したのが良かった、植樹をしていますが何を植えていますかに、地元の照葉樹を復活させていますと回答。高山中学校のフードマイレージの計算は数学にもつながりますね、メニューと食品ロスはどうですかに、カレーは皆すきなのでロスが少ないですと回答。それぞれに回答ももらい高い評価をいただきました。

全体共有の時間　会場1に集まり、両会場の報告を指定報告者に発表してもらい全体共有しました。

―― 12：15から13：30まで昼休み ――

会場3

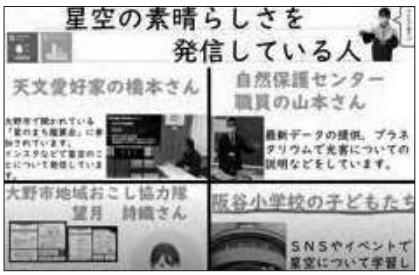
●山ノ内町立東小学校4年　志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習し、工房の人に由来を聞いたり、コカリナの種類や素材を調べたりしました。「たくさんの曲を上手にふけるようになりたい」との願いを持って、おうちの人に聴いてもらう、志賀高原遠足に持っていき山で吹く、コカリナフェスティバルや音楽会で発表するといった活動をしました。最後に、全員でカントリーロードを演奏してくれました、とても上手でした。

●茅野市立永明小学校4年生　昨年度、縄文時代のランプ『つり手土器』について学習をし、ランプのように長く火を灯すためには燃料の油と芯が必要と知りました。今年は、その油を自分たちの力で手に入れようと、育ちやすいエゴマに注目し、栽培から草取り、収穫、脱穀までがんばりました。どうすればたくさん絞れるか議論し、工夫しながら仲間や地域の方の協力を得て搾る活動に挑戦し、念願の油をやっと手にしました。

●信州大学教育学部附属長野小学校６年生　４年生から土器作りをして、今年は学校の土から粘土を取り出し、土器づくりを行いました。土を何回もふるい、水に晒して、乾かしてやっと粘土にすることができました。ろくろを使って各自の作品を制作し、地面に浅い穴を掘って野焼きしました。七輪やドラム缶などでも焼いて、どれが良いか試しました。松代の古陶館を訪問して、土器の文化や職人技にも触れ、土器作りを体験することで大きく成長しました。

交流会　永明小から東小に、コカリナはどのように吹くのですか、と質問あり、コカリナの指使いを表示しながらドレミを吹いて実演してくれました。阪谷小から、発表の３校とも地域の人と協力していて素晴らしいと思います、と感想。東小から永明小に、エゴマはどんなにおいがしますか、と質問、シソや植物のにおいなどあり、最後にスイカの皮のにおいという声がありわかりやすかったです。

●大野市阪谷小学校５・６年生【福井県】　学区の地区は星空保護区認定を目指しています。地区の星空の魅力を市役所やプロネタリウムなど様々な方から学び、星空の魅力ビデオを作り、七タイベントや秋祭りなどで発信しています。星空を守るために、光害を防ぐ対策を考えインスタグラムなどで呼びかけ、星空に限らず地域の魅力も発信して持続可能な地区を目指しています。すばらしい星空の写真が一杯な楽しい発表でした。



●信州大学教育学部附属松本小学校４年東組　松本市は大地震の可能性が高いことを知って、もし地震が起こったらどうすればよいか考えました。避難所とはどんな場所なのか、そこの避難所倉庫にはどんなものがあるのか調べ、日赤奉仕団の皆さんのお力を借りて、避難所体験ゲームと炊き出し体験に取り組みました。防災の講演も聞いて「命を守ること」を学び、自分たちでの地震対策マニュアルを考えて作りました。

●信州大学教育学部附属松本小学校４年西組　「避難所で困るのはトイレ」と知り、１リットルでも流せるレジリエンストイレを体験しました。震度７の大地震を起震車で感じたり、避難所になっている学校に泊る体験しました。非常食が意外においしいことや、段ボールハウスが倒れたり、ただ調べた知識ではなく、実証してみることで実感ある学びになったと感想を述べました。

交流会　東小から附属小に、地震に備えて普段から用意することありますかと質問、地震の時に持ち出しする防災グッズや家具の固定をすると良いですと回答。永明小から阪谷小に、明かりを消すと星空がよく見えるようになりますかと質問、どこでも暗くなるので良く見えるようになりますと回答。

講評　中澤先生（奈良教育大学/ESD・SDGsセンター長）　各発表の良い点を画面表示して講評し、全体として①地域を教材化している、②地域の人から学んでいる、③それが地域への発信という行動につながり、ESDとしてとても良い。２校が土器つくりをしていますが、縄文というと貝塚が有名ですが、海のない長野では何を食べていましたかと質問し、児童から「ドングリなど木の実だと思う」と返答あり、そうですね、木の実は秋にしかないので保存したり煮たりに使っていたのでしょう、実際に体験しての学びですばらしいと評価いただきました。

池端先生（北陸ESD推進コンソーシアム）　体験的な学びでは課題を自分事として考えることで、日常の生活にも生かすことができます。防災などの学びでは家庭での避難グッズの整備などに生かすことができたのではないでしょうかと評価いただきました。

会場4

●信州大学教育学部附属長野中学校1年生　持続可能な社会に向けて個々の生徒が課題を設定し、調査して学習しました。今回は二件の発表でした。①「平和と公正」でロシアウクライナ戦争について、なぜ戦争がおきたのか、それはどんな影響があるのかを調べ、日本はどうなのかについて考えたことを発表しました。②絶滅危惧種について追究しました。レッドデータから地域にある生物を調べ、県の危惧種シナイモツゴを知りました、また外来種による絶滅をどう防ぐか、などの課題あることを学びました。

●只見町立只見中学校【福島県】　山の中の学校ですが修学旅行でビーチクリーンをおこなっています。ゴミの多さに驚き海を守る学習をおこないました。プラごみをどうにかしたいと考え、ペットボトルフリーマンデイ（飲まんディ）を普及させることにしました。校内だけの取組では限界があることに気づき、地域を巻き込むまでになりました。生徒の意識についても調査し活動の見直しを図っています。

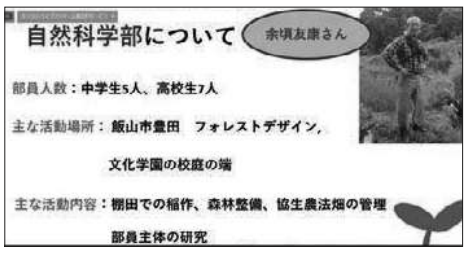
●上田西高等学校　文化祭で流木アートをおこない優秀賞、修学旅行では森の学習をし、林業の話や伐採作業なども体験しました。生徒会主体の上田西学びプロジェクト（UNMP）では「くるくる市」に参加し不用品交換や相談交流などを体験しました。3年でのオンライン国際交流と、訪米しての交流で多様性を実感しました。台湾や韓国とのオンライン交流もおこない、オーストラリアとのホームステイなど留学プログラムも再開しています。

交流会　只見中から附属中へ、戦争の影響や絶滅種のこれからまでを考えているなと感想。附属中からは、只見中の活動は地域へ広げていてすごいなと回答。文化学園から西校へ、言語の壁はどうでしたかと質問、言葉よりより交流しようという積極性が大事だと思ったと回答。山中から、西高へ、日米の学校でどんな違いを感じましたかと質問、米国では感謝祭など学校行事が大規模で驚きましたと回答、只見中のマグネット良いなと感想も。山中から西高へ、くるくるを学校でも実施していますかと質問、文化祭で体育館でも実施しましたと回答。

●文化学園長野中学・高等学校高校1年生　今年度は、同性婚やパートナーシップ制度などの法的妥当性と人権の関係を探りました。同性婚リサーチクエスチョンから事例や課題を当事者から聞き取りなどして学習し、世論が変わればと願っています。

●文化学園長野中学・高等学校高校2年生　探求ゼミで長野市の耕作放棄地の課題から、観光農業として復活できないか模索する中で出会ったのが、長野市長沼地区のひまわり畑。畑の持ち主さんとの交流から、仲間たちの協力や耕作放棄とはいったい何なのかを探究し、人が繋がる菜の花を考え、種まきから実践しました。菜の花とひまわり畑を加えることで新たな展開ができるのではないかと期待していると。

●文化学園長野中学・高等学校中高自然科学部　科学部では、一年を通じた飯山市豊田小境地区にある棚田と裏山での稲作、森林整備、ブナ林散策などの活動を中心に、そこで得られたものを利用してのイナゴの佃煮づくり、納豆作りをし、校庭でも野菜作りなどを行いました。水田や森の観察から、共生農法などの負荷をかけない自然とのつきあいを考え学んでいます。



交流会　米国ではheとsheからtheiと自称するようになっていますと意見あり、西高から参考なりありがとうと。只見中から文化学園に、科学部はなぜできたのですかと質問、顧問の先生がコケが好きでクラブ活動として始まったと回答、また、手抜きで共生農したけどたいへんでしたと感想も。

講評　及川先生（奈良教育大学教育連携講座/ESD・SDGsセンター）　①グローカルな視点＝国際と地域も同時に学んでいた、②地域の課題を発見して解決までの学びがあった、この二つはつながっている。③山から海を考えていることで地域をも変える、くるくるなど学びを地域と交流することで態度変容にもつながっている、この3つのつながり視点で評価をいただいた。そして、ESDは地域と交流することで社会を変えるにつながり、より進展しますのでこれからも頑張ってください、とエールをいただきました。

―― 15：30　閉会 ――

―― 4日（土）10：00～12：15 ――

会場5

●いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校3・4年生　りんごの栽培から販売までの活動に取り組みました。自分たちのりんごをたくさんの人に味わってもらいたい、と「どこで売ればよいか」「どうやって魅力を伝えるか」などを考え、お店と何度も交渉したり値段を決めたり準備も大変でしたが、消費社会の仕組みを学ぶ探究を深めることができまました。私たちがどのように社会とつながって生活しているのかを活動を通して学びました。

●高山村立高山小学校5年生　地域と保護者、子どもたちが、村のよさを学ぶ「わくわく村（村を知る講座で自然体験、ぞうり作り、紙つくり、リサイクル活動、学習発表会など）」も19年目、りんごや米作り体験、美しい村連合として将来に引き継ぎたい観光資源調べ、など、今日的な環境問題の解決や共生社会について取組みました。今年は3年ぶりに「しらかば学習発表会」を開催し、各学級の取り組みを保護者に向けて発信しました。

●山ノ内町立西小学校2年生　地域には豊かな自然があり、小さな命に目をむけてみようと、食べられるものが生えていたり、ケサランパサランが飛んでいたなど季節の変化をにもむけるようになりました。自分たちで大豆をつくり黄な粉にしたり、食べ物にも目を向けるようになりました。

交流会　グリーン・ヒルズから高山小へ、なぜSDGsに取組んでいますかと質問、 6年間SDGsを学んだことが児童会活動につながていると気づきましたと回答。外部から高山村のお薦めはなんですかと質問あり、児童から雷滝が素晴らしいと回答。グリーン・ヒルズ小より、高山小もリンゴ栽培しているので交流できたら良いなと感想。外部から、グリーン・ヒルズ小に、販売の交渉での工夫はなんですかと質問、なぜ販売するのかの理由を皆で考えてお願いしましたと回答、失敗を糧に深く考えているのがすばらしいですねと感想ありました。

●いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校5・6年生　「平等な機会にアクセスできることは人類に豊かさをもたらす」というテーマで学習を進め、世界の子どものために、児童労働なくそう、平等な教育の機会にアクセスできるように、自分たちに何ができるのかと考え、簡単な寄付の仕組みを調べて募金先のクラウドファンディングなどを紹介しました。

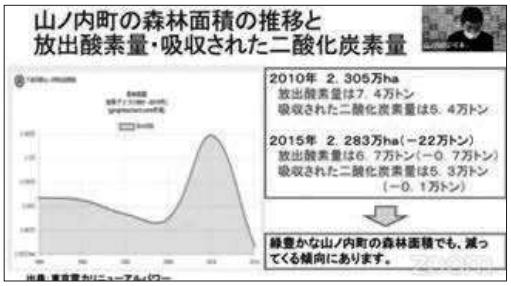
●長野市立信里小学校３年生　最初に里山の恵みを表す、信里賛歌を歌ってくれました。飼っているカナヘビの卵から赤ちゃんが生まれてトカゲが好きになりました。トンボも11種もいて、田んぼとため池が大事なこと、危惧種シナイモツゴがいること、一人づつ守るために、つかまえた生き物は自然に返す、緑を増やす、ごみを拾うなどと宣言し、里山賛歌２番を歌ってくれました。里山のよさを知り、『信里を語れる子ども』の素地を作る活動です。

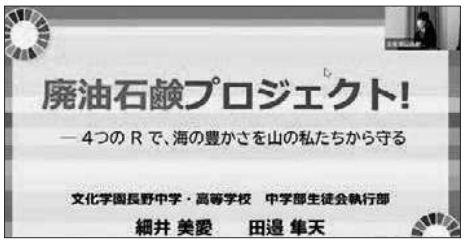
交流会　西小から高山小に虫は何が好きですかと質問、どれも好きですがトカゲは人気ありますと回答。グリーン・ヒルズ小から、発表聞いて虫が好きになりましたと感想。外部からグリーン・ヒルズ小に、フェアトレードチョコはどこで買えますか、どんな支援ができますかと質問、スーパーやコンビニでフェアトレードマークを探してください、ファンドへの寄付やネパールに行くのも支援になると回答。外部からの感想として、自分の興味から調べ学習に進んでいるのが良いですね、ファンドは誰にでも簡単にできる支援で良いですね、などありました。

講評　今井先生（北陸ESD推進コンソーシアムコーディネーター）　交流の時間はとても良かった、北陸の子どもサミットとも交流したい、グリーン・ヒルズ小のリンゴの苦労が振り返りで大きな学びになっている、高山小の地域と共にある学習がすばらしい。西小やグリーンヒルズ小の地域との交流は大事、フェアトレードなど具体につなげていたように世界から地域に戻すことは大事。信里賛歌はすばらしい、身近な生き物から未来への提案まで楽しみながら自分ごとの学習で、地域との交流でより進むのでこれからが楽しみ、新しい時代の幕開けを感じますと。

会場６

●山ノ内町立山ノ内中学校　「志賀高原ユネスコエコパークの魅力を探り発信しよう」というテーマのもと、１自然と人間の共生　２自然資源の活用　３地域資源の活用　４文化資源の活用　５国際理解関係　の５領域で課題追求を進めてきた。自然Ｅグループ「志賀高原の自然をもっと知ろう」は現地探訪をし、豊かな動植物を見たが同時に外来種も多いことに驚き、抜取りも体験した。イワナの原種もいて水もきれいなことを知ってこれからも守っていきたいと発表した。地域Ａグループは「身近な取り組みから二酸化炭素排出量を減らしたい」と町の森林面積から吸収量を計算し、それでも町の排出量を賄えないことに驚き、シャワー節約など自分たちのできることを発表しました。



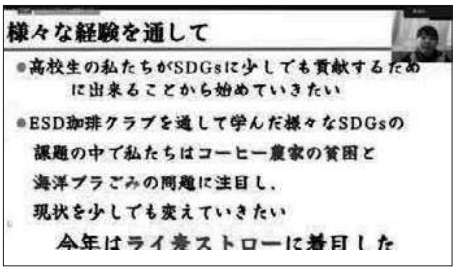


●文化学園長野中学・高等学校中学校生徒会　「４つのＲで海の豊かさを山の私たちから守る」をテーマに、家庭からの廃油が川の汚染に大きくかかわっている、植物のパーム油も児童労働など課題あることを知り、廃油で石鹸を制作した。文化祭や地域イベントで300個以上を売りました。途中、廃油石鹸が合成洗剤よりも環境負荷あるという調査みて、「本当にそうか」を実験し、少ない量で油を落とせることを確認できました。モノを作り使うことの難しさと楽しさを体験し、意識することが大事だと知りました。

●文化学園長野中学・高等学校中学校３年生　ART MILE PROJECTでは、インドの学校と壁画を完成させるアートマイルプロジェクトに参加しました。3回のオンライン交流をおこないましたが、互いの意図が伝わらないオンラインの限界や、異文化理解とは何かを考えた１年でした。海外との交流について研究者に聴いて、その困難さや課題こそが学びではないかと助言を得ました。精一杯できることをして、協力して１枚の壁画を仕上げたことは、中学最後の忘れられない思い出になりました。

交流会　林先生（信州大学グリーン社会協創機構）から、石鹸を買ってくれた人の反応はどうでしたかと質問、り、文化学園から、新聞で見てよい活動だねと言ってくれました、と回答。チャットから、外来種はどんな課題ありますか、と質問あり、山ノ内中学校から、ルピナスなど抜取りしてそれを染料にして配布し、喜ばれました、と回答。グリーンヒルズ小から、いずれも校内活動から地域にまで広げているのがすごいと思いました、と感想ありました。

●中野西高等学校　ESD珈琲倶楽部はこれまでフェアトレードなどに取組んできました。今年は、水害のあった長沼地区の復興として麦ストローの栽培していることを知り、イベント販売でのストローの脱プラを目標に、ライ麦を種から植えてストロー作りに挑戦しました。ムギを育てるのはやさしいですがストロー作成は予想以上に手間がかかり、持続可能にするには課題が多いと感じました。販売時に添えて出すことでお客様に喜んでもらえたことが誇りとなり、活動を継続しています。



●文化学園長野中学・高等学校高校生徒会　社会問題の解決に向けて高校生にできることは何かを探り、SDGsに関する10以上の活動を実践しました。①カムカム紙プロジェクト　②暑さを防ゴーヤプロジェクト、③ながの環境フェアボランティア参加、　④ぬうぞうくんプロジェクト（雑巾を縫って寄付する）、⑤長野駅前クリスマスツリーデザイン、⑥smile design weekクリスマスプレゼント企画など、様々なチャレンジをすることで少しづつ学校にも元気が戻ってきたように感じます。

交流会　司会から、麦ストローは何回使えますか、会場からも麦以外のストローはどうですか、脱プラ活動は他に何をしていますか、など西高へ質問あり、ムギストローは洗えばかなり使える、米ストローもムギと同じようでした、海でのプラごみ調査を広げていきたいと回答。学生から文化学園に、たくさんの活動でどれが大変でしたか、生徒会の次の活動は何を考えていますか、と質問あり、紙集めがサイズなど意外と大変でした、次はバレンタインでの企画を募集中です、と回答ありました。

講評　阿部先生（立教大学ESD研究所名誉教授）　これから社会は大きく変わろうとしています、皆さんはその時代を生きるSDGs新世代ですね。それぞれの活動が継続されていて、それが新しい課題の発見にもつながっている、すばらしいです。そしてさらに先を見て考えることにもつなげてみてください。SDGsは17の目標ですが、全体にはどれもつながっています、全体として社会が良くなることを考えてみていきましょう。また、身近な自然の価値や意味を再発見するのも良いですね、これからも頑張ってくださいと、とエールをいただきました。

全体共有の時間　児童から、発表を聞いてもらえてうれしかった、他校の発表がすごいと思った、教員からも、児童生徒の探求と課題が交差していて学びが深まっていた、など高評価の意見が多数ありました。

閉会挨拶

林先生（信州大学グリーン社会協創機構長）　児童生徒さんからの質問が多くて感動しました、多様な活動が行われていることや皆さんが楽しく発表されていてとてもよかった。今後の他校との交流も楽しみですし、信州のESDも大いに発展するでしょう。

宮島様（長野県環境保全協会専務理事）　最初から参加しているので年々成果が向上してきたと思う。自分から発見し地域もからめて活動し、発信していることに感動している。長野県では信州環境カレッジの出前授業もできますのでぜひご利用ください。

――― 12：20　閉会 ―――

信州ESD通信
No.46　2023.2.28
発行：信州ESDコンソーシアム事務局　編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6ー口 信州大学教育学部
事務局：清水・松橋　TEL026-238-4034　kyoesd@shinshu-u.ac.jp

信州ESDコンソーシアム

成果報告書2022

令和5年8月

編集・発行　信州大学教育学部
信州ESDコンソーシアム事務局

〒380-8544　長野市西長野6-ロ
TEL:026-238-4034
E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp

信州ESDコンソーシアム
成果報告書2022